

Symantec pcAnywhere™ ユー ザーズガイド

Symantec pcAnywhere™ ユーザーズガイド

本書で説明するソフトウェアは、使用許諾契約に基づいて提供され、その内容に同意する場合にのみ使用することができます。

Documentation version 12.5

商標登録

Copyright © 2008 Symantec Corporation. All rights reserved.

Symantec、Symantec ロゴ、Symantec pcAnywhere、Symantec Packager、ColorScale、SpeedSend、LiveUpdate、Virtually Anywhere および Work Virtually Anywhere は Symantec Corporation または関連企業の米国およびその他の国における登録商標または商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

Apple および Mac OS は Apple Computer, Inc. の登録商標です。Java は Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標です。Microsoft、Windows、Windows NT、Windows Vista、MS-DOS、Windows ロゴは Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。Linux は Linus Torvalds の登録商標です。SUSE およびそのロゴは SUSE AG. の登録商標です。Red Hat およびロゴは Red Hat, Inc. の米国およびその他の国における商標です。SSH および Secure Shell は、SSH Communications Security, Inc. の商標です。その他の会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。

本書に記載されている製品は、その使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバースエンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されています。本書のいかなる部分も、Symantec Corporation およびそのライセンサーからの事前の文書による許諾を得ることなく、いかなる方法によっても無断で複写、複製してはならないものとします。

本書は、「現状のまま」提供されるものであり、商品価値を有すること、お客様の特定の目的にかなうこと、権利を侵害していないことに対する暗黙的な保証を含む、明示的あるいは暗黙的な条件、表明、および保証はすべて免責されるものとします。ただし、これらの免責が法的に無効であるとされる場合を除きます。SYMANTEC CORPORATION は、提供されるパフォーマンスまたは本書の使用に関連した偶発的または必然的な損害に対して、一切責を負わないものとします。本書の内容は、事前の通知なく、変更される可能性があります。

ライセンス対象ソフトウェアおよび資料は、FAR 12.212 の規定によって商業用コンピュータソフトウェアと見なされ、FAR 52.227-19「Commercial Computer Software - Restricted Rights」、DFARS 227.7202「Rights in Commercial Computer Software or Commercial Computer Software Documentation」、その他の後継規則の規定により制限権利の対象となります。米国政府によるライセンス対象ソフトウェアおよび資料の使用、修正、複製のリリース、実演、表示、開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

目次

第 1 章	Symantec pcAnywhere の紹介	13
	インストールガイド	13
	Symantec pcAnywhere の新機能	14
	Symantec pcAnywhere のコンポーネント	14
	Symantec pcAnywhere の働き	16
	ホストとリモートの違いについて	16
	インターネット経由の接続について	16
	処理効率に影響する問題	19
	Symantec pcAnywhere でできること	21
	他の詳しい情報源	22
第 2 章	Symantec pcAnywhere でのナビゲーション	23
	Symantec pcAnywhere のビューモードの選択	23
	基本表示での接続の開始	24
	接続設定の表示と編集	26
	拡張表示での操作	28
	Symantec pcAnywhere ウィンドウの列見出しの編成	29
	Symantec pcAnywhere ナビゲーションバーのカスタマイズ	29
	接続後にメイン製品ウィンドウを閉じる	30
	接続ウィザードについて	31
	接続する前に知っておく必要のある情報	31
	別のコンピュータにリモート接続する方法	32
	リモート接続の開始モードについて	33
	セッションマネージャについて	34
	セッションマネージャでのアクティブなセッションの表示方法の変更	36
	セッションマネージャウィンドウのナビゲーションバーオプションの表示 または非表示	37
	セッションマネージャウィンドウのナビゲーションバーのサイズ変更....	
	3	7
	セッションマネージャウィンドウのナビゲーションバーの表示または非 表示	38
	[サムネイル]タブを使う	38
	pcAnywhere の環境設定の管理	38
	ネットワーク接続のカスタマイズについて	39
	モデム接続のカスタマイズ	39

ヨーロッパの ISDN 接続のカスタマイズ	41
直接接続のカスタマイズ	42

第 3 章

Symantec pcAnywhere のインストール	45
インストールの準備	45
Symantec pcAnywhere のシステムの必要条件	45
ユーザー権限の必要条件	50
インストールオプション	50
以前のバージョンがインストールされている場合	54
Symantec pcAnywhere のインストール	54
完全製品インストール	55
カスタムインストール	56
手動によるセットアッププログラムの実行	57
インストール後のタスク	57
Symantec pcAnywhere の起動	57
インストール設定の修正	58
Symantec pcAnywhere の更新	59
Symantec pcAnywhere のアンインストール	60

第 4 章

ホストコンピュータの制御の許可	61
ホスト接続の管理	61
お気に入りへのホスト接続項目の追加	61
最近使ったホスト接続項目の検索	62
ホストコンピュータを設定する方法	62
接続ウィザードを使ったホスト接続の設定	62
拡張プロパティを使ったホストの設定	64
どの接続デバイスをホストセッションに使うかの認識	66
ホストネットワーク接続の設定	67
ネットワークカードの選択	68
ホストでのデフォルトのポート番号の変更	69
ホストモデム接続の設定	69
ホストでの直接接続の設定	71
ホスト起動オプションの設定	71
Windows にゲストユーザーとしてログオンしている場合	74
セッションの終了オプションの設定	74
ディレクトリサービスに参加するようにホストコンピュータを設定する	76
マルチモニタオプションの設定	77
ホスト名の指定	77
ホストディスクドライブの共有	78
ホストセッションを開始する方法	79
リモートコンピュータからの接続を待つ	79
リモートコンピュータの呼び出し	80

ホスト招待を受け入れる	81
ホストセッション中にできること	81
ホストオンラインメニューの操作	81
複数のリモートユーザーによる会議の許可	82
リモートユーザーとのオンラインチャット	84
ホストコンピュータで描画機能を使う	84
ホストセッションの終了	85

第 5 章

別のコンピュータのリモート制御	87
リモート接続の管理	87
お気に入りへのリモート接続項目の追加	87
最近使ったリモート接続項目の検索	88
リモートコンピュータを設定する方法	88
接続ウィザードを使ったリモート接続の設定	89
拡張プロパティを使ったリモート接続の設定	90
どの接続デバイスをリモートセッションに使うかの認識	91
リモートネットワーク接続の設定	92
リモート接続用のデータポート範囲のカスタマイズ	94
リモートでのデフォルトのポート番号の変更	95
リモートモデム接続の設定	95
リモートでの直接接続の設定	99
ディレクトリサービスを使うようにリモートコンピュータを設定する	99
pcAnywhere Gateway または pcAnywhere Access Server を介し	
た接続	100
接続速度の修正	102
ビデオの処理効率の設定の調整	103
ホストコンピュータへの自動ログオン	104
ホストがビジー状態の場合の自動再接続	105
リモート制御セッションを開始する方法	105
リモート接続項目の起動	106
ホスト接続を待つ	106
スマートカード認証を使ったホストコンピュータへの接続	107
クイック接続を使った別のコンピュータへの接続	108
pcA Quick Connect を使う	115
リモート制御セッション中にできること	116
画面ショットの保存	118
リモート制御セッション中のディスプレイ設定の変更	119
背景色の変更	121
リモート印刷の設定	122
Windows クリップボードの内容の転送	123
ホストユーザーとのオンラインチャット	124
複数のホストへの接続	124

リモートコンピュータで描画機能を使う	125
ホストコンピュータの電源をオフにする	126
共有ホストドライブの表示	126
リモート制御セッションの終了	126
ホストを実行していないコンピュータへの接続	127
クイック配備接続の最初のホストプロパティの設定	130
クイック配備接続機能を使ったホストへの再接続について	138
クイック配備接続のホストプロパティの編集	139
Windows 復元環境での pcAnywhere の働き	140

第 6 章 コンピュータとサーバーのリモートサポート 141

Symantec pcAnywhere リモート管理ツールについて	141
リモート管理のための ユーザー権限の必要条件	141
リモート管理セッションを開始する方法	142
リモート管理セッション中にできること	142
タスクのリモート管理	144
DOS コマンドの実行	145
サービスの表示	147
システムファイルの表示と編集	148
システムレジストリの表示と編集	149
イベントログの表示	150
プログラムの表示とアンインストール	151
リモート管理セッション中のホストコンピュータの再起動または終了	151
リモート管理セッション中のコンピュータのロックまたはユーザーのログ オフ	152
1 台以上のコンピュータへのシステム 状態コマンドの送信	154
リモート管理セッションの 終了	156

第 7 章 ファイルとフォルダの転送 159

pcAnywhere ファイル転送について	159
最近アクセスしたファイルの場所への移動	160
フォルダの中にあるすべてのファイルへのタグ付け	161
フォルダの中にあるすべてのフォルダへのタグ付け	161
ワイルドカード文字を使ったファイルへのタグ付け	161
修正日によるファイルへのタグ付け	162
ファイルとフォルダの管理	162
フォルダの比較	163
ファイル転送設定について	164
開始場所の選択	164
上書きオプションの選択	165
ファイル転送の処理効率の向上	165
ファイル転送セッションを開始する方法	166

コンピュータ間のファイルの転送	166
ファイル転送操作の中止	167
ファイル転送操作の一時停止	167
ファイル転送操作中のコマンドキューの表示	167
セッション中のファイル転送設定の変更	168
同期とクローンの作成について	168
フォルダの同期	168
ファイルの種類によるフォルダの同期	169
フォルダのクローンの作成	169
 第 8 章 ファイル転送と管理のタスクの自動化	 171
コマンドキューについて	171
コマンドキューファイルを使ったタスクの自動化	172
環境変数の使い方	173
コマンドキューファイルの操作	173
キューファイルの項目の並べ替え	178
コマンドキューファイルへのリモート接続項目の追加	179
コマンドキューのファイル処理オプションの選択	180
コマンドキューのセッションの終了オプションの選択	181
セッション中のコマンドキューファイルの作成	185
コマンドキューの一時停止	185
コマンドリストからのコマンドの削除	186
コマンドリストのコマンドの並べ替え	186
コマンドキューファイルの保存 コマンドキューファイル	186
コマンドキューレポートのオンデマンド生成	187
コマンドキューファイルの実行	187
セッション中のコマンドキューファイルの実行	188
セッションを開始せずにコマンドキューファイルを実行するには	188
コマンドキューファイルの自動実行のスケジュール設定	189
 第 9 章 コンピュータとセッションの保全	 193
権限のないアクセスからのホストコンピュータの保護	193
pcAnywhere での認証について	194
ログオンセキュリティの設定	199
接続後のホストコンピュータの安全確保	200
ネットワーク検索結果でのホスト名の非表示	200
リモートユーザーのコールバック	201
アクセス権について	202
呼び出し側の権限の設定	202
呼び出し側の時間限度の設定	203
日または時間による接続の遮断	204
セッションのセキュリティについて	205

キーボードとマウスの操作の制限	206
セッションの活動なし時間限度の設定	206
暗号化を使ったデータ保護	207
Symantec の暗号化モジュールについて	207
対称暗号化について	208
公開キー暗号化について	208
処理効率かセキュリティかの問題	209
pcAnywhere の暗号化のしくみ	209
pcAnywhere エンコードを使う pcAnywhere の設定	210
対称暗号化を使うための pcAnywhere の設定	210
暗号化レベルの低いコンピュータからの接続の拒否	211
公開キー暗号化を使う pcAnywhere の設定	212
設定の保護	216
ホストのセキュリティを評価する方法	217
ホスト評価ツールの実行	217
ホスト接続項目の場所の指定	218
スキャン結果の分析	219
スキャン結果についての詳しい情報の表示	219
セキュリティ機能についての詳細情報	220
スキャン結果の保存	220

第 10 章

セッションの監視と記録

Symantec pcAnywhere のイベントの監視	221
ログ記録イベントの SNMP トラップへの送信	221
pcAnywhere ログファイルの生成	222
Windows イベントビューアでのイベントログ記録	224
中央サーバーへの情報のログ記録について	224
ログファイルの管理	226
活動ログレポートの作成	226
ログファイルのデータの保存または削除	227
セッションの記録と再生について	228
リモートセッションの記録	228
リモートセッションの自動記録	229
ホストセッションの自動記録	229
記録したセッションの再生	230
記録したセッションの情報の保存	232

第 11 章

複数のプラットフォーム間の接続

Symantec pcAnywhere CrossPlatform について	233
Symantec pcAnywhere CrossPlatform のインストール	233
Windows への pcAnywhere CrossPlatform のインストール	234
Linux への pcAnywhere CrossPlatform のインストール	234

Mac OS X への pcAnywhere CrossPlatform のインストール	235
pcAnywhere CrossPlatform の起動	237
pcAnywhere CrossPlatform を使ったホストコンピュータへの接続	238
pcAnywhere CrossPlatform を使った接続の保全	238
pcAnywhere CrossPlatform を使ったセッションの暗号化	238
pcAnywhere CrossPlatform を使ったシリアル番号を割り当てたホストへの接続	240
pcAnywhere CrossPlatform セッションのナビゲーション	240
pcAnywhere CrossPlatform セッション中のファイル転送	242
pcAnywhere CrossPlatform セッション中のクリップボードの内容の転送	243
pcAnywhere CrossPlatform セッション中のビデオの処理効率の向上	243
pcAnywhere CrossPlatform セッション中の ezScroll を使ったナビゲート	244
pcAnywhere CrossPlatform 接続ファイルの保存と開き方	245
pcAnywhere CrossPlatform セッションの終了	245
第 12 章 Web ブラウザからの接続	247
Symantec pcAnywhere Web Remote について	247
Web Remote の設定について	248
Symantec pcAnywhere CD からの Web Remote の起動	249
ハードディスクドライブ、サーバー、リムーバブルメディアからの Web Remote の起動	249
Web Remote セッションを保全する方法	250
Web Remote がログオン処理を保全するしくみ	251
Web Remote による暗号化について	251
セッション暗号化の設定	253
Web Remote でシリアル ID を使った接続の保全	254
Web Remote のポート設定の編集	254
Web Remote からホストに接続する方法	255
ホストリストのホストへの接続	255
接続情報の手動入力によるホストへの接続	255
Web Remote セッション中にできること	256
Web Remote のクリップボードの内容の転送	258
Web Remote セッション中のビデオの処理効率向上	259
Web Remote セッション中のナビゲートでの ezScroll の利用	259
Web Remote セッションの終了	260
第 13 章 モバイルデバイスからの接続	261
Symantec pcAnywhere Mobile について	261
Symantec pcAnywhere Mobile でできること	262

デバイスでのヘルプの表示	262
Symantec pcAnywhere Mobile のインストール	262
Symantec pcAnywhere Mobile システムの必要条件	263
Symantec pcAnywhere Mobile の以前のバージョンがインストール されている場合	264
Symantec pcAnywhere Mobile のインストール	264
Symantec pcAnywhere Mobile のアンインストール	267
Symantec pcAnywhere Mobile の起動	269
モバイルデバイスから別のコンピュータに接続する方法	269
モバイルデバイスのカスタム接続項目の設定	270
モバイル接続にログイン情報を含める	272
pcAnywhere Gateway またはアクセスサーバー経由の接続	273
モバイルセッションの暗号化	274
シリアル ID を使ったモバイル接続の保全	276
モバイル接続のホストポートの指定	276
モバイルデバイスのホスト検索へのサブネットアドレスの追加	277
カスタム接続項目からのモバイルセッションの起動	278
クイック接続からのモバイル接続の開始	278
Symantec pcAnywhere Mobile セッション画面のナビゲーション	280
モバイルセッション中のナビゲーション設定の修正	282
モバイルセッション中の処理効率の向上	283
モバイルデバイスからのリモート制御タスクの実行	283
Symantec pcAnywhere Mobile でのリモート管理セッションの開始	284
リモート管理セッション中にできること	285
モバイルデバイスからのプログラムの状態の表示または変更	285
モバイルデバイスからの処理の起動と終了	286
モバイルデバイスからのコンピュータのロックまたはユーザーのログオ フ	288
モバイルデバイスからのホストコンピュータの再起動または終了	289
モバイルデバイスからの DOS コマンドの実行	290
モバイルセッションの終了	292
モバイルデバイスの接続項目の管理	292
モバイルデバイスの接続項目の名前の変更	292
モバイルデバイスの接続項目のコピー	292
モバイルデバイスの接続項目の編成	293
モバイルデバイスからの接続項目の削除	293
Symantec pcAnywhere Mobile の終了について	293
 第 14 章	
Symantec pcAnywhere Gateway の管理	295
Symantec pcAnywhere Gateway について	295
Symantec pcAnywhere Gateway のインストール	296
ゲートウェイマネージャについて	297

pcAnywhere Gateway の起動	298
pcAnywhere Gateway の起動設定の変更	299
ゲートウェイコンピュータが使う名前の変更	299
検索結果でのゲートウェイコンピュータの非表示	300
ゲートウェイコンピュータの保全	300
pcAnywhere Gateway のイベントの監視	301
pcAnywhere Gateway のポート設定の編集	302
着信モデム接続を許可するための pcAnywhere Gateway の設 定	303
pcAnywhere Gateway がホストを検出する方法の選択	304
pcAnywhere Gateway でホスト検索に使うサブネットの追加または削 除	304
アクセスサーバーへのゲートウェイコンピュータのドッキング	305
pcAnywhere Gateway セッションの終了	306
pcAnywhere Gateway サービスの停止	306
索引	307

Symantec pcAnywhere の紹介

この章では以下の項目について説明しています。

- [インストールガイド](#)
- [Symantec pcAnywhere の新機能](#)
- [Symantec pcAnywhere のコンポーネント](#)
- [Symantec pcAnywhere の働き](#)
- [Symantec pcAnywhere でできること](#)
- [他の詳しい情報源](#)

インストールガイド

Symantec pcAnywhere はコンピュータとサーバーへの安全なリモートアクセスを提供します。ヘルプデスクの問題やサーバーサポートの問題をすばやく解消したり、職場から離れているときにも生産性を維持できます。デスクトップコンピュータ、ノートパソコン、モバイルデバイスを使って、Windows®、Linux®、Mac® OS など複数のプラットフォームを管理できます。また、ホストが実行中でないコンピュータに機能限定でシングルユースのホストを配備することもできます。

Symantec pcAnywhere Gateway など接続性に関する機能を使うと、ファイアウォール、ルーター、その他のネットワークアドレス変換 (NAT) デバイスを経由する接続を簡易化できます。強固なセキュリティ機能により、権限のないアクセスからコンピュータとサーバーを保護します。

Symantec pcAnywhere は次のように使うことができます。

コンピュータのリモート管理	Symantec pcAnywhere を使うと、ヘルプデスクプロバイダと管理者は、コンピュータの問題のトラブルシューティングと解消をすばやく行うことができます。コンピュータの診断、設定の確認と修正、ソフトウェアの配備とインストールをリモートで実行できます。
サーバーのサポートと保守	管理者は Symantec pcAnywhere を使って組織内のサーバーに接続し、日常の保守、ソフトウェアのパッチやアップグレードの配備とインストール、処理効率の評価、ネットワークの問題のトラブルシューティングをします。
コンピュータ間のファイル転送	Symantec pcAnywhere を使うと自宅または職場のコンピュータに接続して必要なファイルをすばやく取得できます。1 日の最後にコンピュータ間でファイルの自動転送を実行したり大きすぎて電子メールで送信できないマルチメディアなどのファイルを交換したりできます。
遠隔操作	Symantec pcAnywhere を使うと別のコンピュータにリモート接続してそのコンピュータの前に座っているかのように操作できます。ファイルの表示と編集、ソフトウェアの実行、自分のプリンタまたはホストのプリンタでのファイルの印刷、プレゼンテーションまたはデモの実施ができます。

Symantec pcAnywhere の新機能

Symantec pcAnywhere には次の新機能と機能拡張が追加されています。

Server 2008	pcAnywhere でサポートされているプラットフォームと Server 2008 プラットフォームを双方向にリモート接続できます。
マルチモニタ	セッションの開始時にデフォルトでリモートコンピュータに表示されるモニタを選択できます。
pcA Quick Connect	pcA Quick Connect を使うと最小の設定で別のコンピュータに接続できます。このオプションはホストコンピュータに接続する必要があります。あるときに使うことができます。

Symantec pcAnywhere のコンポーネント

Symantec pcAnywhere の主要コンポーネントについては p.15 の表 1-1 を参照してください。これらのコンポーネントは製品の CD 上にあり、個別にインストールできます。

表 1-1 Symantec pcAnywhere の主要コンポーネント

名前	説明
Symantec pcAnywhere	コンピュータとサーバーにリモートでアクセスして、リモート制御、ファイル転送、リモート管理のタスクを実行できます。 Windows オペレーティングシステムのみで動作します。 完全版から必要な機能性のみ含む縮小版までのいくつかのインストールオプションから選択できます。 p.50 の「インストールオプション」を参照してください。
Symantec pcAnywhere CrossPlatform	Windows、Linux、Mac OS X オペレーティングシステムを実行する 1 つ以上のコンピュータにリモートでアクセスできます。 p.233 の「Symantec pcAnywhere CrossPlatform について」を参照してください。
Symantec pcAnywhere Gateway	ファイアウォール、ルーター、その他のネットワークアドレス変換 (NAT) デバイスの背後にある 1 つ以上のホストコンピュータを検索して接続できます。 p.295 の「Symantec pcAnywhere Gateway について」を参照してください。
Symantec pcAnywhere Mobile	モバイルデバイスからコンピュータとサーバーにリモートアクセスできます。 p.261 の「Symantec pcAnywhere Mobile について」を参照してください。
Symantec pcAnywhere Web Remote	Java 対応の Web ブラウザ経由で別のコンピュータに接続できます。 p.247 の「Symantec pcAnywhere Web Remote について」を参照してください。
pcAnywhere Host Administrator	ネットワーク上で実行されている pcAnywhere ホストをリモートで管理できます。 詳しくは『Symantec pcAnywhere 管理者ガイド』を参照してください。
Symantec Packager	Symantec pcAnywhere のカスタムインストールを作成して、インストール先システムに配備できます。 詳しくは『Symantec pcAnywhere 管理者ガイド』を参照してください。

Symantec pcAnywhere の働き

Symantec pcAnywhere のリモート制御技術を使うと別のコンピュータまたはサーバーに接続し、そのコンピュータまたはサーバーの前に座っているかのように操作できます。

Symantec pcAnywhere は LAN (ローカルエリアネットワーク)、WAN (ワイドエリアネットワーク)、インターネットを介したネットワーク接続をサポートします。また、モデム間接続、シリアルポートまたはパラレルポートと適した種類のケーブルによるコンピュータ間の直接接続をサポートします。

ほとんどの場合、リモートユーザーが接続を開始します。ホストコンピュータへの接続に必要な情報を提供します。セキュリティを向上させるオプションや処理効率を最適化するオプションを選択することもできます。接続を確立するには、**pcAnywhere** の着信接続を待つようにホストコンピュータを設定する必要があります。ホストユーザーは、TCP/IP など、接続に使うデバイスの種類を選択できます。また、ホストコンピュータへのアクセスを制御するセキュリティのオプションを選択できます。

管理者は、クイック配備接続を使って、ホストが実行中でないコンピュータに機能限定でシングルユースのホストを設定したり配備できます。接続先のコンピュータで管理者権限が必要です。

p.127 の「[ホストを実行していないコンピュータへの接続](#)」を参照してください。

ホストとリモートの違いについて

pcAnywhere を使って 2 台のコンピュータを接続した場合、2 台はクライアントとサーバーの関係になります。ホストコンピュータはサーバーとしてリモートコンピュータからの接続を待ち、要求されたサービスを提供します。

ホストコンピュータを設定する場合にはホストコンピュータに接続できるリモートユーザーとそのアクセスレベルを制御します。たとえば、リモートユーザーによるホストコンピュータの再起動を制限できます。

p.62 の「[ホストコンピュータを設定する方法](#)」を参照してください。

リモートコンピュータはクライアントとしてホストコンピュータに接続し、実行する処理を指定します。実際の処理はホストコンピュータで実行されますが、ホストコンピュータの画面で起きることはリモートコンピュータの画面にも表示されます。

p.88 の「[リモートコンピュータを設定する方法](#)」を参照してください。

インターネット経由の接続について

ホストコンピュータとリモートコンピュータの両方がインターネットにアクセスできる場合、Symantec pcAnywhere を使ってホストコンピュータにインターネット経由で接続できます。ホストコンピュータに公開 IP アドレスがある場合、インターネット経由で接続するには次の処理が必要です。

- インターネットサービスプロバイダ (ISP) の指示に従ってホストユーザーがインターネットに接続します。
- pcAnywhere でホストユーザーが TCP/IP 用に設定されたホストセッションを開始します。
p.79 の「[ホストセッションを開始する方法](#)」を参照してください。
- ISP の指示に従ってリモートユーザーがインターネットに接続します。
- pcAnywhere でリモートユーザーがホストコンピュータの IP アドレスとログオン情報を指定して TCP/IP 接続を設定します。
p.92 の「[リモートネットワーク接続の設定](#)」を参照してください。
- リモートユーザーが pcAnywhere リモート接続項目を開始します。
p.105 の「[リモート制御セッションを開始する方法](#)」を参照してください。

ケーブルモデム接続について

アナログ信号とデジタル信号を変換して電話回線経由でデータ交換をする従来のモデムとは異なり、ケーブルモデムはインターネットプロトコルを使ってケーブルテレビ回線経由でデータを伝送します。ケーブルモデムは TCP/IP を使ってデータを伝送するため、ケーブルモデム接続は TCP/IP ネットワーク接続として設定する必要があります。

pcAnywhere のデフォルトの [Network, Cable, DSL] 接続項目は TCP/IP 用に設定されます。

p.67 の「[ホストネットワーク接続の設定](#)」を参照してください。

p.92 の「[リモートネットワーク接続の設定](#)」を参照してください。

DSL 接続または ADSL 接続について

ADSL または DSL などのデジタル加入者回線はインターネットサービスプロバイダ (ISP) が提供する高速のインターネット接続です。コンピュータはネットワークに接続して IP アドレスを割り当てられているかのように動作します。DSL 接続と ADSL 接続は TCP/IP ネットワーク接続として設定する必要があります。

pcAnywhere のデフォルトの [Network, Cable, DSL] 接続項目は TCP/IP 用に設定されます。

p.67 の「[ホストネットワーク接続の設定](#)」を参照してください。

p.92 の「[リモートネットワーク接続の設定](#)」を参照してください。

インターネットブロードバンド接続について

ケーブルモデムまたは DSL などのブロードバンドソリューションを使うホームベースのネットワークへのインターネット経由の接続には何らかの問題が伴う可能性があります。ホームベースのブロードバンドインターネットソリューションの多くはケーブルルーターまたは

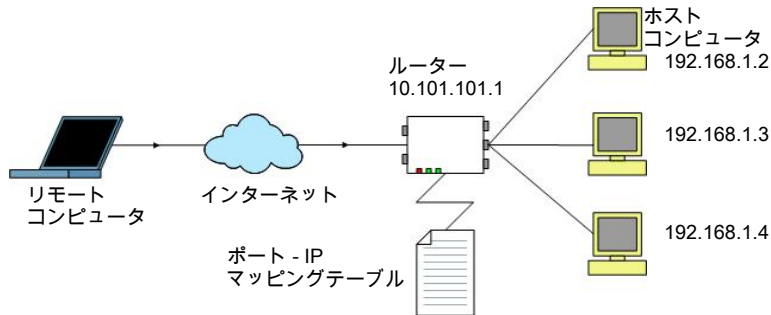
DSL ルーターを含むため複数のコンピュータが単一のインターネット接続を共有できます。ルーターはネットワークアドレス変換 (NAT) 技術を使用して、このアドレス共有を可能にします。

共有する状況では IP アドレスをルーターに割り当てます。すると、ルーターが新しい IP アドレスを生成し、接続を共有する個々のコンピュータにそのアドレスを割り当てます。

ブロードバンドサービスに加入すると ISP から単一の IP アドレスが割り当てられます。ルーターが割り当てる IP アドレスは専用アドレスでインターネットから見られる可能性はありません。インターネットから見ることのできる唯一のアドレスはルーターに割り当てた IP アドレスです。

インターネットブロードバンド接続の方法を図 1-1 に示します。

図 1-1 ブロードバンド接続の働き



pcAnywhere リモートからのインバウンド接続をサポートするには pcAnywhere ポートからの着信データをルーターが割り当てるホストコンピュータの IP アドレスに向けるようにルーターを設定する必要があります。

pcAnywhere 接続では次の pcAnywhere ポート番号をホストコンピュータの専用 IP アドレス (ルーターが割り当てるアドレス) とマップする必要があります。

- 5631 (データ)
- 5632 (状態)

カスタムポート番号を使うホストコンピュータに接続する場合にはリモート接続項目にカスタムポート番号を設定する必要があります。このポートマッピングはルーターの管理者プロパティで設定し、通常は Web ブラウザでアクセスできます。ポートマッピングの設定場所はルーターによって異なります。

詳しくはルーターのマニュアルを参照してください。

Symantec pcAnywhere Gateway を使うと単一の接続ポイントを設定でき、ネットワークアドレス変換 (NAT) デバイスの背後にあるホストコンピュータを検索して接続する処理を簡易化できます。

p.295 の「[Symantec pcAnywhere Gateway について](#)」を参照してください。

ファイアウォール外部からの接続について

安全上の理由から管理者は特定の IP アドレスへのアクセスを制限するためにファイアウォールを設定することがあります。ファイアウォールは外部のコンピュータがファイアウォール内部の任意の IP アドレスに接続するのを防止します。一部の社内環境ではユーザーがファイアウォールの背後でモデム電話回線をインストールするのを制限するセキュリティポリシーが設定されている場合もあります。

ファイアウォールの背後にあるネットワークにホストコンピュータが接続している場合、リモートユーザーには **RAS** または **VPN** を通してネットワークに接続する方法が必要です。この情報は管理者が指定する必要があります。

リモートユーザーがこの信頼できるサービスの 1 つを使っていったん社内ネットワークに接続したらリモートコンピュータはネットワーク上のノードになり、**pcAnywhere** で TCP/IP を使う相手先コンピュータに接続できます。

ファイアウォール外部からネットワークホストコンピュータに接続するには次の処理が必要です。

- ホストサイトの管理者が指定した操作手順に従ってホストサイトのネットワークに接続します。
- **pcAnywhere** で接続先ホストコンピュータの IP アドレスを指定して TCP/IP ネットワーク接続を設定します。
p.92 の「[リモートネットワーク接続の設定](#)」を参照してください。
- リモート制御セッションを開始します。
p.105 の「[リモート制御セッションを開始する方法](#)」を参照してください。

Symantec pcAnywhere Gateway を使うと単一の接続ポイントを設定でき、ネットワークアドレス変換 (NAT) デバイスの背後にあるホストコンピュータを検索して接続する処理を簡易化できます。

p.295 の「[Symantec pcAnywhere Gateway について](#)」を参照してください。

処理効率に影響する問題

リモート制御技術が進歩しても、通信デバイス経由で別のコンピュータを制御することには処理効率の面で数多くの問題があります。リモート制御セッション中はホストコンピュータの前に座っているかのようにそのコンピュータを制御します。ホストコンピュータのデスクトップの壁紙からカーソルの動きまでのすべてを両者の間で伝送する必要があります。

処理効率の最大の要因は接続速度とグラフィックオーバーヘッドの 2 つです。コンピュータ間で転送する必要のあるデータが多ければ多いほど処理効率は低下します。特にグラフィックデータの場合に処理効率が低下します。

データ暗号化などの一部のセキュリティ設定も処理効率に影響する可能性があります。接続を設定する場合には処理効率の向上とデータを保護する必要性とを比較検討してください。

p.209 の「[処理効率かセキュリティかの問題](#)」を参照してください。

処理効率を向上する方法

Symantec pcAnywhere は処理効率を最適化するように設計されていますが、処理効率を上げるために制御できる要因が数多くあります。

処理効率を向上する方法についての情報を[表 1-2](#)に示します。

表 1-2 処理効率を向上する方法

目的	解決策
接続速度の向上	できる限り最速の接続の種類を使ってください。モデムを使う場合にはモデムと電話回線がサポートできる最速の接続を使う必要があります。 Symantec pcAnywhere は接続速度 (帯域幅) を検出し、ビデオ設定を自動的に調整して処理効率を最適化することができます。
最小限のグラフィックオーバーヘッド	Windows オペレーティングシステムではステータスバーからメニューまでコンピュータ画面に表示されるすべてが GUI です。この情報はリモートコンピュータに接続デバイス経由で伝送されます。ホストコンピュータに表示されるグラフィックが多ければ多いほどリモートコンピュータに送信する必要がある情報量は多くなり処理効率が低下します。 グラフィックオーバーヘッドは次の方法で最小限にすることができます。 ■ 狭帯域幅接続 (たとえば、モデム接続) の場合、Symantec pcAnywhere でリモートプロパティを設定するときに狭帯域幅オプションを選択する ■ アプリケーションと Windows のシステムトレイにモデムのランプやステータスバーを表示しない ■ 使っていないダイアログボックスを最小化してより小さなウィンドウを使う ■ デスクトップの解像度を下げ表示の色数を減らす ■ ホストで Windows のタスクバーを非表示にする ■ ホストで壁紙、背景、スクリーンセーバーを無効にする ■ ホストで Windows のアクティブデスクトップ機能を無効にする ■ ホストで全ウィンドウドラッグ機能をオフにする (コンピュータ画面でウィンドウをドラッグするときに各ピクセルの動きを伝送しないようにするため)
より効率的な操作	リモート制御セッション中にタスクを実行するとき、次の指針に従うと処理効率が向上します。 ■ Vista で pcAnywhere を実行する場合は、処理効率を上げるために高性能のグラフィックカードを搭載したコンピュータを使う ■ アニメーションを使わないようにする ■ Page Up キーと Page Down キーを使って文書をスクロールする ■ マウスのスクロールホイールを無効にする ■ ファイル転送時にリモート制御タスクを実行しないようにする ■ メニューではなくツールバーを使ってタスクを実行する

処理効率の設定の変更

Symantec pcAnywhere はデータをキャッシュファイルに格納して同じデータを再送しないようにします。これにより処理効率が向上します。Symantec pcAnywhere は 16MB を超えるディスク容量をキャッシュファイルに使うことはありません。

処理効率の設定を変更するには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウの編集メニューで[環境設定]を選択します。
- 2 pcAnywhere オプションウィンドウの[リモート操作]ページで[pcAnywhere キャッシュファイルを使う]にチェックマークを付けます。

Symantec pcAnywhere でできること

Symantec pcAnywhere ではコンピュータの問題のトラブルシューティングとその解消、サーバーのサポートと保守、ファイルの転送、遠隔操作などをするために別のコンピュータに接続できます。

pcAnywhere を使うと次のことができます。

ホストコンピュータへのリモートからの接続 自分のコンピュータをホストとして設定すると次のことができます。

- 遠隔操作でホストにリモート接続する
- 別の場所にいる誰かにコンピュータの問題の解消の手助けをしてもらう
- 会議接続によってプレゼンテーションやデモの司会をする

p.61 の「[ホスト接続の管理](#)」を参照してください。

別のコンピュータの制御

リモート制御機能を使うと次のことができます。

- 別のユーザーがコンピュータの問題のトラブルシューティングをする手助けをする
- 別のコンピュータ上にあるソフトウェアまたは電子メールなどのリソースにアクセスする
- 別のコンピュータ上に格納されているファイルを自分のプリンタで印刷する

p.87 の「[リモート接続の管理](#)」を参照してください。

コンピュータとサーバーのリ モート管理	リモート管理ツールを使うと次のことができます。 ■ 問題のトラブルシューティングと日常の保守を実行するためにリモートサーバーに接続する ■ コンピュータの問題のトラブルシューティングと解消をすばやくする ■ コンピュータの処理効率を監視する ■ ソフトウェアのインストールと削除をリモートから実行する ■ ソフトウェア、パッチ、アップグレードを配備する p.141 の「Symantec pcAnywhere リモート管理ツールについて」を参照してください。
ファイルの転送	ファイル転送機能とコマンドキュー機能を使うと次のことができます。 ■ 生産性を維持するのに必要なファイルにすばやくアクセスする ■ 監査と保存の目的で 1 日の最後にファイル転送を自動実行する ■ ファイルや更新版を複数のコンピュータに自動的に配布する ■ 大きすぎて電子メールで送信できないマルチメディアなどのファイルを交換する p.159 の「pcAnywhere ファイル転送について」を参照してください。 p.171 の「コマンドキューについて」を参照してください。

他の詳しい情報源

テクニカルサポート情報、ナレッジベース、オンラインチュートリアル、製品の最新情報については、シマンテック社の Web サイトを参照してください。

<http://www.symantec.com/region/jp/techsupp/>

ヘルプのほかに次のマニュアルが Symantec pcAnywhere CD に入っています。

- 『Symantec pcAnywhere ユーザーズガイド』
- 『Symantec pcAnywhere 管理者ガイド』
- 『Symantec pcAnywhere OLE オートメーションガイド』
- 『Symantec WebRemote ヘルプ』
- 『Symantec CrossPlatform ヘルプ』
- 『Symantec pcAnywhere 始めましょうガイド』

メモ: オンラインマニュアルの表示には Adobe Reader 5.0 以降が必要です。

Symantec pcAnywhere でのナビゲーション

この章では以下の項目について説明しています。

- [Symantec pcAnywhere のビューモードの選択](#)
- [基本表示での接続の開始](#)
- [接続設定の表示と編集](#)
- [拡張表示での操作](#)
- [セッションマネージャについて](#)
- [\[サムネイル\]タブを使う](#)
- [pcAnywhere の環境設定の管理](#)

Symantec pcAnywhere のビューモードの選択

Symantec pcAnywhere では、次のいずれかのモードで操作することができます。

基本表示

基本表示を使うと、よく実行される **pcAnywhere** タスクにすばやくアクセスできます。接続を設定して開始する処理を簡単に行うことができます。

p.24 の「[基本表示での接続の開始](#)」を参照してください。

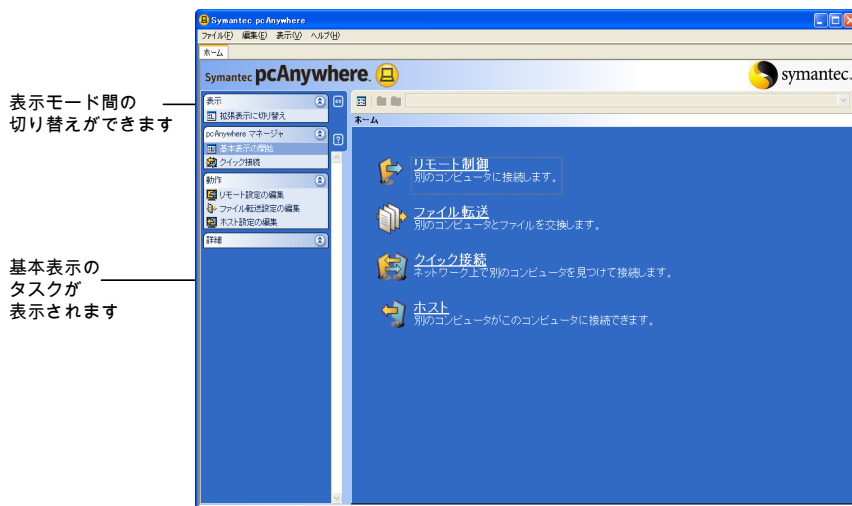
拡張表示

拡張表示では基本表示で利用できない設定オプションにアクセスできます。拡張表示では接続設定と環境設定のカスタマイズの管理、セキュリティの拡張オプションの選択ができます。

インストール後に初めて Symantec pcAnywhere を起動すると基本表示モードでプログラムが開きます。以後、pcAnywhere を起動すると、前回終了したときに使用していたビューでプログラムが開きます。

基本表示が選択されている場合の Symantec pcAnywhere ウィンドウを図 2-1 に示します。

図 2-1 Symantec pcAnywhere ウィンドウの基本表示



Symantec pcAnywhere のビューモードを選択するには

- ◆ Symantec pcAnywhere ウィンドウの左のナビゲーションバーで次のいずれかの操作をします。
 - 基本表示から拡張表示に切り替えるには、[拡張表示に切り替え]をクリックします。
 - 拡張表示から基本表示に切り替えるには、[基本表示に切り替え]をクリックします。

基本表示での接続の開始

基本表示を使うと、次のタスクをすばやく実行できます。

リモート制御

ホストコンピュータをリモート制御してそのコンピュータの前に座っているかのように操作できます。

ファイル転送

ファイル転送モードでセッションを開始して、必要なファイルにすばやくアクセスできます。

クイック接続	最小の設定で別のコンピュータにすばやく接続できます。
ホスト	他のユーザーが接続できるようにコンピュータを設定できます。

基本表示モードでリモート制御、ファイル転送、またはホスト接続を初めて開始すると接続ウィザードが開きます。接続ウィザードを使うと **pcAnywhere** 接続を簡単に設定して開始することができます。接続ウィザードでの設定が完了すると接続を開始できます。

接続ウィザードで選択したオプションは接続項目ファイルに保存されます。これらの設定は **Symantec pcAnywhere** の基本表示から接続を開始するときに使われます。これらの設定は編集できます。

p.26 の「[接続設定の表示と編集](#)」を参照してください。

拡張表示に切り替えると、さらに高度なツールや設定オプションにアクセスできます。

p.28 の「[拡張表示での操作](#)」を参照してください。

基本表示で接続を開始するには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウの左のナビゲーションバーで[基本表示に切り替え]をクリックします。

pcAnywhere マネージャで[基本表示の開始]をクリックします。

- 2 右ペインで次のいずれかを選択します。

リモート制御 接続ウィザードで選択した設定を使って、リモート制御モードで接続を開始します。たとえば、ホストコンピュータの IP アドレスを指定した場合、pcAnywhere はその IP アドレスへの接続を試みます。

接続が確立してログオンすると、コンピュータ画面上のセッションマネージャウィンドウにホストのデスクトップが表示されます。

p.34 の「セッションマネージャについて」を参照してください。

このオプションを初めて選択した場合は、接続ウィザードが開始されます。

ファイル転送 接続ウィザードで選択した設定を使って、ファイル転送モードで接続を開始します。たとえば、ホストコンピュータの IP アドレスを指定した場合、pcAnywhere はその IP アドレスへの接続を試みます。

接続が確立してログオンすると、コンピュータ画面上にのファイルマネージャウィンドウが表示されます。

このオプションを初めて選択した場合は、接続ウィザードが開始されます。

クイック接続 クイック接続ウィンドウが開き、接続先のホストコンピュータの IP アドレス、コンピュータ名、またはモデムの電話番号を入力できます。

LAN 経由で別のコンピュータに接続しようとする場合、pcAnywhere はサブネットを自動的に検索して利用可能なホストを調べ、コンピュータ名でリストに表示します。

[ホスト] 接続ウィザードで選択した設定を使って、リモートコンピュータからの接続を待ちます。pcAnywhere のホスト待機中アイコンがタスクバーの通知領域に表示されます。

このオプションを初めて選択した場合は、接続ウィザードが開始されます。

接続設定の表示と編集

Symantec pcAnywhere は接続設定を接続項目ファイルに保存します。接続項目ファイルは次の方法で表示または編集できます。

基本表示	接続ウィザードを開始して接続の設定を行います。 基本表示で接続ウィザードを使って設定した接続がすでにある場合は、現在選択されている設定が接続ウィザードに表示されます。
拡張表示	設定を変更したり、ウィザードでは利用できないセッション暗号化などの拡張設定オプションを選択できます。

基本表示で接続設定を表示または編集するには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウの左のナビゲーションバーで[基本表示に切り替え]をクリックします。
- 2 ナビゲーションバーの[動作]で次のいずれかを選択します。

[リモート設定の編集]	基本表示から開始するリモート制御接続のプロパティを表示または編集できます。 p.89の「接続ウィザードを使ったリモート接続の設定」を参照してください。
[ファイル転送設定の編集]	基本表示から開始するファイル転送接続のプロパティを表示または編集できます。 p.89の「接続ウィザードを使ったリモート接続の設定」を参照してください。
[ホスト設定の編集]	基本表示から開始するホスト接続のプロパティを表示または編集できます。 p.62の「接続ウィザードを使ったホスト接続の設定」を参照してください。

- 3 接続ウィザードの[概略]画面が表示されるまで画面上の指示に従います。
- 4 [概略]画面で、現在選択されている設定を確認します。
次のいずれかの操作をします。
 - 更を適用して接続ウィザードを閉じるには、[完了]をクリックします。
 - 変更を保存せずに接続ウィザードを閉じるには、[キャンセル]をクリックします。

拡張表示モードで接続設定を表示または編集するには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウの左のナビゲーションバーで[拡張表示に切り替え]をクリックします。
- 2 次のいずれかの操作をします。
 - リモート制御、ファイル転送、リモート管理接続のプロパティを表示または編集するには、[リモート]をクリックします。

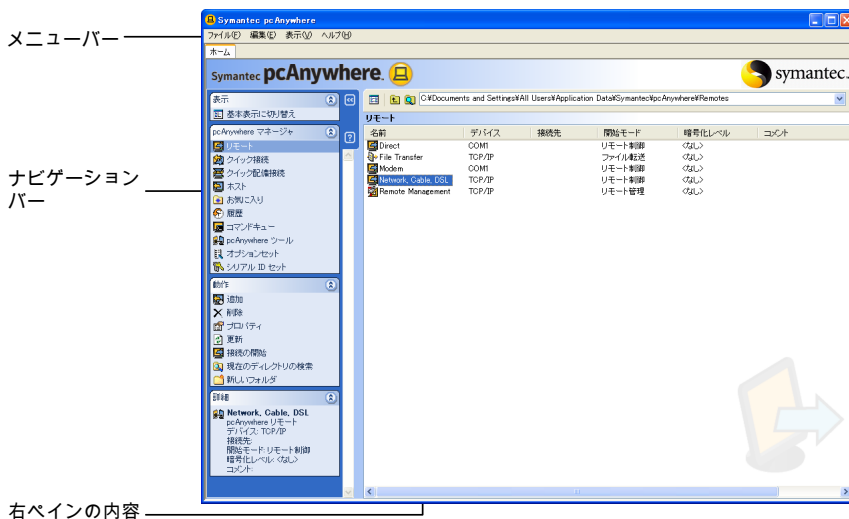
- ホスト接続のプロパティを表示または編集するには、[ホスト]をクリックします。
- 3 次のいずれかの操作をします。
- リモート制御、ファイル転送、リモート管理接続のプロパティを表示または編集するには、[リモート]ウィンドウで編集する項目を右クリックして、[プロパティ]をクリックします。
p.90の「[拡張プロパティを使ったリモート接続の設定](#)」を参照してください。
 - ホスト接続のプロパティを表示または編集するには、[ホスト]ウィンドウで編集する項目を右クリックして、[プロパティ]をクリックします。
p.64の「[拡張プロパティを使ったホストの設定](#)」を参照してください。

拡張表示での操作

拡張表示では基本表示で利用できない設定オプションにアクセスできます。拡張表示では接続設定と環境設定のカスタマイズの管理、セキュリティの拡張オプションの選択ができます。

拡張表示が選択されている場合の Symantec pcAnywhere ウィンドウを図 2-2 に示します。

図 2-2 Symantec pcAnywhere ウィンドウの拡張表示



ウィンドウの左にあるナビゲーションバーでは pcAnywhere のセッションオプション、設定ファイル、ツールにアクセスできます。矢印ボタンはナビゲーションバーの展開と省略のために使います。

pcAnywhere マネージャでオプションを選択するとその選択項目に利用可能なオプションが中央の[動作]フィールドに表示されます。右ペインにはナビゲーションバーで選択したオプションに特有の内容が表示されます。

たとえば、接続項目のリストを表示するには、左のナビゲーションバーで[リモート]または[ホスト]を選択します。接続項目についての詳細が列形式で右ペインに表示されます。

Symantec pcAnywhere ウィンドウの列見出しの編集

Symantec pcAnywhere ウィンドウの右ペインに表示される列は昇順または降順でソートできます。表示したくない列見出しを非表示にすることもできます。

列をソートするには

- ◆ Symantec pcAnywhere ウィンドウの右ペインで列見出しをクリックします。
逆の順序でソートするには列見出しを再びクリックします。

列見出しを表示または非表示にするには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウの右ペインで列見出しを右クリックします。
- 2 表示または非表示にしたい項目を選択します。
表示される列見出しの隣にはチェックマークが付きます。

Symantec pcAnywhere ナビゲーションバーのカスタマイズ

Symantec pcAnywhere ウィンドウのナビゲーションバーはよく使うオプションのみ表示するようにカスタマイズできます。こうすることで作業領域を整理できます。ナビゲーションバーで非表示になっているオプションにも表示メニューからはアクセス可能です。非表示にしたオプションをナビゲーションバーで復元することもできます。

[動作]フィールドには、pcAnywhere マネージャのタスクごとに利用可能なオプションが表示されます。一部の動作(追加、削除、プロパティなど)は、複数の pcAnywhere マネージャタスクで共通しています。これらのオプションの 1 つを非表示にした場合、そのオプションはすべての pcAnywhere タスクで非表示になります。

Symantec pcAnywhere ウィンドウで個々のオプションを非表示にするには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウ(拡張表示)の左のナビゲーションバーで非表示にしたいオプションを右クリックします。
- 2 [項目を隠す]を選択します。

[pcAnywhere マネージャ]フィールドでオプションを表示または非表示にするには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウ(拡張表示)の表示メニューで、[ナビゲーションバーのカスタマイズ]、[pcAnywhere マネージャのカスタマイズ]の順にクリックします。
- 2 [ナビゲーションバーの設定]ウィンドウで次のいずれかの操作をします。

- 表示したい項目にチェックマークを付けます。
- 非表示にしたい項目のチェックマークをはずします。

3 [OK]をクリックします。

[動作]フィールドでオプションを表示または非表示にするには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウ (拡張表示) の表示メニューで、[ナビゲーションバーのカスタマイズ]、[動作のカスタマイズ]の順にクリックします。
- 2 [ナビゲーションバーの設定]ウィンドウで次のいずれかの操作をします。
 - 表示したい項目にチェックマークを付けます。
 - 非表示にしたい項目のチェックマークをはずします。
- 3 [OK]をクリックします。

[ホーム]ページに切り替えるにはショートカット **Ctrl+0** を使います。

接続後にメイン製品ウィンドウを閉じる

Symantec pcAnywhere のメイン製品ウィンドウは、接続が確立された後も他のタスク (他のコンピュータへの接続など) を実行できるように開かれています。リモート接続の確立後にメイン製品ウィンドウを自動的に閉じるように **pcAnywhere** を設定できます。ただし、他のホストコンピュータに接続するには、メイン製品ウィンドウを開く必要があります。

pcAnywhere のデフォルト設定では、単一のウィンドウにタブ表示でアクティブなセッションが表示され、メイン製品ウィンドウは[ホーム]ページとして表示されます。接続後にメイン製品ウィンドウを閉じるように表示設定を変更して、タブ表示でアクティブなセッションを表示するオプションをオフにした場合、[ホーム]ページと[サムネイル]ページはセッションマネージャウィンドウに表示されなくなります。

メモ: Symantec pcAnywhere を 1 回閉じて再び開かないと、変更が有効にならない場合もあります。

p.36 の「セッションマネージャでのアクティブなセッションの表示方法の変更」を参照してください。

接続後にメイン製品ウィンドウを閉じるには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウの編集メニューで[環境設定]を選択します。

標準ユーザーとしてログオンしている場合は、管理者の信用証明の入力を求めるメッセージが表示されます。

管理者としてログオンしている場合は、同意を求めるダイアログボックスが表示されます。

管理者のログオン情報を入力すると、pcAnywhere オプションウィンドウが使えるようになります。管理者としてログオンしていない場合、オプションは表示できますがタブは無効になります。

- 2 pcAnywhere オプションウィンドウの[セッションマネージャ]ページで[接続後に pcAnywhere マネージャを開いておく]のチェックマークをはずします。

pcAnywhere マネージャがメイン製品ウィンドウです。

このページを見つけるには pcAnywhere オプションウィンドウで左右の矢印をクリックしてページのリストをスクロールします。

- 3 [OK]をクリックします。

接続ウィザードについて

接続ウィザードでは pcAnywhere 接続用にコンピュータを設定する処理が簡単にできます。接続ウィザードでの設定が完了すると接続を開始できます。

接続ウィザードを使うと次のことができます。

- 別のコンピュータに接続するように自分のコンピュータを設定する(リモート接続)
p.89 の「[接続ウィザードを使ったリモート接続の設定](#)」を参照してください。
- 別のコンピュータに接続を許可するように自分のコンピュータを設定する(ホスト接続)
p.62 の「[接続ウィザードを使ったホスト接続の設定](#)」を参照してください。

接続ウィザードで選択するオプションは修正できる接続項目ファイルに保存されます。Symantec pcAnywhere は接続の種類に応じて接続項目をホストウィンドウまたはリモートウィンドウに追加します。Symantec pcAnywhere にはウィザードで利用できないセキュリティ設定のような拡張設定オプションがあります。

p.90 の「[拡張プロパティを使ったリモート接続の設定](#)」を参照してください。

接続する前に知っておく必要のある情報

pcAnywhere を使って別のコンピュータに接続する前にホストコンピュータの検索、接続の確立、ログオンに必要な情報の指定が必要です。

これらの情報は接続の種類によって一部異なりますが、次のようになります。

ネットワーク接続	接続先の pcAnywhere ホストコンピュータ、ゲートウェイ、アクセスサーバーの IP アドレスまたはコンピュータ名。 LAN (ローカルエリアネットワーク) に接続すると pcAnywhere はサブネット上で接続待ちの pcAnywhere ホストを自動的に検索します。 モデム接続 モデムの電話番号や追加のダイヤルのプロパティなど接続に必要なダイヤル情報。 直接接続 接続する 2 台のコンピュータの COM のポート番号。
----------	--

Symantec pcAnywhere のすべてのセッションにはユーザー名とパスワードが必要です。ホストユーザーは呼び出し側アカウントを設定し、そのログイン信用証明をリモートユーザーに提供する必要があります。ホストコンピュータが **Windows XP/2003/Server 2008/2000** コンピュータの場合は、コンピュータログイン信用証明を要求するメッセージがオペレーティングシステムからも表示されることがあります。

この設定情報を接続項目ファイルに保存して、後で再び使うことができます。リモート接続項目ファイルは拡張表示のリモートウィンドウからアクセスできます。

p.87 の「[リモート接続の管理](#)」を参照してください。

別のコンピュータにリモート接続する方法

ホストコンピュータに接続する方法についての情報を表 2-1 に示します。

表 2-1 別のコンピュータに接続する方法

オプション	説明
[クイック接続]	[クイック接続]ウィンドウが開きます。接続するコンピュータの IP アドレス、コンピュータ名、またはモデムの電話番号を入力できます。 LAN 経由で別のコンピュータに接続しようとする場合、 pcAnywhere はサブネットを自動的に検索して利用可能なホストを調べ、コンピュータ名でリストに表示します。 p.108 の「 クイック接続を使った別のコンピュータへの接続 」を参照してください。
[基本表示の開始]	基本表示を使うと、よく実行される pcAnywhere タスクにすばやくアクセスできます。接続を設定して開始する処理を簡単に行うことができます。これは、新規ユーザーが使いやすいように設計されています。 p.24 の「 基本表示での接続の開始 」を参照してください。

オプション	説明
[事前設定済み接続]	Symantec pcAnywhere にはモデム接続、直接接続、ネットワーク接続のセキュリティと処理効率の設定が最適化された事前設定済みのデフォルトのリモート接続項目があります。 p.106 の「リモート接続項目の起動」を参照してください。
[ユーザー定義接続]	使いたい接続とセキュリティ設定を選択してカスタムリモート接続項目を作成できます。 Symantec pcAnywhere はこの設定をリモート接続項目ファイル (.chf) に保存します。このファイルは[リモート]ウィンドウにリストで表示されます。 p.88 の「リモートコンピュータを設定する方法」を参照してください。
[お気に入り]	簡単にアクセスできるように使う頻度が高い接続項目をお気に入りウィンドウに追加できます。 p.61 の「お気に入りへのホスト接続項目の追加」を参照してください。
[履歴]	Symantec pcAnywhere は最新の接続の履歴を自動的に維持します。この方法を使うと最近接続したホストコンピュータに再接続できます。 p.62 の「最近使ったホスト接続項目の検索」を参照してください。
[ホスト招待]	ホストユーザーがコンピュータに接続するのに必要な情報を提供するホスト招待を設定できます。ホストユーザーが招待を受け入れ、接続が確立すると、ホストコンピュータを制御できるようになります。
[クイック配備接続]	pcAnywhere ホストを実行していないネットワーク上のコンピュータに接続できます。 p.127 の「ホストを実行していないコンピュータへの接続」を参照してください。
pcA Quick Connect	pcA Quick Connect を使うとホストコンピュータに接続できます。ホストコンピュータに接続するには、コンピュータ名または IP アドレスとログオン情報を使います。

リモート接続の開始モードについて

次のいずれかのモードで接続を開始できます。

リモート制御

ホストコンピュータをリモート制御してそのコンピュータの前に座っているかのように操作できます。

リモート制御セッション中は、映像とデータはホストコンピュータとリモートコンピュータ間で転送されます。ホストコンピュータはリモートから送信される要求のすべての処理を扱います。入出力情報(キーボード、マウス、映像の情報など)のみがコンピュータ間で転送されます。

各コンピュータ間で転送する必要があるのは最小のデータのみであるため、リモート制御では他の形態のリモートネットワークに比べ処理効率が高まり、データ消失の危険性が最小限に抑えられます。

p.105 の「[リモート制御セッションを開始する方法](#)」を参照してください。

リモート管理

一般的な管理ツール(タスクマネージャ、コマンド入力要求、レジストリエディタなど)を使用して、リモートでホストコンピュータを管理できます。

リモート管理モードを使うと、完全なリモート制御セッションのオーバーヘッドをかけずにホストコンピュータで問題のトラブルシューティングと解消がすばやくできます。ホストコンピュータとリモートコンピュータ間で転送する必要があるのはデータのみであるため、リモート管理セッションは完全なリモート制御セッションほど多くの帯域幅を使いません。

p.142 の「[リモート管理セッション中にできること](#)」を参照してください。

ファイル転送

Windows エクスプローラのように機能する2ペイン構成のウィンドウを使ってホストとリモートコンピュータ間でファイルを転送できます。

必要なファイルやフォルダへの移動、別のコンピュータとの間でのファイルやフォルダの転送、ファイルやフォルダの内容の同期ができます。ファイルはバックグラウンドで転送されるため他のファイルの操作またはキュー処理を続行できます。ホストコンピュータとリモートコンピュータ間で送信する必要があるのはデータのみであるため、ファイル転送セッションは完全なリモート制御セッションほど多くの帯域幅を使いません。

p.159 の「[pcAnywhere ファイル転送について](#)」を参照してください。

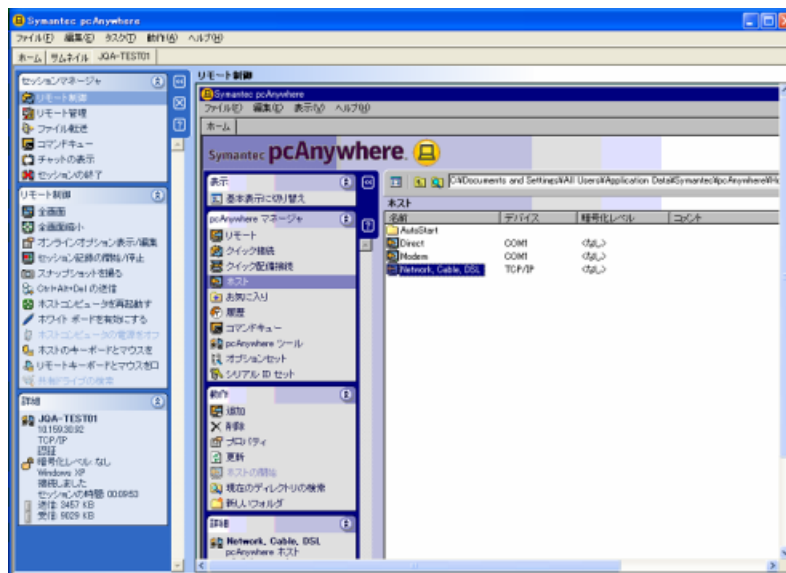
リモート管理モードまたはファイル転送モードで接続を開始すると、処理効率を最適化できます。この2つのモードは完全なリソースをデータ転送に割り当てるために画像の転送を中断します。開始モードを選択しないとデフォルトではリモート制御モードになります。接続中はいつでも異なるモードに切り替えることができます。

セッションマネージャについて

接続を確立してホストコンピュータにログオンした後でコンピュータ画面にセッションマネージャウィンドウが表示されます。セッションマネージャではセッションモードを切り替えてリモート制御、リモート管理、チャット、ファイル転送のタスクを実行できます。セッションマ

リモート制御セッション中のセッションマネージャウィンドウを図 2-3 に示します。

図 2-3 セッションマネージャウィンドウ



p.36 の「セッションマネージャでのアクティブなセッションの表示方法の変更」を参照してください。

p.233 の「Symantec pcAnywhere CrossPlatform について」を参照してください。

セッションマネージャでのアクティブなセッションの表示方法の変更

デフォルトでは、単一のウィンドウにタブ表示でアクティブなセッションが表示されます。デフォルト設定を変更して、セッションごとに個別のセッションマネージャウィンドウを表示することもできます。

また、デフォルトでは、**pcAnywhere** マネージャウィンドウは、接続が確立された後も他のタスク (他のコンピュータへの接続など) を実行できるように開かれています。セッションマネージャウィンドウでタブ表示を使うように設定した場合、メイン製品ウィンドウは [ホーム] ページとして表示されます。

メモ: Symantec pcAnywhere を 1 回閉じて再び開かないと、変更が有効にならない場合もあります。

リモート制御セッションの背景色設定を変更することもできます。この設定はオフラインで作業をしているときでも、セッション中でも変更できます。

p.119 の「[リモート制御セッション中のディスプレイ設定の変更](#)」を参照してください。

セッションマネージャでのアクティブなセッションの表示方法を変更するには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウの編集メニューで [環境設定] を選択します。

標準ユーザーとしてログオンしている場合は、管理者の信用証明の入力を求めるメッセージが表示されます。

管理者としてログオンしている場合は、同意を求めるダイアログボックスが表示されます。

管理者のログオン情報を入力すると、**pcAnywhere** オプションウィンドウが使えるようになります。管理者としてログオンしていない場合、オプションは表示できますがタブは無効になります。
- 2 **pcAnywhere** オプションウィンドウの [セッションマネージャ] ページで次のいずれかを選択します。
 - 単一のウィンドウにタブ表示でアクティブなセッションを表示するには、[アクティブセッションをタブ表示にする] にチェックマークを付けます。
 - セッションごとに独立したウィンドウにアクティブなセッションを表示するには、[アクティブセッションをタブ表示にする] のチェックマークをはずします。

このページを見つけるには **pcAnywhere** オプションウィンドウで左右の矢印をクリックしてページのリストをスクロールします。
- 3 [OK] をクリックします。
- 4 Symantec pcAnywhere を閉じて、再度開きます。

[セッション] ページに切り替えるにはショートカット **Ctrl+N** を使います。

(N はセッション番号です)

セッションマネージャウィンドウのナビゲーションバーオプションの表示または非表示

セッションマネージャウィンドウのナビゲーションバーはよく使うオプションのみ表示するようにカスタマイズできます。こうすることで作業領域を整理できます。ナビゲーションバーで非表示になっているオプションにも表示メニューからはアクセス可能です。非表示にしたオプションをナビゲーションバーで復元することもできます。

セッションマネージャウィンドウで個々のオプションを非表示にするには

- 1 セッションマネージャウィンドウの左のナビゲーションバーで非表示にしたいオプションを右クリックします。

他のコンピュータに接続していないとセッションマネージャウィンドウは表示されません。

- 2 [項目を隠す]を選択します。

セッションマネージャウィンドウで複数のオプションを表示または非表示にするには

- 1 セッションマネージャウィンドウの左のナビゲーションバーで次のいずれかの操作をします。

- セッションマネージャフィールドで複数のオプションを表示または非表示にするには、[セッションマネージャ]を右クリックしてから[カスタマイズ]をクリックします。
- タスクリストで複数のオプションを表示または非表示にするには、実行しているモードの見出し(リモート制御など)を右クリックしてから[カスタマイズ]をクリックします。

- 2 [ナビゲーションバーの設定]ウィンドウで次のいずれかの操作をします。

- 表示したいオプションにチェックマークを付けます。
- 非表示にしたいオプションのチェックマークをはずします。

- 3 [OK]をクリックします。

セッションマネージャウィンドウのナビゲーションバーのサイズ変更

セッションマネージャのナビゲーションバーにある矢印を使うとナビゲーションバーを省略または展開できます。ナビゲーションバーを省略するとセッションマネージャアイコンのみ表示されます。こうするとリモート制御ウィンドウでの作業領域が増えます。

セッションマネージャウィンドウのナビゲーションバーをサイズ変更するには

- ◆ セッションマネージャウィンドウの左のナビゲーションバーで次のいずれかの操作をします。

- ナビゲーションバーを省略するために左矢印をクリックします。
- ナビゲーションバーを展開するために右矢印をクリックします。

セッションマネージャウィンドウのナビゲーションバーの表示または非表示

セッション中に作業領域を増やすためにナビゲーションバーを完全に非表示にできます。

セッションマネージャウィンドウのナビゲーションバーを表示または非表示にするには

- ◆ セッションマネージャウィンドウで次のいずれかの操作をします。
 - セッションマネージャウィンドウのナビゲーションバーを非表示にするにはナビゲーションバーで閉じるボタンの[×]をクリックします。
 - セッションマネージャウィンドウのナビゲーションバーを表示するには動作メニューで[ナビゲーションバーを表示]を選択します。

[サムネイル]タブを使う

[サムネイル]タブにはリモートユーザーが接続しているホストのサムネイルビューが表示されます。リモートユーザーは[サムネイル]タブでサムネイルリンクをクリックしてホストを切り替えることができます。

[サムネイル]タブを使うには

- 1 Symantec pcAnywhere のウィンドウで[サムネイル]タブをクリックします。
- 2 [サムネイル]ウィンドウで、切り替え先ホストのサムネイルリンクをクリックします。

メモ: [サムネイル]タブに切り替えるためのショートカットキーは **Ctrl+Shift+T** です。

pcAnywhere の環境設定の管理

Symantec pcAnywhere ではホスト接続とリモート接続、ファイル転送、ログ記録などの機能についてデフォルトの環境設定を管理することによって処理効率の向上、セキュリティの強化、接続の管理ができます。このオプションはセッション中に上書きしない限りすべてのセッションに全体的に適用されます。

一部の環境設定は管理者などの上級ユーザー向けの設定です。コンピュータ環境に応じて管理者は一部の設定の修正を制限することがあります。

Symantec pcAnywhere ではページごとにデフォルトのプログラム設定がグループ化されています。

カスタマイズできる環境設定についての情報を表 2-2 に示します。

表 2-2 pcAnywhere の環境設定

ページ	説明
[ホスト操作]	ホスト名、記録、再生設定などの基本的なホスト操作を制御します。
[リモート操作]	リモートセッションの処理効率と表示の設定を制御します。
[ホスト通信]	ホストでのモデム接続とネットワーク接続のカスタマイズオプションがあります。
[リモート通信]	リモートでのモデム接続とネットワーク接続のカスタマイズオプションがあります。
[セッションマネージャ]	リモートデスクトップの使用不能部分の背景色など、基本的なセッションオプションを制御します。コマンド入力要求除外リストの表示または編集ができます。
[ファイル転送]	ファイル転送の設定を制御します。
[イベントログ記録]	pcAnywhere セッション中に起きるイベントのログ記録を有効にします。
[ディレクトリサービス]	ディレクトリサービスを使ってホストを検索するための設定を制御します。
[リモート印刷]	リモート印刷の設定があります。
暗号化	公開キー暗号化に必要な証明書情報を指定します。

管理者や特有の設定条件に合わせて全体の設定を頻繁に変更する必要があるユーザーは必要な設定を含むオプションセットを作成できます。

詳しくは『Symantec pcAnywhere 管理者ガイド』を参照してください。

ネットワーク接続のカスタマイズについて

Symantec pcAnywhere を使うと、ネットワーク設定をカスタマイズして複数のネットワークカードのような固有の設定条件を処理したりファイアウォールの両側で接続を処理したりできます。このようなオプションは管理者などの上級ユーザー向けです。ほとんどの場合、ネットワーク設定を変更する必要はありません。

p.67 の「[ホストネットワーク接続の設定](#)」を参照してください。

p.92 の「[リモートネットワーク接続の設定](#)」を参照してください。

モデム接続のカスタマイズ

モデムがインストール済みでコンピュータ上で正しく設定されている場合、そのモデムは自動的に検出されて接続項目のプロパティの利用可能なデバイスのリストに追加されま

す。モデムプロパティはモデムのセットアップ時にオペレーティングシステムで設定されま
す。

一般にデフォルトのモデム設定を使いますが、**pcAnywhere** セッション用にカスタム設定
を選択することもできます。カスタム設定はオペレーティングシステムで設定されたモデム
プロパティを一時的に変更します。

モデム設定についての情報を表 2-3 に示します。

表 2-3 カスタムモデム設定

ページ	説明
[全般]	異なる COM ポートの選択、スピーカー音量の調節、接続速度の制御 ができます。
[接続]	エラー検査速度の制御、ビジー接続またはアイドル状態を処理するた めの制限時間の設定、COM ポートのバッファ設定の調整、フロー制御 方法や変調の種類などの詳細設定ができます。
[詳細設定]	ターミナルウィンドウを使うかどうか、状態情報を有効にするかどうかを 制御でき、オペレータ経由または手動ダイヤル呼び出しの場合のクレ ジットカードの発信音待ち時間を指定できます。

詳しくはモデムに付属のマニュアルまたはオペレーティングシステムのマニュアルを参照
してください。

p.69 の「[ホストモデム接続の設定](#)」を参照してください。

p.95 の「[リモートモデム接続の設定](#)」を参照してください。

モデム接続をカスタマイズするには

- 1 **Symantec pcAnywhere** ウィンドウ (拡張表示) の左のナビゲーションバーで次のい
 ずれかの操作をします。
 - ホストセッション用にモデム設定をカスタマイズするには[ホスト]をクリックします。
 - リモートセッション用にモデム設定をカスタマイズするには[リモート]をクリックし
 ます。
- 2 右ペインで設定したい接続項目を右クリックしてから[プロパティ]を選択します。
- 3 プロパティウィンドウの[接続情報]ページで使いたいモデムデバイスを選択します。
- 4 [詳細]をクリックします。
- 5 変更したい設定を修正してから[OK]をクリックします。

ヨーロッパの ISDN 接続のカスタマイズ

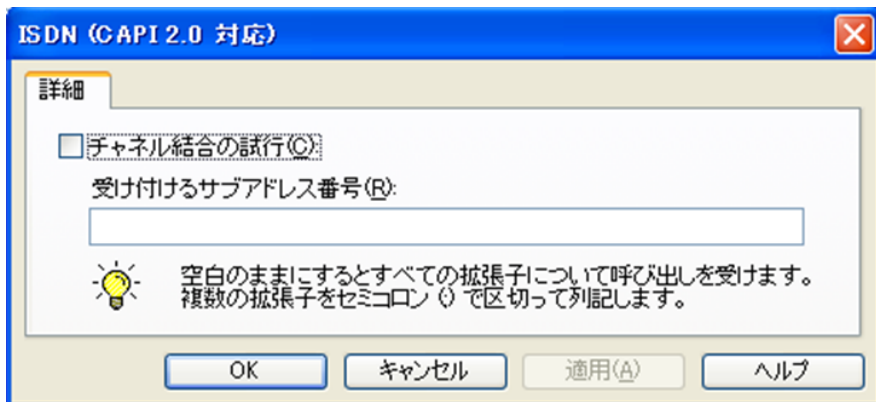
ヨーロッパでは、ISDN デバイスは CAPI (Common ISDN Application Programming Interface) を使ってデータの伝送と受信を行います。[接続情報] ページに表示された ISDN デバイスが独立したものであっても、[ISDN (CAPI 2.0 対応)] を選択する必要があります。日本の環境ではご利用いただけません。

接続速度を向上するには channel bonding を使います。channel bonding とは、2 つの 64 kbps チャネルを 1 つのチャネルとして使い、128 kbps の伝送速度を実現することです。2 つのチャネルが利用可能な場合のみ channel bonding は有効です。

セキュリティ確保またはコスト削減のために、着信を特定の内線番号のみに制限できます。内線番号を指定しない場合、すべての内線番号で着信できます。

ヨーロッパの ISDN 接続をカスタマイズするには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウ (拡張表示) の左のナビゲーションバーで次のいずれかの操作をします。
 - ホストセッション用にヨーロッパの ISDN 接続をカスタマイズするには [ホスト] をクリックします。
 - リモートセッション用にヨーロッパの ISDN 接続をカスタマイズするには [リモート] をクリックします。
- 2 右ペインで設定したい接続項目を右クリックしてから [プロパティ] を選択します。
- 3 プロパティウィンドウの [接続情報] ページで [ISDN (CAPI 2.0 対応)] にチェックマークを付けます。
- 4 [詳細] をクリックします。



- 5 [チャンネル結合の試行] にチェックマークを付けます。

- 6 特定の内線番号のみに着信を制限する場合、テキストボックスに着信を許可する内線番号を入力します。エントリの区切りにはセミコロンを使います。
- 7 [OK]をクリックします。

直接接続のカスタマイズ

接続先のコンピュータが近くにある場合にはポートに適したケーブルを使って 2 台のコンピュータを直接接続できます。直接接続にはシリアル (COM) ポートが必要です。パラレル接続を使うには BIOS でパラレルポートを双方向動作に設定し、双方向ヌルパラレルケーブルを使う必要があります。Windows Vista/XP/Server 2003/Server 2008/2000 でのシリアル接続には利用可能な COM ポートとシリアルヌルケーブルが必要です。

直接接続では両方のコンピュータの設定が一致する必要があります。
シリアルポートとパラレルポートの設定についての情報を表 2-4 に示します。

表 2-4 カスタムポート設定

設定	説明	デフォルト設定
[速度]	接続速度を制御します。最近のコンピュータはほとんどが 38,400 以上の速度を処理できます。	38,400
[パリティ]	通信回線のエラーを調べます。処理効率を向上するには[なし]を選択します。ほとんどのオペレーティングシステムとモデムに独自のデータ整合性の検証方法があります。	[なし]
[フロー制御]	コンピュータ間の情報の流れを制御します。直接接続とモデム接続では RTS/CTS を使います。	[RTS/CTS]
[接続の開始]	セッションを開始する方法を制御します。	[搬送波検出 (DCD)]
[接続の終了]	セッションを終了する方法を制御します。	[搬送波検出 (DCD)]

p.71 の「[ホストでの直接接続の設定](#)」を参照してください。

p.99 の「[リモートでの直接接続の設定](#)」を参照してください。

直接接続をカスタマイズするには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウ (拡張表示) の左のナビゲーションバーで次のいずれかの操作をします。
 - ホストセッション用に設定をカスタマイズするには[ホスト]をクリックします。
 - リモートセッション用に設定をカスタマイズするには[リモート]をクリックします。
- 2 右ペインで設定したい接続項目を右クリックしてから[プロパティ]を選択します。
- 3 プロパティウィンドウの[接続情報]ページで使いたいポートを選択します。

- 4 [詳細]をクリックします。
- 5 使いたい接続設定を選択します。
- 6 [OK]をクリックします。

Symantec pcAnywhere のインストール

この章では以下の項目について説明しています。

- [インストールの準備](#)
- [Symantec pcAnywhere のインストール](#)
- [インストール後のタスク](#)

インストールの準備

インストールの操作手順は作業環境とどのインストールオプションを選択するかによって異なります。完全製品インストールまたは必要な機能性のみ含むカスタムインストールパッケージを選択できます。

ネットワークインストール用のカスタムインストールパッケージの作成、ビルド、配備の支援が必要な管理者は Symantec pcAnywhere CD に入っている『Symantec pcAnywhere 管理者ガイド』を参照してください。

pcAnywhere をインストールする前に、コンピュータがシステムの必要条件を満たすことを確認してください。Symantec pcAnywhere CD の Readme.txt ファイルを読んで既知の問題を確認してください。

メモ: Symantec pcAnywhere のインストールは暗号化ファイルシステムではサポートされません。

Symantec pcAnywhere のシステムの必要条件

完全版の Symantec pcAnywhere のインストールに最小限必要なリソースを [表 3-1](#) に示します。

表 3-1 Symantec pcAnywhere のシステムの必要条件

オペレーティングシステム	必要条件
Windows 2000 Professional/Server/ Advanced Server	■ Microsoft 社が定義するオペレーティングシ ステムの必要条件 ■ Internet Explorer 6.0 以降
Windows XP Home/Professional (32 ビットお よび 64 ビット)	
Windows Server 2003 Standard/Enterprise (32 ビットおよび 64 ビット)	
Windows Vista Ultimate/Business/Enterprise/Home Premium/Home Basic (32 ビットおよび 64 ビッ ト)	
Windows 2008 Server	

Windows コンピュータに Symantec pcAnywhere 簡易ホストをインストールするために
最小限必要なリソースを表 3-2 に示します。

表 3-2 Windows 用簡易ホストシステムの必要条件

オペレーティングシステム	必要条件
Windows 2000 Professional/Server/ Advanced Server	■ Microsoft 社が定義するオペレーティングシ ステムの必要条件 ■ Internet Explorer 6.0 以降
Windows XP Home/Professional (32 ビットお よび 64 ビット)	
Windows Server 2003 Standard/Enterprise (32 ビットおよび 64 ビット)	
Windows PE	
Windows XP Embedded/Point of Service	
Windows Vista Ultimate/Business/Enterprise/Home Premium/Home Basic (32 ビットおよび 64 ビッ ト)	
Windows 2008 Server	

Linux コンピュータに Symantec pcAnywhere 簡易ホストをインストールするために最小
限必要なリソースを表 3-3 に示します。

表 3-3 Linux 用簡易ホストシステムの必要条件

オペレーティングシステム	必要条件
Red Hat Enterprise Linux ES 3.0 以降	■ 133 MHz 以上の Intel Pentium (または互換) プロセッサ ■ 64 MB のメモリ ■ 20 MB 以上のハードディスク容量 ■ CD-ROM または DVD-ROM ドライブ ■ VGA 以上の解像度のディスプレイ ■ Firefox 1.5 または Mozilla 1.6 以降
Red Hat Enterprise Linux WS 3.0 以降	
SUSE Linux Enterprise Server 8.0 以降	
SUSE Linux 10.0	
SUSE Linux Professional 9.3 以降	
Novell Linux Desktop 9.0	

Mac OS X コンピュータに Symantec pcAnywhere 簡易ホストをインストールするために最小限必要なリソースを表 3-4 に示します。

表 3-4 Mac OS X 用簡易ホストシステムの必要条件

オペレーティングシステム	必要条件
Mac OS X 10.4.3	■ Apple 社が定義するオペレーティングシステムの必要条件 ■ Firefox 1.5 または Safari 2.0.1
Mac OS X 10.5.x	■ Apple 社が定義するオペレーティングシステムの必要条件 ■ Firefox 2.0.0.8 以降または Safari 3.1.2 以降

Symantec pcAnywhere Gateway のシステムの必要条件

Symantec pcAnywhere Gateway のインストールに最小限必要なリソースを表 3-5 に示します。

表 3-5 Symantec pcAnywhere Gateway のシステムの必要条件

オペレーティングシステム	必要条件
Windows 2000 Professional/Server/ Advanced Server	■ Microsoft 社が定義するオペレーティングシステムの必要条件 ■ Internet Explorer 6.0 以降
Windows XP Home/Professional (32 ビットおよび 64 ビット)	
Windows Server 2003 Standard/Enterprise (32 ビットおよび 64 ビット)	
Windows Vista Ultimate/Business/Enterprise/Home Premium/Home Basic (32 ビットおよび 64 ビット)	
Windows 2008 Server	

Symantec pcAnywhere Web Remote のシステムの必要条件

Symantec pcAnywhere Web Remote のインストールに最小限必要なリソースを表 3-6 に示します。

表 3-6 Symantec pcAnywhere Web Remote のシステムの必要条件

オペレーティングシステム	必要条件
Windows 2000 Professional/Server/ Advanced Server	■ Microsoft 社が定義するオペレーティングシステムの必要条件 ■ Internet Explorer 6.0 以降 ■ Java Runtime Environment 1.4.2 以降
Windows XP Home/Professional	
Windows Server 2003 Standard/Enterprise	
Windows Vista Ultimate/Business/Enterprise/Home Premium/Home Basic	
Windows 2008 Server	
Red Hat Enterprise Linux ES 3.0 以降	■ 133 MHz 以上の Intel Pentium (または互換) プロセッサ ■ 64 MB のメモリ ■ 20 MB 以上のハードディスク容量 ■ CD-ROM または DVD-ROM ドライブ ■ VGA 以上の解像度のディスプレイ ■ Firefox 1.5 または Mozilla 1.6 以降 ■ Java Runtime Environment 1.4.2 以降
Red Hat Enterprise Linux WS 3.0 以降	
SUSE Linux Enterprise Server 8.0 以降	
SUSE Linux 10.0	
SUSE Linux Professional 9.3 以降	
Novell Linux Desktop 9.0	

オペレーティングシステム	必要条件
Mac OS X 10.4.3	■ Apple 社が定義するオペレーティングシステムの必要条件 ■ Firefox 1.5 または Safari 2.0.1 ■ Java Runtime Environment 1.4.2 以降
Mac OS X 10.5.x	■ Apple 社が定義するオペレーティングシステムの必要条件 ■ Firefox 2.0.0.8 以降または Safari 3.1.2 以降 ■ Java Runtime Environment 1.4.2 以降

Symantec pcAnywhere CrossPlatform のシステムの必要条件

Symantec pcAnywhere CrossPlatform のインストールに最小限必要なリソースを表 3-7 に示します。

表 3-7 Symantec pcAnywhere CrossPlatform のシステムの必要条件

オペレーティングシステム	必要条件
Windows 2000 Professional/Server/ Advanced Server Windows XP Home/Professional Windows 2003/2008 Server Standard/Enterprise Windows Vista Ultimate/Business/Enterprise/Home Premium/Home Basic Windows 2008 Server	■ Microsoft 社が定義するオペレーティングシステムの必要条件 ■ Internet Explorer 6.0 以降 ■ Java Runtime Environment 1.4.2 以降
Red Hat Enterprise Linux ES 3.0 以降 Red Hat Enterprise Linux WS 3.0 以降 SUSE Linux Enterprise Server 8.0 以降 SUSE Linux 10.0 SUSE Linux Professional 9.3 以降 Novell Linux Desktop 9.0	■ 133 MHz 以上の Intel Pentium (または互換) プロセッサ ■ 64 MB のメモリ ■ 20 MB 以上のハードディスク容量 ■ CD-ROM または DVD-ROM ドライブ ■ VGA 以上の解像度のディスプレイ ■ Firefox 1.5 または Mozilla 1.6 以降 ■ Java Runtime Environment 1.4.2 以降

オペレーティングシステム	必要条件
Mac OS X 10.4.x	■ Apple 社が定義するオペレーティングシステムの必要条件 ■ Firefox 1.5 または Safari 2.0.1 ■ Java Runtime Environment 1.4.2 以降
Mac OS X 10.5.x	■ Apple 社が定義するオペレーティングシステムの必要条件 ■ Firefox 2.0.0.8 以降または Safari 3.1.2 以降 ■ Java Runtime Environment 1.4.2 以降

ユーザー権限の必要条件

Windows Vista/XP/2003/2008 Server/2000 のユーザーは **pcAnywhere** をインストールするために管理者権限が必要です。Vista/2008 Server コンピュータに管理者以外のユーザーでログオンする場合、**pcAnywhere** のインストール中に管理者の信用証明の入力を求めるメッセージが表示されます。

Windows XP では制限ユーザーまたはゲストアカウントに割り当てられているユーザーはソフトウェアのインストールまたはアンインストール、システム規模の設定の変更、ユーザーアカウントの追加、編集、削除が制限されます。最適な処理効率を得るには **Windows XP** で **pcAnywhere** を実行するときに管理者権限のあるユーザーとしてログオンします。

インストールオプション

Symantec pcAnywhere CD で利用可能なインストールオプションを表 3-8 に示します。

表 3-8 Symantec pcAnywhere のインストールオプション

インストールオプション	説明
Symantec pcAnywhere	リモート制御、ファイル転送、リモート管理のタスクに必要なホストコンポーネントとリモートコンポーネントをインストールします。 Windows オペレーティングシステムのみで動作します。 p.55 の「完全製品インストール」を参照してください。
pcAnywhere コンポーネント	複数のプラットフォーム、モバイルデバイス、ネットワークアドレス変換 (NAT) デバイスで pcAnywhere 接続をサポートするために必要なコンポーネントをインストールします。 p.51 の「製品の CD から利用できる pcAnywhere のコンポーネント」を参照してください。

インストールオプション	説明
管理ツール	pcAnywhere の使用と管理を補助するツールをインストールします。 p.52 の「 管理ツール 」を参照してください。

製品の CD から利用できる pcAnywhere のコンポーネント

完全製品インストール以外に製品の CD から利用できる pcAnywhere のコンポーネントを、[表 3-9](#) に示します。

表 3-9 製品コンポーネント

コンポーネント	説明
Symantec pcAnywhere Gateway	ファイアウォール、ルーター、その他のネットワークアドレス変換 (NAT) デバイスの背後にあるホストコンピュータを検索して接続できます。接続できるコンピュータは 5 台までです。 ゲートウェイ接続をサポートするのに必要なサービスコンポーネントが含まれます。ゲートウェイを介して実行される pcAnywhere 接続を表示および管理するのに必要なゲートウェイマネージャコンポーネントが含まれます。 Windows Vista/XP/2003/2008 Server (32 ビットと 64 ビット) と Windows 2000 で動作します。 p.296 の「 Symantec pcAnywhere Gateway のインストール 」を参照してください。
Symantec pcAnywhere Mobile	モバイルデバイスからコンピュータとサーバーにリモートアクセスできます。リモート制御とリモート管理のタスクを実行するのに必要なリモートコンポーネントが含まれます。 Windows Mobile 5.0/6.0 で動作します。 p.262 の「 Symantec pcAnywhere Mobile のインストール 」を参照してください。
Symantec pcAnywhere CrossPlatform	Windows、Linux、Mac OS X オペレーティングシステムを実行する 1 つ以上のコンピュータにリモートでアクセスできます。単一のウィンドウですべてのセッションを表示でき、ホストコンピュータ間でファイルを転送できます。 Java アプリケーションがサポートされている Windows、Linux、Mac OS X オペレーティングシステムで動作します。 p.233 の「 Symantec pcAnywhere CrossPlatform のインストール 」を参照してください。

管理ツール

pcAnywhere の使用と管理を補助するツールを表 3-10 に示します。

表 3-10 管理ツール

コンポーネント	説明
Symantec pcAnywhere Web Remote	Symantec pcAnywhere Web Remote を Web ブラウザで起動すると、別のコンピュータにリモートアクセスできます。Web サーバー上で pcAnywhere を実行するのに必要なコンポーネントが含まれます。 Java アプリケーションをサポートする Windows、Linux、Mac OS X オペレーティングシステムで動作します。
OLE オートメーション API	pcAnywhere で特定の機能を自動化するためにカスタムプログラムを記述する API (アプリケーションプログラミングインターフェース) を提供します。 Windows オペレーティングシステムのみで動作します。 詳しくは Symantec pcAnywhere CD に入っている『Symantec pcAnywhere OLE オートメーションガイド』を参照してください。
ポリシー管理スナップイン	Windows 環境でポリシーベースの集中型管理をサポートするのに必要な pcAnywhere 管理テンプレートファイル (.adm) を提供します。 詳しくは『Symantec pcAnywhere 管理者ガイド』を参照してください。
Symantec LiveUpdate 管理ユーティリティ	ネットワークのすべての LiveUpdate 動作を扱うために管理者がイントラネットの HTTP/FTP サーバーまたは共有フォルダを設定できます。 LiveUpdate は、シマンテック製品のライセンスバージョンのプログラムと定義ファイルの最新版をダウンロードするシマンテック社の技術です。 詳しくはシマンテック社の Web サイトで『Symantec LiveUpdate 管理者ガイド』を参照してください。
Microsoft 社の SMS	Windows 環境での pcAnywhere と SMS の統合に必要なサポートファイルを提供します。 詳しくは『Symantec pcAnywhere 管理者ガイド』を参照してください。

表 3-11 ダウンロード可能な管理ツール

コンポーネント	説明
Symantec Packager	pcAnywhere のカスタムインストールを作成して、インストール先システムに配備できます。 Windows Vista/2000 と Windows XP/Server 2003 (32 ビットのみ) で動作します。 詳しくは Symantec pcAnywhere CD に入っている『Symantec pcAnywhere 管理者ガイド』を参照してください。
pcAnywhere ホストの配備と起動	選択したコンピュータに事前設定済みのホストのみのパッケージを配備できます。グループの呼び出し側認証がサポートされます。インストール時にインストール先コンピュータ上でホストを自動的に起動して、接続を待機します。 Windows オペレーティングシステムのみで動作します。 詳しくは Symantec pcAnywhere CD に入っている『Symantec pcAnywhere 管理者ガイド』を参照してください。
パッケージ配備ツール	ネットワークの 1 台以上の Windows XP/Server 2003/2000 コンピュータにカスタムインストールパッケージを配備できます。 pcAnywhere のカスタムインストールを作成するには Symantec Packager を使います。 詳しくは『Symantec pcAnywhere 管理者ガイド』を参照してください。
Web 配備ツール	Web ベースの配備の実装に必要なソースファイルを社内イントラネット経由で提供します。 pcAnywhere のカスタムインストールを作成するには Symantec Packager を使います。 詳しくは『Symantec pcAnywhere 管理者ガイド』を参照してください。

製品 CD 上のカスタムインストールパッケージ

製品 CD に入っているカスタムインストールパッケージを表 3-12 に示します。

表 3-12 カスタムインストールパッケージ

パッケージ	説明
自動開始ホスト	ホストが自動的に起動します。ネットワーク接続とモデム接続のサポートに必要なホストの機能をインストールします。リモートの機能は含みません。 このオプションは接続の受信のみしたい場合または2台のコンピュータ(1台がホストでもう1台がリモート)に pcAnywhere をインストールしたい場合に選択してください。
リモートのみインストール	リモート制御、リモート管理、ファイル転送のためにホストコンピュータに接続するのに必要なリモートの機能をインストールします。ホストの機能は含みません。 このオプションは接続の開始のみしたい場合または2台のコンピュータ(1台がホストでもう1台がリモート)に pcAnywhere をインストールしたい場合に選択してください。

以前のバージョンがインストールされている場合

pcAnywhere はインストール処理中に以前のバージョンを自動的にスキャンします。pcAnywhere 12.0.x 以降があるコンピュータに pcAnywhere をインストールする場合には以前のバージョンに上書きする前に既存の設定データを残したいかどうかを確認するメッセージが表示されます。pcAnywhere がデータ変換処理をどう扱うかはオペレーティングシステムとインストールされている pcAnywhere のバージョンに基づきます。

10.x よりも前の pcAnywhere バージョンがあるコンピュータに pcAnywhere をインストールする場合にはアンインストールを要求するメッセージが表示されます。これはすべての既存の設定データを削除します。このようなバージョンの設定データは変換も保存もできません。

移行とアップグレードの戦略について詳しくは『Symantec pcAnywhere 管理者ガイド』を参照してください。

Symantec pcAnywhere のインストール

インストール処理中にコンピュータの再起動を要求するメッセージが表示されることがあります。その場合は、コンピュータの再起動後に適切な機能性を保証するために同じユーザー信用証明を使って再びログオンする必要があります。

パッケージ版の pcAnywhere をインストールする場合の操作手順は異なることがあります。

p.56 の「[カスタムインストール](#)」を参照してください。

完全製品インストール

完全製品インストールはホスト、リモート制御、リモート管理、ファイル転送の機能を含みます。Corporate CD と Retail CD にはこれに Host Administrator ツールが含まれます。

完全製品インストールをするには

- 1 Symantec pcAnywhere CD を CD-ROM ドライブに挿入します。

Symantec pcAnywhere CD を挿入した後でインストールウィンドウが自動的に表示されない場合には手動でセットアッププログラムを実行してからインストール操作を続行してください。

p.57 の「[手動によるセットアッププログラムの実行](#)」を参照してください。

- 2 Symantec pcAnywhere のウィンドウで[Symantec pcAnywhere のインストール]をクリックします。
- 3 [セットアップ言語の選択]ダイアログボックスでロケールに応じてインストールの言語が選択されます。言語を変更するにはドロップダウンリストから別の言語を選択します。
- 4 [OK]をクリックします。

メモ: msixexec ファイルを使って pcAnywhere ボックスソリューションをインストールする場合は[セットアップ言語の選択]ダイアログボックスが表示されません。自動的にロケールが検出されて言語が選択されます。インストール言語を選択するには、コマンドプロンプトでコマンド `msiexec /i <Symantec pcAnywhere.msi> /qf TRANSFORMS = LCID.mst` を実行します。LCID は言語ロケール ID を表します。

- 5 ようこそパネルで[次へ]をクリックします。
- 6 使用許諾契約の条項に同意してから[次へ]をクリックします。
- 7 ユーザー情報パネルでユーザー名と所属を入力します。
- 8 [次へ]をクリックします。
- 9 インストール先のフォルダパネルで次のいずれかの操作をします。
 - デフォルトのデータフォルダに pcAnywhere をインストールするには[次へ]をクリックします。
 - インストールフォルダを変更するには[変更]をクリックします。
インストール先フォルダの変更パネルで pcAnywhere をインストールしたいフォルダの場所を参照してから[OK]をクリックします。次にインストール先のフォルダパネルで[次へ]をクリックします。
- 10 カスタムセットアップパネルで次のいずれかの操作をします。

- プログラムのデフォルト設定を使って **pcAnywhere** をインストールするには[次へ]をクリックします。
- インストールをカスタマイズまたは管理者ツールをインストールするにはインストールしたいコンポーネントの左にある下矢印をクリックして使いたいインストールオプションを選択してから[次へ]をクリックします。
このインストール設定はインストール後に修正できます。
p.58 の「[インストール設定の修正](#)」を参照してください。

- 11 [プログラムをインストールする準備ができました]パネルでデスクトップにショートカットを作成したいプログラムを選択します。

デフォルトでは **pcAnywhere** プログラムアイコンはデスクトップ上に作成されます。デスクトップ上にこのショートカットを作成したくない場合には[Symantec pcAnywhere デスクトップショートカットの作成]のチェックマークをはずします。

- 12 [インストール]をクリックします。

選択したインストールの種類の画面の指示に従って操作します。

- 13 インストールが完了したら[完了]をクリックします。

コンピュータでシステムファイルの更新が必要な場合にはコンピュータの再起動を要求するメッセージが表示されます。このステップは適切な機能性を保証するために必要です。

カスタムインストール

Symantec pcAnywhere では必要な機能性のみを含むカスタムインストールパッケージをインストールできます。次のインストール手順を指針にしてください。インストールの操作手順はインストールの種類によって異なります。

カスタムインストールをするには

- 1 Symantec pcAnywhere CD を CD-ROM ドライブに挿入します。

Symantec pcAnywhere CD を挿入した後でインストールウィンドウが自動的に表示されない場合には手動でセットアッププログラムを実行してからインストール操作を続行してください。

p.57 の「[手動によるセットアッププログラムの実行](#)」を参照してください。

- 2 **pcAnywhere** のインストールパネルで[その他のインストールオプションの表示]をクリックします。

- 3 [カスタムインストールパッケージの表示]をクリックします。

- 4 実行するインストールの種類を選択してから画面の指示に従って操作します。

p.50 の「[インストールオプション](#)」を参照してください。

手動によるセットアッププログラムの実行

この操作手順は Symantec pcAnywhere CD を挿入した後でインストールウィンドウが自動的に表示されない場合に実行します。

セットアッププログラムを手動で実行するには

- 1 Symantec pcAnywhere CD を CD-ROM ドライブに挿入します。
- 2 Windows のスタートメニューで[ファイル名を指定して実行]を選択します。
- 3 「<CD-ROM ドライブ名>:\¥setup.exe」と入力します。

次に例を示します。

D:\¥setup.exe

- 4 pcAnywhere をインストールします。

Windows Vista/2008 Server では、この処理の承認を求めるメッセージが表示される場合があります。組み込み管理者アカウントにログオンしている場合、このメッセージは表示されません。

メモ: Vista/2008 Server 上でマップしたドライブに pcAnywhere をインストールする場合は、管理者として昇格したコマンドプロンプトを使用してドライブをマップしてください。

インストール後のタスク

Symantec pcAnywhere のインストール後に次のタスクを実行できます。

- 「Symantec pcAnywhere の起動」
- 「インストール設定の修正」
- 「Symantec pcAnywhere の更新」
- 「Symantec pcAnywhere のアンインストール」

Symantec pcAnywhere の起動

Symantec pcAnywhere はデフォルトでは Windows の Program Files フォルダにインストールされます。インストール時に必要に応じてプログラムアイコンを Windows デスクトップに作成し、そこからプログラムを実行できます。pcAnywhere は Windows のスタートメニューからも実行できます。

Symantec pcAnywhere を起動するには

- ◆ 次のいずれかの操作をします。

- Windows Vista/XP/Server 2008/2003/2000 のデスクトップで Symantec pcAnywhere アイコンをダブルクリックします。
- Windows 2000 のタスクバーで[スタート]、[プログラム]、[Symantec]、[Symantec pcAnywhere]の順に選択します。
- Windows Vista/XP/Server 2008/2003 Server のタスクバーで[スタート]、[すべてのプログラム]、[Symantec]、[Symantec pcAnywhere]の順に選択します。

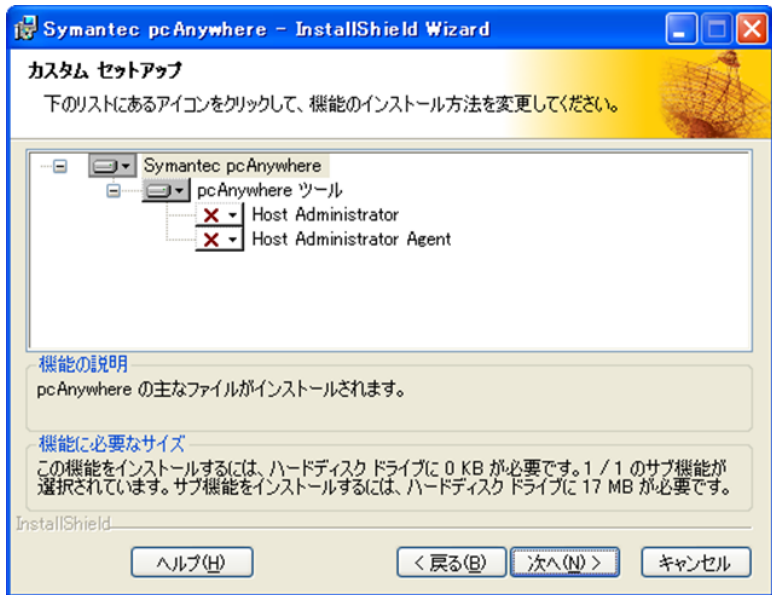
インストール設定の修正

インストール後に特定の機能コンポーネントの追加、修正、削除ができます。

インストール設定を修正するには

- 1 次のいずれかの操作をします。
 - Windows 2000 のタスクバーで[スタート]、[設定]、[コントロールパネル]の順に選択します。
 - Windows Vista/XP/Server 2008/2003 のタスクバーで[スタート]、[コントロールパネル]の順に選択します。
- 2 次のいずれかの操作をします。
 - Windows XP/2003/2000 の場合は、コントロールパネルウィンドウで[アプリケーションの追加と削除] (Windows XP の場合は[プログラムの追加と削除]) を選択します。
 - Windows Vista/2008 Server の場合、コントロールパネルウィンドウで[プログラムと機能]を選択します。
- 3 アプリケーションの追加と削除ウィンドウ (Windows XP の場合はプログラムの追加と削除ウィンドウ) で [Symantec pcAnywhere] を選択します。
- 4 [変更]をクリックします。
- 5 [Symantec pcAnywhere を修正または削除します] ウィンドウで [次へ] をクリックします。
- 6 プログラムの保守ウィンドウで [修正] を選択します。

- 7 [次へ]をクリックします。



- 8 カスタムセットアップウィンドウで修正したいコンポーネントの左にある下矢印をクリックしてから使いたいインストールオプションを選択します。
- 9 [次へ]をクリックします。
- 10 コンポーネントをインストールする場合、[プログラムを修復する準備ができました]ウィンドウでデスクトップに作成したいプログラムショートカットを選択します。
- 11 [インストール]をクリックします。
選択したインストールの種類の画面の指示に従って操作します。
- 12 インストールが完了したら[完了]をクリックします。

Symantec pcAnywhere の更新

シマンテック社の LiveUpdate サーバーに接続することによって pcAnywhere のバージョンに対応したソフトウェアの更新版を受信できます。インストールしたい更新版を選択できます。

Symantec pcAnywhere を更新するには

- 1 次のいずれかの操作をします。
- Windows XP/2003/2000 のタスクバーで[スタート]、[プログラム]、[Symantec]、[Symantec pcAnywhere]の順に選択します。

- Windows Vista タスクバーで[スタート]、[すべてのプログラム]、[Symantec]、[Symantec pcAnywhere]の順に選択します。
- 2 Symantec pcAnywhere ウィンドウのヘルプメニューで[LiveUpdate]をクリックします。
- 3 画面の指示に従って操作します。

Symantec pcAnywhere のアンインストール

Symantec pcAnywhere は Windows のコントロールパネルにある[アプリケーションの追加と削除](Windows XP の場合は[プログラムの追加と削除])を使ってアンインストールできます。いったん削除処理が始まるとその処理は取り消せません。これにより製品のメインコンポーネントがアンインストールされます。ゲートウェイのような一部のコンポーネントは別にアンインストールする必要があります。

Symantec pcAnywhere をアンインストールするには

- 1 次のいずれかの操作をします。
 - Windows 2000 のタスクバーで[スタート]、[設定]、[コントロールパネル]の順に選択します。
 - Windows Vista/XP/Server 2008/2003 のタスクバーで[スタート]、[コントロールパネル]、[プログラムのアンインストール]の順に選択します。
- 2 コントロールパネルウィンドウで[アプリケーションの追加と削除](Windows XP の場合は[プログラムの追加と削除])をダブルクリックします。
- 3 アプリケーションの追加と削除ウィンドウ(Windows XP の場合はプログラムの追加と削除ウィンドウ)で[Symantec pcAnywhere]を選択します。
- 4 次のいずれかの操作をします。
 - Windows 2000/XP/Server 2003 の場合、[削除]をクリックします。
 - Windows Vista/2008 Server の場合、[アンインストール]を選択します。
- 5 アプリケーションの追加と削除ウィンドウ(Windows XP の場合はプログラムの追加と削除ウィンドウ)で[はい]を選択します。

コンピュータの再起動を要求するメッセージが表示されたらコンピュータを再起動します。このステップはすべてのコンポーネントが正しく削除されることを保証するためが必要です。

ホストコンピュータの制御の許可

この章では以下の項目について説明しています。

- [ホスト接続の管理](#)
- [ホストコンピュータを設定する方法](#)
- [ホストセッションを開始する方法](#)
- [ホストセッション中にできること](#)

ホスト接続の管理

ホスト側は権限のあるリモートユーザーにコンピュータへの接続とその制御を許可できます。リモートユーザーはホストコンピュータ画面を表示して、ホストからアクセス権が与えられているファイルまたはプログラムを開くことができます。

リモートユーザーがホストコンピュータに接続する前に、ホストコンピュータを設定する必要があります。接続の種類、リモートユーザーにホストコンピュータへのアクセス権があることを確認するための方法、その他のセッションオプションを指定してください。この情報はホスト接続項目ファイル(.bhf)に格納されます。このファイルはホストウィンドウにアイコンとして表示されます。ホスト接続項目は、Windows の ALLUSERSPROFILE データフォルダにある Application Data¥Symantec¥pcAnywhere¥Hosts (Vista の場合は C:¥ProgramData¥Symantec¥pcAnywhere¥Hosts) フォルダに保存されます。ALLUSERSPROFILE データフォルダは、コマンドプロンプトを開いて set コマンドを使って表示できます。

お気に入りへのホスト接続項目の追加

接続項目をお気に入りウィンドウに追加して管理できます。このウィンドウは接続を編成するためにフォルダの管理をサポートします。

お気に入りにはホスト接続項目を追加するには

- 1 拡張表示の左のナビゲーションバーの[pcAnywhere マネージャ]で[ホスト]をクリックします。
- 2 右ペインのリストで接続項目を右クリックします。
- 3 [お気に入り追加]を選択します。

最近使ったホスト接続項目の検索

Symantec pcAnywhere は最近使ったホスト接続項目の履歴を自動的に維持します。

最近使ったホスト接続項目を検索するには

- ◆ 拡張表示の左のナビゲーションバーの[pcAnywhere マネージャ]で[履歴]をクリックします。

最近の接続項目が右ペインに表示されます。

ホストコンピュータを設定する方法

既存の接続項目を修正するか新しい接続項目を作成してホストコンピュータを設定できます。次の方法で新しい接続項目を設定することもできます。

- 接続ウィザード
p.62 の「[接続ウィザードを使ったホスト接続の設定](#)」を参照してください。
- 拡張プロパティ
p.64 の「[拡張プロパティを使ったホストの設定](#)」を参照してください。

次の項目はセキュリティと処理効率を最適化するように事前設定されています。これらの設定は修正することもできます。

- [Direct]
- [Modem]
- [Network,Cable,DSL]

接続ウィザードを使ったホスト接続の設定

接続ウィザードは別のコンピュータ(リモートコンピュータ)に接続を許可するように自分のコンピュータ(ホストコンピュータ)を設定する処理を案内します。接続ウィザードの終了後、接続を待つためにホストを起動できます。

Symantec pcAnywhere は接続設定をホスト接続ファイルに格納します。ホスト接続項目はホストウィンドウに配置されます。ホスト接続項目を使ってホストセッションを開始または接続設定を修正できます。

Symantec pcAnywhere にはウィザードで利用できない拡張設定オプションが一部あります。

p.64 の「[拡張プロパティを使ったホストの設定](#)」を参照してください。

接続ウィザードを使ってホスト接続を設定するには

- 1 拡張表示の左のナビゲーションバーの[pcAnywhere マネージャ]で[pcAnywhere ツール]をクリックします。
- 2 右ペインで[接続ウィザード]をダブルクリックします。
- 3 最初の画面で[別のコンピュータでこのコンピュータに接続する]を選択してから[次へ]をクリックします。
- 4 次のいずれかを選択します。
 - [ケーブルモデム/DSL/LAN/ダイヤルアップ インターネット ISPを使う]
 - [電話モデムを使って別の電話モデムに直接接続する]
ウィザードはこのコンピュータ上で利用可能な接続デバイスを自動的に検出します。コンピュータに複数の接続デバイスがある場合には設定する接続にしたいデバイスを選択します。たとえば、リモートコンピュータが電話モデムを使うときには電話モデムを接続デバイスとして選択する必要があります。
- 5 [次へ]をクリックします。
- 6 接続モードパネルで次のいずれかを選択します。
 - [相手が呼び出すのを待つ]
 - [別のコンピュータを呼び出す]
[リモート IP アドレス]フィールドに接続先のコンピュータの IP アドレスまたは電話番号のいずれかを入力します。
- 7 [次へ]をクリックします。
- 8 認証の種類パネルで次のいずれかを選択します。

[既存の Windows アカウントを使う]	ワークステーションまたは共有ディレクトリに維持されるリストで検証してユーザーまたはグループの有効性を確認します。接続ウィザードはローカルコンピュータ上で利用可能なアカウントを検出します。
------------------------	---

p.197 の「[Windows ベースの認証を使う呼び出し側の設定](#)」を参照してください。

[ユーザー名とパスワードを設定する]	ホストコンピュータに接続するためのリモートユーザーの権限を pcAnywhere 認証を使って検証します。ホストコンピュータ上に維持されるユーザーとパスワードのリストがチェックされます。この認証方法は最も安全性の低い方法です。
--------------------	---

- 9 [次へ]をクリックします。
- 10 次のいずれかの操作をします。

■ ローカルアカウントを選択します。
この方法は既存の Windows アカウントを使うように選択した場合にのみ利用できます。

■ 名前とパスワードを入力します。
この方法はホスト名とパスワードを作成するように選択した場合にのみ利用できます。
- 11 [次へ]をクリックします。
- 12 概略画面で設定を確認します。
- 13 ウィザードを終了したらホストセッションを開始するために[接続ウィザードの終了後にリモートコンピュータからの接続を待つ]にチェックマークを付けます。

Windows Vista では、この処理の承認を求めるメッセージが表示される場合があります。組み込み管理者アカウントにログオンしている場合、このメッセージは表示されません。ホストがアプリケーションとして動作するように設定されている場合、このメッセージは表示されません。
- 14 [完了]をクリックします。

ホスト接続項目が「新規ホスト」という名前でホストペインに追加されます。

ホストセッションを開始するように選択した場合、Windows のシステムトレイに [Symantec pcAnywhere 待機中...]アイコンが表示されます。
- 15 接続項目に名前を付けるには、Symantec pcAnywhere ウィンドウのホストペインでホスト接続項目の名前を入力します。次に Enter キーを押します。

拡張プロパティを使ったホストの設定

接続の詳細制御のために、拡張オプションを使ってホスト接続項目を作成または修正します。拡張プロパティではすべての利用可能なホスト設定オプションにアクセスできます。これにはホスト起動オプションや公開キー暗号化のような接続ウィザードでは利用できないオプションが含まれます。

利用可能な設定についての情報を表 4-1 に示します。

表 4-1 ホスト設定の概要

ページ	説明
[接続情報]	セッション用に接続デバイスを選択できます。 p.66 の「どの接続デバイスをホストセッションに使うかの認識」を参照してください。

ページ	説明
設定	ホスト起動オプションとセッションの終了オプションを選択できます。 p.71 の「ホスト起動オプションの設定」を参照してください。 p.74 の「セッションの終了オプションの設定」を参照してください。
[呼び出し側]	個々のユーザーまたはユーザーグループのログオンアカウントを設定し、ユーザーのアクセスレベルを指定できます。 p.194 の「pcAnywhere での認証について」を参照してください。 少なくとも 1 つの呼び出し側アカウントを設定する必要があります。 p.202 の「呼び出し側の権限の設定」を参照してください。
[セキュリティのオプション]	接続とログオンのセキュリティのオプションを設定できます。 p.193 の「権限のないアクセスからのホストコンピュータの保護」を参照してください。 p.221 の「Symantec pcAnywhere のイベントの監視」を参照してください。
[暗号]	アルゴリズム、キー長、公開鍵暗号化の設定を含むデータ暗号化レベルを設定できます。 p.207 の「暗号化を使ったデータ保護」を参照してください。
[会議]	会議を設定し、複数のリモートユーザーがホストにログオンできるようにします。 p.82 の「複数のリモートユーザーによる会議の許可」を参照してください。
[コメント]	ホスト接続項目についてのコメントを追加できます。
[項目の保護]	接続項目をパスワード保護できます。

拡張プロパティを使ってホストを設定するには

- 1 拡張表示の左のナビゲーションバーの「**pcAnywhere マネージャ**」で「ホスト」をクリックします。
- 2 右ペインの「ホスト」で次のいずれかの操作をします。
 - 新しい接続項目を作成するにはファイルメニューで「新しい項目」、[拡張]の順に選択します。
 - 既存の接続項目を修正するにはその項目を右クリックしてから「プロパティ」を選択します。

- 3 ホストプロパティウィンドウでホストの設定をします。
 ページをスクロールするにはホストプロパティウィンドウで左右の矢印をクリックします。
- 4 変更を保存するために[OK]をクリックします。
 Vista では、ホストプロパティの変更が他のユーザーに影響する場合があるので、この処理の承認を求めるメッセージが表示される場合があります。

どの接続デバイスをホストセッションに使うかの認識

接続デバイスとはホストコンピュータとリモートコンピュータの間の通信を処理するインターフェースです。ホストコンピュータは 2 つのデバイスからの接続を待つことができます。たとえば、同僚からのネットワーク接続または自分のノートパソコンからの直接接続を待つように職場のコンピュータを設定できます。ホストが一度に受け入れることができる接続は 1 つだけです。一方のデバイスでリモート接続が確立すると、セッションが終了するまでもう一方のデバイスは利用できません。

接続デバイスを選択するときの参考になる情報を表 4-2 に示します。

表 4-2 ホスト接続デバイス

ハードウェアデバイス	接続デバイス
Microsoft Telephony API (TAPI)をサポートするモデム	モデム名 p.69 の「 ホストモデム接続の設定 」を参照してください。
ISDN (北アメリカ)	ISDN デバイス名
ISDN (ヨーロッパ)	ISDN via CAPI 2.0
LAN または WAN 上のネットワークコンピュータまたはサーバーにインストールしたネットワークアダプタカード	ほとんどのネットワーク接続で TCP/IP を選択します。 Symantec pcAnywhere は Windows XP/Server 2003/2000 Server で NetBIOS と SPX の各プロトコルもサポートします。 p.67 の「 ホストネットワーク接続の設定 」を参照してください。
ケーブルモデム	TCP/IP p.17 の「 ケーブルモデム接続について 」を参照してください。
DSL または ADSL	TCP/IP p.17 の「 DSL 接続または ADSL 接続について 」を参照してください。

ハードウェアデバイス	接続デバイス
ホストコンピュータとリモートコンピュータ (たとえば、ノートパソコンとデスクトップコンピュータ) に接続したヌルシリアルケーブル	利用可能な COM ポート Symantec pcAnywhere は Windows Vista/XP/Server 2003/2000 Server でシリアル接続をサポートします。

ホストネットワーク接続の設定

Symantec pcAnywhere は TCP/IP、NetBIOS、SPX を使った LAN、WAN、インターネット経由のネットワーク接続をサポートします。ほとんどのネットワーク接続で TCP/IP を使います。NetBIOS も一般的なネットワークプロトコルで、主にファイルとプリンタの共有サービスに使います。SPX は Novell NetWare のプロトコルです。

メモ: Symantec pcAnywhere は Windows Vista で SPX 接続をサポートしていません。

Symantec pcAnywhere のすべてのホストセッションにはユーザー名とパスワードが必要です。接続するにはリモートユーザーはホストコンピュータの IP アドレスまたはコンピュータ名だけでなく、ユーザー名とパスワードも知っている必要があります。

ファイアウォールの背後にあるネットワークにホストコンピュータが接続している場合、リモートユーザーには RAS または VPN を通してネットワークに接続する方法が必要です。管理者がこの情報を指定する必要があります。

ホストネットワーク接続を設定するには

- 1 拡張表示の左のナビゲーションバーの[pcAnywhere マネージャ]で[ホスト]をクリックします。
- 2 右ペインの[ホスト]で次のいずれかの操作をします。
 - 既存の接続項目を設定するにはその項目を右クリックしてから[プロパティ]を選択します。
 - 新しい接続項目を作成するにはファイルメニューで[新しい項目]、[拡張]の順に選択します。
- 3 ホストプロパティウィンドウの[接続情報]ページで次のいずれかを選択します。
 - [TCP/IP]
 - [NetBIOS]
 - [SPX]

- 4 [呼び出し側] ページでホストに接続できるユーザーのユーザー名とパスワードを設定します。

p.194 の「**pcAnywhere** での認証について」を参照してください。

- 5 [OK] をクリックします。

Vista では、ホストプロパティの変更が他のユーザーに影響する場合があるので、この処理の承認を求めるメッセージが表示される場合があります。

ネットワークカードの選択

デフォルトでは、ホストコンピュータにインストール済みのすべてのネットワークカード上の TCP/IP 接続が受け入れられます。ホストに複数のインストール済みのネットワークカードがある場合にはどれを使うかを指定できます。

ネットワークカードを選択するには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウの編集メニューで[環境設定]を選択します。

Windows Vista/Server 2008 では、この処理の承認を求めるメッセージが表示される場合があります。組み込み管理者アカウントにログオンしている場合、このメッセージは表示されません。

- 2 pcAnywhere オプションウィンドウの[ホスト通信] ページで[拡張 TCP/IP オプション] をクリックします。
- 3 拡張ホスト TCP/IP オプションウィンドウで次のいずれかを選択します。

[デフォルトのネットワークアダプタを使う] デフォルトのネットワークカードを使います。

このネットワークカードは **Windows** で識別されます。デフォルトではこのオプションが選択されており、ほとんどの場合、変更する必要はありません。

[すべてのネットワークアダプタ上の接続を受け入れる] ホストコンピュータにインストール済みの利用可能なすべてのネットワークカード上の接続を受け入れます。

[pcAnywhere 接続に使うネットワークアダプタを指定する] pcAnywhere 接続に使うネットワークカードを割り当てます。使いたいネットワークカードに割り当てられているインデックス番号を選択してください。

- 4 拡張ホスト TCP/IP オプションウィンドウで[OK] をクリックします。
- 5 pcAnywhere オプションウィンドウで[OK] をクリックします。

ホストでのデフォルトのポート番号の変更

Symantec pcAnywhere では接続用にポート 5631 と 5632 を使います。このポートは登録されており、ほとんどの場合、変更する必要はありません。Symantec pcAnywhere ではデータポートをデータ伝送に使います。状態ポートは接続の待機と状態情報の交換に使います。

ホストコンピュータのポート番号を変更する場合は、ホストコンピュータに接続するすべてのリモートユーザーも、それに合わせて自分のポート設定を変更する必要があります。

p.95 の「[リモートでのデフォルトのポート番号の変更](#)」を参照してください。

メモ: 1024 未満のポート番号の一部は FTP やインターネットなどの Web ベースのアプリケーションとサービス用に予約されています。予約済みのポート番号を選択するとこのようなアプリケーションに干渉し、サービスを受けられなくなることがあります。この手順は熟練した管理者が実行してください。

ホストでのデフォルトのポート番号を変更するには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウの編集メニューで[環境設定]を選択します。

Windows Vista/Server 2008 では、この処理の承認を求めるメッセージが表示される場合があります。組み込み管理者アカウントにログオンしている場合、このメッセージは表示されません。

- 2 pcAnywhere オプションウィンドウの[ホスト通信]ページで[拡張 TCP/IP オプション]をクリックします。

- 3 拡張ホスト TCP/IP オプションウィンドウで次の操作をします。

- データポートにカスタムポート番号を使用するには、[データポート]フィールドに新しいポート番号を入力します。
- データポートを pcAnywhere に登録されているポート設定に戻すには、[データポート]フィールドの隣の[デフォルトにリセット]をクリックします。
- 状態ポートにカスタムポート番号を使用するには、[状態ポート]フィールドに新しいポート番号を入力します。
- 状態ポートを pcAnywhere に登録されているポート設定に戻すには、[状態ポート]フィールドの隣の[デフォルトにリセット]をクリックします。

- 4 [OK]をクリックします。

ホストモデム接続の設定

Symantec pcAnywhere は TAPI をサポートするモデムを使ったモデム間接続をサポートします。モデムがインストール済みでコンピュータ上で正しく設定されている場合、そのモデムは自動的に検出されて接続デバイスリストに追加されます。

Symantec pcAnywhere のすべてのホストセッションにはユーザー名とパスワードが必要です。接続するにはリモートユーザーはホストモデムの電話番号だけでなくユーザー名とパスワードも知っている必要があります。

モデムがインストール済みでオペレーティングシステム上で正しく設定されている場合、ホストユーザーはダイヤルアップのプロパティをカスタマイズして着信呼び出しに対し何回の呼び出しで応答するかを指定できます。デフォルトでは **pcAnywhere** はキャッチホンを使うモデムをサポートするために 3 回目の呼び出しで応答します。この設定を変更するのはモデム接続に問題がある場合のみにしてください。呼び出し回数を少なくするのはモデムにキャッチホン機能がない場合のみにしてください。

ホストモデム接続を設定するには

- 1 拡張表示の左のナビゲーションバーの[pcAnywhere マネージャ]で[ホスト]をクリックします。
- 2 右ペインの[ホスト]で次のいずれかの操作をします。
 - 既存の接続項目を編集するにはその項目を右クリックしてから[プロパティ]を選択します。
 - 新しい接続項目を作成するにはファイルメニューで[新しい項目]、[拡張]の順に選択します。
- 3 ホストプロパティウィンドウの[接続情報]ページでモデムの名前を選択します。
- 4 [呼び出し側]ページでホストに接続できるユーザーのユーザー名とパスワードを設定します。

p.194 の「[pcAnywhere での認証について](#)」を参照してください。

- 5 [OK]をクリックします。

Windows Vista/Server 2008 では、ホストプロパティの変更が他のユーザーに影響する場合があるので、この処理の承認を求めるメッセージが表示される場合があります。

着信モデム接続の呼び出し回数を変更するには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウの編集メニューで[環境設定]を選択します。
Windows Vista/Server 2008 では、この処理の承認を求めるメッセージが表示される場合があります。組み込み管理者アカウントにログオンしている場合、このメッセージは表示されません。
- 2 pcAnywhere オプションウィンドウの[ホスト通信]ページの[ダイヤルアップのプロパティ]で着信呼び出しに対してホストが応答するまでの接続呼び出し回数を選択します。
- 3 [OK]をクリックします。

ホストでの直接接続の設定

ホストコンピュータとリモートコンピュータがすぐ近くにある場合にはヌルケーブルを使って2台のコンピュータを直接接続できます。直接接続は一般にモデム接続より高速で、これは大きいファイルを転送したい場合に顕著です。直接接続にはシリアルポート(COM)とヌルシリアルケーブルが必要です。

コンピュータで利用可能なポートを確認する方法について詳しくは Windows のマニュアルを参照してください。

Symantec pcAnywhere のすべてのホストセッションにはユーザー名とパスワードが必要です。

ホストでの直接接続を設定するには

- 1 拡張表示の左のナビゲーションバーの[pcAnywhere マネージャ]で[ホスト]をクリックします。
 - 2 右ペインの[ホスト]で次のいずれかの操作をします。
 - 既存の接続項目を設定するにはその項目を右クリックしてから[プロパティ]を選択します。
 - 新しい接続項目を作成するにはファイルメニューで[新しい項目]、[拡張]の順に選択します。
 - 3 ホストプロパティウィンドウの[接続情報]ページで利用可能な COM ポートを選択します。
 - 4 [呼び出し側]ページでホストに接続できるユーザーのユーザー名とパスワードを設定します。
- p.194 の「[pcAnywhere での認証について](#)」を参照してください。
- 5 [OK]をクリックします。

Vista では、ホストプロパティの変更が他のユーザーに影響する場合があるので、この処理の承認を求めるメッセージが表示される場合があります。

ホスト起動オプションの設定

Symantec pcAnywhere では Windows の起動時に自動的に起動するようにホスト接続項目を設定できます。自動的に起動するようにホストを設定した場合、権限のないアクセスから保護するために、Windows でコンピュータをロックする機能も使ってください。

pcAnywhere のホストは自動的に Windows のサービスとして実行されます。このオプションによりオペレーティングシステムのセキュリティと処理効率に関する固有の機能を利用できます。サービスを実行するにはコンピュータの管理者権限が必要です。また、Symantec pcAnywhere では Vista でホストをアプリケーションとして実行する設定は現在サポートしていません。アプリケーションとして実行している Windows Vista 上のホストにリモートユーザーが接続し、管理者権限を必要とする操作(たとえば、[マイコンピュー

タ]を右クリックして[管理]を選択)を実行しようすると、管理者の信用証明の入力を求めるメッセージがホストコンピュータに表示されます。このメッセージはリモートコンピュータには表示されないため、ユーザーは操作を続行することができません。

ホスト起動オプションを設定するには

- 1 拡張表示の左のナビゲーションバーの[pcAnywhere マネージャ]で[ホスト]をクリックします。
- 2 右ペインの[ホスト]で次のいずれかの操作をします。
 - 既存の接続項目を設定するにはその項目を右クリックしてから[プロパティ]を選択します。
 - 新しい接続項目を作成するにはファイルメニューで[新しい項目]、[拡張]の順に選択します。

3 ホストプロパティウィンドウの[設定]ページの[ホストの起動]で次のいずれかを選択します。

[Windowsの起動時に起動] ホストコンピュータの起動時にホストセッションを自動的に開始します。

メモ: Windows XP/Vista と Windows 2008 オペレーティングシステムで[Windowsの起動時に起動]をコンピュータに設定するには管理者権限が必要です。Windows の起動時に起動するように設定されているホスト項目の修正や名前の変更にも管理者権限が必要です。

[コンピュータをロック] 権限のないユーザーがホストコンピュータにアクセスできないようにします。コンピュータをロック解除するには、Windows の適切なユーザー名とパスワードをユーザーが入力する必要があります。

[最小化して実行] 状態ウィンドウを隠します。

ホストが接続待ちのときはホストアイコンがシステムトレイに表示されます。

[サービスとして実行] Windows Vista/XP/Server 2003/2000 Server と Windows 2008 オペレーティングシステムで最適な処理効率を得るための推奨オプションです。

Windows Vista でホストセッションを無人で実行する場合は、このオプションのチェックマークを付けたままにしてください。このオプションのチェックマークをはずした場合、アプリケーションとして実行している Windows Vista 上のホストにリモートユーザーが接続し、管理者権限を必要とする操作(たとえば、[マイコンピュータ]を右クリックして[管理]を選択)を実行しようとする、管理者の信用証明の入力を求めるメッセージがホストコンピュータに表示されます。このメッセージはリモートコンピュータには表示されないため、ユーザーは操作を続行することができません。

サービスを実行するにはコンピュータの管理者権限が必要です。

4 [OK]をクリックします。

Vista では、ホストプロパティの変更が他のユーザーに影響する場合があるので、この処理の承認を求めるメッセージが表示される場合があります。

Windows にゲストユーザーとしてログオンしている場合

Windows Vista/XP では、制限ユーザーまたはゲストアカウントに割り当てられているユーザーの場合、管理者権限が必要なタスクの実行が制限されます。たとえば、ソフトウェアをインストールしたりサービスを実行することはできません。

Symantec pcAnywhere は自動的にすべてのホストセッションを Windows のサービスとして実行します。このオプションによりオペレーティングシステムのセキュリティと処理効率に関する固有の機能を利用できます。

Windows Vista/XP でゲストユーザーとしてログオンしてホストセッションを開始したい場合は、次のいずれかの方法を利用します。

- Windows の場合は、ホストコンピュータで管理者権限があるユーザーアカウントに切り替えてから、pcAnywhere でホストセッションを開始します。

Windows Vista の場合は、ホストをサービスとして実行する前に、管理者の信用証明の入力を求めるメッセージが表示されます。

- pcAnywhere で、ホストセッションをサービスとして実行するオプションをオフにします。

Windows Vista でホストセッションを無人で実行する場合は、このオプションをオフにしないでください。

適切な機能性を保証するために、管理者権限のあるユーザーとしてコンピュータにログオンしてから pcAnywhere を起動してください。Vista の場合は、標準ユーザーかゲストユーザーとしてコンピュータにログオンできますが、特定の処理を実行するときには、適切な信用証明の入力を求めるメッセージが表示されます。

セッションの終了オプションの設定

潜在的なセキュリティの危険性を予防するためにセッションを安全に終了することが重要です。セッションは通常、ホストかリモートユーザーのいずれかが中止すると終了します。ただし、ネットワークまたは機器の問題のためにホストコンピュータまたはリモートコンピュータで接続が消失することがあります。権限のないユーザーによる接続の試みなど、セキュリティの問題のために接続が切断されることもあります。

Symantec pcAnywhere では正常終了（権限のあるユーザーによる中止）のセッションと異常終了（予期しない接続消失）のセッションを扱うオプションを別々に選択できます。

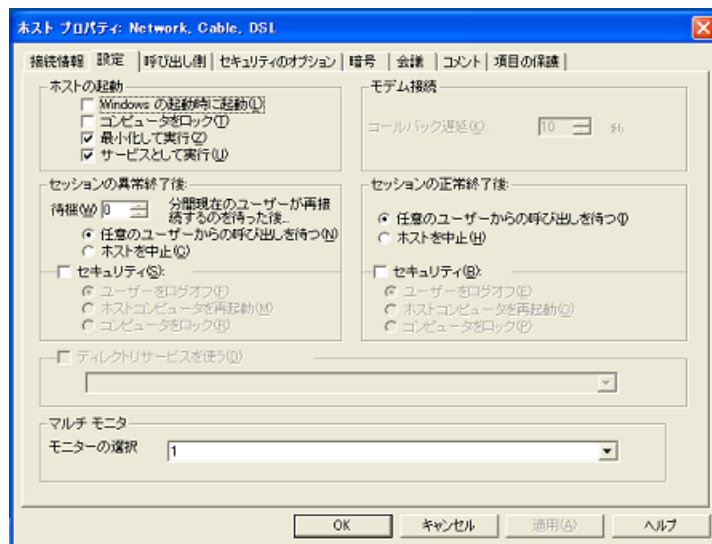
正常終了に対するセッションの終了オプションを設定するには

- 1 拡張表示の左のナビゲーションバーの[pcAnywhere マネージャ]で[ホスト]をクリックします。
- 2 右ペインの[ホスト]で次のいずれかの操作をします。
 - 既存の接続項目を設定するにはその項目を右クリックしてから[プロパティ]を選択します。

- 新しい接続項目を作成するにはファイルメニューで[新しい項目]、[拡張]の順に選択します。
- 3 ホストプロパティウィンドウの[設定]ページの[セッションの正常終了後]で次のいずれかを選択します。

[任意のユーザーからの 他ユーザーが接続できるようにホストセッションを実行したままに呼び出しを待つ] します。

[ホストを中止] 他の接続を予防するためにホストセッションを終了します。



- 4 ホストコンピュータをさらに保全するには[セキュリティ]にチェックマークを付けてから次のいずれかを選択します。
- [ユーザーをログオフ]
- [ホストコンピュータを再起動]
- [コンピュータをロック]
- 5 [OK]をクリックします。

Vistaでは、ホストプロパティの変更が他のユーザーに影響する場合があるので、この処理の承認を求めるメッセージが表示される場合があります。

異常終了に対するセッションの終了オプションを設定するには

- 1 拡張表示の左のナビゲーションバーの[pcAnywhere マネージャ]で[ホスト]をクリックします。
- 2 右ペインの[ホスト]で次のいずれかの操作をします。

- 既存の接続項目を設定するにはその項目を右クリックしてから[プロパティ]を選択します。
 - 新しい接続項目を作成するにはファイルメニューで[新しい項目]、[拡張]の順に選択します。
- 3 ホストプロパティウィンドウの[設定]ページの[セッションの異常終了後]で、セキュリティのオプションで処理を開始するまでの待機時間を分単位で選択します。
- 4 次のいずれかを選択します。
- [任意のユーザーからの 他ユーザーが接続できるようにホストセッションを実行したままに
呼び出しを待つ] します。
- [ホストを中止] 他の接続を予防するためにホストセッションを終了します。
- 5 ホストコンピュータをさらに保全するには[セキュリティ]にチェックマークを付けてから次のいずれかを選択します。
- [ユーザーをログオフ]
 - [ホストコンピュータを再起動]
 - [コンピュータをロック]
- 6 [OK]をクリックします。

Vistaでは、ホストプロパティの変更が他のユーザーに影響する場合があるので、この処理の承認を求めるメッセージが表示される場合があります。

ディレクトリサービスに参加するようにホストコンピュータを設定する

ホストコンピュータがディレクトリサービスを使うように設定する前に、**pcAnywhere**の編集メニューで[環境設定]を選択してディレクトリサービスを設定してください。

詳しくは『Symantec pcAnywhere 管理者ガイド』の第5章「**pcAnywhere**とディレクトリサービスの統合」を参照してください。

管理者によって **pcAnywhere** がディレクトリサービスを使うように設定されている場合、起動時にホストコンピュータがディレクトリサーバーに登録されるように設定できます。こうするとディレクトリサーバーに接続するリモートユーザーがホストコンピュータを検索できます。ホストの状態の変更に従ってホストコンピュータはディレクトリサーバーのエントリを更新し、リモートコンピュータが現在の状態を確認できるようにします。

詳しくは『Symantec pcAnywhere 管理者ガイド』を参照してください。

ディレクトリサービスを使うようにホストコンピュータを設定するには

- 1 拡張表示の左のナビゲーションバーの[pcAnywhere マネージャ]で[ホスト]をクリックします。
- 2 右ペインの[ホスト]で次のいずれかの操作をします。
 - 既存の接続項目を設定するにはその項目を右クリックしてから[プロパティ]を選択します。
 - 新しい接続項目を作成するにはファイルメニューで[新しい項目]、[拡張]の順に選択します。
- 3 ホストプロパティウィンドウの[設定]ページで[ディレクトリサービスを使う]にチェックマークを付けます。
- 4 リストで使いたいディレクトリサーバーを選択します。
- 5 [OK]をクリックします。

マルチモニタオプションの設定

Symantec pcAnywhere ではマルチモニタオプションを設定できます。これにより、セッションの開始時にデフォルトでリモートコンピュータに表示されるモニタをホストで選択できます。

マルチモニタオプションを設定するには

- 1 拡張表示の左のナビゲーションバーの[pcAnywhere マネージャ]で[ホスト]をクリックします。
- 2 右ペインの[ホスト]で次のいずれかの操作をします。
 - 既存の接続項目を設定するにはその項目を右クリックしてから[プロパティ]を選択します。
 - 新しい接続項目を作成するにはファイルメニューで[新しい項目]、[拡張]の順に選択します。
- 3 [適用]をクリックします。
- 4 [OK]をクリックします。

ホスト名の指定

Symantec pcAnywhere は Windows のコンピュータ名または IP アドレスをデフォルトのホスト名として使います。これはリモートユーザーがホストコンピュータを検索するときにホストリストに表示される名前です。Symantec pcAnywhere ではカスタム名を指定できますが、コンピュータがネットワークに接続している場合にはカスタム名はお勧めしません。この設定は管理者が決定します。

ホスト名を指定するには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウの編集メニューで[環境設定]を選択します。
Windows Vista/Server 2008 では、この処理の承認を求めるメッセージが表示される場合があります。組み込み管理者アカウントにログオンしている場合、このメッセージは表示されません。
- 2 pcAnywhere オプションウィンドウの[ホスト操作]ページの[ホストコンピュータ名の選択]で、次のいずれかを選択します。

[ユーザー定義名]	pcAnywhere ホストに新しい名前を指定できます。 テキストボックスにホスト名を入力します。名前の最大長は半角で24文字です。
[Windows のコンピューター名]	ホストコンピュータに割り当てられた Windows のコンピューター名または IP アドレスを使います。 Symantec pcAnywhere はデフォルトでこの設定を使います。

- 3 [OK]をクリックします。

ホストディスクドライブの共有

Symantec pcAnywhere ではホストコンピュータの標準ディスクドライブをリモートコンピュータと共有できます。

スーパーユーザーの呼び出し側の権限を設定して、リモートユーザーがホストコンピュータのディスクドライブにアクセスしてドライブを共有するための権限を与える必要があります。

ホストコンピュータのディスクドライブを共有するには

- 1 拡張表示の左のナビゲーションバーの[pcAnywhere マネージャ]で[ホスト]をクリックします。
- 2 右ペインの[ホスト]で[Network,Cable,DSL]を右クリックして[プロパティ]を選択します。
- 3 [ホストプロパティ: Network, Cable, DSL]ダイアログボックスで[呼び出し側]タブをクリックします。
- 4 [認証の種類]で次のいずれかを選択します。
 - ADS(Active directory Services)
 - NT
 - Windows

- 5 [呼び出し側リスト]セクションで、ディスクドライブを共有するユーザーをダブルクリックします。
- 6 [呼び出しプロパティ]ダイアログボックスで[権限]タブをクリックします。
- 7 [スーパーユーザー: 呼び出し側はすべての権限を持つ]を選択します。
- 8 [適用]をクリックしてから[OK]をクリックします。
- 9 [ホスト プロパティ: Network, Cable, DSL]ダイアログボックスで[セキュリティのオプション]タブをクリックします。
- 10 [セキュリティのオプション]セクションの[ドライブの選択]で、共有するドライブにチェックマークを付けます。
- 11 [適用]をクリックしてから[OK]をクリックします。

メモ: ドライブはセッションが終了しても共有された状態のままです。

ホストセッションを開始する方法

次のいずれかの方法でホストセッションを開始できます。

- 権限のあるリモートユーザーからの接続を待つ
p.79 の「[リモートコンピュータからの接続を待つ](#)」を参照してください。
- リモートコンピュータとの接続を開始してからリモートユーザーに制御を許可する
p.80 の「[リモートコンピュータの呼び出し](#)」を参照してください。
- ホスト招待を受け入れる
p.81 の「[ホスト招待を受け入れる](#)」を参照してください。

リモートコンピュータからの接続を待つ

ホストセッションを開始すると、[接続情報]ページのホストプロパティで選択されている接続デバイスを使ってホストコンピュータは権限のあるリモートユーザーからの接続を待ちます。2つのデバイスが選択されている場合にはホストは両方のデバイスで接続を待ちます。ホストが一度に受け入れることができる接続は1つだけです。一方のデバイスで接続が確立すると、セッションが終了するまでもう一方のデバイスは利用できません。

この方法はホストセッションを開始する最も一般的な方法です。

リモートコンピュータからの接続を待つには

- 1 拡張表示の左のナビゲーションバーの[pcAnywhere マネージャ]で[ホスト]をクリックします。
- 2 右ペインの[ホスト]で使いたい接続項目をダブルクリックします。

Symantec pcAnywhere 待機中アイコンが Windows のシステムトレイに表示されます。これは、ホストが接続可能なことを表します。

Windows Vista/Server 2008 では、この処理の承認を求めるメッセージが表示される場合がありますが、組み込み管理者としてログオンしている場合、メッセージは表示されません。

リモートコンピュータの呼び出し

ホストコンピュータはリモートコンピュータとの接続を開始できます。接続を待つ必要があるという点でリモートコンピュータの動作はホストに似ています。ただし、一般的なホストセッションとは異なり、接続の確立後はリモートコンピュータがホスト上の活動を制御します。

この方法はリモートユーザーにホストコンピュータとの接続を開始させたくない場合にセキュリティを強化するために使います。

リモートコンピュータを呼び出すには

- 1 拡張表示の左のナビゲーションバーの[pcAnywhere マネージャ]で[ホスト]をクリックします。
- 2 右ペインの[ホスト]で使いたい接続項目を右クリックしてから[リモート呼び出し]を選択します。

Windows Vista/Server 2008 では、この処理の承認を求めるメッセージが表示される場合がありますが、組み込み管理者としてログオンしている場合、メッセージは表示されません。

ホスト接続項目はリモートコンピュータと同じ種類の接続デバイスを使うように設定する必要があります。

- 3 Symantec pcAnywhere 待機中ウィンドウで次のいずれかの操作をします。
 - モデム接続の場合、リモートコンピュータの電話番号を入力してから[OK]をクリックします。
 - ネットワーク接続の場合、ホストの名前または IP アドレスを入力してから[OK]をクリックします。接続が確立すると、リモートユーザーがホストコンピュータを制御できます。

ホスト招待を受け入れる

リモート制御セッションを開始するために、リモートユーザーは電子メール、インスタントメッセージ、または物理メディアでホスト招待を送ることができます。ホスト招待には、リモートユーザーはコンピュータを制御できるようにリモートコンピュータに接続するために必要な情報が含まれます。

ホスト招待を受け入れるには

- ◆ 次のいずれかの操作をします。
 - ホスト招待を電子メールメッセージまたはインスタントメッセージで受け取った場合、添付ファイル(.pcainv)を開きます。
 - ホスト招待を物理メディアで受け取った場合、.pcainvファイルを見つけて開きます。

ホストセッション中にできること

ホストセッション中に **pcAnywhere** を使うと次のことができます。

- セッションについての状態情報を表示する
p.81 の「[ホストオンラインメニューの操作](#)」を参照してください。
- 複数のリモートユーザーと会議を開く
p.82 の「[複数のリモートユーザーによる会議の許可](#)」を参照してください。
- リモートユーザーとチャットをする
p.84 の「[リモートユーザーとのオンラインチャット](#)」を参照してください。
- ホストコンピュータの項目をハイライトする
p.84 の「[ホストコンピュータで描画機能を使う](#)」を参照してください。
- セッションを終了する
p.85 の「[ホストセッションの終了](#)」を参照してください。

ホストオンラインメニューの操作

セッションを開始すると、ホストアイコンが **Windows** のデスクトップのシステムトレイに表示されます。ホストコンピュータ上でキーボードとマウスをロックするセキュリティ対策が有効ではない場合は別の方法を使用できます。ホストオンラインメニューを使って状態情報の表示やセッションの終了ができます。

ホストコンピュータに接続しているユーザーについての情報を表示することもできます。これには次の情報が含まれます。

- セッションの継続時間
- ユーザー名

■ 接続の種類(TCP/IP など)とデバイス名

たとえば、TCP/IP 接続の場合には Windows で指定されたリモートコンピュータ名が表示されます。

メモ: セッションを開始すると、アニメーション化されたホストアイコンがセッションの状態を表示するシステムトレイに表示されます。セッションがアクティブであるときは点滅する 3 つの白い点がこのアイコンに表示されます。セッションが終了すると、リモートユーザーが接続解除したことを示すメッセージが表示されてアニメーションが停止します。ホストを中止すると、アイコンは赤で表示されます。

ホストオンラインメニューにアクセスするには

- ◆ デスクトップのシステムトレイでホストアイコンを右クリックします。

接続しているユーザーについての情報を表示するには

- ◆ デスクトップのシステムトレイのホストアイコンにカーソルを移動します。

複数のリモートユーザーによる会議の許可

会議により複数のリモートユーザーが単一のホストに接続し、ホスト画面上の活動を同時に表示できます。たとえば、会議の司会者がソフトウェアのトレーニングデモを実行できます。

複数のリモートユーザーが同時にホストに接続するという点を除いて、会議は基本的にリモート制御セッションです。最初の呼び出し側ユーザーは任意の接続デバイスを使って接続できます。ただし、以降の呼び出し側ユーザーは TCP/IP ネットワーク接続を使う必要があります。最初に接続を確立したリモートユーザーがホストを制御します。他のユーザーはホスト画面上の活動の表示はできますが、ホストの制御はできません。

メモ: デフォルトでは[帯域幅を自動検出]の設定が選択されます。処理効率が問題になる場合は、リモート接続項目のプロパティウィンドウの[リモート制御]ページで[狭帯域幅]を会議のユーザーが選択できます。

会議ホストの設定

複数のリモートユーザーがホストコンピュータに接続するのを許可するには接続の確立に必要な情報を指定しなければなりません。既存のホスト接続項目で始めることも新しいホスト接続項目を作成することもできます。

会議の通信の種類はマルチキャストと呼ばれます。これには有効なクラス D の IP アドレスが必要です。

会議ホストを設定するには

- 1 拡張表示の左のナビゲーションバーの[pcAnywhere マネージャ]で[ホスト]をクリックします。
- 2 右ペインの[ホスト]で次のいずれかの操作をします。
 - 既存の接続項目を設定するにはその項目を右クリックしてから[プロパティ]を選択します。
 - 新しい接続項目を作成するにはファイルメニューで[新しい項目]、[拡張]の順に選択します。
- 3 ホストプロパティウィンドウの[会議]ページで[会議を有効にする]にチェックマークを付けます。
- 4 次のいずれかを選択します。

[IP アドレスを自動的に 取得] 利用可能なクラス D の IP アドレスをネットワークサーバーが自動的に割り当てます。

[IP アドレスを指定] 使いたいクラス D の IP アドレスを入力できます。

このアドレスは 225.1.1.1 から 239.254.254.254 までの範囲になければなりません。

- 5 ルーターを使って会議のブロードキャスト領域を大きくするには[会議で許可するルーターの数]リストで使いたいルーターの数を選択します。
- 6 [OK]をクリックします。

Vista では、ホストプロパティの変更が他のユーザーに影響する場合があるので、この処理の承認を求めるメッセージが表示される場合があります。

会議の開始

会議を開始する操作手順はリモート制御セッション用にホストを起動する操作手順に似ています。会議ホストの起動後、会議ホストを制御するリモートユーザーはホストコンピュータがサポートする接続方法を使ってそのホストに接続できます。最初の接続の確立後、その他のリモートの参加者は TCP/IP を使って接続する必要があります。

メモ: デフォルトでは[帯域幅を自動検出]の設定が選択されます。処理効率が問題になる場合は、リモート接続項目のプロパティウィンドウの[接続情報]ページで[狭帯域幅]を会議のユーザーが選択できます。

会議を開始するには

- 1 拡張表示の左のナビゲーションバーの[pcAnywhere マネージャ]で[ホスト]をクリックします。
- 2 右ペインで会議用に設定されたホスト接続項目をダブルクリックします。

Symantec pcAnywhere 待機中アイコンが Windows のシステムトレイに表示されます。これは、ホストが接続可能なことを表します。

p.82 の「[複数のリモートユーザーによる会議の許可](#)」を参照してください。

リモートユーザーとのオンラインチャット

リモート制御セッション中、ホストユーザーとリモートユーザーはチャットウィンドウでキー入力により会話できます。ホストユーザーもリモートユーザーもチャットセッションを開始できます。この機能は簡潔なメッセージまたは指示を送信するのに便利です。チャットログをテキスト形式で保存することもできます。

他のユーザーとオンラインでチャットするには

- 1 システムトレイのホストアイコンを右クリックします。次に[チャット]をクリックします。
- 2 チャットウィンドウの下部ペインでメッセージを入力します。
- 3 [送信]をクリックします。

自分のメッセージと相手ユーザーの応答がチャットウィンドウの上部に表示されます。

- 4 チャットを保存するには[上書き保存]をクリックします。
- 5 [pcA チャットログ]ダイアログボックスでチャットを保存する場所を選択します。
- 6 ファイル名を入力します。
- 7 [保存]をクリックします。

ホストコンピュータで描画機能を使う

リモート制御セッション中に描画機能を使って項目をハイライトして、その項目にリモートユーザーの注意を引き付けることができます。これにより、ホストコンピュータの項目を示したり説明したりできます。描画されるハイライトは、形、幅、色を変更できます。

ホストコンピュータで描画機能を使うには

- 1 ホストコンピュータで pcAnywhere ホストのアニメーション化されたアイコンを右クリックしてから[ホワイトボードを有効にする]を選択します。
- 2 [ホワイトボード]ボックスで[描画]をクリックします。

- 3 [ホワイトボード]ボックスで次のいずれかを選択します。

長方形	長方形を描画できます。
円	円を描画できます。
フリーハンド	自由な形状を描画できます。

- 4 ホストコンピュータ上の項目の上でマウスをクリックしてドラッグし、その項目をハイライトします。

- 5 ハイライトの幅を変更するには次のいずれかを選択します。

幅を増やす	ハイライトの幅を広くします。
幅を減らす	ハイライトの幅を狭くします。

- 6 ハイライトの色を変更するには[色]をクリックして目的の色を選択します。

- 7 カスタム色を選択するには[色の設定]ウィンドウで[色の作成]をクリックします。カスタム色を選択して[色の追加]をクリックします。

- 8 [OK]をクリックします。

メモ: 処理を元に戻すには[消去]をクリックするか **Ctrl+Z** を押し、処理をやり直すには **Ctrl+Y** を押します。

ホストセッションの終了

ホストもリモートユーザーもセッションを終了できます。リモートユーザーがセッションを終了する場合、ホスト接続項目に設定されたセッションの終了オプションにより、ホストが別の接続を待つか中止されるかが決まります。ホスト接続項目に設定された呼び出し側の権限により、リモートユーザーによるホストの中止が許可されるかどうかが決まります。

p.74 の「[セッションの終了オプションの設定](#)」を参照してください。

p.202 の「[呼び出し側の権限の設定](#)」を参照してください。

ホストセッションを終了するには

- ◆ **Windows** のステータスバーでホストアイコンを右クリックしてから[ホストを中止]を選択します。

別のコンピュータのリモート制御

この章では以下の項目について説明しています。

- リモート接続の管理
- リモートコンピュータを設定する方法
- リモート制御セッションを開始する方法
- リモート制御セッション中にできること
- ホストを実行していないコンピュータへの接続

リモート接続の管理

接続先となる頻度が高いコンピュータに対し、Symantec pcAnywhere では使いたい接続とセキュリティの設定を選択し、この情報をリモート接続項目ファイルに格納できます。接続項目ファイルは[リモート]ウィンドウにアイコンとして表示されます。リモート接続項目ファイル(.chf)は pcAnywhere のプログラムデータフォルダ (:¥ProgramData¥Symantec¥pcAnywhere¥Remotes) に格納されます。

お気に入りへのリモート接続項目の追加

Symantec pcAnywhere では使う頻度が高い接続項目をお気に入りウィンドウに追加して管理できます。このウィンドウは接続を編成するためにフォルダの管理をサポートします。

お気に入りにリモート接続項目を追加するには

- 1 拡張表示の左のナビゲーションバーの[pcAnywhere マネージャ]で[リモート]をクリックします。
- 2 右ペインのリストで接続項目を右クリックします。
- 3 [お気に入りに追加]を選択します。

最近使ったリモート接続項目の検索

Symantec pcAnywhere は最近使ったリモート接続項目の履歴を自動的に維持します。

最近使ったリモート接続項目を検索するには

- ◆ 拡張表示の左のナビゲーションバーの[pcAnywhere マネージャ]で[履歴]をクリックします。

最近の接続項目が右ペインに表示されます。

リモートコンピュータを設定する方法

Symantec pcAnywhere では、既存の接続項目を修正するか、新しい接続項目を作成することによってリモートコンピュータを設定できます。次の方法で新しい接続項目を設定できます。

- 接続ウィザード
p.89 の「[接続ウィザードを使ったリモート接続の設定](#)」を参照してください。

- 拡張プロパティ
p.90 の「[拡張プロパティを使ったリモート接続の設定](#)」を参照してください。

最小の設定でホストコンピュータにすばやく接続するにはクイック接続を使えます。

p.108 の「[クイック接続を使った別のコンピュータへの接続](#)」を参照してください。

Symantec pcAnywhere には以下のようなデフォルトの接続項目があります。

- [Direct]
- [File Transfer]
- [Modem]
- [Network, Cable, DSL]
- [Remote Management]

この項目はセキュリティと処理効率を最適化するように事前設定されていますが設定は修正できます。

p.91 の「[どの接続デバイスをリモートセッションに使うかの認識](#)」を参照してください。

接続ウィザードを使ったリモート接続の設定

接続ウィザードは別のコンピュータ(ホストコンピュータ)に接続するように自分のコンピュータ(リモートコンピュータ)を設定する処理を案内します。接続ウィザードの終了後、リモート制御セッションを開始できます。

Symantec pcAnywhere は、この接続情報をリモート接続ファイルに格納します。リモート接続項目は[リモート]ウィンドウに配置されます。この接続項目を使ってリモートセッションを開始または接続設定を修正できます。

p.106 の「[リモート接続項目の起動](#)」を参照してください。

Symantec pcAnywhere にはウィザードで利用できないセッション暗号化のような拡張設定オプションが一部あります。

p.90 の「[拡張プロパティを使ったリモート接続の設定](#)」を参照してください。

接続ウィザードを使ってリモート接続を設定するには

- 1 拡張表示の左のナビゲーションバーの[pcAnywhere マネージャ]で[pcAnywhere ツール]をクリックします。
- 2 右ペインで[接続ウィザード]をダブルクリックします。
- 3 最初の画面で[別のコンピュータに接続する]を選択してから[次へ]をクリックします。
- 4 次のいずれかを選択します。

- [ケーブルモデム/DSL/LAN/ダイヤルアップ インターネット ISP を使う]

- [電話モデムを使って別の電話モデムに直接接続する]

ウィザードはこのコンピュータ上で利用可能な接続デバイスを自動的に検出します。選択する接続デバイスはホストコンピュータが使う接続デバイスと同じ種類である必要があります。たとえば、ホストコンピュータが電話モデムを使うときには電話モデムを接続デバイスとして選択する必要があります。

p.91 の「[どの接続デバイスをリモートセッションに使うかの認識](#)」を参照してください。

- 5 [次へ]をクリックします。
- 6 次のいずれかの操作をします。

- 接続先のコンピュータの IP アドレスを入力します。

この方法はケーブルモデム/DSL/LAN/ダイヤルアップインターネット ISP 接続の場合にのみ利用できます。ホストコンピュータがプライベートネットワーク上にある場合は、ルーターの IP アドレスを使います。ホストの管理者は接続を許可するようにそのルーターを設定する必要があります。

- 接続先のコンピュータの電話番号を入力します。

この方法は電話モデム接続の場合にのみ利用できます。

pcAnywhere をネットワーク上で実行して、自分のサブネット上で使用可能なホストコンピュータを pcAnywhere で検索する場合には、このフィールドを空白のままにできます。

- 7
- [次へ]をクリックします。
- 8
- ウィザードの完了後にリモートセッションを開始するには、接続ウィザードの概略の画面で[接続ウィザードの終了後にホストコンピュータに接続する]にチェックマークを付けます。
- 9
- [完了]をクリックします。

リモート接続項目が「新規リモート」という名前でもリモートウィンドウに追加されます。この項目名は変更できます。

ホストコンピュータに接続するように選択した場合、pcAnywhere は転送先画面で指定した IP アドレスまたはモデム番号に接続を試みます。

コンピュータがネットワークに接続されている場合にホストコンピュータの IP アドレスを指定しなかった場合は、自分のサブネット上で使用可能なホストを pcAnywhere が検索します。このリストからホストコンピュータを選択できます。

拡張プロパティを使ったリモート接続の設定

接続に関してさらに詳細なオプションを設定して制御を行なうためには、拡張オプションを使ってリモート接続項目を作成または修正します。拡張プロパティではすべての利用可能なリモート設定オプションにアクセスできます。これにはディレクトリサービスや公開キー暗号化のような接続ウィザードでは利用できないオプションが含まれます。

利用可能な設定についての情報を表 5-1 に示します。

表 5-1 リモート設定の概要

ページ	説明
[接続情報]	セッション用の接続デバイスと開始モードを選択できます。 pcAnywhere Gateway または pcAnywhere Access Server を介して接続するかどうかを選択できます。 p.33 の「リモート接続の開始モードについて」を参照してください。 p.91 の「どの接続デバイスをリモートセッションに使うかの認識」を参照してください。
[設定]	ホストコンピュータの検索、接続の確立、ログオンに必要な情報を指定できます。 この情報は接続の種類によって異なります。

ページ	説明
[リモート制御]	帯域幅最適化の設定を選択したり、セッションを後で再生できるように自動記録を行なうかどうかを選択できます。 p.229 の「 リモートセッションの自動記録 」を参照してください。
[暗号]	ホストとのリモート制御セッション中に使うデータ暗号化レベルを設定できます。 p.207 の「 暗号化を使ったデータ保護 」を参照してください。
[コメント]	リモート接続項目についてのコメントを追加できます。
[項目の保護]	接続項目をパスワード保護できます。 p.216 の「 設定の保護 」を参照してください。

拡張プロパティを使ってリモート接続を設定するには

- 1 拡張表示の左のナビゲーションバーの[pcAnywhere マネージャ]で[リモート]をクリックします。
- 2 右ペインの[リモート]で次のいずれかの操作をします。
 - 新しい接続項目を作成するにはファイルメニューで[新しい項目]、[拡張]の順に選択します。
 - 既存の接続項目を修正するにはその項目を右クリックしてから[プロパティ]を選択します。
- 3 リモートプロパティウィンドウでリモートの設定をします。
- 4 変更を保存するために[OK]をクリックします。

どの接続デバイスをリモートセッションに使うかの認識

接続デバイスとはホストとリモートコンピュータの間の通信を処理するインターフェースです。接続デバイスにはモデム、ネットワークプロトコル、ポートがあります。

選択する接続デバイスはホストとリモートの環境によって異なります。ホストとリモートコンピュータがすぐ近くにある場合には、ポートに適したケーブルを使って両者を直接接続できます。たとえば、ノートパソコンとオフィスのコンピュータの間を直接接続で結ぶことが可能です。接続には、両方のコンピュータが同じ種類の接続デバイスを使う必要があります。

接続デバイスを選択するときの参考になる情報を表 5-2 に示します。

表 5-2 リモート接続デバイス

ハードウェアデバイス	接続デバイス
Microsoft Telephony API (TAPI)をサポートするモデム	モデム名 p.95 の「リモートモデム接続の設定」を参照してください。
LAN または WAN 上のネットワークコンピュータまたはサーバーにインストールしたネットワークアダプタカード	ほとんどのネットワーク接続で TCP/IP を選択します。 Symantec pcAnywhere は Windows XP/Server 2003/2000 Server で NetBIOS と SPX の各プロトコルもサポートします。 p.92 の「リモートネットワーク接続の設定」を参照してください。
ケーブルモデム	TCP/IP p.17 の「ケーブルモデム接続について」を参照してください。
DSL または ADSL	TCP/IP p.17 の「DSL 接続または ADSL 接続について」を参照してください。
ホストコンピュータとリモートコンピュータ(たとえば、ノートパソコンとデスクトップコンピュータ)に接続したヌルシリアルケーブル	利用可能な COM ポート Symantec pcAnywhere は Windows Vista/XP/2003/Server 2008/2000 でシリアル接続をサポートします。 p.99 の「リモートでの直接接続の設定」を参照してください。

リモートネットワーク接続の設定

Symantec pcAnywhere は TCP/IP、NetBIOS、SPX を使った LAN、WAN、インターネット経由のネットワーク接続をサポートします。ほとんどのネットワーク接続では TCP/IP を使います。NetBIOS も一般的なネットワークプロトコルで、主にファイルとプリンタの共有サービスに使います。SPX は Novell NetWare のプロトコルです。

メモ: Symantec pcAnywhere は Windows Vista/Server 2008 で SPX/NetBIOS プロトコルを現在サポートしていません。

Symantec pcAnywhere のすべてのホストセッションにはユーザー名とパスワードが必要です。接続するにはリモートユーザーはホストコンピュータの IP アドレスだけでなくユーザー名とパスワードも知っている必要があります。

ファイアウォールの内部にあるネットワークにホストコンピュータが接続している場合、ファイアウォールの外部にいるリモートユーザーには RAS または VPN を通してネットワークに接続する方法が必要です。この情報は管理者が指定する必要があります。

企業環境によっては、ネットワーク管理者がディレクトリサーバーを設定してネットワーク上のユーザーとリソースについての情報を管理している場合があります。その場合は、ディレクトリサービスを使ってホストコンピュータを検索するように **pcAnywhere** を設定することができます。

p.99 の「[ディレクトリサービスを使うようにリモートコンピュータを設定する](#)」を参照してください。

リモートネットワーク接続を設定するには

- 1 拡張表示の左のナビゲーションバーの[**pcAnywhere マネージャ**]で[リモート]をクリックします。
- 2 右ペインの[リモート]で次のいずれかの操作をします。
 - 新しい接続項目を作成するにはファイルメニューで[新しい項目]、[拡張]の順に選択します。
 - 既存の接続項目を設定するにはその項目を右クリックしてから[プロパティ]を選択します。
- 3 リモートプロパティウィンドウの[接続情報]ページで次のいずれかを選択します。
 - [TCP/IP]
 - [SPX]
 - [NetBIOS]

Symantec pcAnywhere は Windows Vista/Server 2008 で SPX/NetBIOS プロトコルを現在サポートしていません。

- 4 次のいずれかの開始モードを選択します。
 - [リモート制御]
 - [リモート管理]
 - [ファイル転送]

Symantec pcAnywhere ではセッション中にモードの切り替えができます。

p.33 の「[リモート接続の開始モードについて](#)」を参照してください。

- 5 **pcAnywhere Gateway** または **pcAnywhere Access Server** を介して接続する場合は、[ゲートウェイまたはアクセスサーバーを通して接続]にチェックマークを付けます。

このオプションを選択する場合は、[詳細]をクリックしてゲートウェイコンピュータまたはアクセスサーバーへの接続を設定します。

p.100 の「[pcAnywhere Gateway または pcAnywhere Access Server を介した接続](#)」を参照してください。

- 6 [設定] ページで接続先のコンピュータの IP アドレスまたはコンピュータ名を入力します。

この情報は空白のままにできます。セッションを開始すると、**pcAnywhere** はサブネットを自動的に検索して利用可能なホストを調べます。コンピュータが大規模なネットワークに属している場合にはこの処理に時間がかかることがあります。

- 7 [OK] をクリックします。

リモート接続用のデータポート範囲のカスタマイズ

管理者はファイアウォールの両側で接続を処理できるようにネットワーク設定をカスタマイズできます。

Symantec pcAnywhere ではリモート接続のたびに自動的にポート番号が選択されます。セキュリティ上または処理効率上の理由から、管理者がアウトバウンド接続に使うポートの数を制限することがあります。接続の範囲を制限しすぎると利用可能なポートが不足するため接続に失敗する可能性があります。

メモ: 1024 未満のポート番号の一部は FTP やインターネットなどの Web ベースのアプリケーションとサービス用に予約されています。予約済みのポート番号を選択するとこのようなアプリケーションに干渉し、サービスを受けられなくなることがあります。この手順は熟練した管理者が実行してください。

リモート接続用にデータポート範囲をカスタマイズするには

- 1 **Symantec pcAnywhere** ウィンドウの編集メニューで[環境設定]を選択します。
Windows Vista/Server 2008 では、この処理の承認を求めるメッセージが表示される場合があります。組み込み管理者アカウントにログオンしている場合、このメッセージは表示されません。
- 2 **pcAnywhere** オプションウィンドウの[リモート通信] ページで[拡張 TCP/IP オプション] をクリックします。
- 3 拡張リモート TCP/IP オプションウィンドウで[アウトバウンドデータポート範囲を指定する] にチェックマークを付けます。
- 4 [基点データポート] フィールドに範囲内の最初のポートのポート番号を入力します。
- 5 [範囲のサイズ] フィールドにポート範囲で使うポートの数を入力します。
この数を[基点データポート] フィールドに入力した数に足すと範囲内の最後のポート番号が決まります。
- 6 拡張リモート TCP/IP オプションウィンドウで[OK] をクリックします。
- 7 **pcAnywhere** オプションウィンドウで[OK] をクリックします。

リモートでのデフォルトのポート番号の変更

Symantec pcAnywhere では接続用にポート 5631 と 5632 を使います。このポートは登録されており、ほとんどの場合、変更する必要はありません。Symantec pcAnywhere ではデータポートをデータ伝送に使います。状態ポートは接続の待機と状態情報の交換に使います。

カスタムポート番号を使うホストコンピュータに接続する場合には、その設定に一致するようにリモート接続項目のポート設定を変更する必要があります。

メモ: 1024 未満のポート番号の一部は FTP やインターネットなどの Web ベースのアプリケーションとサービス用に予約されています。予約済みのポート番号を選択するとこのようなアプリケーションに干渉し、サービスを受けられなくなることがあります。この手順は熟練した管理者が実行してください。

リモートでのデフォルトのポート番号を変更するには

- 1 拡張表示の左のナビゲーションバーの[pcAnywhere マネージャ]で[リモート]をクリックします。
- 2 右ペインの[リモート]で設定したい接続項目を右クリックしてから[プロパティ]を選択します。
- 3 リモートプロパティウィンドウの[接続情報]ページで[TCP/IP]にチェックマークを付けます。
- 4 [詳細]をクリックします。
- 5 TCP/IP ウィンドウの[ホストの設定に一致するポートを指定する]で次のいずれかの操作をします。
 - [データポート]フィールドにホストコンピュータがデータポート用に使うポート番号を入力します。
 - [状態ポート]フィールドにホストコンピュータが状態ポート用に使うポート番号を入力します。
- 6 TCP/IP ウィンドウで[OK]をクリックします。
- 7 リモートプロパティウィンドウで[OK]をクリックします。

リモートモデム接続の設定

モデムがインストール済みでコンピュータ上で正しく設定されている場合、そのモデムは自動的に検出されて接続デバイスリストに追加されます。モデム経由でホストコンピュータに接続するにはホストコンピュータの電話番号とログオン情報を知っている必要があります。

所在地と電話サービスによっては追加のダイヤル情報の指定が必要になることがあります。このような情報には通話カード番号、外線接続のための特別な外線発信番号、キャッチホンを解除するためのコードなどがあります。複数の所在地で作業する場合には所在地ごとに重複のないダイヤルのプロパティを設定できます。

この情報はモデムの設定時にオペレーティングシステムに設定します。**Symantec pcAnywhere** ではこのダイヤルのプロパティをモデム接続に使ったり手動で設定したりできます。

ケーブルモデム接続、DSL 接続、ADSL 接続は TCP/IP ネットワーク接続として設定する必要があります。

p.92 の「[リモートネットワーク接続の設定](#)」を参照してください。

ダイヤルのプロパティを使ったモデム接続の設定

デフォルトでは **pcAnywhere** はモデムに合わせてオペレーティングシステムに設定されたダイヤルのプロパティを使います。接続項目の設定時にこのダイヤルのプロパティの表示または編集ができます。

ダイヤルのプロパティを使ってモデム接続を設定するには

- 1 拡張表示の左のナビゲーションバーの[**pcAnywhere マネージャ**]で[リモート]をクリックします。
- 2 右ペインの[リモート]で次のいずれかの操作をします。
 - 既存の接続項目を編集するにはその項目を右クリックしてから[プロパティ]を選択します。
 - 新しい接続項目を作成するにはファイルメニューで[新しい項目]、[拡張]の順に選択します。
- 3 リモートプロパティウィンドウの[接続情報]ページでモデムの名前を選択します。
- 4 次のいずれかの開始モードを選択します。
 - [リモート制御]
 - [リモート管理]
 - [ファイル転送]

Symantec pcAnywhere ではセッション中にモードの切り替えができます。

p.33 の「[リモート接続の開始モードについて](#)」を参照してください。

- 5 pcAnywhere Gateway または pcAnywhere Access Server を介して接続する場合は、[ゲートウェイまたはアクセスサーバーを通して接続]にチェックマークを付けます。

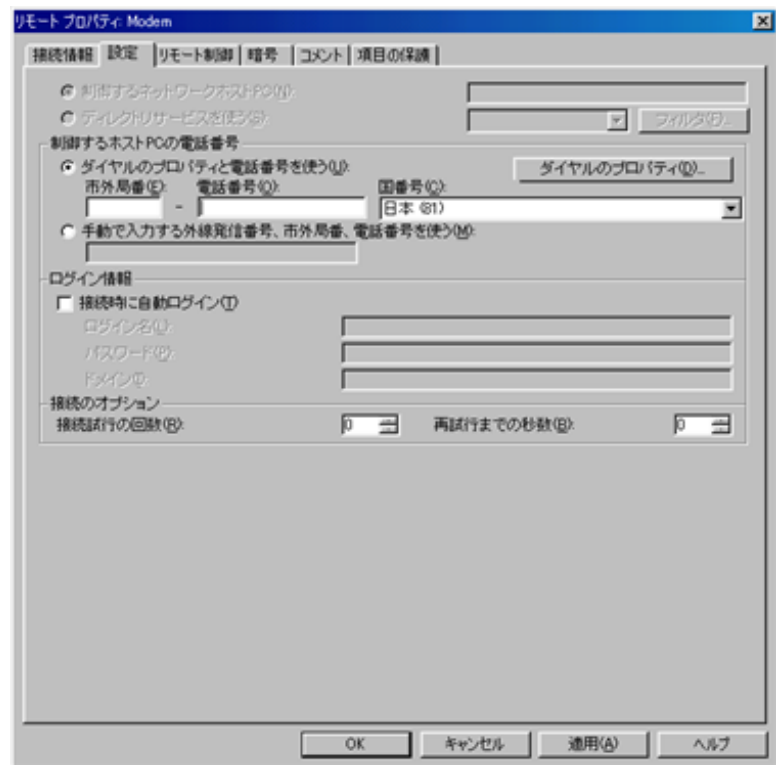
このオプションを選択する場合は、[詳細]をクリックしてゲートウェイコンピュータまたはアクセスサーバーへの接続を設定します。

p.100 の「[pcAnywhere Gateway または pcAnywhere Access Server を介した接続](#)」を参照してください。

- 6 [設定]ページの[制御するホストPCの電話番号]で[ダイヤルのプロパティと電話番号を使う]を選択します。

モデムに合わせて設定されたダイヤルのプロパティを表示または変更するには、[ダイヤルのプロパティ]をクリックします。

ダイヤルのプロパティの設定について詳しくはオペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。



- 7 ホストコンピュータの市外局番と電話番号を入力します。

- 8 [国番号]で発信元の所在地を選択します。
- 9 [OK]をクリックします。

ダイヤルのプロパティの手動設定

モデム接続のダイヤルのプロパティを手動で入力できます。その場合はオペレーティングシステムに設定されたダイヤルのプロパティは無視されます。このオプションは一時的な所在地で作業する場合に使えます。

ダイヤルのプロパティを手動で設定するには

- 1 拡張表示の左のナビゲーションバーの[pcAnywhere マネージャ]で[リモート]をクリックします。
- 2 右ペインの[リモート]で次のいずれかの操作をします。
 - 既存の接続項目を編集するにはその項目を右クリックしてから[プロパティ]を選択します。
 - 新しい接続項目を作成するにはファイルメニューで[新しい項目]、[拡張]の順に選択します。
- 3 リモートプロパティウィンドウの[接続情報]ページでモデムの名前を選択します。
- 4 次のいずれかの開始モードを選択します。
 - [リモート制御]
 - [リモート管理]
 - [ファイル転送]

Symantec pcAnywhere ではセッション中にモードの切り替えができます。

p.33の「[リモート接続の開始モードについて](#)」を参照してください。

- 5 pcAnywhere Gateway または pcAnywhere Access Server を介して接続する場合は、[ゲートウェイまたはアクセスサーバーを通して接続]にチェックマークを付けます。

このオプションを選択する場合は、[詳細]をクリックしてゲートウェイコンピュータまたはアクセスサーバーへの接続を設定します。

p.100の「[pcAnywhere Gateway または pcAnywhere Access Server を介した接続](#)」を参照してください。

- 6 [設定]ページの[制御するホストPCの電話番号]で[手動で入力する外線発信番号、市外局番、電話番号を使う]を選択します。
- 7 外線発信または長距離通話に必要な番号や市外局番も含めて、ホストコンピュータの電話番号を入力します。
- 8 [OK]をクリックします。

リモートでの直接接続の設定

ホストコンピュータとリモートコンピュータがすぐ近くにある場合にはヌルケーブルを使って 2 台のコンピュータを直接接続できます。直接接続は一般にモデム接続より高速で、これは大きいファイルを転送したい場合に顕著です。直接接続にはシリアルポート (COM) とヌルシリアルケーブルが必要です。

コンピュータで利用可能なポートを確認する方法について詳しくはオペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

リモートでの直接接続を設定するには

- 1 拡張表示の左のナビゲーションバーの[pcAnywhere マネージャ]で[リモート]をクリックします。
- 2 右ペインの[リモート]で次のいずれかの操作をします。
 - 既存の接続項目を設定するにはその項目を右クリックしてから[プロパティ]を選択します。
 - 新しい接続項目を作成するにはファイルメニューで[新しい項目]、[拡張]の順に選択します。
- 3 リモートプロパティウィンドウの[接続情報]ページで利用可能な COM ポートを選択します。
- 4 次のいずれかの開始モードを選択します。
 - [リモート制御]
 - [リモート管理]
 - [ファイル転送]

Symantec pcAnywhere ではセッション中にモードの切り替えができます。

p.33 の「[リモート接続の開始モードについて](#)」を参照してください。

- 5 [OK]をクリックします。

ディレクトリサービスを使うようにリモートコンピュータを設定する

ホストコンピュータがディレクトリサービスを使うように設定する前に、pcAnywhere の編集メニューで[環境設定]を選択してディレクトリサービスを設定してください。

詳しくは『Symantec pcAnywhere 管理者ガイド』の第 5 章「pcAnywhere とディレクトリサービスの統合」を参照してください。

管理者によって pcAnywhere がディレクトリサービスを使うように設定されている場合、リモートコンピュータがディレクトリサーバーを検索して利用可能なホストを調べるように設定できます。ディレクトリサーバーに登録されたホストコンピュータのみが検索結果に表示

されます。ネットワークの設定と規模にもよりますが、ネットワーク全体をスキャンして利用可能なホストを調べるよりも、この種類の検索の方が通常は高速で信頼性が高くなります。

詳しくは『Symantec pcAnywhere 管理者ガイド』を参照してください。

ディレクトリサービスを使うようにリモートコンピュータを設定するには

- 1 拡張表示の左のナビゲーションバーの[pcAnywhere マネージャ]で[リモート]をクリックします。
- 2 右ペインの[リモート]で次のいずれかの操作をします。
 - 既存の接続項目を設定するにはその項目を右クリックしてから[プロパティ]を選択します。
 - 新しい接続項目を作成するにはファイルメニューで[新しい項目]、[拡張]の順に選択します。
- 3 リモートプロパティウィンドウの[設定]ページで[ディレクトリサービスを使う]を選択してから使いたいディレクトリサーバーを選択します。
- 4 検索結果を絞るには[フィルタ]をクリックします。

これにより使いたい検索基準を設定できます。ユーザー名、電子メールアドレス、所属、部署名で検索できます。ワイルドカード文字がサポートされます。たとえば、A* とすると名前が英字の A で始まるすべてのエントリが返されます。
- 5 ファイルの設定ウィンドウで[OK]をクリックします。
- 6 リモートプロパティウィンドウで[OK]をクリックします。

pcAnywhere Gateway または pcAnywhere Access Server を介した接続

Symantec pcAnywhere は Symantec pcAnywhere Gateway または Symantec pcAnywhere Access Server を介した接続をサポートします。Symantec pcAnywhere Gateway を使うと、ファイアウォール、ルーター、その他のネットワークアドレス変換 (NAT) デバイスの背後にあるホストコンピュータを検索して接続する処理が簡単になります。pcAnywhere Gateway は Symantec pcAnywhere のインストール CD に収録されています。Symantec pcAnywhere Access Server は、別途購入が必要なスタンドアロンサーバーです。

Symantec pcAnywhere はサブネット上で動作しているゲートウェイコンピュータを検出できます。ゲートウェイコンピュータを選択するとホストリストが更新され、pcAnywhere Gateway によって検出されたホストコンピュータが表示されます。pcAnywhere Gateway または pcAnywhere Access Server を介して自動的に接続するように接続項目を設定することもできます。

pcAnywhere Gateway または pcAnywhere Access Server を介して接続するには

- 1 拡張表示の左のナビゲーションバーの[pcAnywhere マネージャ]で[リモート]をクリックします。
- 2 右ペインの[リモート]で次のいずれかの操作をします。
 - 既存の接続項目を設定するにはその項目を右クリックしてから[プロパティ]を選択します。
 - 新しい接続項目を作成するにはファイルメニューで[新しい項目]、[拡張]の順に選択します。
- 3 リモートプロパティウィンドウの[接続情報]ページで次のいずれかを実行します。
 - ネットワーク接続を介して接続する場合は、TCP/IP が[デバイスリスト]で選択されていることを確認します。
 - TAPI モデムを介して接続する場合は、モデムの名前が[デバイスリスト]で選択されていることを確認します。
- 4 [ゲートウェイまたはアクセスサーバーを通して接続]にチェックマークを付けます。
- 5 [詳細]をクリックします。
- 6 [詳細]ウィンドウで次のいずれかを選択します。

ゲートウェイ	pcAnywhere Gateway を実行しているコンピュータに接続できるようになります。
--------	--

アクセスサーバー	pcAnywhere Access Server を実行しているコンピュータに接続できるようになります。
----------	--

- 7 [接続]で次のいずれかの操作を行います。

[名前または IP アドレス]	TCP/IP 接続の場合、[名前または IP アドレス]フィールドに、接続に使うゲートウェイコンピュータまたはアクセスサーバーのコンピュータ名または IP アドレスを入力します。
-----------------	---

[電話番号]	モデム接続の場合、[電話番号]フィールドに、接続に使うゲートウェイコンピュータまたはアクセスサーバーのモデム電話番号を入力します。
--------	---

このオプションはコンピュータにモデムがインストールされ、正しく設定されている場合のみ利用可能です。

- 8 ゲートウェイコンピュータまたはアクセスサーバーが接続パスワードを要求するように設定されている場合、接続に必要なパスワードを入力します。

- 9 アクセスサーバーで設定されている特定のグループに接続する場合、[グループ名] フィールドにグループの名前を入力します。
- 10 [詳細]ダイアログボックスで[OK]をクリックします。
- 11 リモートプロパティウィンドウで、接続に使うその他の設定を行います。
p.92 の「[リモートネットワーク接続の設定](#)」を参照してください。
p.95 の「[リモートモデム接続の設定](#)」を参照してください。

接続速度の修正

この設定を変更しない場合、Symantec pcAnywhere は接続時に接続速度を自動的に検出します。

広帯域幅は LAN やケーブルモデムのような高速接続に使われます。Symantec pcAnywhere の広帯域幅接続ではビデオ解像度や速度が最適化されます。狭帯域幅はアナログモデムのような低速接続に使われます。Symantec pcAnywhere の狭帯域幅接続では速度を最適化するために低解像度ビデオを使います。

Symantec pcAnywhere は接続の種類に基づいて処理効率の設定を自動的に適用します。異なる接続の種類に適用する処理効率の設定を使いたい場合には最初に接続の種類を手動で変更する必要があります。

p.103 の「[ビデオの処理効率の設定の調整](#)」を参照してください。

p.119 の「[リモート制御セッション中のディスプレイ設定の変更](#)」を参照してください。

接続速度を修正するには

- 1 拡張表示の左のナビゲーションバーの[pcAnywhere マネージャ]で[リモート]をクリックします。
- 2 右ペインの[リモート]で次のいずれかの操作をします。
 - 既存の接続項目を設定するにはその項目を右クリックしてから[プロパティ]を選択します。
 - 新しい接続項目を作成するにはファイルメニューで[新しい項目]、[拡張]の順に選択します。

- 3 リモートプロパティウィンドウの[リモート制御]ページの[帯域幅最適化]で次のいずれかを選択します。

[帯域幅を自動検出]	接続速度を自動的に検出して処理効率の設定を調整します。 デフォルトではこのオプションが選択されています。
[広帯域幅]	接続の速度とビデオ解像度を最適化します。
[狭帯域幅]	速度を最適化するためにホスト画面のビデオ解像度を下げます。

- 4 [OK]をクリックします。

ビデオの処理効率の設定の調整

ビデオ品質とColorScaleのオプションは製品の処理効率、イメージの解像度、色の深みに影響します。広帯域幅接続では処理効率を向上するためにビデオ品質を調整できます。狭帯域幅接続では処理効率を向上するために色レベルを調整できます。色よりも鮮明な表示のほうが重要である場合には4色の設定を使ってください。この設定は色をグレースケールに変更しますが鮮明な解像度が得られます。

デフォルトではpcAnywhereは接続速度を自動的に検出してその接続に対しビデオ品質とColorScaleの処理効率設定を適用します。

p.119の「リモート制御セッション中のディスプレイ設定の変更」を参照してください。

p.102の「接続速度の修正」を参照してください。

ビデオの処理効率の設定を調整するには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウの編集メニューで[環境設定]を選択します。
Windows Vista/Server 2008 では、この処理の承認を求めるメッセージが表示される場合があります。組み込み管理者アカウントにログオンしている場合、このメッセージは表示されません。
- 2 pcAnywhere オプションウィンドウの[リモート操作]ページの[処理効率]で[ビデオ品質]のスライダーを次のように移動します。

処理効率を上げるにはスライダーを左に移動 設定を低くすると処理効率は上がりますが、
します。 ビデオ品質は下がります。

ビデオ品質を上げるにはスライダーを右に移動 設定を高くするとビデオ品質は上がりますが、
動します。 処理効率は下がります。

- 3 [ColorScale]の項目リストでリモートコンピュータ画面の色レベルを選択します。
デフォルト設定は 256 色です。
- 4 [OK]をクリックします。

ホストコンピュータへの自動ログオン

ホストに接続するたびにログオン名とパスワードの入力を要求されないようにするために、ログオン情報を接続項目ファイルに格納できます。接続が確立すると自動的にこのログオン情報が提供されます。

ログオン情報を接続項目ファイルに格納するとセキュリティの危険性を招く可能性があります。一部の企業には従業員がパスワードをコンピュータ上に格納するのを制限するセキュリティポリシーがあります。このオプションはコンピュータ環境で許可される場合にのみ使ってください。権限のないユーザーがホストに接続するのを防止するにはリモート接続項目をパスワード保護してください。

p.216 の「[設定の保護](#)」を参照してください。

ホストコンピュータに自動的にログオンするには

- 1 拡張表示の左のナビゲーションバーの[pcAnywhere マネージャ]で[リモート]をクリックします。
- 2 右ペインの[リモート]で次のいずれかの操作をします。
 - 既存の接続項目を設定するにはその項目を右クリックしてから[プロパティ]を選択します。
 - 新しい接続項目を作成するにはファイルメニューで[新しい項目]、[拡張]の順に選択します。
- 3 リモートプロパティウィンドウの[設定]ページで、接続先のホストコンピュータの IP アドレスまたはモデム電話番号を入力します。
- 4 [ログイン情報]で[接続時に自動ログイン]にチェックマークを付けます。
- 5 [ログイン名]フィールドにログイン名を入力します。
- 6 [パスワード]フィールドにパスワードを入力します。
- 7 Windows Vista/XP/Server 2003/2008/2000 ホストに接続する場合、ユーザーがドメインに割り当て済みであれば[ドメイン]フィールドに次の形式でドメイン名を入力します。
<ドメイン>¥<ユーザー>
- 8 [OK]をクリックします。

ホストがビジー状態の場合の自動再接続

Symantec pcAnywhere では接続に失敗した場合に一定間隔で自動的に接続を再試行するようにリモート接続項目を設定できます。ホストのビジー状態やネットワークの問題などが失敗の原因である場合には、再接続すれば解消される場合があります。

ホストがビジー状態の場合に自動的に再接続するには

- 1 拡張表示の左のナビゲーションバーの[pcAnywhere マネージャ]で[リモート]をクリックします。
- 2 右ペインの[リモート]で次のいずれかの操作をします。
 - 既存の接続項目を設定するにはその項目を右クリックしてから[プロパティ]を選択します。
 - 新しい接続項目を設定するにはファイルメニューで[新しい項目]、[拡張]の順に選択します。
- 3 リモートプロパティウィンドウの[設定]ページにある[接続のオプション]の[接続試行の回数]フィールドで接続失敗後のホストへの再接続の回数を選択します。
- 4 [再試行までの秒数]フィールドで、接続試行の間隔を秒単位で選択します。
- 5 [OK]をクリックします。

リモート制御セッションを開始する方法

Symantec pcAnywhere のすべてのホストセッションにはユーザー名とパスワードが必要です。セキュリティ上の理由から、接続先は個々のユーザーまたはユーザーグループの呼び出し側アカウントを設定済みのホストコンピュータに限定されます。

Symantec pcAnywhere では次の方法でリモート制御セッションを開始できます。

- リモート接続項目の起動
- ホスト接続を待つ
- スマートカード認証を使ったホストコンピュータへの接続
p.107 の「[スマートカード認証を使ったホストコンピュータへの接続](#)」を参照してください。
- クイック接続を使った別のコンピュータへの接続
- ホストユーザーへのリモート接続招待の送信
p.114 の「[ホスト招待の作成](#)」を参照してください。
- pcA Quick Connect

Symantec pcAnywhere では pcAnywhere ホストを実行していないネットワーク上のコンピュータに接続することもできます。この場合はリモート制御の機能性は制限されます。

p.127 の「[ホストを実行していないコンピュータへの接続](#)」を参照してください。

リモート接続項目の起動

リモート接続項目にはホストコンピュータへの接続に必要な接続とセキュリティの情報が格納されます。**Symantec pcAnywhere** は最近の接続したホストコンピュータの履歴を自動的に維持します。

リモート接続項目を起動するには

- 1 拡張表示の左のナビゲーションバーの[pcAnywhere マネージャ]で次のいずれかを選択します。
 - [リモート]
 - [お気に入り]
 - [履歴]
- 2 右ペインで使いたい接続項目を選択します。
- 3 左のナビゲーションバーの[動作]で[接続の開始]をクリックします。

ホスト接続を待つ

通常、リモート制御セッションは、リモートユーザーが接続待ちのホストコンピュータに接続することにより開始されます。ただし、セキュリティ上の理由で、ホスト側で開始したリモート接続だけを許可するようにホストコンピュータが設定される場合があります。その場合はホストからの接続を待つようにリモートコンピュータを設定する必要があります。接続を待つという点でリモートコンピュータの動作はホストに似ています。ただし、一般的なホストセッションとは異なり、接続の確立後はリモートコンピュータがホスト上の活動を制御します。

メモ: Windows Vista/Server 2008/XP で Windows ファイアウォールがオンになっている場合は、初回のホスト接続待機が遮断される場合があります。処理を続行するには、プログラムをブロックしないようにするオプションを選択する必要があります。**Windows Vista/Server 2008** では、ファイアウォールのルールを変更する処理の承認を求めるメッセージが表示される場合もあります。

ホスト接続を待つには

- 1 拡張表示の左のナビゲーションバーの[pcAnywhere マネージャ]で[リモート]をクリックします。
- 2 右ペインの[リモート]で使いたい接続項目を右クリックしてから[接続を待つ]を選択します。

ホストコンピュータからの接続を受け入れると、リモートコンピュータ画面にセッションマネージャウィンドウが表示され、右ペインにホストコンピュータ画面が表示されます。

p.34 の「[セッションマネージャについて](#)」を参照してください。

スマートカード認証を使ったホストコンピュータへの接続

スマートカード認証ではスマートカードを使ってホストコンピュータに接続できます。リモートコンピュータにスマートカードを接続し、認証のための PIN 番号を入力すると、ホストコンピュータに証明書が送信されます。証明書が有効な場合はリモートセッションが作成されます。

スマートカードを使って接続するには

- 1 拡張表示の左のナビゲーションバーの[pcAnywhere マネージャ]で[ホスト]をクリックします。
- 2 右ペインの[ホスト]で新しいホストを作成します。
- 3 その新しいホストを右クリックしてから[プロパティ]を選択します。
- 4 [ホストプロパティ]ダイアログボックスで[呼び出し側]タブをクリックします。
- 5 [認証の種類]で[スマートカード]を選択します。
- 6 [呼び出し側リスト]セクションで新しい呼び出し側を追加します。
- 7 [適用]をクリックします。
- 8 [OK]をクリックします。
- 9 拡張表示の左のナビゲーションバーの[pcAnywhere マネージャ]で[リモート]をクリックします。
- 10 右ペインの[リモート]でスマートカード用の新しいリモート接続を作成できます。
- 11 スマートカードを挿入します。
- 12 [ホストウィザード認証]ダイアログボックスで PIN を入力します。
- 13 [確認]をクリックします。

証明書が読み込まれてホストコンピュータに送信されます。証明書が有効な場合はリモートセッションが作成されます。

- 14 リモートコンピュータに複数のスマートカードが挿入されている場合は、[pcAnywhere 認証選択カード]ダイアログボックスで[詳細]をクリックします。
- 15 [詳細]セクションで、使いたいスマートカードを選択します。
 - [挿入されたスマートカード]セクションには、選択したスマートカードのベンダーに関する情報が表示されます。
 - [スマートカードの状態]セクションには、リモートコンピュータに挿入したスマートカードの状態に関する情報が表示されます。
- 16 [OK]をクリックします。

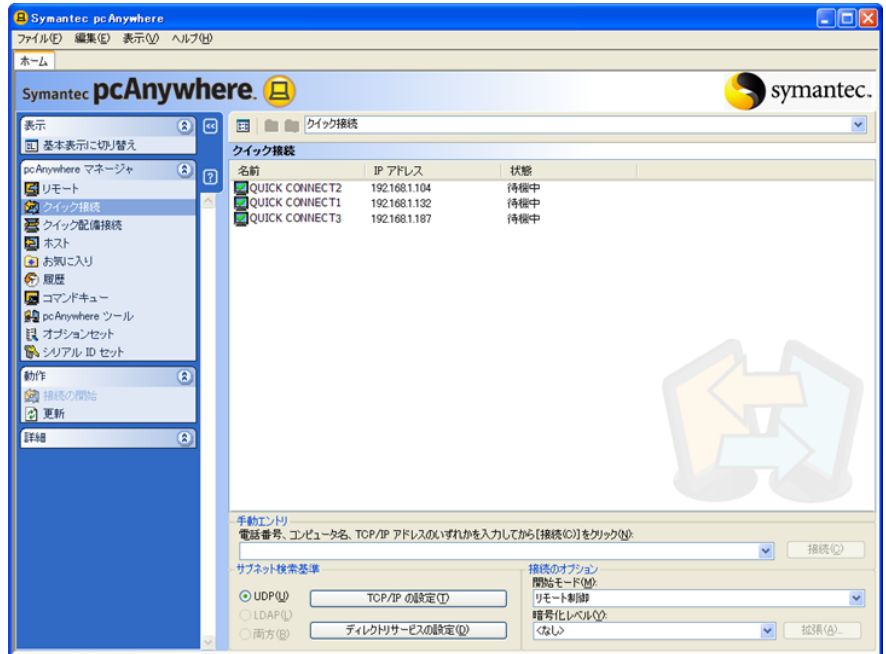
メモ: スマートカード認証を使うにはホストコンピュータとリモートコンピュータに CSP (Cryptography Service Provider) をインストールする必要があります。

クイック接続を使った別のコンピュータへの接続

クイック接続を使うと最小の設定で別のコンピュータに接続できます。このオプションはホストコンピュータに対する 1 回のみの接続または頻度の低い接続に使うことができます。たとえば、動的 IP アドレスのホストコンピュータに接続する場合や、ヘルプデスクのお客様をサポートする場合などです。接続するにはホストコンピュータのコンピュータ名、IP アドレス、電話番号のいずれかとログオン情報を知っている必要があります。

クイック接続ウィンドウを図 5-1 に示します。

図 5-1 クイック接続ウィンドウ



ネットワーク上のホストコンピュータへの接続

コンピュータがネットワークに接続するとpcAnywhereは自動的にローカルサブネット(コンピュータの接続先ネットワークの一部)上で接続待ちのpcAnywhereホストを検索します。検索を他のサブネットにまで広げることも、特定のコンピュータ名またはIPアドレスに絞ることもできます。

Symantec pcAnywhere は UDP 検索と LDAP 検索をサポートします。LDAP (Lightweight Directory Access Protocol の略)を使ってホストコンピュータを検索するにはLDAP 準拠ディレクトリサーバーを使ってディレクトリサービスをサポートするようにコンピュータ環境を設定する必要があります。

p.99 の「[ディレクトリサービスを使うようにリモートコンピュータを設定する](#)」を参照してください。

ネットワーク上のホストコンピュータに接続するには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウで次のいずれかの操作をします。
 - 基本表示の右ペインで[クイック接続]をクリックします。
 - 拡張表示の左のナビゲーションバーで[クイック接続]をクリックします。
- 2 右ペインの[クイック接続]で接続先のホストコンピュータの名前を選択します。

3 [接続のオプション]の[開始モード]リストで次のいずれかを選択します。

[リモート制御]	ホストコンピュータをリモート制御してそのコンピュータの前に座っているかのように操作できます。
[リモート管理]	一般的な管理者ツールを使って管理者がホストコンピュータをリモート管理できます。
[ファイル転送]	Windows エクスプローラのように機能する2ペイン構成のウィンドウを使ってホストとリモートコンピュータの間でファイルを転送できます。

4 ホストコンピュータとリモートコンピュータの間のデータストリームを暗号化するには[暗号化レベル]で次のいずれかを選択します。

[pcAnywhere エンコード]	第三者が簡単には解読できないように数学アルゴリズムを使ってデータをスクランブルします。 このオプションは pcAnywhere がサポートするすべてのオペレーティングシステムで利用できます。
[対称]	暗号化キーを使ってデータのエンコードとデコードをします。 このオプションは Windows Vista/XP/2003/Server 2008/2000 などの Microsoft CryptoAPI をサポートするすべてのオペレーティングシステムで利用できます。このオプションを選択する場合は、使う暗号化強度を選択できます。

5 対称暗号化の暗号化強度を選択するには、[拡張]をクリックします。

[対称暗号化強度]ダイアログボックスで、使いたい暗号化アルゴリズムとキー長を選択します。異なるアルゴリズムを使うコンピュータへの接続を拒否する場合、[選択したアルゴリズムに制限]にチェックマークを付けます。その後、[OK]をクリックします。

6 Symantec pcAnywhere ウィンドウの左のナビゲーションバーの[動作]で[接続の開始]をクリックします。

pcAnywhere ホストに接続するために呼び出し側のログイン信用証明を要求するメッセージが表示されます。ホストコンピュータが **Windows Vista/XP/2003/Server 2008/2000** コンピュータの場合は、コンピュータログイン信用証明を要求するメッセージがオペレーティングシステムから表示されることがあります。

ホスト検索への TCP/IP アドレスとサブネットの追加

Symantec pcAnywhere ではホスト検索にサブネットを追加して含め、ネットワーク全体でホストを検索できます。接続先の TCP/IP ホストコンピュータがホストリストにない場合にこの操作手順の実行が必要になることがあります。

検索したいサブネットに対するアクセス権が必要です。

ホスト検索に TCP/IP アドレスとサブネットを追加するには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウで次のいずれかの操作をします。

- 基本表示の右ペインで[クイック接続]をクリックします。
- 拡張表示の左のナビゲーションバーで[クイック接続]をクリックします。

- 2 右ペインの[サブネット検索基準]で[TCP/IP の設定]をクリックします。

Windows Vista/Server 2008 では、この処理の承認を求めるメッセージが表示される場合があります。組み込み管理者アカウントにログオンしている場合、このメッセージは表示されません。

- 3 pcAnywhere オプションウィンドウの[リモート通信]ページの[TCP/IP オプション]で次のいずれかの操作をします。

- 検索結果に含めたいコンピュータのコンピュータ名または IP アドレスを入力します。
- 検索結果に含めたいサブネットの最初の 3 つのオクテットを入力してから 4 番目のオクテットとして .0 または .255 を入力します。次に例を示します。

172.16.0.0

- 4 [検索の追加]をクリックします。

追加したいコンピュータまたはアドレスごとにこの処理を繰り返します。

- 5 [OK]をクリックします。

ホスト検索への LDAP アドレスの追加

コンピュータ環境が LDAP 準拠サーバーを使ってディレクトリサービスをサポートする場合、ディレクトリサーバーに接続しているホストコンピュータを検索できます。

検索したいディレクトリサーバーに対するアクセス権が必要です。

p.99 の「[ディレクトリサービスを使うようにリモートコンピュータを設定する](#)」を参照してください。

ホスト検索に LDAP アドレスを追加するには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウで次のいずれかの操作をします。

- 基本表示の右ペインで[クイック接続]をクリックします。

- 拡張表示の左のナビゲーションバーで[クイック接続]をクリックします。
- 2 右ペインの[サブネット検索基準]で[ディレクトリサービスの設定]をクリックします。
Windows Vista/Server 2008 では、この処理の承認を求めるメッセージが表示される場合があります。組み込み管理者アカウントにログオンしている場合、このメッセージは表示されません。
- 3 pcAnywhere オプションウィンドウの[ディレクトリサービス]ページで[追加]をクリックします。
ディレクトリサーバーとの認証に必要なサーバー名、検索基点、信用証明を指定します。
詳しくは『Symantec pcAnywhere 管理者ガイド』を参照してください。
- 4 [ディレクトリサービスのプロパティ]ダイアログボックスで[OK]をクリックします。
- 5 pcAnywhere オプションウィンドウで[OK]をクリックします。

ネットワーク上の LDAP ホストの検索

Symantec pcAnywhere はデフォルトではローカルサブネット上で TCP/IP ホストコンピュータを検索します。コンピュータ環境がディレクトリサービスをサポートする場合、ディレクトリサーバーに接続しているホストを検索結果に含めることができます。ディレクトリサーバーに接続しているホストのみに検索結果を制限することもできます。

p.99 の「[ディレクトリサービスを使うようにリモートコンピュータを設定する](#)」を参照してください。

ネットワーク上で LDAP ホストを検索するには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウで次のいずれかの操作をします。
 - 基本表示の右ペインで[クイック接続]をクリックします。
 - 拡張表示の左のナビゲーションバーで[クイック接続]をクリックします。
- 2 右ペインの[サブネット検索基準]で次のいずれかを選択します。

[LDAP]	ディレクトリサーバーに接続しているホストコンピュータのみに検索結果を制限します。
[両方]	TCP/IP ホストとディレクトリサーバーホストを検索結果に含めます。
- 3 左のナビゲーションバーの[動作]で[更新]をクリックします。

接続情報の手動入力

Symantec pcAnywhere ではモデム接続またはネットワーク接続を介してホストコンピュータにすばやく接続するために接続情報を手動で入力することもできます。

接続情報を手動で入力するには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウで次のいずれかの操作をします。
 - 基本表示の右ペインで[クイック接続]をクリックします。
 - 拡張表示の左のナビゲーションバーで[クイック接続]をクリックします。
- 2 右ペインの[手動エントリ]で接続先のホストコンピュータのコンピュータ名、IP アドレス、電話番号のいずれかを入力します。
- 3 [接続のオプション]の[開始モード]リストで次のいずれかを選択します。

[リモート制御]	ホストコンピュータをリモート制御してそのコンピュータの前に座っているかのように操作できます。
----------	--

[リモート管理]	一般的な管理者ツールを使って管理者がホストコンピュータをリモート管理できます。
----------	---

[ファイル転送]	Windows エクスプローラのように機能する2ペイン構成のウィンドウを使ってホストとリモートコンピュータの間でファイルを転送できます。
----------	--

- 4 ホストコンピュータとリモートコンピュータの間のデータストリームを暗号化するには[暗号化レベル]で次のいずれかを選択します。

[pcAnywhere エンコード]	第三者が簡単には解読できないように数学アルゴリズムを使ってデータをスクランブルします。
--------------------	---

このオプションは **pcAnywhere** がサポートするすべてのオペレーティングシステムで利用できます。

[対称]	暗号化キーを使ってデータのエンコードとデコードをします。
------	------------------------------

このオプションは Windows Vista/XP/2003/Server 2008/2000 などの Microsoft CryptoAPI をサポートするすべてのオペレーティングシステムで利用できます。このオプションを選択する場合は、使う暗号化強度を選択できます。

- 5 対称暗号化の暗号化強度を選択するには、[拡張]をクリックします。

[対称暗号化強度]ダイアログボックスで、使いたい暗号化アルゴリズムとキー長を選択します。異なるアルゴリズムを使うコンピュータへの接続を拒否する場合、[選択したアルゴリズムに制限]にチェックマークを付けます。その後、[OK]をクリックします。

- 6 クイック接続ウィンドウで[接続]をクリックします。

pcAnywhere ホストに接続するために呼び出し側のログイン信用証明を要求するメッセージが表示されます。ホストコンピュータが **Windows Vista/XP/2003/Server 2008/2000** コンピュータの場合は、コンピュータログイン信用証明を要求するメッセージがオペレーティングシステムから表示されることがあります。

ホスト招待の作成

ファイアウォールの背後にあるホストコンピュータに接続する方法の 1 つは、ホストユーザーに接続を開始させることです。**Symantec pcAnywhere** では、ホストユーザーが自分のコンピュータに接続するために必要な設定を含むホスト招待を作成できます。ホスト招待は物理メディアに保存することも、電子メールやインスタントメッセージを使ってホストユーザーに送信することもできます。

ホストユーザーがホスト招待を受け入れると、ホストコンピュータと自分のコンピュータが接続され、ホストコンピュータを制御できるようになります。

ホストコンピュータとリモートコンピュータの両方で **pcAnywhere 12.0** 以降が実行されている必要があります。

ホスト招待を作成するには

- 1 拡張表示の左のナビゲーションバーの[pcAnywhere マネージャ]で[リモート]をクリックします。
- 2 右ペインの[リモート]で使いたい接続項目を右クリックしてから[ホスト招待の作成]をクリックします。
- 3 [ホスト招待の作成]ウィンドウの[呼び出すホストの IP アドレスまたはコンピュータ名を指定]リストで、自分のコンピュータの IP アドレスまたはコンピュータ名を選択します。

ホストコンピュータからの接続を待つように自分のコンピュータを設定する必要があります。ホストからの呼び出しを待つオプションのチェックマークをはずした場合は、ホストからの呼び出しを待つようにリモート接続項目を手動で設定する必要があります。

p.106 の「**ホスト接続を待つ**」を参照してください。

- 4 [名前を付けて保存]をクリックします。
- 5 [出力先ファイルの選択]ウィンドウで、ファイルを保存する場所を選択します。

- 6 [ファイル名]フィールドにファイル名を入力します。
このファイルは **.pcainv** のファイル拡張子付きで保存されます。
- 7 [保存]をクリックします。
ホストからの呼び出しを待つように設定した場合、**pcAnywhere** ホストのアイコンが **Windows** のステータスバーに表示されます。
- 8 ホスト招待ファイル(**.pcainv**)をホストユーザーに送信します。
ホストユーザーがホスト招待を受け入れて接続が確立されると、ホストコンピュータを制御できるようになります。
ファイルを電子メールで送信するにはホストコンピュータで電子メールクライアントを設定する必要があります。少なくとも 1 つの呼び出し側がホストコンピュータに必要です。
ホストユーザーは[リモートの呼び出しに使用するホスト項目を選択します]ドロップダウンリストからホストを選択する必要があります。
ホストが実行されている場合は停止され、選択したホストが起動します。
- 9 すぐにファイルを送信するには[電子メール経由でファイルを送信する]をクリックします。
- 10 **pcAnywhere** ホスト招待メッセージウィンドウの[宛先]フィールドに電子メール ID を入力します。必要に応じて、[CC]フィールドに電子メール ID を指定して招待電子メールをコピーすることもできます。
.pcainv ファイルが電子メールに添付されます。
- 11 [送信]をクリックします。
ホストユーザーが添付ファイルを保存して開き、接続が確立されると、ホストコンピュータを制御できるようになります。

p.81 の「[ホスト招待を受け入れる](#)」を参照してください。

pcA Quick Connect を使う

pcA Quick Connect を使ってホストコンピュータに接続することができます。ネットワークからコンピュータを選択するオプション、ログオン情報を入力するオプション、信用証明を保存するオプション、ホスト配備の設定を選択するオプションを使用できます。

pcA Quick Connect を使うには

- 1 [PcA Quick Connect]アイコンをダブルクリックします。
- 2 [pcAQuickConnect]ダイアログボックスで次のいずれかを行います。
 - 接続先ホストコンピュータの名前を選択します。
 - IP アドレスまたはコンピュータ名を入力します。

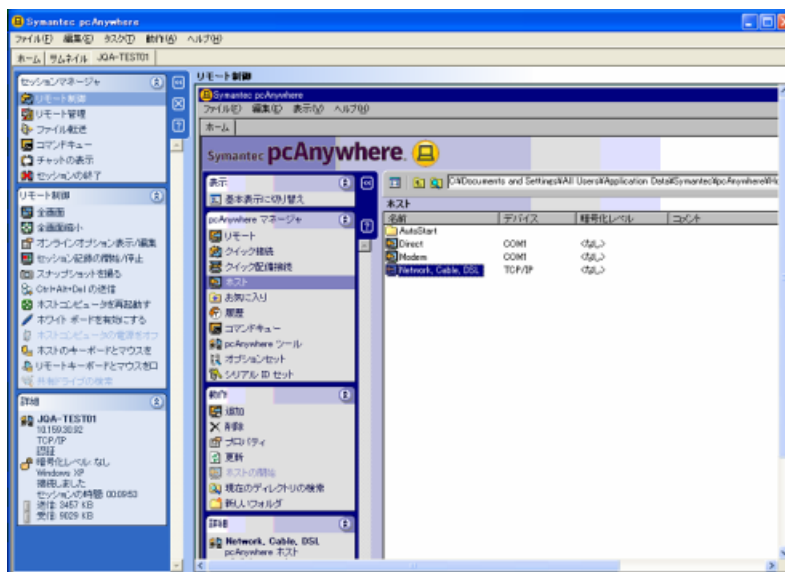
- [参照]をクリックしてネットワークからコンピュータを選択します。
- 3 接続のオプションを指定するには[オプション]をクリックします。
 - [接続設定]セクションで、[信用証明の保存]を選択してホストコンピュータの信用証明を保存します。ユーザー ID とパスワードを入力します。
 - ポートの拡張設定を指定するには[詳細]をクリックします。[拡張 TCP/IP オプション]ダイアログボックスでデータポートと状態ポートを指定します。
 - [OK]をクリックします。
- 4 [配備の設定]セクションで必要に応じて次のオプションを選択します。
 - まだ動作していない場合はホストを起動する
 - ホストが存在しない場合は簡易ホストを配備する
 - セッションの終了後に簡易ホストを削除する
- 5 [接続]をクリックします。
- 6 [Symantec pcAnywhere - ホストログイン]ダイアログボックスで、呼び出し側ログイン信用証明のユーザー名、パスワード、ドメインを入力します。
- 7 [OK]をクリックします。

リモート制御セッション中にできること

いったん接続を確立すると、コンピュータ上にセッションマネージャウィンドウが表示されます。ウィンドウの左にあるナビゲーションバーではモードの切り替え、選択したモードに関連するタスクの実行、接続についての詳細の表示ができます。右ペインにはホストコンピュータ画面が表示されます。矢印ボタンを使ってナビゲーションバーの展開と省略ができます。

リモート制御モードのセッションマネージャウィンドウを図 5-2 に示します。

図 5-2 セッションマネージャウィンドウ



リモート制御セッション中にセッションマネージャウィンドウで利用可能なタスクを表 5-3 に示します。

このオプションには動作メニューでもアクセスできます。

表 5-3 リモート制御タスクの説明

アイコン	オプション	説明
	[全画面]	リモートコンピュータ画面にホストの全画面を表示します。 このオプションは両方のコンピュータが同じ解像度に設定されている場合にのみ利用可能です。
	[全画面縮小]	セッションマネージャウィンドウの表示領域に合わせてホスト画面のサイズを変更します。 このオプションはホストコンピュータの方がリモートコンピュータよりも画面解像度が高い場合に使います。
	[オンラインオプション表示/編集]	リモートユーザーがリモート制御セッション中にディスプレイ設定を変更できます。

アイコン	オプション	説明
	[クリップボードの転送]	リモートユーザーがホストのクリップボードからリモートのクリップボードに(またはその逆に)クリップボードの内容をコピーできます。 この機能はクリップボードの内容を自動転送するオプションがオフになっている場合にのみ利用できます。
	[セッション記録の開始/停止]	セッション活動を後で再生できるようにファイルに記録します。
	[スナップショットを撮る]	セッションの画面ショットを後で表示できるように保存します。
	[Ctrl+Alt+Del の送信]	ホストコンピュータ上で Ctrl+Alt+Del コマンドを実行できます。
	[ホストコンピュータを再起動する]	ホストコンピュータを再起動します。
	[共有ドライブの検索]	ホストコンピュータの共有ドライブを表示できます。
	[ホワイトボードを有効にする]	ホストコンピュータの項目をハイライトできます。

画面ショットの保存

Symantec pcAnywhere では、セッション中にホストコンピュータ画面のイメージをキャプチャして保存できます。複数の画面ショットをキャプチャして保存できます。画面ショットはそれぞれを別のファイルに保存する必要があります。

画面ショットを撮るには

- 1 セッションマネージャウィンドウの左のナビゲーションバーの[リモート制御]で[スナップショットを撮る]をクリックします。
- 2 [スナップショットを撮る]ウィンドウで次のいずれかを選択します。

- [可視領域]

ホスト画面に表示されている部分のみを画面ショットに保存します。
- [全体領域]

ホスト画面全体を画面ショットに保存します。

- 3 [保存する画面ファイルの選択]ウィンドウの[保存する場所]フィールドで画面ショットの保存場所を選択します。

- 4 [ファイル名]フィールドにファイル名を入力します。
- 5 [ファイルの種類]フィールドで .jpg または .bmp を選択します。
- 6 [保存]をクリックします。

リモート制御セッション中のディスプレイ設定の変更

Symantec pcAnywhere では、セッション中にディスプレイ設定を変更したり、ホストコンピュータ上でキーボードとマウスを一時的にロックしたりできます。

ビデオ品質と ColorScale のオプションは製品の処理効率、イメージの解像度、色の深みに影響します。広帯域幅接続では処理効率を向上するためにビデオ品質を調整できます。狭帯域幅接続では処理効率を向上するために色レベルを調整できます。色よりも鮮明な表示のほうが重要である場合には 4 色の設定を使ってください。この設定は色をグレースケールに変更しますが鮮明な解像度が得られます。

この変更はそれを加えたセッションだけに影響します。

メモ: [マルチモニタ]オプションはホストコンピュータに複数のディスプレイがある場合にのみ有効になります。

リモート制御セッション中にディスプレイ設定を変更するには

- 1 セッションマネージャウィンドウの左のナビゲーションバーの[リモート制御]で[オンラインオプション表示/編集]をクリックします。
- 2 リモート制御ウィンドウの外観を変更するには、オンラインオプションウィンドウで必要に応じて次のオプションを選択します。

[ホストデスクトップをリモートに 合わせて縮小]	リモートコンピュータの設定に合わせてホストコンピュータの 解像度設定を同期します。
-----------------------------	--

[ホストアクティブウィンドウを追 跡]	ホストコンピュータ画面上に表示されているアクティブウィ ンドウを自動的に移動してリモート画面上に表示されるように します。
------------------------	---

たとえば、ユーザーの処理を要求するダイアログボックスがリモートコンピュータ画面上から見えなくなることがあります。メッセージが見えないのでユーザーはセッションがロックしたとみなす可能性があります。このオプションにチェックマークを付けると、このようなダイアログボックスのメッセージが必ず画面上に表示されるようになります。

[全画面モードでセッションの復 帰と終了ボタンを表示]	コマンドオプションをリモート制御ウィンドウの左上に表示し ます。コマンドオプションを使うとセッションを終了したり2ペ イン構成のウィンドウに戻ったりできます。
--------------------------------	---

- 3 処理効率の設定とビデオ品質の設定を変更するには、次のオプションのいずれかを選択します。

[広帯域幅]

LAN やケーブルモデムのような高速接続の処理効率を最適化します。

ビデオ品質の設定は調整できます。処理効率を上げるにはスライダーを左に移動します。ビデオ品質を上げるにはスライダーを右に移動します。

設定を低くすると処理効率は上がりますが、ビデオ品質は下がります。設定を高くするとビデオ品質は上がりますが、処理効率は下がります。

[狭帯域幅]

モデムのような低速接続の処理効率を最適化します。

ColorScale の設定は調整できます。表示される色数を減らすと処理効率が向上します。色よりも鮮明な表示のほうが重要である場合には 4 色の設定を使ってください。

- 4 リモート制御セッション中のホストユーザーの活動を制限するには、必要に応じて次のオプションを選択します。

[キーボード/マウスの状態]

ホストコンピュータのキーボードとマウスをロックします。

[ホスト画面を消す]

ホストサイトにいる他のユーザーがセッションを表示するのを防止します。

このオプションは仮想コンピュータには利用できません。

- 5 ディスプレイを選択するにはオンラインのオプションウィンドウで次のオプションをクリックします。

[モニターの選択]

ホストコンピュータから表示するディスプレイを選択できます。このオプションはホストに複数のディスプレイがある場合にのみ有効になります。

ホストコンピュータで複数のディスプレイを表示するには、次のキーボードショートカットを使います。

- すべてのディスプレイを表示するには
Ctrl+m+0
- それぞれのディスプレイを表示するには
Ctrl+m+(1、2...8)
入力した番号に応じてディスプレイ 1 からディスプレイ 8 が表示されます。

6 [適用]をクリックします。

7 [OK]をクリックします。

背景色の変更

リモート制御セッション中はセッションマネージャウィンドウに無地の背景が表示されます。無地の背景はホストコンピュータ画面の境界とウィンドウの使えない部分をはっきりと区別するのに役立ちます。この背景は全画面縮小を使ってホスト画面のサイズを縮小すると見えます。

セッションマネージャウィンドウに表示される背景色と模様はカスタマイズできます。背景を変更する場合は、セッションを開始する前に設定を変更してください。セッション中には背景を変更できません。

背景色を変更するには

1 Symantec pcAnywhere ウィンドウの編集メニューで[環境設定]を選択します。

Windows Vista/Server 2008 では、この処理の承認を求めるメッセージが表示される場合があります。組み込み管理者アカウントにログオンしている場合、このメッセージは表示されません。

2 pcAnywhere オプションウィンドウの[セッションマネージャ]ページで次のいずれかを選択します。

[塗りつぶし]

リモート制御セッション中はセッションマネージャウィンドウに無地の背景を使います。

[格子縞]

リモート制御セッション中はセッションマネージャウィンドウに格子縞模様の背景を使います。

[セッションマネージャ]ページを見つけるには pcAnywhere オプションウィンドウで左右の矢印をクリックしてページをスクロールします。

3 背景色を変更するには、修正したい色の隣にある[編集]をクリックします。

4 カスタム色を選択するには[色の設定]ウィンドウで[色の作成]をクリックします。

5 カスタム色を選択する場合は[色の追加]をクリックします。

6 [OK]をクリックします。

- 7 格子縞のサイズを調整するには[サイズ]フィールドで使いたいサイズを選択します。
このオプションは[格子縞]を選択した場合にのみ利用できます。
- 8 [OK]をクリックします。

リモート印刷の設定

ホストユーザーが **pcAnywhere** にリモートユーザーのプリンタ情報を設定した場合、リモート制御セッション中にリモートユーザーは自分のコンピュータのプリンタでホストコンピュータ上のファイルを印刷できます。ホストコンピュータ上でプログラムを実行するときに、インストール済みのプリンタのリストでプリンタを選択できます。ホストユーザーがリモート印刷を設定していない場合、リモートユーザーはホストコンピュータのデフォルトプリンタでファイルを印刷できます。

プリンタを追加する場合、ホストユーザーにはリモートコンピュータに合ったドライバが必要です。**Symantec pcAnywhere** はプリンタの場所、使うポートなどの設定情報を要求するメッセージを表示します。

リモート印刷を設定するには

- 1 ホストコンピュータの **Symantec pcAnywhere** ウィンドウの編集メニューで[環境設定]を選択します。

ホストコンピュータでは、**pcAnywhere** ポートにプリンタをインストールして、[双方向サポートを有効にする]チェックボックスのチェックマークをはずしてください。

ホストコンピュータとは、リモートユーザーの接続先のコンピュータのことです。

Windows Vista/Server 2008 では、この処理の承認を求めるメッセージが表示される場合があります。組み込み管理者アカウントにログオンしている場合、このメッセージは表示されません。
- 2 **pcAnywhere** オプションウィンドウの[リモート印刷]ページで[プリンタの追加]をクリックします。

このページを見つけるには **pcAnywhere** オプションウィンドウで左右の矢印をクリックしてページをスクロールします。
- 3 画面の指示に従って操作してリモートコンピュータのプリンタの情報を設定します。

リモートコンピュータとは、リモート制御用にホストコンピュータに接続するコンピュータのことです。

リモートコンピュータが使うプリンタがリストにない場合、ドライバをまずインストールしてからこの操作手順を繰り返す必要があります。
- 4 [OK]をクリックします。

Windows クリップボードの内容の転送

Windows クリップボードにはアプリケーションから切り取られたりコピーされた情報が入ります。クリップボードを使えば、Windows や Windows 以外のアプリケーションとの間で情報をやり取りできます。リモート制御セッションでは、ホストコンピュータとリモートコンピュータの間でクリップボードに入っているテキストやグラフィックを転送できます。

ホストコンピュータとリモートコンピュータの両方で Symantec pcAnywhere 12.0 以降が使用されている場合、両方のコンピュータのクリップボードが自動的に同期されます。以前のバージョンの pcAnywhere を実行しているホストコンピュータに接続する場合は、クリップボードの内容を自動的に転送するオプションをオフにしてください。すべてのセッションに対してこのオプションを永続的にオフにできます。または、セッション中にこのオプションを一時的にオフにすることも可能です。セッション中にクリップボードの内容を手動で転送できます。

すべてのセッションでクリップボードの内容の自動転送を行わないようにするには

- 1 セッションを開始する前に、Symantec pcAnywhere ウィンドウの編集メニューから [環境設定] を選択します。

Windows Vista/Server 2008 では、この処理の承認を求めるメッセージが表示される場合があります。組み込み管理者アカウントにログオンしている場合、このメッセージは表示されません。

- 2 pcAnywhere オプションウィンドウの [リモート操作] ページで [ホストやリモートのクリップボードの内容を自動的に転送する] のチェックマークをはずします。
- 3 [OK] をクリックします。

1 つのセッション中にクリップボードの内容の自動転送を行わないようにするには

- 1 セッション中に、セッションマネージャウィンドウの左のナビゲーションバーの [リモート制御] で [オンラインオプション表示/編集] をクリックします。
- 2 オンラインオプションウィンドウで [ホストやリモートのクリップボードの内容を自動的に転送する] のチェックマークをはずします。

この動作は現在のセッションのみに影響します。このオプションのチェックマークをはずすと、セッションマネージャウィンドウのナビゲーションバーに [クリップボードの転送] オプションが追加されます。このオプションを使うとクリップボードの内容を手動で転送できます。

Windows クリップボードの内容を手動で転送するには

- 1 セッションマネージャウィンドウの [リモート制御] で [クリップボードの転送] をクリックします。
- 2 クリップボードの転送ウィンドウの [方向] で次のいずれかを選択します。
 - [ホストからこのコンピュータに転送]
 - [このコンピュータからホストへ転送]

これらのオプションは、クリップボードの内容を自動的に転送するオプションがオフになっている場合にのみ利用できます。

- 3 [OK]をクリックします。

ホストユーザーとのオンラインチャット

リモート制御セッション中、ホストユーザーとリモートユーザーはチャットウィンドウでキー入力により会話できます。ホストユーザーもリモートユーザーもチャットセッションを開始できます。この機能は簡潔なメッセージまたは指示を送信するのに便利です。チャットログをテキスト形式で保存することもできます。

ホストユーザーとオンラインでチャットするには

- 1 セッションマネージャウィンドウの[リモート制御]で[チャットの表示]をクリックします。
- 2 チャットウィンドウの下部ペインでメッセージを入力します。
- 3 [送信]をクリックします。
自分のメッセージと相手ユーザーの応答がチャットウィンドウの上部に表示されます。
- 4 チャットを保存するには[保存]をクリックします。
- 5 [pcA チャットログ]ダイアログボックスでチャットを保存する場所を選択します。
- 6 ファイル名を入力します。
- 7 [保存]をクリックします。

複数のホストへの接続

Symantec pcAnywhere では、複数のリモートセッションを同時に実行できます。複数のホストコンピュータに接続する場合は、接続後も **pcAnywhere** マネージャを開いたままにしておく必要があります。

複数のホストセッションを切り替えるには次のいずれかのショートカットを使います。

- **Ctrl+N**
N は 1 から 9 までを表します。
- **右 Ctrl+Tab**

複数のホストに接続するには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウの編集メニューで[環境設定]を選択します。
Windows Vista/Server 2008 では、この処理の承認を求めるメッセージが表示される場合があります。組み込み管理者アカウントにログオンしている場合、このメッセージは表示されません。
- 2 pcAnywhere オプションウィンドウの[セッションマネージャ]ページで[接続後に pcAnywhere マネージャを開いておく]にチェックマークが付いていることを確認します。
- 3 最初のホストへの接続を確立します。
接続先のホストコンピュータごとにこのステップを繰り返します。

リモートコンピュータで描画機能を使う

リモート制御セッション中に描画機能を使って項目をハイライトして、その項目にホストユーザの注意を引き付けることができます。これにより、ホストコンピュータの項目を示したり説明したりできます。描画されるハイライトは、形、幅、色を変更できます。

この変更はそれを加えたセッションだけに影響します。

リモートコンピュータで描画機能を使うには

- 1 セッションマネージャウィンドウの左のナビゲーションバーの[リモート制御]で[ホワイトボードを有効にする]をクリックします。
ホストコンピュータに描画機能が表示されます。
- 2 [ホワイトボード]ボックスで[描画]をクリックします。
- 3 [ホワイトボード]ボックスで次のいずれかを選択します。

長方形	長方形を描画できます。
円	円を描画できます。
フリーハンド	自由な形状を描画できます。
- 4 ホストコンピュータ上の項目の上でマウスをクリックしてドラッグし、その項目をハイライトします。
- 5 ハイライトの幅を変更するには次のいずれかを選択します。

幅を増やす	ハイライトの幅を広くします。
幅を減らす	ハイライトの幅を狭くします。

- 6 ハイライトの色を変更するには[色]をクリックして目的の色を選択します。
- 7 カスタム色を選択するには[色の設定]ウィンドウで[色の作成]をクリックします。カスタム色を選択して[色の追加]をクリックします。
- 8 [OK]をクリックします。

メモ: 処理を元に戻すには[消去]をクリックするか **Ctrl+Z** を押し、処理をやり直すには **Ctrl+Y** を押します。

ホストコンピュータの電源をオフにする

Symantec pcAnywhere ではリモート制御セッション中にホストコンピュータの電源をオフにすることができます。ホストコンピュータでその呼び出し側に対して[呼び出し側によるホストPC電源のオフを許可]オプションか[スーパーユーザー]オプションが有効になっている必要があります。

ホストコンピュータの電源をオフにするには

- 1 セッションマネージャウィンドウの左のナビゲーションバーの[リモート制御]で[ホストコンピュータの電源をオフにする]をクリックします。
この処理の承認を求めるメッセージが表示されます。
- 2 [OK]をクリックします。

共有ホストドライブの表示

Symantec pcAnywhere ではホストコンピュータの共有ディスクドライブを表示できます。リモートコンピュータでは左のナビゲーションバーに共有ディスクドライブが表示されます。

共有ホストディスクドライブを表示するには

- 1 セッションマネージャウィンドウの左のナビゲーションバーの[リモート制御]で[共有ドライブの検索]をクリックします。
- 2 [マイコンピュータ]ウィンドウの[Network Drives]セクションでドライブをダブルクリックするとその共有ドライブのファイルが表示されます。

メモ: ドライブはセッションが終了しても共有された状態のままです。

リモート制御セッションの終了

ホストもリモートユーザーもセッションを終了できます。セッションを終了すると Symantec pcAnywhere のメインウィンドウに戻ります。

Windowsコンピュータに接続している場合、ホスト接続項目に設定されたセッションの終了オプションにより、ホストが別の接続を待つか中止されるかが決まります。ホスト接続項目に設定された呼び出し側の権限により、リモートユーザーによるホストの中止が許可されるかどうかが決まります。

リモート制御セッションを終了するには

- 1 セッションマネージャウィンドウの左のナビゲーションバーの[セッションマネージャ]で[セッションの終了]をクリックします。
- 2 確認ウィンドウで[はい]をクリックします。

ホストコンピュータを再起動する権限がある場合、コンピュータを再起動することによりホストが他の接続を受け入れるか中止されるかを選択できます。

ホストを実行していないコンピュータへの接続

クイック配備接続機能を使うと、ネットワーク上のコンピュータまたはコンピュータグループに簡易版の **pcAnywhere** ホストを配備してからすぐに接続できます。ホストコンピュータはホストが実行中である必要も **pcAnywhere** がインストール済みである必要もありません。**Windows**、**Linux**、または **Mac OS X** が動作するコンピュータに接続できます。

クイック配備接続機能を使って、完全版の **pcAnywhere** ホストを実行している **Windows** コンピュータに接続することもできます。接続すると完全ホストは一時的に中止されます。ホストがサービスとして実行する設定の場合、セッションの終了後に完全ホストは待機状態に戻ります。

クイック配備接続ウィンドウを図 5-3 に示します。

図 5-3 クイック配備接続ウィンドウ

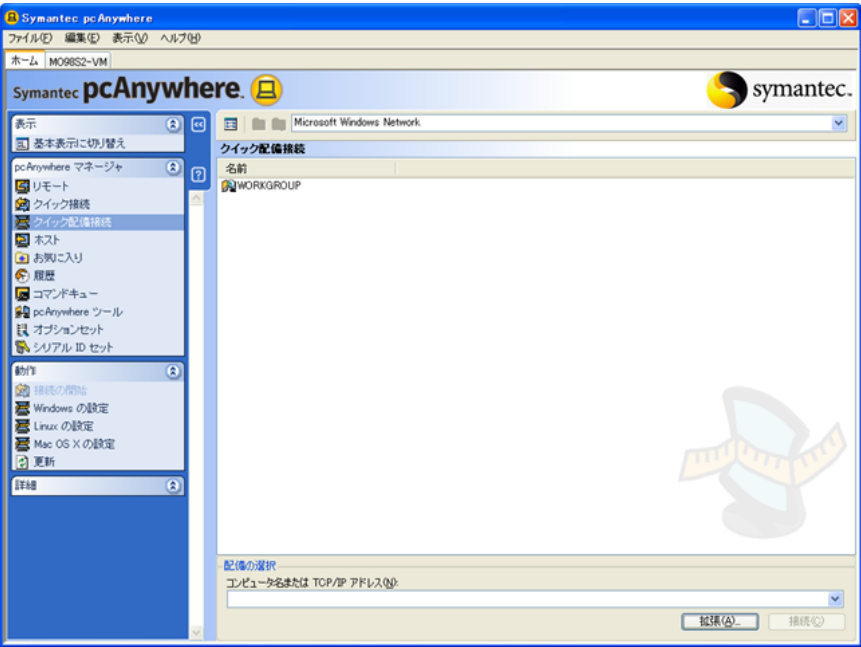


表 5-4 は簡易ホストを配備するための必要条件を示しています。

表 5-4 簡易ホスト配備の必要条件

オペレーティングシステム	簡易ホストを配備するための必要条件	簡易ホストをインストールするための必要条件
Windows 2000 Professional/Server/Advanced Server	簡易ホストの配備元のコンピュータで管理者権限が必要です。	接続先のホストコンピュータをロック解除しログオンユーザーがいる必要があります。組み込み管理者権限を有効にして、空白以外のパスワードを設定してください。簡易ホストの配備にはこのアカウントを使う必要があります。 ■ Microsoft 社が定義するオペレーティングシステムの必要条件 ■ Internet Explorer 6.0 以降
Windows XP Professional (32 ビットおよび 64 ビット)	Windows XP の場合は、[簡易ファイルの共有を使用する]のチェックマークをはずします。	
Windows Server 2003 Standard/Enterprise		
Windows PE		

オペレーティングシステム	簡易ホストを配備するための必要条件	簡易ホストをインストールするための必要条件
Windows Vista Business/Enterprise/Ultimate/Server 2008	配備中に、ターゲットコンピュータの組み込み管理者の信用証明を入力します。 ターゲットコンピュータのオペレーティングシステムは次のように設定する必要があります。 ■ 組み込み管理者アカウントを有効にする ■ ファイル共有を有効にする ■ Windows ファイアウォールをオフにするか、pcAnywhere ポート経由のトラフィックを許可するようにファイアウォールを設定する Symantec pcAnywhere では、ポート 5631 と 5632 をデフォルトで使います。	接続先のホストコンピュータをロック解除しログオンユーザーがいる必要があります。組み込み管理者権限を有効にして、空白以外のパスワードを設定してください。簡易ホストの配備にはこのアカウントを使う必要があります。 ホストコンピュータは次のシステムの必要条件を満たす必要があります。 ■ Microsoft 社が定義するオペレーティングシステムの必要条件 ■ Internet Explorer 6.0 以降
Red Hat Enterprise Linux ES/WS 3.0 Red Hat Enterprise Linux ES/WS 4.0 SuSe Enterprise Server 10 SuSe Linux Desktop 10 Novell Linux Desktop 9	Linux ホストを配備できるのは、Windows コンピュータからのみです。Linux ホストの配備元のコンピュータではルート権限が必要です。	ログオンしていないホストコンピュータに接続できます。ホストコンピュータでの管理者権限が必要です。 Linux オペレーティングシステムの場合、ターゲットの Linux コンピュータにログオンしているユーザーがいない場合には、ルート権限が必要です。
Mac OS X 10.4.x Mac OS X 10.5.x	Mac OS X ホストを配備できるのは Windows コンピュータからのみです。	ログオンしていないホストコンピュータに接続できます。ホストコンピュータでの管理者権限が必要です。

メモ: クイック配備接続による接続先のコンピュータごとにホストライセンスが必要です。Symantec pcAnywhere の使用許諾契約はこの機能に対する同時ライセンス登録を許可していません。

ホストを実行していないコンピュータに接続するには

- 1 拡張表示の左のナビゲーションバーの[pcAnywhere マネージャ]で[クイック配備接続]をクリックします。
- 2 右ペインで次のいずれかの操作をします。
 - [クイック配備接続]で接続先のホストコンピュータをダブルクリックします。
 - [配備の選択]で接続先のコンピュータのコンピュータ名または IP アドレスを入力してから[接続]をクリックします。
- 3 ホストコンピュータのログイン信用証明を入力します。

ホストコンピュータでの管理者権限が必要です。Vista/Server 2008 の場合は、組み込み管理者権限が必要です。

接続先のオペレーティングシステムの種類がホストプロパティで設定されていない場合は、適切な設定ウィザードが自動的に開きます。

ウィザードの手順を完了してホストを設定します。

p.130の「[クイック配備接続経由の Windows 簡易ホストの設定](#)」を参照してください。

p.134の「[配備用の Linux ホストまたは Mac OS X の設定](#)」を参照してください。

- 4 要求メッセージが表示されたら呼び出し側のログイン信用証明を入力します。
最初にホストプロパティを設定したときに指定した呼び出し側のログイン信用証明を使用する必要があります。

クイック配備接続の最初のホストプロパティの設定

クイック配備接続を初めて使うときはホストプロパティを設定する必要があります。Symantec pcAnywhere は接続先として試みるコンピュータのオペレーティングシステムを自動的に検出し、適切なウィザードを起動します。ウィザードは設定処理を順に案内します。ウィザードの最後でホストを配備し接続を開始できます。Symantec pcAnywhere では、配備用システムを事前に設定することもできます。Windows、Mac、Linux の各システム用に個別に事前設定できます。

Symantec pcAnywhere はホストプロパティを以降のすべてのクイック配備接続セッションで繰り返し使います。設定したホストプロパティはクイック配備接続を使って確立した接続にのみ適用されます。ホストウィンドウのホスト接続項目には影響しません。

クイック配備接続経由の Windows 簡易ホストの設定

Windows コンピュータへの接続にクイック配備接続を初めて使うときは Windows 簡易ホスト設定ウィザードで設定情報を入力する必要があります。ホストプロパティの設定は1回のみです。Symantec pcAnywhere はこの設定を Windows コンピュータとの以降のすべてのクイック配備接続セッションで繰り返し使います。

クイック配備接続を使って配備するホストはインストールの痕跡が最小で、インストールにシステムの再起動を必要としません。クイック配備接続機能はリモート制御の機能が限定されるので一時的な接続のための機能です。

メモ: 接続先のコンピュータで管理者権限が必要です。クイック配備接続機能は、オペレーティングシステムの制限により、**Windows XP Home/Vista Home** の各エディションではサポートされません。p.127 の「**ホストを実行していないコンピュータへの接続**」を参照してください。

クイック配備接続経由で Windows 簡易ホストを設定するには

- 1 拡張表示の左のナビゲーションバーの[pcAnywhere マネージャ]で[クイック配備接続]をクリックします。
- 2 **Windows 簡易ホスト設定ウィザード**を開くには、[動作]で[Windows の設定]をクリックします。

ウィザードは設定処理を順に案内します。プロパティを設定する前にホストを配備しようとする、ウィザードが自動的に開きます。ホストコンピュータのログイン信用証明の入力を求めるメッセージが最初に表示されます。
- 3 **Windows 簡易ホスト設定ウィザード**の最初のパネルの情報を読んでから[次へ]をクリックします。
- 4 [ホスト名]フィールドでホストに使いたい名前を入力します。

ホスト名をコンピュータ名と同じ設定にするにはこのフィールドを空白のままにします。
- 5 [認証の種類]で次のいずれかを選択します。

[pcAnywhere]	ユーザー名とパスワードをホストコンピュータ上に維持されるリストと照合してユーザーの有効性を確認します。 この方法はネットワーク以外の接続の場合または環境がその他の認証方法をサポートしない場合に使います。この認証方法は最も安全性の低い方法です。
[NT]	ワークステーションまたはドメインユーザーのリストを検査してユーザーまたはグループの有効性を確認します。 Windows Vista/XP/2003/Server 2008/2000 でのみ利用可能です。
[Microsoft LDAP]	LDAP をサポートするディレクトリサーバーに格納されるリストを検査してユーザーまたはユーザーグループの有効性を確認します。

p.194 の「**pcAnywhere** での**認証**について」を参照してください。

- 6 ホストコンピュータとリモートコンピュータの間のデータストリームを暗号化するには [暗号化レベル] フィールドで次のいずれかを選択します。

[pcAnywhere エンコード] 第三者が簡単には解読できないように数学アルゴリズムを使ってデータをスクランブルします。

このオプションは **pcAnywhere** がサポートするすべてのオペレーティングシステムで利用できます。

[対称] 暗号化キーを使ってデータのエンコードとデコードをします。

このオプションは **Windows Vista/XP/2003/Server 2008/2000** などの **Microsoft CryptoAPI** をサポートするすべてのオペレーティングシステムで利用できます。

p.207 の「**暗号化を使ったデータ保護**」を参照してください。

- 7 ホストを配備するコンピュータが **Windows Vista/XP/2003/Server 2008/2000** コンピュータの場合、最適な処理効率を獲得するために [サービスとして実行] にチェックマークを付けます。

Windows XP/Vista/Server 2008 のサービスの実行にはコンピュータの管理者権限 (**Vista** の場合は組み込み管理者権限) が必要です。

- 8 セッションの終了後にホストを中止するには [リモートセッションの終了後に簡易ホストをキャンセルする] にチェックマークを付けます。

セッションの終了後にホストを中止しない場合、オペレーティングシステムを再起動するまでホストは引き続き実行されます。

- 9 リモートユーザーが接続を試みたときにホストユーザーに通知するには [接続時の確認] にチェックマークを付けてからホストユーザーがメッセージに応答するまでの秒数を選択します。

指定した秒数を過ぎると接続は中止されます。

- 10 接続にシリアル番号を割り当ててホストを保護するには [シリアル ID を割り当ててホスト接続を限定する] にチェックマークを付けてから使いたいシリアル番号を入力します。

シリアル ID がホスト設定に埋め込まれます。シリアル ID は 0 から 4,294,967,296 までの数値にする必要があります。

リモートユーザーはホストが接続を受け入れるように同じシリアル ID をリモート設定に埋め込む必要があります。

シリアル番号の割り当てについて詳しくは『**Symantec pcAnywhere 管理者ガイド**』を参照してください。

- 11 Symantec pcAnywhere Access Server を実行しているコンピュータにホストを連結する場合は、[pcAnywhere Access Server に連結]にチェックマークを付けます。

このオプションを選択した場合は、アクセスサーバーに接続するための情報をウィザードの後続の手順で入力します。

p.100 の「[pcAnywhere Gateway または pcAnywhere Access Server を介した接続](#)」を参照してください。

- 12 [次へ]をクリックします。
- 13 ホストコンピュータへの接続の有効性を確認するために使いたいログイン信用証明を入力してから[次へ]をクリックします。

要求される情報は選択した認証の種類によって異なります。

- 14 ホストコンピュータのホストライセンスがあることを確認するために[対象になるコンピュータごとのホストライセンスがあります]にチェックマークを付けます。

操作を続行するには接続先コンピュータのホストライセンスがあることを確認する必要があります。ホストライセンスがない場合はシマンテックストアのリンクをクリックして購入してください。

- 15 この設定を実行可能ファイルとして保存して後で配備に使えるようにするには次のいずれかを選択します。

[電子メールを送信]	コンピュータ上でデフォルトの電子メールプログラムを開きます。 このオプションを使うには電子メールプログラムが MAPI (Messaging Application Programming Interface の略) をサポートする必要があります。MAPI 対応のプログラムの例には Microsoft Outlook があります。
[ディスクに保存]	ホスト設定を自己解凍パッケージとして作成し保存するためのファイル名と場所を選択できます。 Vista で簡易ホストを実行している場合、特に簡易ホストがアプリケーションとして動作するように設定されている場合は、カスタム共有を使用してください。

これらのオプションのいずれかを使用すれば、**Windows XP Home/Vista Home** エディションが動作するコンピュータに簡易ホストを手動で配備できます。簡易ホストをディスクに保存した場合は、実行可能ファイルをダブルクリックしてインストールすると、簡易ホストが正しくインストールされなかったことを示すメッセージが表示される場合があります。この問題を解決するには、保存したファイルを **Vista** の管理者として起動する必要があります。

- 16 [完了]をクリックして設定を保存します。

コンピュータに接続しようとしたときにウィザードが自動的に開始すると、**Symantec pcAnywhere** によって、選択したコンピュータにホストが配備されます。入力を求めるメッセージが表示されたら、ホストコンピュータに接続するための呼び出し側のログイン信用証明を入力します。

配備用の Linux ホストまたは Mac OS X の設定

Linux コンピュータまたは **Mac OS X** コンピュータへの接続にクイック配備接続を初めて使うときは、設定情報の入力を求めるメッセージが表示されます。ホストプロパティの設定は 1 回のみです。**Symantec pcAnywhere** はこの設定を **Linux** または **Mac OS X** コンピュータとの以降のすべてのクイック配備接続セッションで繰り返し使います。

接続先のホストコンピュータがいずれかのバージョンの **Samba** を実行中の場合、そのコンピュータはクイック配備接続の参照リストに表示されます。コンピュータ名または IP アドレスを入力することもできます。

接続先のコンピュータを選択する場合にはすぐにログイン信用証明を要求するメッセージが表示されます。これはホストコンピュータのオペレーティングシステムが要求するユーザーログイン信用証明です。コンピュータのログイン状態によってはルート信用証明を要求するメッセージが **Symantec pcAnywhere** から表示されることがあります。

ホストを配備した後で呼び出し側のログイン信用証明を要求するメッセージが表示されます。最初にホストプロパティを設定するときにこの信用証明を設定します。信用証明の有効性が確認された後でセッションマネージャが画面に表示されます。

p.137の「[LinuxとMac OS X用の配備セキュリティオプションの設定](#)」を参照してください。

配備用の Linux ホストまたは Mac OS X ホストを設定するには

- 1 拡張表示の左のナビゲーションバーの[pcAnywhere マネージャ]で[クイック配備接続]をクリックします。
- 2 次のいずれかの操作をします。
 - Linux ホスト設定ウィザードを開くには、[動作]で[Linux の設定]をクリックします。
 - Mac OS X 簡易ホスト設定ウィザードを開くには、[動作]で[Mac OS X の設定]をクリックします。

ウィザードは設定処理を順に案内します。プロパティを設定する前にホストを配備しようとする、ウィザードが自動的に開きます。ホストコンピュータのログイン信用証明の入力を求めるメッセージが最初に表示される場合があります。

- 3 ホスト設定ウィザードの最初のパネルの情報を讀んでから[次へ]をクリックします。
- 4 [ホスト名]フィールドでホストに使いたい名前を入力します。
ホスト名をコンピュータ名と同じ設定にするにはこのフィールドを空白のままにします。
- 5 [認証の種類]で次のいずれかを選択します。

[pcAnywhere]	ユーザー名とパスワードをホストコンピュータ上に維持されるリストと照合してユーザーの有効性を確認します。 この方法はネットワーク以外の接続の場合または環境がその他の認証方法をサポートしない場合に使います。この認証方法は最も安全性の低い方法です。 p.194の「pcAnywhereでの認証について」を参照してください。
[UNIX(PAM認証)]	Linuxホストコンピュータ上の認証サービスを使ってユーザーまたはグループの有効性を確認します。 このオプションはLinuxコンピュータでのみ利用可能です。
[Mac(Open Directory)]	Mac OS Xホストコンピュータ上の認証サービスを使ってユーザーまたはグループの有効性を確認します。 このオプションはMac OS Xコンピュータでのみ利用可能です。

- 6 ホストコンピュータとリモートコンピュータの間のデータストリームを暗号化するには [暗号化レベル] フィールドで次のいずれかのオプションを選択します。

[pcAnywhere エンコード]	第三者が簡単には解読できないように数学アルゴリズムを使ってデータをスクランブルします。
[対称]	暗号化キーを使ってデータのエンコードとデコードをします。 セキュリティと処理速度の必要性に最適の対称キー暗号化アルゴリズムとキー長を選択できます。

p.207 の「[暗号化を使ったデータ保護](#)」を参照してください。

- 7 リモート制御セッションの終了後にホストを中止するには [リモートセッションの終了後に簡易ホストをキャンセルする] にチェックマークを付けます。

セッションの終了後にホストを中止しない場合、オペレーティングシステムを再起動するまでホストは引き続き実行されます。

- 8 リモートユーザーが接続を試みたときにホストユーザーに通知するには [接続時の確認] にチェックマークを付けてからホストユーザーがメッセージに応答するまでの秒数を選択します。

指定した秒数を過ぎると接続は中止されます。

- 9 接続にシリアル番号を割り当ててホストを保護するには [シリアル ID を割り当ててホスト接続を限定する] にチェックマークを付けてから使いたいシリアル番号を入力します。

シリアル ID がホスト設定に埋め込まれます。シリアル ID は 0 から 4,294,967,296 までの数値にする必要があります。

リモートユーザーはホストが接続を受け入れるように同じシリアル ID をリモート設定に埋め込む必要があります。

詳しくは『Symantec pcAnywhere 管理者ガイド』を参照してください。

- 10 Symantec pcAnywhere Access Server を実行しているコンピュータにホストを連結する場合は、[pcAnywhere Access Server に連結] にチェックマークを付けます。

このオプションを選択した場合は、アクセスサーバーに接続するための情報をウィザードの後続の手順で入力します。

- 11 [次へ] をクリックします。

- 12** **pcAnywhere** の認証を使う場合は、ホストコンピュータへの接続の有効性を確認するためのログイン信用証明を入力してから[次へ]をクリックします。

このパネルは **pcAnywhere** 認証を選択した場合にのみ表示されます。

- 13** ホストコンピュータのホストライセンスがあることを確認するために[対象になるコンピュータごとのホストライセンスがあります]にチェックマークを付けます。

操作を続行するには接続先コンピュータのホストライセンスがあることを確認する必要があります。ホストライセンスがない場合はシマンテックストアのリンクをクリックして購入してください。

- 14** この設定を実行可能ファイルとして保存して後で配備に使えるようにするには次のいずれかを選択します。

[電子メールを送信]

コンピュータ上でデフォルトの電子メールプログラムを開きます。

このオプションを使うには電子メールプログラムが **MAPI** (**Messaging Application Programming Interface** の略)をサポートする必要があります。

[ディスクに保存]

ホスト設定を自己解凍パッケージとして作成し保存するためのファイル名と場所を選択できます。

- 15** 設定を保存し配備を開始するために[完了]をクリックします。

- 16** 要求メッセージが表示されたら呼び出し側のログイン信用証明を入力します。

Linux と Mac OS X 用の配備セキュリティオプションの設定

Symantec pcAnywhere は SSH™ (Secure Shell™ の略)を使って Linux と Mac OS X 用の pcAnywhere ホストを配備し、配備中に認証のためのユーザー信用証明を保全します。Symantec pcAnywhere は SSH バージョン 1 と SSH バージョン 2 をサポートします。

Symantec pcAnywhere はホストの配備を暗号化するために SSH バージョン 2 を使えるかどうかを最初に試します。ホストコンピュータが SSH バージョン 2 をサポートしていない場合、pcAnywhere は SSH バージョン 1 を使います。Linux と Mac OS X 用の配備セキュリティオプションの設定時に SSH バージョン 1 を使わないように pcAnywhere を設定することもできます。

ホストコンピュータがいずれのバージョンの SSH もサポートしない場合には Telnet を使ってホストを配備できます。Telnet を使うように pcAnywhere を設定する場合、ユーザー信用証明を送信する前に確認メッセージを表示するように pcAnywhere を設定することもできます。pcAnywhere が Telnet を使ってホストを配備するときにこのメッセージでユーザーに通知します。

メモ: Telnet はユーザー信用証明を暗号化しません。Telnet を使ってホストを配備するのは、いずれのバージョンの SSH もサポートされていない場合のみにしてください。これは最も安全性の低い方法です。

ホスト配備セッションはログファイルに記録できます。ログの場所とファイル名を選択します。

Linux と Mac OS X 用の配備セキュリティオプションを設定するには

- 1 拡張表示の左のナビゲーションバーの[pcAnywhere マネージャ]で[クイック配備接続]をクリックします。
- 2 右ペインで[拡張]をクリックします。
- 3 SSH バージョン 2 をサポートしていないコンピュータへの配備を許可する場合は、[Linux や Mac OS 固有の配備オプション]で[SSH バージョン 1 の使用を許可(SSH バージョン 2 がサポート外の場合のみ)]にチェックマークを付けます。

このオプションは SSH バージョン 2 がホストコンピュータでサポートされていない場合に適用されます。

- 4 ホストコンピュータがどのバージョンの SSH もサポートしていない場合に Telnet を使うには[Telnet の使用を許可(SSH がサポート外の場合のみ)]にチェックマークを付けます。
- 5 pcAnywhere が Telnet を使ってユーザー信用証明を送信する前に確認メッセージを表示するには[配備に Telnet を使う前に確認を表示する]にチェックマークを付けます。

このオプションは[Telnet の使用を許可(SSH がサポート外の場合のみ)]を選択した場合にのみ利用できます。

- 6 配備セッションのログを作成するには[クイック配備セッションのログ記録を有効にする]にチェックマークを付けます。

[使うファイル名]フィールドにパスとファイル名を入力します。

- 7 [OK]をクリックします。

クイック配備接続機能を使ったホストへの再接続について

クイック配備接続のホストプロパティの設定時に、接続終了後に簡易ホストを中止するかどうかを選択します。簡易ホストを中止する場合、クイック配備接続を使って別のホストを配備してから接続できます。ホストを引き続き実行したままにする場合、クイック配備接続を使ってそのホストに再接続できます。

p.108 の「[クイック接続を使った別のコンピュータへの接続](#)」を参照してください。

ホストへの再接続時にはホストに設定済みの認証の種類でログオンする必要があります。たとえば、**Windows NT** 認証を使うように設定されたホストに再接続するには **Windows NT** 認証の信用証明を入力する必要があります。

Windows 簡易ホストの場合、リモートコンピュータの暗号化レベルがホストに設定済みの暗号化レベルと異なる場合、**pcAnywhere** は暗号化レベルが高いコンピュータの設定を低いほうのコンピュータに合わせて自動的に下げます。たとえば、ホストの暗号化レベルが **pcAnywhere** エンコードに設定されているときにリモートの暗号化レベルが対称暗号化に設定されている場合、**pcAnywhere** はリモートの暗号化レベルを **pcAnywhere** エンコードに自動的に下げます。**Windows** 完全版ホストの場合は、**Mac** と **Linux** の簡易ホストと同様に暗号化レベルが上げられます。

Symantec pcAnywhere ではホストとリモートが低い暗号化レベルを使っているときに接続を拒否することもできます。アルゴリズムが異なる場合に暗号化を拒否することもできます。

クイック配備接続のホストプロパティの編集

Windows、**Linux**、**Mac OS X** 用のクイック配備接続のホスト設定はクイック配備接続リモート制御セッションをサポートするのに必要な最小限の設定を含みます。クイック配備接続ホストを初めて使うために設定した後は、このデフォルト設定が今後のクイック配備接続セッションで使われます。**Symantec pcAnywhere** では設定ウィザードを使ってこの設定を編集できます。

p.130 の「[クイック配備接続経由の Windows 簡易ホストの設定](#)」を参照してください。

p.134 の「[配備用の Linux ホストまたは Mac OS X の設定](#)」を参照してください。

クイック配備接続のホストプロパティを編集するには

- 1 拡張表示の左のナビゲーションバーの「**pcAnywhere マネージャ**」で「クイック配備接続」をクリックします。
- 2 左ペインの「動作」で次のいずれかをクリックします。
 - 「**Windows の設定**」
 - 「**Linux の設定**」
 - 「**Mac OS X の設定**」

設定を変更するには画面の指示に従って操作します。

Windows 復元環境での pcAnywhere の働き

Windows 用のクイック配備接続ホストは **Microsoft Windows** ブリインストール環境 (**WinPE**) をサポートします。システムの起動時に自己解凍実行可能ファイルから簡易ホストを起動するブリインストール環境を構築できます。ブリインストール環境が起動するとホストの実行が自動的に開始されます。このホストにリモート接続してイメージ処理やディスク回復などの保守と修復を実行できます。

WinPE について詳しくは **Microsoft** のマニュアルを参照してください。

コンピュータとサーバーのリモートサポート

この章では以下の項目について説明しています。

- [Symantec pcAnywhere リモート管理ツールについて](#)
- [リモート管理のための ユーザー権限の必要条件](#)
- [リモート管理セッションを開始する方法](#)
- [リモート管理セッション中にできること](#)

Symantec pcAnywhere リモート管理ツールについて

リモート接続を介してコンピュータの問題をすみやかに解消するために Symantec pcAnywhere のリモート管理ツールはよく使う管理者ツールに簡単にアクセスできるようになっています。ホストコンピュータとリモートコンピュータの間で送信する必要があるのはデータのみであるためリモート管理セッションは完全なリモート制御セッションほど多くの帯域幅使いません。

メモ: リモート管理ツールを使うにはホストコンピュータとリモートコンピュータで pcAnywhere 11.x 以降を実行する必要があります。

リモート管理のための ユーザー権限の必要条件

一部のリモート管理タスクの実行にはホストコンピュータで管理者権限が必要です。ホストユーザーはユーザー名とパスワードを使ってコンピュータにログオンする必要があります。ホストコンピュータのパスワードが空白の場合、Symantec pcAnywhere はこのコンピュータへのリモート管理接続をサポートしません。

pcAnywhereでリモート管理タスクを選択すると、pcAnywhereの呼び出し側のログイン信用証明を要求するメッセージが表示されます。いったんこの信用証明の有効性が確認されると、ホストコンピュータのコンピュータ環境に応じてコンピュータまたはネットワークのログイン信用証明を要求するメッセージが表示されます。

リモート管理セッションを開始する方法

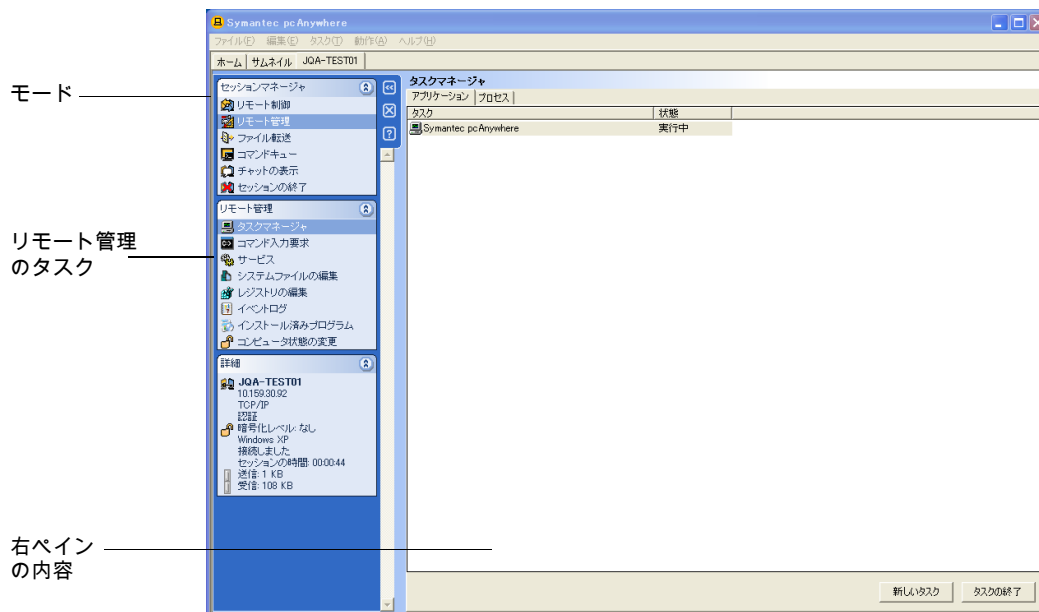
リモート管理接続はネットワーク接続とモデム接続を介してサポートされます。セッション中でないとほとんどのツールにアクセスできません。

Symantec pcAnywhere では次の方法でリモート管理セッションを開始できます。

- リモート接続項目の起動
- クイック接続を使う
- セッション中にリモート管理モードに切り替える

リモート制御モードのセッションマネージャウィンドウを図 6-1 に示します。

図 6-1 セッションマネージャウィンドウ



リモート管理セッション中にできること

リモート管理セッション中に実行できるタスクを表 6-1 に示します。

表 6-1 リモート管理タスク

タスク	説明
タスクマネージャ	接続先のホストコンピュータで実行中のアプリケーションと処理の表示と制御ができます。 p.144 の「タスクのリモート管理」を参照してください。
コマンド入力要求	ホストコンピュータ上で基本的な DOS コマンド (たとえば、ipconfig) を実行してテキストの結果をローカルに表示できます。 p.145 の「DOS コマンドの実行」を参照してください。
サービス	ホストコンピュータ上で実行中のすべてのサービスを表示できます。サービスの開始または停止、起動モードの変更、ログオンプロパティの変更、依存関係の表示ができます。 p.147 の「サービスの表示」を参照してください。
システムファイルの編集	テキストベースのシステムファイルの表示や編集と、変更のローカルまたはホストコンピュータへの保存ができます。 p.148 の「システムファイルの表示と編集」を参照してください。
レジストリの編集	ネットワーク接続またはモデム接続を介してホストコンピュータのシステムレジストリを遠隔操作で編集できます。 p.149 の「システムレジストリの表示と編集」を参照してください。
イベントログ	ホストコンピュータ上のアプリケーション、システム、セキュリティのイベントについての情報を表示してイベントログファイルを保存できます。 p.150 の「イベントログの表示」を参照してください。
インストール済みプログラム	ホストコンピュータにインストールされているプログラムとソフトウェア更新についての情報を表示し、必要に応じてそれらをアンインストールできます。 p.151 の「プログラムの表示とアンインストール」を参照してください。

タスク	説明
システム状態の変更	ホストコンピュータのロック、再起動、終了またはホストコンピュータにログオンしたユーザーのログオフを遠隔操作で実行できます。 また、セッション中でない 1 台以上のコンピュータにこれらのコマンドをクイック接続を使って送信することもできます。 p.151 の「リモート管理セッション中のホストコンピュータの再起動または終了」を参照してください。 p.152 の「リモート管理セッション中のコンピュータのロックまたはユーザーのログオフ」を参照してください。 p.154 の「1 台以上のコンピュータへのシステム 状態コマンドの送信」を参照してください。

タスクのリモート管理

タスクマネージャを使うと接続先のホストコンピュータで実行中のアプリケーションと処理の表示と制御ができます。この機能の働きは Windows タスクマネージャに似ており、コマンドがホストコンピュータ(たとえば、サポートを受けるお客様のコンピュータ)で実行される点が異なるだけです。結果はリモートコンピュータ(たとえば、ヘルプデスクのコンピュータ)の pcAnywhere セッションマネージャウィンドウに表示されます。

p.145 の「処理の状態の表示または変更」を参照してください。

プログラムの状態の表示または変更

タスクマネージャウィンドウの[アプリケーション]ページではホストコンピュータで実行中のプログラムの状態を表示できるほか、プログラムの起動と終了ができます。

プログラムの状態を表示または変更するには

- 1 セッションマネージャウィンドウの左のナビゲーションバーの[セッションマネージャ]で[リモート管理]をクリックします。
- 2 [リモート管理]で[タスクマネージャ]をクリックします。
- 3 プログラムの状態を変更するには、右ペインの[アプリケーション]ページで次のいずれかを選択します。

[新しいタスク]	プログラムまたはコマンドを起動できます。 このオプションの働きは Windows の[ファイル名を指定して実行]オプションに似ています。
[タスクの終了]	プログラムまたはコマンドを中止できます。

処理の状態の表示または変更

タスクマネージャウィンドウの[プロセス]ページではホストコンピュータで実行中の処理についての情報 (CPU とメモリの利用率など) を表示できます。また、処理の起動と終了、優先度レベルの設定も行えます。

処理を起動するには実行したい実行可能ファイルの正確なパスとファイル名を指定する必要があります。この機能はグラフィカルベースでないプログラムのみをサポートします。

処理の状態を表示または変更するには

- 1 セッションマネージャウィンドウの左のナビゲーションバーの[セッションマネージャ]で[リモート管理]をクリックします。
- 2 [リモート管理]で[タスクマネージャ]をクリックします。
- 3 処理の状態を変更するには右ペインの[プロセス]ページで処理を右クリックしてから次のいずれかを選択します。

[更新]	処理の状態を更新します。
[プロセスの終了]	応答しなくなったプログラムまたはコマンドを中止できます。
[優先度の設定]	処理の優先度を変更できます。

DOS コマンドの実行

コマンド入力要求機能を使うとホストコンピュータ上で基本的な DOS コマンド (たとえば、**ipconfig**) を実行してテキストベースの結果をローカルに表示できます。この機能は Windows のコマンド入力要求に似ています。ただし、グラフィカルベースのコマンドまたは画面表示に直接 BIOS 呼び出しを使うコマンド (たとえば、**telnet**) がサポートされない点が異なります。

一部の DOS コマンドは通常と動作が異なる場合があります。たとえば、**Exit** コマンドはコマンド入力要求ウィンドウを閉じるのではなくクリアして再起動します。編集コマンドはこのウィンドウではサポートされません。**Symantec pcAnywhere** は編集コマンドをトラップしてからシステムファイルの編集に切り替えるように要求するメッセージを表示します。システムファイルの編集に切り替えると、要求したファイルがシステムファイルの編集ウィンドウの右ペインに表示されます。

p.146 の「[除外リストの編集](#)」を参照してください。

DOS コマンドを実行するには

- 1 セッションマネージャウィンドウの左のナビゲーションバーの[セッションマネージャ]で[リモート管理]をクリックします。
- 2 [リモート管理]で[コマンド入力要求]をクリックします。
- 3 右ペインの[コマンド入力要求]で実行したいコマンドを入力します。

- 4 [Enter キー]をクリックします。
- 5 コマンドセッションを再開するには[新規]をクリックします。
- 6 実行中のコマンドを停止するには[Ctrl+Break]をクリックします。

除外リストの編集

Symantec pcAnywhere はサポート対象外のコマンドのリストを除外リストに維持します。このリストにあるコマンドを入力した場合、そのコマンドがトラップされてからモードの切り替えを要求するメッセージが表示されます。編集コマンドを入力した場合、システムファイルの編集の選択を要求するメッセージが表示されてから、要求したファイルがシステムファイルの編集ウィンドウの右ペインに表示されます。除外リストの他のコマンドの場合はリモート制御モードへの切り替えを要求するメッセージが表示されます。

このリストにないサポート対象外のコマンドを入力した場合、コマンド入力要求の反応が鈍くなることがあります。Symantec pcAnywhere ではコマンドを追加または削除して除外リストを管理できます。これにはカスタムキーマッピング、実行可能コマンドなどのユーザー定義のコマンドが含まれます。

セッション中に除外リストを編集するには

- 1 セッションマネージャウィンドウの左のナビゲーションバーの[セッションマネージャ]で[リモート管理]をクリックします。
- 2 [リモート管理]で[コマンド入力要求]をクリックします。
- 3 右ペインで[除外リスト]をクリックします。
- 4 コマンド入力要求除外リストウィンドウで次のいずれかの操作をします。
 - コマンドを追加するには[除外するコマンド]でコマンドを入力してから[追加]をクリックします。
 - コマンドを削除するには[除外するコマンドのリスト]でコマンドを選択してから[削除]をクリックします。
- 5 [OK]をクリックします。

セッション中でないときに除外リストを編集するには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウの編集メニューで[環境設定]を選択します。
Windows Vista/Server 2008 では、この処理の承認を求めるメッセージが表示される場合があります。組み込み管理者アカウントにログオンしている場合、このメッセージは表示されません。
- 2 pcAnywhere オプションウィンドウの[セッションマネージャ]ページの[リモート管理]で[編集]をクリックします。

このページを見つけるには pcAnywhere オプションウィンドウで左右の矢印をクリックしてページをスクロールします。

- 3 コマンド入力要求除外リストウィンドウで次のいずれかの操作をします。
 - コマンドを追加するには[除外するコマンド]でコマンドを入力してから[追加]をクリックします。
 - コマンドを削除するには[除外するコマンドのリスト]でコマンドを選択してから[削除]をクリックします。
- 4 [OK]をクリックします。

サービスの表示

サービス機能を使うとホストコンピュータで実行中のすべてのサービスを表示できます。この機能は **Windows** のサービス管理ツールに似ています。ただし、タスクが遠隔操作によってホストコンピュータ上で実行される点が異なります。

サービスの開始または停止、起動モードの変更、ログオンプロパティの変更、依存関係の表示ができます。管理者権限のユーザーとしてホストコンピュータにログオンする必要があります。

サービスの開始または停止

サービスの開始、停止、一時停止、再開するには次の操作手順に従います。

詳しくは **Windows** のマニュアルを参照してください。

サービスを開始または停止するには

- 1 セッションマネージャウィンドウの左のナビゲーションバーの[セッションマネージャ]で[リモート管理]をクリックします。
- 2 [リモート管理]で[サービス]をクリックします。
- 3 右ペインで変更したいサービスを右クリックしてから次のいずれかを選択します。
 - [サービスの開始]
 - [サービスの停止]
 - [サービスの一時停止]
 - [サービスの再開]

サービスの起動モードの変更

サービスの起動モードを自動または手動に変更するか、サービスを無効にするには次の操作手順に従います。サービスを停止するか無効にする前に依存関係を検査して、そのサービスに他のサービスが依存しているかどうかを確認します。

p.148 の「[サービスの依存関係の表示](#)」を参照してください。

詳しくは **Windows** のマニュアルを参照してください。

サービスの起動モードを変更するには

- 1 セッションマネージャウィンドウの左のナビゲーションバーの[セッションマネージャ]で[リモート管理]をクリックします。
- 2 [リモート管理]で[サービス]をクリックします。
- 3 右ペインで変更したいサービスを右クリックしてから起動モードを選択します。

サービスのログオンプロパティの変更

デフォルトではオペレーティングシステムはほとんどのサービスをローカルシステムアカウントに割り当てます。そうする代わりに特定のユーザーアカウントにサービスを再割り当てできます。

詳しくは Windows のマニュアルを参照してください。

サービスのログオンプロパティを変更するには

- 1 セッションマネージャウィンドウの左のナビゲーションバーの[セッションマネージャ]で[リモート管理]をクリックします。
- 2 [リモート管理]で[サービス]をクリックします。
- 3 右ペインで変更したいサービスをダブルクリックします。
- 4 プロパティウィンドウの[ログオン]ページで使いたいログオンプロパティを設定します。
- 5 [OK]をクリックします。

サービスの依存関係の表示

サービスを停止するか無効にする前に依存関係を検査して、そのサービスに他のサービスが依存しているかどうかを確認します。

サービスの依存関係を表示するには

- 1 セッションマネージャウィンドウの左のナビゲーションバーの[セッションマネージャ]で[リモート管理]をクリックします。
- 2 [リモート管理]で[サービス]をクリックします。
- 3 右ペインで変更したいサービスをダブルクリックします。

プロパティウィンドウの[依存関係]ページに、サービスの状態を変更すると影響を受ける可能性のあるサービスについての情報が表示されます。

システムファイルの表示と編集

システムファイルの編集機能を使うとテキストベースのシステムファイル(たとえば、Boot.ini)の表示や編集と、ローカルまたはホストコンピュータへの変更の保存ができます。コン

ピュータにインストール済みの電子メールプログラムが MAPI をサポートする場合、ファイルを他のユーザーに電子メールで転送することもできます。MAPI 対応の電子メールプログラムの例には **Microsoft Outlook** があります。MAPI 対応でない電子メールプログラムはこの機能をサポートしない場合があります。

システムファイルの編集ウィンドウでの作業中は **Symantec pcAnywhere** はシステムファイルをローカルコンピュータのメモリに格納します。リモート管理セッションの終了時にファイルの保存を要求するメッセージが表示されます。ファイルが読み取り専用の場合、この属性を上書きしたいかどうかを確認するメッセージが表示されます。ファイルの保存後に読み取り専用属性が再設定されます。

システムファイルを表示して編集するには

- 1 セッションマネージャウィンドウの左のナビゲーションバーの[セッションマネージャ]で[リモート管理]をクリックします。
- 2 [リモート管理]で[システムファイルの編集]をクリックします。
- 3 右ペインのウィンドウの下部のテキストボックスで編集したいファイルの絶対パスとファイル名を入力します。

次に例を示します。

C:\boot.ini

- 4 [開く]をクリックします。

ファイルの内容がウィンドウの上部に表示されます。**Symantec pcAnywhere** はシステムファイルの内容をリモートコンピュータにコピーし、そこでファイルがメモリに格納されます。システムファイルが大きい場合、この処理にある程度時間がかかることがあります。

- 5 次のオプションのいずれかを選択します。

[ホストに保存]	ファイルをホストコンピュータ、つまりローカルコンピュータの接続先のコンピュータに保存します。
[ローカルに保存]	ファイルをローカルコンピュータ、つまりホストへの接続元のコンピュータに保存します。
[電子メールを送信]	ファイルを保存して電子メールで他のユーザーに転送します。 コンピュータが MAPI をサポートする必要があります。

システムレジストリの表示と編集

レジストリエディタを使うとネットワーク接続またはモデム接続を介してホストコンピュータのシステムレジストリを遠隔操作で編集できます。この機能は **Windows** のレジストリエディ

タに似ています。ただし、個々のレジストリキーに対するセキュリティ許可の表示と編集ができない点が異なります。

警告: このツールではホストコンピュータのシステムレジストリを編集できます。不正な変更を加えるとシステム損傷の結果になる可能性があります。このような操作を実行する前にホストコンピュータのレジストリのバックアップを作成してください。

システムレジストリを表示して編集するには

- 1 セッションマネージャウィンドウの左のナビゲーションバーの[セッションマネージャ]で[リモート管理]をクリックします。

- 2 [リモート管理]で[レジストリの編集]をクリックします。

右ペインに接続先のコンピュータのレジストリが表示されます。

レジストリエディタの使い方について詳しくは **Windows** のマニュアルを参照してください。

イベントログの表示

イベントログ機能を使うとホストコンピュータ上のアプリケーション、システム、セキュリティのイベントについての情報を表示できます。この機能は **Windows** のイベントログに似ています。ただし、タスクが遠隔操作によってホストコンピュータ上で実行される点が異なります。

Symantec pcAnywhere ではイベントログを表示してイベントログファイルをカンマ区切り(CSV)形式のファイルにローカルに保存できます。コンピュータにインストール済みの電子メールプログラムが **MAPI** をサポートする場合、ファイルを他のユーザーに電子メールで転送することもできます。**MAPI** 対応の電子メールプログラムの例には **Microsoft Outlook** があります。**MAPI** 対応でない電子メールプログラムはこの機能をサポートしない場合があります。

イベントのフィルタ処理は見たいイベントの種類のみを表示するために使います。たとえば、ログをフィルタ処理して警告メッセージのみを表示できます。ウィンドウに表示される情報の量が減るので、必要な情報をすばやく見つけるのに役立ちます。

イベントログを表示するには

- 1 セッションマネージャウィンドウの左のナビゲーションバーの[セッションマネージャ]で[リモート管理]をクリックします。

- 2 [リモート管理]で[イベントログ]をクリックします。

- 3 右ペインのウィンドウの下部のリストボックスで表示したいログを選択します。

デフォルトではシステムログが表示されます。

- 4 特定のイベントについての詳しい情報を表示するにはそのイベントをダブルクリックします。
- 5 次のオプションのいずれかを選択します。

[ローカルに保存]	ファイルをリモートコンピュータに保存します。
[電子メールを送信]	ファイルを保存して電子メールで他のユーザーに転送します。

コンピュータが **MAPI** をサポートする必要があります。

イベントをフィルタ処理するには

- 1 セッションマネージャウィンドウの左のナビゲーションバーの[セッションマネージャ]で[リモート管理]をクリックします。
- 2 [リモート管理]で[イベントログ]をクリックします。
- 3 右ペインで[フィルタ]をクリックします。
- 4 イベントフィルタウィンドウで表示したい情報の種類のみを選択します。
- 5 [OK]をクリックします。

プログラムの表示とアンインストール

インストール済みプログラム機能を使うとホストコンピュータにインストールされているプログラムとソフトウェアの更新版についての情報を表示し、必要に応じてそれらをアンインストールできます。一部のプログラムはアンインストール処理を完了するためにユーザーとの対話(たとえば、開いているプログラムを閉じてデータを保存する操作)を必要とします。プログラムが正常にアンインストールされたことを確認するにはリモート制御モードに切り替えてください。

プログラムを表示してアンインストールするには

- 1 セッションマネージャウィンドウの左のナビゲーションバーの[セッションマネージャ]で[リモート管理]をクリックします。
- 2 [リモート管理]で[インストール済みプログラム]をクリックします。
- 3 プログラムをアンインストールするには右ペインで削除したいプログラムを選択してから[アンインストール]をクリックします。

リモート管理セッション中のホストコンピュータの再起動または終了

Symantec pcAnywhere ではリモート管理セッション中にホストコンピュータを遠隔操作で再起動または終了できます。リモート管理セッションはコマンドの送信後に終了します。

Symantec pcAnywhere ではデータを保存するオプションと実行しようとしている処理についてホストユーザーに通知するオプションを設定できます。再起動コマンドと終了コマ

ンドの場合は、ユーザーに開いているプログラムを閉じて作業を保存するように要求するメッセージを表示できます。作業を保存せずに強制的に開いているプログラムを閉じるように **pcAnywhere** を設定することもできます。これで **pcAnywhere** はタスクを終了するためにユーザーとの対話（たとえば、文書の保存）が必要になるプログラムを閉じることができます。一部のプログラムは強制終了をサポートしません。

このコマンドは **Windows XP** のユーザーの簡易切り替えをサポートしません。

リモート管理セッション中にホストコンピュータを再起動または終了するには

- 1 セッションマネージャウィンドウの左のナビゲーションバーの[セッションマネージャ]で[リモート管理]をクリックします。
- 2 [リモート管理]で[システム状態の変更]をクリックします。
- 3 右ペインの[実行する動作]で次のいずれかを選択します。
 - [コンピュータの再起動]
 - [コンピュータを終了]
- 4 [オプション]で次のいずれかを選択します。

[ユーザーに確認]	実行しようとしている処理についてユーザーに通知します。 ユーザーが確認の要求に応答するまでの秒数を選択します。 時間切れ秒数が経過したら処理は自動的に実行されます。
[ユーザーによる中止を許可する]	ホストユーザーに確認の要求を送信します。 このオプションは[ユーザーに確認]を選択した場合にのみ利用できます。
[表示するメッセージ]	ホストユーザーに送信したいメッセージを入力できます。 このオプションは[ユーザーに確認]を選択した場合にのみ利用できます。
[データを保存しないで開いているプログラムを閉じる]	実行中のすべてのプログラムを強制的に閉じます。 ユーザーの未保存データは消失します。

- 5 [送信]をクリックします。

リモート管理セッション中のコンピュータのロックまたはユーザーのログオフ

Symantec pcAnywhere ではリモート管理セッション中にホストコンピュータのロックまたはホストコンピュータにログオンしたユーザーのログオフを遠隔操作で実行できます。リモート管理セッションはコマンドの送信後に終了します。

データを保存するオプションと実行しようとしている処理についてホストユーザーに通知するオプションを設定できます。ログオフコマンドの場合はユーザーに開いているプログラムを閉じて作業を保存するように要求するメッセージを表示できます。作業を保存せずに強制的に開いているプログラムを閉じるように **pcAnywhere** を設定することもできます。これで **pcAnywhere** はタスクを終了するためにユーザーとの対話 (たとえば、文書の保存) が必要になるプログラムを閉じることができます。一部のプログラムは強制終了をサポートしません。

コンピュータをロックするオプションは **Windows Vista/XP/2003/Server 2008/2000** のみ利用可能です。セキュリティを強化するためにホストユーザーはスクリーンセーバーをパスワード保護できます。

このコマンドは **Windows XP** のユーザーの簡易切り替えをサポートしません。

リモート管理セッション中にコンピュータをロックするかユーザーをログオフするには

- 1 セッションマネージャウィンドウの左のナビゲーションバーの[セッションマネージャ]で[リモート管理]をクリックします。
- 2 [リモート管理]で[システム状態の変更]をクリックします。
- 3 右ペインの[実行する動作]で次のいずれかを選択します。
 - [コンピュータをロック] (**Windows 2000、Server 2003、Server 2008、XP、Vista**のみ)
 - [ユーザーをログオフ]
- 4 [オプション]で次のいずれかを選択します。

[ユーザーに確認]	実行しようとしている処理についてユーザーに通知します。 ユーザーが確認の要求に応答するまでの秒数を選択します。 時間切れ秒数が経過したら処理は自動的に実行されます。
[ユーザーによる中止を許可する]	ホストユーザーに確認の要求を送信します。 このオプションは[ユーザーに確認]を選択した場合にのみ利用できます。
[表示するメッセージ]	ホストユーザーに送信したいメッセージを入力できます。 このオプションは[ユーザーに確認]を選択した場合にのみ利用できます。
[データを保存しないで開いているプログラムを閉じる]	実行中のすべてのプログラムを強制的に閉じます。 ユーザーの未保存データは消失します。

- 5 [送信]をクリックします。

1 台以上のコンピュータへのシステム 状態コマンドの送信

Symantec pcAnywhere では完全リモートセッションを開始しなくてもコンピュータの終了、コンピュータの再起動、ユーザーのログオフ、コンピュータのロックの各コマンドを 1 台以上のコンピュータに送信できます。いずれかのコマンドを選択すると、ホストコンピュータに接続するために呼び出し側のログイン信用証明と設定情報を要求するメッセージが表示されます。ホストコンピュータが Windows Vista/XP/2003/Server 2008/2000 コンピュータの場合は、コンピュータログイン信用証明を要求するメッセージがオペレーティングシステムからも表示されることがあります。

コンピュータをロックするオプションは Windows Vista/XP/2003/Server 2008/2000 でのみ利用可能です。セキュリティを強化するためにホストユーザーはスクリーンセーバーをパスワード保護できます。

このコマンドは Windows XP のユーザーの簡易切り替えをサポートしません。

1 台以上のコンピュータにシステム状態コマンドを送信するには

- 1 pcAnywhere マネージャウィンドウの左のナビゲーションバーで次のいずれかを選択します。
 - [リモート]
 - [クイック接続]
 - [お気に入り]
 - [履歴]
- 2 右ペインでコマンドの送信先にしたい 1 台以上のホストコンピュータまたはホストコンピュータを表す接続項目ファイルを選択します。
- 3 ファイルメニューで[コマンドを送信]を選択してから次のいずれかを選択します。
 - [シャットダウン]
 - [再起動]
 - [ログオフ]
 - [コンピュータをロック]

実行したいコマンドの選択後にリモート管理のプロパティウィンドウが開きます。このウィンドウでログオン情報と終了オプションを設定できます。

リモート管理のホストログイン信用証明の設定

Symantec pcAnywhere のすべてのホストセッションにはユーザー名とパスワードが必要です。リモート管理コマンドを pcAnywhere マネージャから 1 台以上のコンピュータに送信するにはホストコンピュータにログオンするために必要な pcAnywhere の呼び出し側の信用証明を指定する必要があります。この情報を要求するメッセージは自動的に表示されます。

リモート管理のプロパティウィンドウで指定する呼び出し側のログイン信用証明は選択した各コンピュータに送信されます。ログイン信用証明を自動的に送信するようにリモート接続項目がすでに設定済みの場合、事前設定済みのログオン情報を上書きするように **pcAnywhere** を設定できます。

リモート管理のホストログイン信用証明を設定するには

- 1 リモート管理のプロパティウィンドウの[ホストログイン信用証明]ページでログイン名を入力します。

このウィンドウはリモート管理コマンドの選択後に自動的に表示されます。

- 2 パスワードを入力します。
- 3 **Windows Vista/XP/2003/Server 2008/2000** ホストに接続する場合、ユーザーがドメインに割り当て済みであれば次の形式でドメイン名を入力します。

<ドメイン>¥<ユーザー>

- 4 リモート接続項目に事前設定済みのログイン信用証明を上書きするには[リモート項目で設定したログイン設定を無視する]にチェックマークを付けます。

- 5 [OK]をクリックします。

- 6 [ホストログイン]ダイアログボックスでコンピュータログイン信用証明を入力します。

オペレーティングシステムはユーザー権限に基づいて実行できるタスクを限定します。

- 7 [OK]をクリックします。

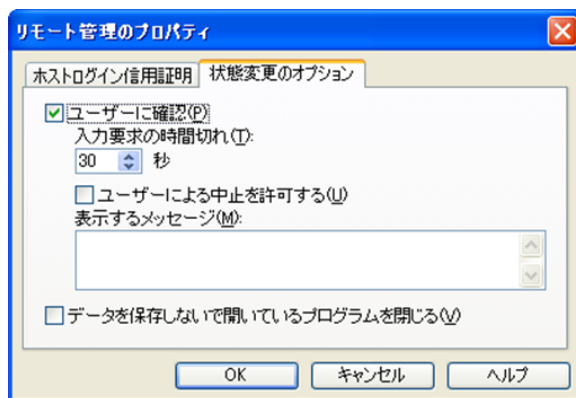
リモート管理の終了オプションの設定

ホストコンピュータを終了するコマンドを送信する場合、**pcAnywhere** ではデータを保存するオプションと実行しようとしている処理についてホストユーザーに通知するオプションを設定できます。開いているプログラムを閉じて作業を保存するようにユーザーに要求するメッセージを表示できます。作業を保存せずに強制的に開いているプログラムを閉じるように **pcAnywhere** を設定することもできます。これで **pcAnywhere** はタスクを終了するためにユーザーとの対話(たとえば、文書の保存)が必要になるプログラムを閉じることができます。一部のプログラムは強制終了をサポートしません。

リモート管理の終了オプションを設定するには

- 1 リモート管理のプロパティウィンドウの[状態変更のオプション]ページで必要に応じて次のオプションを選択します。

[ユーザーに確認]	実行しようとしている処理についてユーザーに通知します。 ユーザーが確認の要求に応答するまでの秒数を選択します。 時間切れ秒数が経過したら処理は自動的に実行されます。
[ユーザーによる中止を許可する]	ホストユーザーに確認の要求を送信します。 このオプションは[ユーザーに確認]を選択した場合にのみ利用できます。
[表示するメッセージ]	ホストユーザーに送信したいメッセージを入力できます。 このオプションは[ユーザーに確認]を選択した場合にのみ利用できます。
[データを保存しないで開いているプログラムを閉じる]	実行中のすべてのプログラムを強制的に閉じます。 ユーザーの未保存データは消失します。



- 2 [OK]をクリックします。

リモート管理セッションの 終了

セッションを終了すると Symantec pcAnywhere のメインウィンドウに戻ります。ホスト接続項目に設定されたセッションの終了オプションにより、ホストが別の接続を待つか中止されるかが決まります。ホスト接続項目に設定された呼び出し側の権限により、リモートユーザーによるホストの中止が許可されるかどうかが決まります。

リモート管理セッションを終了するには

- 1 セッションマネージャウィンドウの左のナビゲーションバーの[セッションマネージャ]で[セッションの終了]をクリックします。
- 2 確認ウィンドウで[はい]をクリックします。

ホストコンピュータを再起動する権限がある場合、コンピュータを再起動することによりホストが他の接続を受け入れるか中止されるかを選択できます。

ファイルとフォルダの転送

この章では以下の項目について説明しています。

- [pcAnywhere ファイル転送について](#)
- [ファイル転送設定について](#)
- [ファイル転送セッションを開始する方法](#)
- [同期とクローンの作成について](#)

pcAnywhere ファイル転送について

pcAnywhere ファイル転送ウィンドウを使うと、必要なファイルやフォルダへの移動、別のコンピュータとの間のファイルやフォルダの転送、ファイルやフォルダの内容の同期をすみやかに行なうことができます。ファイルはバックグラウンドで転送されるため他のファイルの操作またはキュー処理を続行できます。

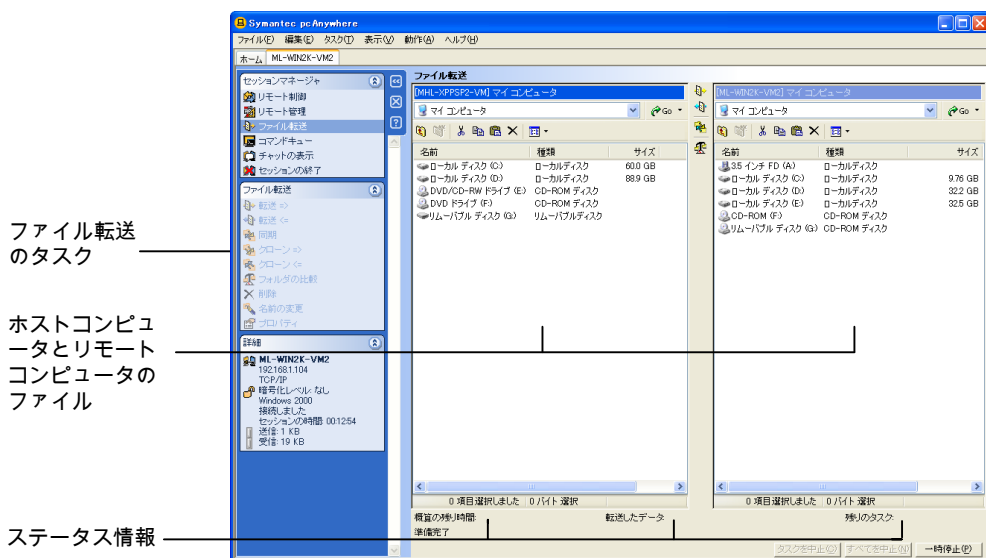
ファイル転送ウィンドウにはセッション中でないとアクセスできません。ファイル転送ウィンドウを初めて開いたときはマイコンピュータの下でのファイルとフォルダのリストが表示されます。デフォルト設定を編集することにより最初のファイル転送場所を別に指定したりその他のファイル転送設定を指定したりできます。

p.164 の「[ファイル転送設定について](#)」を参照してください。

ファイル転送ウィンドウでは左ペインに接続元コンピュータのファイルとフォルダのリストが表示されます。右ペインには接続先コンピュータのファイルとフォルダのリストが表示されます。左右のペインの間にアクションバーがあり、よく実行するタスクのショートカットボタンが並んでいます。

ファイル転送ウィンドウを図 7-1 に示します。

図 7-1 ファイル転送ウィンドウ



ファイル転送ウィンドウの働きはWindowsエクスプローラに似ています。ファイルを名前、種類、サイズ、日付でソートできます。

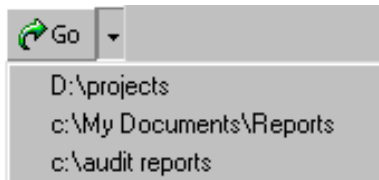
最近アクセスしたファイルの場所への移動

Symantec pcAnywhere は最近使ったパス名を[Go]リストに保存してすばやくアクセスできるようにします。これは動的なリストです。最後に入力したパス名が先頭に表示され、新しいパス名を入力するたびに古いパス名から順に消えます。別々の[Go]リストをホストコンピュータとリモートコンピュータに維持できます。

メモ: この機能を使うには両方のコンピュータが pcAnywhere バージョン 10.0 以降を実行している必要があります。

最近アクセスしたファイルの場所に移動するには

- ◆ ファイル転送ウィンドウの左右のペインのいずれかで[Go]の右にある下矢印をクリックしてからリストでエントリを選択します。



フォルダの中にあるすべてのファイルへのタグ付け

この機能はフォルダの中にあるすべてのファイルをすばやく選択して転送するために使います。

フォルダの中にあるすべてのファイルにタグを付けるには

- 1 ファイル転送ウィンドウで必要なファイルが入っているフォルダを開きます。
- 2 編集メニューで[タグ]、[ファイル]の順に選択します。

フォルダの中にあるすべてのフォルダへのタグ付け

この機能はフォルダの中にあるすべてのフォルダをすばやく選択して転送、比較、同期をするために使います。

フォルダの中にあるすべてのフォルダにタグを付けるには

- 1 ファイル転送ウィンドウで必要なフォルダが入っているフォルダに移動します。
- 2 編集メニューで[タグ]、[フォルダ]の順に選択します。

ワイルドカード文字を使ったファイルへのタグ付け

フォルダの中にある特定のファイルのみを選択したい場合、または正確なファイル名がわからない場合には、ワイルドカード文字を使って検索基準を満たすファイルを選択できます。使えるワイルドカード文字は*、?、|です。

ワイルドカードパターンがリストに表示されるので、よく使うパターンをこのリストで選択できます。異なる複数の種類のファイルに同時にタグを付けるためにワイルドカード文字列を入力できます。たとえば、.doc、.xls、.exe のすべてのファイルを検索する文字列を入力できます。

ワイルドカード文字を使ってファイルにタグを付けるには

- 1 ファイル転送ウィンドウで必要なファイルが入っているフォルダを開きます。
- 2 編集メニューで[タグ]、[タグ条件]の順に選択します。
- 3 タグウィンドウで[ワイルドカードパターンで項目にタグ付け]にチェックマークを付けます。

- 4 使いたいワイルドカードパターンを入力または選択します。
ワイルドカード文字列を入力する場合、カンマで区切ってエントリを列記します。
次に例を示します。

*.doc

*.doc, *.xls, *.exe

*.htm, *.html
- 5 [OK]をクリックします。

修正日によるファイルへのタグ付け

前回の修正日でファイルにタグを付け、最近使ったファイルをすばやく検索できます。

修正日でファイルにタグを付けるには

- 1 ファイル転送ウィンドウで必要なファイルが入っているフォルダを開きます。
- 2 編集メニューで[タグ]、[タグ条件]の順に選択します。
- 3 タグウィンドウで[前回の修正日で項目にタグ付け]にチェックマークを付けます。
- 4 検索基準にしたい日数を入力します。
- 5 [OK]をクリックします。

ファイルとフォルダの管理

ホストコンピュータまたはリモートコンピュータでファイルとフォルダの基本管理タスク(ファイルまたはフォルダのコピー、移動、削除など)を実行できます。これらのタスクは自動的にコマンドキューに追加されます。コマンドキューファイルを保存し、後でタスクの自動化のために使えます。

p.171 の「[コマンドキューについて](#)」を参照してください。

新しいフォルダの作成

ホストまたはリモートコンピュータ上に新しいフォルダを作成できます。

新しいフォルダを作成するには

- 1 ファイル転送ウィンドウで新しいフォルダを作成したいフォルダまたはドライブを選択します。
- 2 ファイルメニューで[新しいフォルダ]を選択します。
- 3 新しいフォルダの名前を入力します。
- 4 Enter キーを押します。

ファイルまたはフォルダの削除

ホストとリモートのどちらのコンピュータでもファイルやフォルダを削除できます。

ファイルまたはフォルダを削除するには

- 1 ファイル転送ウィンドウで削除したいファイルまたはフォルダを選択します。
- 2 Del キーを押します。
- 3 確認ダイアログボックスで[はい]をクリックします。

ファイルまたはフォルダの名前の変更

ホストコンピュータとリモートコンピュータのいずれでもファイルやフォルダの名前を変更できます。

ファイルまたはフォルダの名前を変更するには

- 1 ファイル転送ウィンドウで名前を変更したいファイルまたはフォルダを選択します。
- 2 ファイルメニューで[名前の変更]を選択します。
- 3 新しい名前を入力します。
- 4 Enter キーを押します。

ファイルまたはフォルダのコピー

コンピュータ間でファイルまたはフォルダをコピーできます。

ファイルまたはフォルダをコピーするには

- 1 ファイル転送ウィンドウでコピーしたいファイルまたはフォルダを右クリックしてから[コピー]を選択します。
- 2 コピーしたい場所に移動します。
- 3 右クリックしてから[貼り付け]を選択します。
- 4 確認ダイアログボックスで[はい]をクリックします。

フォルダの比較

フォルダの比較機能を使うと、2 つのフォルダの内容がどの程度一致するかをすみやかに調べることができます。Symantec pcAnywhere はホストとリモートコンピュータのフォルダの内容を比較し、相違点を強調表示します。比較はフォルダレベルで実行されます。サブフォルダの内容を比較するには各サブフォルダを開いて比較する必要があります。

フォルダを比較するには

- 1 ファイル転送ウィンドウの左ペインで相手コンピュータのフォルダと比較したいフォルダを開きます。
- 2 右ペインで相手コンピュータのフォルダを開きます。
- 3 ナビゲーションバーの[ファイル転送]で[フォルダの比較]をクリックします。
- 4 [OK]をクリックします。

ファイル転送設定について

すべてのファイル転送セッションにデフォルトのファイル転送設定を指定することができます。また、セッション中にこの設定を変更することもできます。セッション中に加えた変更はそのセッションだけに影響します。

p.168 の「[セッション中のファイル転送設定の変更](#)」を参照してください。

開始場所の選択

Symantec pcAnywhere ではセッションの開始後にリモートコンピュータ上でファイル転送ウィンドウが開くデフォルトのフォルダを指定できます。ファイル転送ウィンドウは前回のファイル転送の場所で自動的に開きますが、開始場所は変更できます。指定した場所が存在しないか見つからない場合、ファイル転送ウィンドウはマイコンピュータで開きます。

ホストコンピュータの開始場所はリモートコンピュータの開始場所と同じです。場所が存在しない場合またはホストコンピュータ上で場所が見つからない場合、ファイル転送ウィンドウはホストコンピュータ上のマイコンピュータフォルダで開きます。

開始場所を選択するには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウの編集メニューで[環境設定]を選択します。

Windows Vista では、この処理の承認を求めるメッセージが表示される場合があります。組み込み管理者アカウントにログオンしている場合、このメッセージは表示されません。
- 2 pcAnywhere オプションウィンドウの[ファイル転送]ページの[最初のファイル転送場所]で次のいずれかを選択します。

[前回の場所] 前回のファイル転送の場所でファイル転送ウィンドウを開きます。

[指定したフォルダ] ファイル転送ウィンドウを開きたいフォルダを指定できます。

[参照]をクリックして適切なフォルダを選択します。

- 3 [OK]をクリックします。

上書きオプションの選択

古いファイルを新しいファイルで置き換える処理など、データ消失の結果になる可能性のある処理を実行する前には、デフォルトで **pcAnywhere** から確認を要求するメッセージが表示されます。自動ファイル転送を実行する予定で確認の要求に応答できない場合にはこの設定を変更してください。

上書きオプションを選択するには

- 1 **Symantec pcAnywhere** ウィンドウの編集メニューで[環境設定]を選択します。
- 2 **pcAnywhere** オプションウィンドウの[ファイル転送]ページで[設定]、[コピー先ファイルが存在する場合]の順にクリックし、宛先フォルダにすでに同じ名前のファイルが存在する場合に使用したい上書きオプションを選択します。

このページを見つけるには **pcAnywhere** オプションウィンドウで左右の矢印をクリックしてページをスクロールします。

- 3 [OK]をクリックします。

ファイル転送の処理効率の向上

Symantec pcAnywhere はファイル転送に最適な設定になっていますが、速度または処理効率にばらつきがある場合には設定を調べてください。

ファイル転送の処理効率を向上するには

- 1 **Symantec pcAnywhere** ウィンドウの編集メニューで[環境設定]を選択します。
- 2 **pcAnywhere** オプションウィンドウの[ファイル転送]ページの[設定]で次のいずれかを選択します。

[圧縮を使う]

転送中にファイルを圧縮します。

このオプションを選択すると **zip** ツールなどの方法で大きいテキストファイルを圧縮しなかった場合のファイル転送の速度を向上できます。

[SpeedSend を使う]

転送元と転送先のフォルダでファイル名が重複するファイルの内容を比較し、転送元ファイルの異なる部分のみ転送します。

[エラーメッセージを抑止する]

処理できないファイルを自動的にスキップします。

エラーメッセージは生成されないため、ユーザーの操作は必要ありません。

- 3 [OK]をクリックします。

ファイル転送セッションを開始する方法

Symantec pcAnywhere では次の方法でファイル転送セッションを開始できます。

- ファイル転送モードで開始する設定になっているリモート接続項目を起動する
- クイック接続を使う
- セッション中にファイル転送モードに切り替える

pcAnywhere ホストに接続するために呼び出し側のログイン信用証明を要求するメッセージが表示されます。ホストコンピュータが **Windows Vista/XP/2003/Server 2008/2000** コンピュータの場合は、コンピュータログイン信用証明を要求するメッセージがオペレーティングシステムからも表示されることがあります。

コンピュータ間のファイルの転送

ファイル転送を開始できるのはリモートユーザーのみです。ホストとリモートコンピュータの間でファイルを転送すると、ファイル転送ウィンドウに進行バーと、ファイル転送状態情報、操作に含まれる各ファイルの絶対パスとファイル名が表示されます。Symantec pcAnywhere は、ファイルまたはフォルダの名前、転送元と転送先のパス、操作とその状態をコマンドキューに追加します。コマンドキューの内容は後でタスクを自動化できるようにコマンドキューファイルに保存します。

p.171 の「[コマンドキューについて](#)」を参照してください。

メモ: Windows Vista のセキュリティ処理方法の理由により、プライマリパーティション上のファイルはコピーできません。

コンピュータ間でファイルを転送するには

- 1 セッションマネージャウィンドウの左のナビゲーションバーで[ファイル転送]をクリックします。
- 2 ファイル転送ウィンドウで転送したいファイルを選択します。
左ペインに接続元コンピュータのファイルが表示されます。右ペインに接続先コンピュータのファイルが表示されます。
- 3 左のナビゲーションバーの[ファイル転送]でファイルを転送したい方向を指す転送オプションを選択します。
右矢印の場合は接続元コンピュータから接続先コンピュータにファイルを転送します。左矢印の場合は接続先コンピュータから接続元コンピュータにファイルを転送します。

ファイル転送操作の中止

接続の速度と操作対象に含まれるファイルの数とサイズに応じて、現在送信中のファイルの転送操作またはすべてのファイルの転送操作を中止できます。この処理はすでに送信済みのファイルには影響しません。

ファイル転送操作を中止するには

- ◆ ファイル転送ウィンドウで次のいずれかの操作をします。
 - 現在送信中のファイルの転送操作を中止するには[タスクを中止]をクリックします。
 - まだ送信されていないすべてのファイルの転送操作を中止するには[すべてを中止]をクリックします。

ファイル転送操作の一時停止

接続の速度と操作対象に含まれるファイルの数とサイズに応じて、ファイル転送操作の一時停止、コマンドキューの表示、設定の変更ができます。この処理はすでに送信済みのファイルには影響しません。

p.167 の「[ファイル転送操作中のコマンドキューの表示](#)」を参照してください。

ファイル転送操作を一時停止するには

- ◆ ファイル転送ウィンドウで[一時停止]をクリックします。
一時停止を解除するには[一時停止]を再びクリックします。

ファイル転送操作中のコマンドキューの表示

ファイル転送の実行中に、転送するファイルを追加したり他のタスクを実行することができます。これらの操作はコマンドキューに送信され、先行する操作が完了するまで待機状態になります。

コマンドキューを使うと進行中のファイル転送操作の表示、保留状態の操作の修正、タスクを自動化するコマンドキューファイルの設定ができます。

p.171 の「[コマンドキューについて](#)」を参照してください。

ファイル転送操作中にコマンドキューを表示するには

- 1 セッションマネージャウィンドウの左のナビゲーションバーで[コマンドキュー]をクリックします。
- 2 コマンドキューウィンドウで変更したいコマンドを選択してから、左のナビゲーションバーの[コマンドキュー]で実行したい処理を選択します。
1つ以上のコマンドを中止または削除したりコマンドの操作順序を上下に移動したりできます。
- 3 キューを再起動するには[キューの再起動]をクリックします。

セッション中のファイル転送設定の変更

ファイル転送セッション中に処理効率、上書き、セッションの終了の設定を変更できます。コマンドキュー環境設定ウィンドウが開き、ファイル転送タスクとコマンドキュータスクの設定を管理できます。

セッション中にファイル転送設定を変更するには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウの編集メニューで[環境設定]を選択します。
Windows Vista では、この処理の承認を求めるメッセージが表示される場合があります。組み込み管理者アカウントにログオンしている場合、このメッセージは表示されません。
- 2 コマンドキュー環境設定ウィンドウで使いたいオプションを選択します。
p.180 の「[コマンドキューのファイル処理オプションの選択](#)」を参照してください。
- 3 [OK]をクリックします。

同期とクローンの作成について

同期とクローンの作成はホストコンピュータ上のフォルダの内容をリモートコンピュータ上のフォルダの内容にすばやく一致させるのに役立ちます。ただし、それぞれの機能のしくみは異なります。同期では 2 つのフォルダの比較は双方向で実行されます。それぞれのフォルダの内容が一致するようにフォルダごとにファイルが追加されます。ファイルは削除されません。クローンの作成では 2 つのフォルダの比較は一方方向で実行されます。一方のフォルダの内容に一致するようにもう一方のフォルダでファイルが追加または削除されます。

フォルダの同期

フォルダを同期してホストコンピュータとリモートコンピュータのそれぞれに必ず最新のファイルがあるようにします。一方のフォルダにあってもう一方のフォルダにないファイルはな

い方のフォルダに追加されます。両方のフォルダが同じ名前のファイルを含む場合には古いファイルが新しいファイルに置き換わります。

フォルダを同期する前に、使われなくなったファイルを識別して削除するためにフォルダを比較します。

p.163 の「[フォルダの比較](#)」を参照してください。

フォルダを同期するには

- 1 ファイル転送ウィンドウで相手コンピュータのフォルダと同期したい自分のコンピュータのフォルダを選択します。
- 2 同期したい相手コンピュータのフォルダを選択します。
- 3 左のナビゲーションバーの[ファイル転送]で[同期]をクリックします。
- 4 確認ダイアログボックスで[はい]をクリックします。
- 5 操作が完了したら[ファイル転送状態]ダイアログボックスで[OK]をクリックします。

ファイルの種類によるフォルダの同期

フォルダ間の同期を特定のファイルの種類に制限できます。たとえば、フォルダの中にある*.doc ファイルだけを同期してホストコンピュータとリモートコンピュータのそれぞれに必ず最新のファイルがあるようにします。同期中はフォルダに含まれる他のファイルの種類は無視されます。

ファイルの種類でフォルダを同期するには

- 1 ファイル転送ウィンドウで相手コンピュータのファイルと同期したい自分のコンピュータのファイルを選択します。
- 2 同期したい相手コンピュータのファイルを選択します。
- 3 動作メニューで[同期]を選択します。
- 4 確認ダイアログボックスで[はい]をクリックします。
- 5 操作が完了したら[ファイル転送状態]ダイアログボックスで[OK]をクリックします。

フォルダのクローンの作成

フォルダのクローンを作成して一方のフォルダの内容がもう一方のフォルダの内容に一致するようにします。同期では 2 つのフォルダの両方へのファイルの追加でその内容が一致しますが、クローンの作成ではクローン先フォルダでのファイルの上書きによってその内容がクローン元フォルダの内容に一致します。

クローン元フォルダにあってクローン先フォルダにないファイルやサブフォルダはクローン先フォルダに追加されます。クローン元フォルダにないファイルやサブフォルダは削除されます。クローン先フォルダで重複するファイルやサブフォルダは最新のバージョンで置き換えられます。

この操作手順を実行する前にデータの消失を避けるために 2 つのフォルダを比較します。

p.163 の「[フォルダの比較](#)」を参照してください。

フォルダのクローンを作成するには

- 1 ファイル転送ウィンドウでファイルやサブフォルダの複製先にしたいクローン先フォルダを開きます。
- 2 複製したいクローン元フォルダを開きます。
- 3 動作メニューで[クローン]を選択します。
- 4 [フォルダのクローン]ダイアログボックスで[はい]をクリックします。
- 5 確認ダイアログボックスで[はい]をクリックします。
- 6 操作が完了したら[ファイル転送状態]ダイアログボックスで[OK]をクリックします。

ファイル転送と管理のタスクの自動化

この章では以下の項目について説明しています。

- コマンドキューについて
- コマンドキューファイルを使ったタスクの自動化
- セッション中のコマンドキューファイルの作成
- コマンドキューファイルの実行

コマンドキューについて

コマンドキューを使うと進行中のファイル転送操作の表示、保留状態の操作の修正、タスクを自動化するコマンドキューファイルの設定ができます。ファイル転送ウィンドウで実行するファイル転送の送受信と同期コマンドは自動的にコマンドキューに追加されてバックグラウンドで実行されます。

Symantec pcAnywhere ではこのようなコマンドをキューファイル(.cqf)に保存して後で使ったり独自のコマンドキューファイルを作成することができます。

コマンドキューファイルの使用例を次に示します。

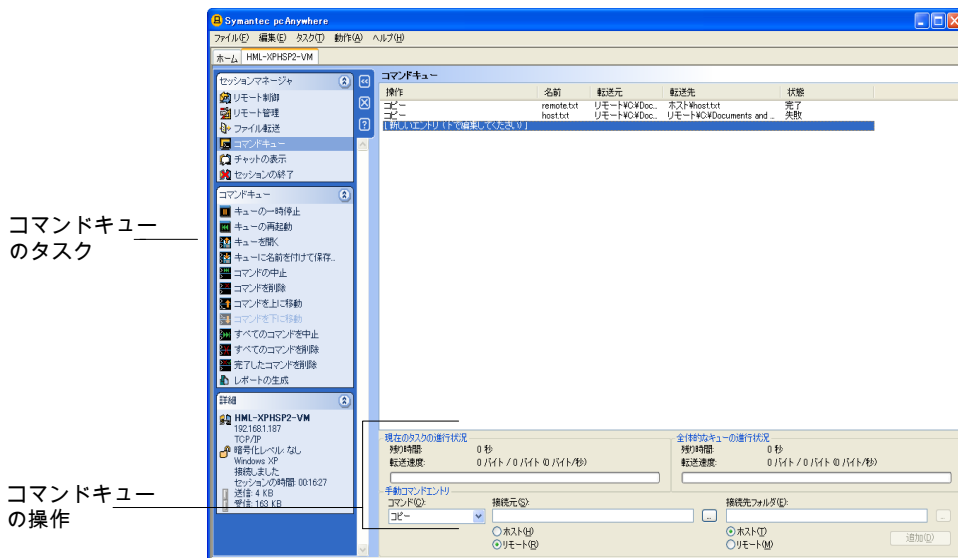
- 1 台以上のコンピュータにソフトウェア更新を配布してインストールする
- 1 つ以上のファイルを複数のコンピュータに同時に転送する
- 1 台以上のコンピュータで **Windows** のコマンドラインとセッションの終了のコマンドを実行する
- 毎日の最後に自宅のコンピュータと職場のコンピュータのフォルダを同期するなど、ファイル転送と管理のタスクを自動化する

コマンドキューファイルを Windows のタスクスケジューラに追加するとキューを自動実行できます。

p.189の「[コマンドキューファイルの自動実行のスケジュール設定](#)」を参照してください。

セッション中のコマンドキューウィンドウを図 8-1 に示します。

図 8-1 コマンドキューウィンドウ



コマンドキューファイルを使ったタスクの自動化

オフライン作業中に、ファイル転送とコマンドラインとセッションの終了のコマンドを含むコマンドキューファイルを作成できます。これらのキューファイルはコマンドキューウィンドウに追加されます。後でホストコンピュータに接続してキューファイルに含まれるコマンドを実行できます。

たとえば、キューファイルを 1 つ作成することによってネットワーク上の複数のコンピュータにソフトウェア更新を配布してインストールすることができます。

コマンドキューファイルの設定例を次に示します。

- ソフトウェアをインストールしたいホストコンピュータにフォルダを作成するコマンドを追加する
p.176 の「[ホストまたはリモートコンピュータでのフォルダの作成](#)」を参照してください。
- ホストコンピュータに作成したフォルダにリモートコンピュータから実行可能ファイルをコピーするコマンドを追加する
p.173 の「[ファイルのコピーまたは移動](#)」を参照してください。

- 絶対パスとパラメータを含み、実行可能ファイルを実行するコマンドを追加する
p.177 の「[コマンドラインの送信](#)」を参照してください。
- ソフトウェアをインストールしたいホストコンピュータのリストを追加する
p.179 の「[コマンドキューファイルへのリモート接続項目の追加](#)」を参照してください。
- 使いたいセッションの終了オプションを指定する
たとえば、インストールするソフトウェアが再起動を要求する場合にホストコンピュータを再起動するようにキューファイルを設定できます。
p.181 の「[コマンドキューのセッションの終了オプションの選択](#)」を参照してください。

環境変数の使い方

コマンドキューの転送元と転送先のファイルには環境変数が使えます。環境変数は複数のコンピュータにコマンドキュータスクを作成するときに役立つ場合があります。環境変数を使うと各コンピュータはそのコンピュータの設定に従って確実にコマンドを実行します。

コマンドキューが環境変数を認識するにはパーセント記号(%)を環境変数名の前後に追加する必要があります。たとえば、システム変数を使って Windows の一時フォルダにある **sample.txt** という名前のファイルを識別したい場合には **%TEMP%\sample.txt** と入力します。

環境変数を処理するとき、コマンドキューは最初にユーザー変数のリストで一致を検索します。一致が見つからない場合は次にシステム環境変数のリストを検索します。

環境変数について詳しくは Windows のマニュアルを参照してください。

コマンドキューファイルの操作

ファイルまたはフォルダの管理コマンド、Windows のコマンドラインコマンド、リモート管理のセッションの終了コマンドをキューファイルに追加できます。ファイルコマンドにはコピー、移動、削除、名前の変更があります。フォルダ管理コマンドにはフォルダの作成、削除、同期があります。

ファイルのコピーまたは移動

ホストコンピュータとリモートコンピュータ間でファイルをコピーまたは移動するコマンドを手動で追加できます。ホストコンピュータ上のファイルやフォルダの絶対パスを入力する必要があります。リモートコンピュータ上のフォルダを参照できます。

メモ: Windows Vista のセキュリティ処理方法の理由により、プライマリパーティション上のファイルはコピーできません。

ファイルをコピーまたは移動するには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウの左のナビゲーションバーの[pcAnywhere マネージャ]で[コマンドキュー]をクリックします。
- 2 次のいずれかの操作をします。
 - 既存のコマンドキューファイルを設定するにはそのファイルを右クリックしてから[プロパティ]を選択します。
 - 新しいコマンドキューファイルを設定するにはファイルメニューで[新しい項目]、[拡張]の順に選択します。
- 3 [コマンド]ページの[コマンドエントリ]の[コマンド]で次のいずれかの操作をします。
 - ホストまたはリモートコンピュータにファイルをコピーするには[コピー]を選択します。
 - 別のコンピュータにファイルを移動するには[移動]を選択します。
- 4 次のいずれかの操作をします。
 - ホストコンピュータからリモートコンピュータにファイルをコピーまたは移動するには[接続元]で[ホスト]を選択してからコピーまたは移動したいファイルを参照します。
 - リモートコンピュータからホストコンピュータにファイルをコピーまたは移動するには[接続元]で[リモート]を選択してからコピーまたは移動したいファイルを参照します。
- 5 次のいずれかの操作をします。
 - ホストコンピュータからリモートコンピュータにファイルをコピーまたは移動するには[接続先フォルダ]で[リモート]を選択してからファイルを入りたいフォルダを参照します。
 - リモートコンピュータからホストコンピュータにファイルをコピーまたは移動するには[接続先フォルダ]で[ホスト]を選択してからファイルを入りたいフォルダを参照します。
- 6 [追加]をクリックします。
- 7 [OK]をクリックします。

ファイルの削除

ファイル転送操作中に削除されるファイルは、削除コマンドとして自動的にコマンドキューに追加されます。コマンドキューファイルに削除コマンドを手動で追加することもできます。

ホストコンピュータ上のファイルやフォルダの絶対パスを入力する必要があります。リモートコンピュータ上のフォルダを参照できます。

ファイルを削除するには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウの左のナビゲーションバーの[pcAnywhere マネージャ]で[コマンドキュー]をクリックします。
- 2 次のいずれかの操作をします。
 - 既存のコマンドキューファイルを設定するにはそのファイルを右クリックしてから[プロパティ]を選択します。
 - 新しいコマンドキューファイルを設定するにはファイルメニューで[新しい項目]、[拡張]の順に選択します。
- 3 [コマンド]ページの[コマンドエントリ]の[コマンド]で[削除]を選択します。
- 4 次のいずれかの操作をします。
 - ホストコンピュータでファイルを削除するには[接続元]で[ホスト]を選択してからファイルを参照します。
 - リモートコンピュータでファイルを削除するには[接続元]で[リモート]を選択してからファイルを参照します。
- 5 [追加]をクリックします。
- 6 [OK]をクリックします。

ホストまたはリモートコンピュータ上のファイルの名前の変更

ファイル転送操作中に名前が変更されるファイルは名前の変更コマンドとして自動的にコマンドキューに追加されません。コマンドキューファイルに名前の変更コマンドを手動で追加できます。名前の変更コマンドはホストまたはリモートの 1 台のコンピュータ上でのみ実行できます。

ホストコンピュータ上のファイルやフォルダの絶対パスを入力する必要があります。リモートコンピュータ上のフォルダを参照できます。

ホストまたはリモートコンピュータ上のファイルの名前を変更するには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウの左のナビゲーションバーの[pcAnywhere マネージャ]で[コマンドキュー]をクリックします。
- 2 次のいずれかの操作をします。
 - 既存のコマンドキューファイルを設定するにはそのファイルを右クリックしてから[プロパティ]を選択します。
 - 新しいコマンドキューファイルを設定するにはファイルメニューで[新しい項目]、[拡張]の順に選択します。
- 3 [コマンド]ページの[コマンドエントリ]の[コマンド]で[名前の変更]を選択します。
- 4 次のいずれかの操作をします。

- ホストコンピュータでファイルの名前を変更するには[接続元]で[ホスト]を選択してからファイルを参照します。
 - リモートコンピュータでファイルの名前を変更するには[接続元]で[リモート]を選択してからファイルを参照します。
- 5 次のいずれかの操作をします。
 - ホストコンピュータでファイルの名前を変更するには[転送先]でファイルの絶対パスと新しい名前を入力します。
 - リモートコンピュータでファイルの名前を変更するには[転送先]でファイルの絶対パスと新しい名前を入力します。
転送先フォルダはすでに存在している必要があります。自動的に作成されません。
 - 6 [追加]をクリックします。
 - 7 [OK]をクリックします。

ホストまたはリモートコンピュータでのフォルダの作成

ファイル転送操作中に作成されるフォルダはフォルダの作成コマンドとして自動的にコマンドキューに追加されません。コマンドキューファイルにフォルダの作成コマンドを手動で追加できます。フォルダの作成コマンドはホストまたはリモートの 1 台のコンピュータ上でのみ実行できます。

ホストコンピュータ上のファイルやフォルダの絶対パスを入力する必要があります。リモートコンピュータ上のフォルダを参照できます。

ホストまたはリモートコンピュータ上にフォルダを作成するには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウの左のナビゲーションバーの[pcAnywhere マネージャ]で[コマンドキュー]をクリックします。
- 2 次のいずれかの操作をします。
 - 既存のコマンドキューファイルを設定するにはそのファイルを右クリックしてから[プロパティ]を選択します。
 - 新しいコマンドキューファイルを設定するにはファイルメニューで[新しい項目]、[拡張]の順に選択します。
- 3 [コマンド]ページの[コマンドエントリ]の[コマンド]で[フォルダの作成]を選択します。
- 4 次のいずれかの操作をします。
 - ホストコンピュータにフォルダを作成するには、[接続元]で[ホスト]を選択してからフォルダの絶対パスを入力します。

- リモートコンピュータにフォルダを作成するには、[接続元]で[リモート]を選択してからフォルダの絶対パスを入力します。
- 5 [追加]をクリックします。
 - 6 [OK]をクリックします。

ホストコンピュータとリモートコンピュータのフォルダの同期

両方のフォルダが確実に同じ内容を含むようにするためにホストコンピュータとリモートコンピュータのフォルダを同期するコマンドを手動で追加できます。同期中、一方のフォルダが他方のフォルダにないファイルを含む場合にはそのファイルを含まないフォルダに欠けているファイルが追加されます。両方のフォルダが同じ名前のファイルを含む場合には古いファイルが新しいファイルに置き換わります。

ホストコンピュータ上のファイルやフォルダの絶対パスを入力する必要があります。リモートコンピュータ上のフォルダを参照できます。

ホストコンピュータとリモートコンピュータのフォルダを同期するには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウの左のナビゲーションバーの[pcAnywhere マネージャ]で[コマンドキュー]をクリックします。
- 2 次のいずれかの操作をします。
 - 既存のコマンドキューファイルを設定するにはそのファイルを右クリックしてから[プロパティ]を選択します。
 - 新しいコマンドキューファイルを設定するにはファイルメニューで[新しい項目]、[拡張]の順に選択します。
- 3 [コマンド]ページの[コマンドエントリ]の[コマンド]で[同期]を選択します。
- 4 [リモートフォルダ]で同期したいリモートコンピュータ上のフォルダを参照します。
- 5 [ホストフォルダ]で同期したいホストコンピュータ上のフォルダを参照します。
- 6 [追加]をクリックします。
- 7 [OK]をクリックします。

コマンドラインの送信

コマンドラインをコマンドキューファイルに含めることができます。この機能はWindowsの[ファイル名を指定して実行]の機能と似ています。

たとえば、コマンドを送信してホストコンピュータ上にフォルダを作成し、実行可能ファイルを実行してそのフォルダにプログラムをサイレントインストールすることができます。実行可能ファイルはホストコンピュータ上にある必要があります。実行可能ファイルをホストコンピュータにコピーするコマンドをキューファイルに含めることができます。

p.173 の「[ファイルのコピーまたは移動](#)」を参照してください。

コマンドラインを送信するには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウの左のナビゲーションバーの[pcAnywhere マネージャ]で[コマンドキュー]をクリックします。
- 2 次のいずれかの操作をします。
 - 既存のコマンドキューファイルを設定するにはそのファイルを右クリックしてから[プロパティ]を選択します。
 - 新しいコマンドキューファイルを設定するにはファイルメニューで[新しい項目]、[拡張]の順に選択します。
- 3 [コマンド]ページの[コマンドエントリ]の[コマンド]で[コマンドの実行]を選択します。
- 4 [接続元]でホストコンピュータで実行したいコマンドラインとパラメータを入力します。
ホストコンピュータで実行可能ファイルを実行するにはそのファイルがホストコンピュータ上にある必要があり、そのファイルの絶対パスを入力する必要があります。
- 5 実行可能ファイルコマンドの実行が終了してから次のコマンドを開始するために[コマンドが終了するまで待つ]にチェックマークを付けます。
- 6 [追加]をクリックします。
- 7 [OK]をクリックします。

キューファイルの項目の並べ替え

Symantec pcAnywhere はキューファイルに含まれるコマンドをリストの先頭の項目から順番に実行します。キューファイルに追加する新しいコマンドはリストの末尾に追加されます。コマンドの順序を並べ替えるためにキューファイルを編集できます。

キューファイルの項目を並べ替えるには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウの左のナビゲーションバーの[pcAnywhere マネージャ]で[コマンドキュー]をクリックします。
- 2 次のいずれかの操作をします。
 - 既存のコマンドキューファイルを設定するにはそのファイルを右クリックしてから[プロパティ]を選択します。
 - 新しいコマンドキューファイルを設定するにはファイルメニューで[新しい項目]、[拡張]の順に選択します。
- 3 [コマンド]ページの[コマンド]で次のいずれかの操作をします。
 - コマンドの順序を上に移動するにはそのコマンドを選択してから[コマンドを上に移動]をクリックします。

- コマンドの順序を下に移動するにはそのコマンドを選択してから[コマンドを下に移動]をクリックします。
- コマンドを削除するにはそのコマンドを選択してから[削除]をクリックします。
- すべてのコマンドを削除するには[すべてを消去]をクリックします。

4 [OK]をクリックします。

コマンドキューファイルへのリモート接続項目の追加

リモート接続項目をコマンドキューファイルに追加して、接続処理を自動化し複数のコンピュータ上でタスクを実行することができます。キューファイルを実行すると **pcAnywhere** は各リモート接続項目に設定されている接続とセキュリティの情報を使ってそれぞれのホストコンピュータに順番に接続します。

接続リストの最初のコンピュータでコマンドを実行した後、**pcAnywhere** は接続を終了してからリストの次のコンピュータに接続します。この処理はそれぞれのホストコンピュータでコマンドリストが完了または試行されるまで続きます。

コマンドキューファイルにリモート接続項目を追加するには

- 1 **Symantec pcAnywhere** ウィンドウの左のナビゲーションバーの[**pcAnywhere マネージャ**]で[**コマンドキュー**]をクリックします。
- 2 コマンドキューウィンドウで次のいずれかの操作をします。
 - 既存のコマンドキューファイルを設定するにはそのファイルを右クリックしてから[プロパティ]を選択します。
 - 新しいコマンドキューファイルを設定するにはファイルメニューで[新しい項目]、[拡張]の順に選択します。
- 3 [リモート]ページで次のいずれかの操作をします。
 - すでに設定済みのリモート接続項目を追加するには[既存の追加]をクリックします。
これでリモート接続項目ファイル(.chf)用のデフォルトのデータフォルダが開きます。追加したいファイルを選択してから[開く]をクリックします。
 - 新しいリモート接続項目を設定するには[新規の追加]をクリックします。
これで新しいリモート接続項目の拡張プロパティが開きます。新しいリモート接続項目を設定してから[OK]をクリックします。
p.90 の「[拡張プロパティを使ったリモート接続の設定](#)」を参照してください。
- 4 追加したいリモート接続項目ごとに 3 を繰り返します。
- 5 [OK]をクリックします。

コマンドキューのファイル処理オプションの選択

古いファイルを新しいファイルで置き換える処理など、データ消失の結果になる可能性のある処理を実行する前には、デフォルトで **pcAnywhere** から確認を要求するメッセージが表示されます。ただし、自動ファイル転送を実行する予定で確認の要求に応答できない場合にはこの設定を変更してください。コマンドキューファイルを無人で実行する設定の場合、エラーはコマンドキューの状態に「失敗」と表示されます。これでキューの実行が停止するわけではありません。

ユーザーの操作を不要にするためにエラーメッセージの抑止を **pcAnywhere** に設定できます。コマンドキューは処理できないファイルを見つけると次の操作に自動的に進みます。コマンドキューウィンドウには「失敗」と状態が表示されます。

Symantec pcAnywhere はファイル転送に最適な設定になっていますが、速度または処理効率にばらつきがある場合には設定を調べてください。

コマンドキューのファイル処理オプションを選択するには

- 1 **Symantec pcAnywhere** ウィンドウの左のナビゲーションバーの[**pcAnywhere マネージャ**]で[コマンドキュー]をクリックします。
- 2 次のいずれかの操作をします。
 - 既存のコマンドキューファイルを設定するにはそのファイルを右クリックしてから[プロパティ]を選択します。
 - 新しいコマンドキューファイルを設定するにはファイルメニューで[新しい項目]、[拡張]の順に選択します。
- 3 [設定]ページの[キューの実行中]で次のいずれかを選択します。

[圧縮を使う]

転送中にファイルを圧縮します。

このオプションを選択すると **zip** ツールなどの方法で大きいテキストファイルを圧縮しなかった場合のファイル転送の速度を向上できます。

[SpeedSend を使う]

転送元と転送先のフォルダでファイル名が重複するファイルの内容を比較し、転送元ファイルの異なる部分のみ転送します。

[読み取り専用/システム/隠しファイルの削除を確認する]

このような種類のファイルを削除する前に処理を確認するメッセージを表示します。

このオプションは確認の要求に応答する人が存在する場合にのみ選択します。

[エラーメッセージを抑止する]

処理できないファイルを自動的にスキップします。エラーメッセージは生成されないため、ユーザーの操作は必要ありません。

- 4 [コピー先ファイルが存在する場合]で宛先フォルダにすでに同じ名前のファイルが存在する場合に使用したい上書きオプションを選択します。
[上書きする前に確認]は確認の要求に応答する人が存在する場合にのみ選択します。
- 5 [OK]をクリックします。

コマンドキューのセッションの終了オプションの選択

キューの実行後にホストコンピュータを維持したい状態を選択できます。ソフトウェア更新のインストールのような一部の処理ではコンピュータの再起動が必要になることがあります。コマンドキュー操作の詳細を示すレポートを生成することもできます。セッションの終了後に自動的に再起動するようにキューを設定できます。ここで指定するオプションはリモートリストに含まれるそれぞれのコンピュータで実行されます。

接続の維持

Symantec pcAnywhere では他のタスクを実行するためにコマンドキューファイルの実行後に接続を維持できます。

接続を維持するには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウの左のナビゲーションバーの[pcAnywhere マネージャ]で[コマンドキュー]をクリックします。
- 2 次のいずれかの操作をします。
 - 既存のコマンドキューファイルを設定するにはそのファイルを右クリックしてから[プロパティ]を選択します。
 - 新しいコマンドキューファイルを設定するにはファイルメニューで[新しい項目]、[拡張]の順に選択します。
- 3 [設定]ページの[キューの終了後]で[接続を維持する]を選択します。
- 4 [OK]をクリックします。

キューの実行後の接続解除

Symantec pcAnywhere ではキューファイルの実行後に接続を自動的に終了できます。このオプションはキューファイルを無人で実行する場合に使ってください。

キューの実行後に接続解除するには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウの左のナビゲーションバーの[pcAnywhere マネージャ]で[コマンドキュー]をクリックします。
- 2 次のいずれかの操作をします。

- 既存のコマンドキューファイルを設定するにはそのファイルを右クリックしてから[プロパティ]を選択します。
 - 新しいコマンドキューファイルを設定するにはファイルメニューで[新しい項目]、[拡張]の順に選択します。
- 3 [設定]ページの[キューの終了後]で[接続解除する]を選択します。
 - 4 [OK]をクリックします。

コマンドキューレポートの自動生成

コマンドキューファイルのタスクの結果を示すレポートを **pcAnywhere** で自動生成できます。**Symantec pcAnywhere** はセッションが終了するとレポートを生成します。レポートにはセッション中に実行されたコマンドとその状態があります。レポートは **HTML (.html)** または **カンマ区切り (.csv)** の形式で保存できます。

コマンドキューレポートを自動的に生成するには

- 1 **Symantec pcAnywhere** ウィンドウの左のナビゲーションバーの[**pcAnywhere マネージャ**]で[コマンドキュー]をクリックします。
- 2 次のいずれかの操作をします。
 - 既存のコマンドキューファイルを設定するにはそのファイルを右クリックしてから[プロパティ]を選択します。
 - 新しいコマンドキューファイルを設定するにはファイルメニューで[新しい項目]、[拡張]の順に選択します。
- 3 [設定]ページの[キューの終了後]で[レポートを生成]にチェックマークを付けます。
- 4 [参照]をクリックします。
- 5 [名前を付けて保存]ダイアログボックスの[保存する場所]フィールドでレポートファイルのフォルダの場所を選択します。

デフォルトのフォルダは次の場所にあります。

Windows Vista/Server 2008 の場合

¥Program data¥Symantec¥pcAnywhere¥Command Queues

Windows XP/Server 2003/2000 Server の場合

¥Documents and Settings¥All Users¥Application
Data¥Symantec¥pcAnywhere¥

- 6 [ファイル名]フィールドにファイル名を入力します。
 - 7 [ファイルの種類]フィールドでレポートのファイルの種類を選択します。
- デフォルトのファイルの種類は **HTML** です。

8 [保存]をクリックします。

9 [OK]をクリックします。

コンピュータのロックまたはユーザーのログオフ

Symantec pcAnywhere ではキューファイルの実行後にホストコンピュータを自動的にロックまたはホストコンピュータにログオンしたユーザーをログオフできます。この機能を使うにはホストコンピュータとリモートコンピュータにリモート管理コンポーネントをインストールしておく必要があります。

データを保存するオプションと実行しようとしている処理についてホストユーザーに通知するオプションを設定できます。ログオフコマンドの場合はユーザーに開いているプログラムを閉じて作業を保存するように要求するメッセージを表示できます。また、データを保存しないで開いているプログラムを強制的に閉じるように pcAnywhere を設定することもできます。これで pcAnywhere はタスクを終了するためにユーザーとの対話(たとえば、文書の保存)が必要になるプログラムを閉じることができます。一部のプログラムは強制終了をサポートしません。

コンピュータをロックするオプションは Windows Vista/XP/2003/Server 2008/2000 のみ利用可能です。セキュリティを強化するためにホストユーザーはスクリーンセーバーをパスワード保護できます。

コンピュータをロックまたはユーザーをログオフするには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウの左のナビゲーションバーの[pcAnywhere マネージャ]で[コマンドキュー]をクリックします。
- 2 次のいずれかの操作をします。
 - 既存のコマンドキューファイルを設定するにはそのファイルを右クリックしてから[プロパティ]を選択します。
 - 新しいコマンドキューファイルを設定するにはファイルメニューで[新しい項目]、[拡張]の順に選択します。
- 3 [設定]ページの[キューの終了後]で次のいずれかの操作をします。
 - Windows Vista/XP/2003/Server 2008/2000 でコンピュータをロックするには[ホストコンピュータを接続解除してロックする]を選択します。
 - ログオンしたユーザーをログオフするには[ホストコンピュータを接続解除してログオフする]を選択します。

4 次のオプションのいずれかを選択します。

[ユーザーに確認]	実行しようとしている処理についてユーザーに通知します。 ユーザーが確認の要求に応答するまでの秒数を選択します。時間切れ秒数が経過したら処理は自動的に実行されます。
[ユーザーによる中止を許可する]	ホストユーザーに確認の要求を送信します。 このオプションは[ユーザーに確認]を選択した場合にのみ利用できます。
[表示するメッセージ]	ホストユーザーに送信したいメッセージを入力できます。 このオプションは[ユーザーに確認]を選択した場合にのみ利用できます。
[データを保存しないで開いているプログラムを閉じる]	実行中のすべてのプログラムを強制的に閉じます。ユーザーの未保存データは消失します。 このオプションはコンピュータをロックするオプションには利用できません。

5 [OK]をクリックします。

ホストコンピュータの再起動または終了

Symantec pcAnywhere ではキューファイルの実行後にホストコンピュータを自動的に再起動または終了できます。この機能を使うにはホストコンピュータとリモートコンピュータにリモート管理コンポーネントをインストールしておく必要があります。

データを保存するオプションと実行しようとしている処理についてホストユーザーに通知するオプションを設定できます。開いているプログラムを閉じて作業を保存するようにユーザーに要求するメッセージを表示できます。また、データを保存しないで開いているプログラムを強制的に閉じるように **pcAnywhere** を設定することもできます。これで **pcAnywhere** はタスクを終了するためにユーザーとの対話(たとえば、文書の保存)が必要になるプログラムを閉じることができます。一部のプログラムは強制終了をサポートしません。

ホストコンピュータを再起動または終了するには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウの左のナビゲーションバーの[pcAnywhere マネージャ]で[コマンドキュー]をクリックします。
- 2 次のいずれかの操作をします。
 - 既存のコマンドキューファイルを設定するにはそのファイルを右クリックしてから[プロパティ]を選択します。

- 新しいコマンドキューファイルを設定するにはファイルメニューで[新しい項目]、[拡張]の順に選択します。
- 3 [設定]ページの[キューの終了後]で次のいずれかを選択します。
 - [ホストコンピュータを再起動する]
 - [ホストコンピュータを終了する]
- 4 次のオプションのいずれかを選択します。

[ユーザーに確認]	実行しようとしている処理についてユーザーに通知します。 ユーザーが確認の要求に応答するまでの秒数を選択します。時間切れ秒数が経過したら処理は自動的に実行されます。
[ユーザーによる中止を許可する]	ホストユーザーに確認の要求を送信します。 このオプションは[ユーザーに確認]を選択した場合にのみ利用できます。
[表示するメッセージ]	ホストユーザーに送信したいメッセージを入力できます。 このオプションは[ユーザーに確認]を選択した場合にのみ利用できます。
[データを保存しないで開いているプログラムを閉じる]	実行中のすべてのプログラムを強制的に閉じます。ユーザーの未保存データは消失します。

- 5 [OK]をクリックします。

セッション中のコマンドキューファイルの作成

セッションマネージャで実行するファイル転送とセッションの終了のリモート管理タスクは自動的にコマンドキューに追加されます。ファイルはバックグラウンドで転送されるため他のファイルの操作またはキュー処理を続行できます。キューの実行後に操作の順序の修正、コマンドの追加または削除、コマンドの順序の並べ替えができます。コマンドキューでの操作が終了したらコマンドキュータスクのレポートを印刷できます。

また、コマンドを手動でコマンドキューに追加することもできます。

p.172 の「[コマンドキューファイルを使ったタスクの自動化](#)」を参照してください。

コマンドキューの一時停止

コマンドキューには実行中のタスクについての状態情報が表示されます。実行中のタスクに対し変更を加えるには最初にキューを一時停止する必要があります。

コマンドキューを一時停止するには

- 1 セッションマネージャウィンドウの左のナビゲーションバーで[コマンドキュー]をクリックします。
- 2 左のナビゲーションバーの[コマンドキュー]で[キューの一時停止]をクリックします。

コマンドリストからのコマンドの削除

コマンドキューファイルに含まれないようにコマンドをコマンドリストから削除できます。

コマンドリストからコマンドを削除するには

- 1 セッションマネージャウィンドウの左のナビゲーションバーで[コマンドキュー]をクリックします。
- 2 右ペインのコマンドキューリストで削除したいコマンドを選択します。
- 3 左のナビゲーションバーの[コマンドキュー]で[コマンドを削除]をクリックします。

コマンドリストのコマンドの並べ替え

Symantec pcAnywhere はコマンドキューにあるコマンドをリストの先頭の項目から順番に実行します。新規コマンドはリストの末尾に追加されます。コマンドリストでのコマンドの順序を並べ替えることができます。

コマンドリストのコマンドを並べ替えるには

- 1 セッションマネージャウィンドウの左のナビゲーションバーで[コマンドキュー]をクリックします。
- 2 右ペインのコマンドキューリストで移動したいコマンドを選択します。
- 3 左のナビゲーションバーの[コマンドキュー]で次のいずれかの操作をします。
 - コマンドの順序を上に移動するには[コマンドを上に移動]をクリックします。
 - コマンドの順序を下に移動するには[コマンドを下に移動]をクリックします。

コマンドキューファイルの保存 コマンドキューファイル

Symantec pcAnywhere では後で使えるキューファイルにコマンドキューを保存できます。タスクを自動化するためにキューファイルを Windows のタスクスケジューラと一緒に使うこともできます。Symantec pcAnywhere はキューファイル(.cqf)を pcAnywhere のデフォルトのデータフォルダに保存します。

p.189 の「[コマンドキューファイルの自動実行のスケジュール設定](#)」を参照してください。

コマンドキューファイルを保存するには

- 1 セッションマネージャウィンドウの左のナビゲーションバーで[コマンドキュー]をクリックします。
- 2 [コマンドキュー]で[キューに名前を付けて保存]をクリックします。
- 3 [名前を付けて保存]ダイアログボックスでファイル名を入力します。
- 4 [保存]をクリックします。

コマンドキューレポートのオンデマンド生成

コマンドキューファイルのタスクの結果を示すレポートを必要ときに生成できます。レポートにはセッション中に実行されたコマンドとその状態があります。レポートはHTML(.html)またはカンマ区切り(.csv)の形式で保存できます。

p.182 の「[コマンドキューレポートの自動生成](#)」を参照してください。

コマンドキューレポートをオンデマンドで生成するには

- 1 セッションマネージャウィンドウの左のナビゲーションバーで[コマンドキュー]をクリックします。
- 2 左のナビゲーションバーの[コマンドキュー]で[レポートの生成]をクリックします。
- 3 [名前を付けて保存]ダイアログボックスの[保存する場所]フィールドでレポートファイルのフォルダの場所を選択します。
- 4 [ファイル名]フィールドにファイル名を入力します。
- 5 [ファイルの種類]フィールドでレポートのファイルの種類を選択します。
デフォルトのファイルの種類は HTML です。
- 6 [保存]をクリックします。
- 7 [OK]をクリックします。

コマンドキューファイルの実行

次の方法でコマンドキューファイルを実行できます。

- リモートセッション中にキューファイルを実行する
- セッションを開始せずにキューファイルを実行する
- キューファイルの自動実行をスケジュール設定する

セッション中のコマンドキューファイルの実行

Symantec pcAnywhere ではセッション中にコマンドキューファイルを開いて実行できません。コマンドキューがすでに実行中の場合は最初に一時停止する必要があります。保存していない変更がコマンドキューにあった場合には最初に変更内容の保存を要求するメッセージが表示されます。

セッション中にコマンドキューファイルを実行するには

- 1 セッションマネージャウィンドウの左のナビゲーションバーで[コマンドキュー]をクリックします。
- 2 [コマンドキュー]で[キューを開く]をクリックします。
- 3 開くウィンドウで開きたいコマンドキューファイルを選択します。
- 4 [開く]をクリックします。

Symantec pcAnywhere はキューファイルに含まれるコマンドを実行します。

セッションを開始せずにコマンドキューファイルを実行するには

Symantec pcAnywhere では次の場所からコマンドキューファイルを実行できます。

- コマンドキュー
- リモート
- クイック接続

コマンドキューファイルを実行すると **pcAnywhere** はクイック接続またはリモート接続項目に設定されている接続とセキュリティの情報を使ってそれぞれのホストコンピュータに順番に接続します。接続リストの最初のコンピュータでコマンドを実行した後、**pcAnywhere** は接続を終了してからリストの次のコンピュータに接続します。この処理はそれぞれのホストコンピュータでコマンドリストが完了または試行されるまで続きます。

コマンドキューウィンドウからのコマンドキューファイルの実行

Symantec pcAnywhere はオフラインで作成されたコマンドキューファイルをコマンドキューウィンドウに表示します。コマンドキューファイルにリモート接続項目が含まれない場合には**pcAnywhere**からリモート接続項目の追加を要求するメッセージが表示されます。キューの実行時にコマンドキューウィンドウに状態情報が表示されます。このウィンドウで適用できる処理はコマンドキューの中止のみです。これで接続が終了して保留状態の処理が中止されます。

コマンドキューウィンドウからコマンドキューファイルを実行するには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウの左のナビゲーションバーの[pcAnywhere マネージャ]で[コマンドキュー]をクリックします。
- 2 右ペインのコマンドキューリストで実行したいコマンドキューファイルをダブルクリックします。

リモートウィンドウまたはクイック接続ウィンドウからのコマンドキューファイルの実行

リモートウィンドウまたはクイック接続ウィンドウからコマンドキューを開始する場合には pcAnywhere からコマンドキューファイルの名前を要求するメッセージが表示され、次にホストコンピュータにログオンするのに必要な pcAnywhere 呼び出し側の信用証明を要求するメッセージが表示されます。複数のホストコンピュータに接続しようとする場合、pcAnywhere ではこの信用証明を残りのホストコンピュータに送信できます。この信用証明が正しくないと再び入力を要求するメッセージが表示されます。

リモートウィンドウまたはクイック接続ウィンドウからコマンドキューファイルを実行するには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウの左のナビゲーションバーの[pcAnywhere マネージャ]で次のいずれかを選択します。
 - [リモート]
 - [クイック接続]
- 2 右ペインで次のいずれかの操作をします。
 - リモート接続項目に設定した接続設定を使ってコマンドキューファイルを実行するには右ペインで使いたい接続項目を右クリックしてから[コマンドキューの開始]を選択します。
 - クイック接続を使ってネットワーク上の 1 つ以上のコンピュータでコマンドキューファイルを実行するには右ペインでコマンドキューファイルを実行したいコンピュータを選択して右クリックしてから[コマンドキューの開始]を選択します。

コマンドキューファイルの自動実行のスケジュール設定

コマンドキューファイルを Windows のタスクスケジューラに追加してキューファイルを予定時刻に自動的に実行できます。定時タスクはバックグラウンドで実行されます。コマンドキューファイルの実行後に自動的に接続解除するようにコマンドキューファイルを設定してください。

p.181 の「[コマンドキューのセッションの終了オプションの選択](#)」を参照してください。

コマンドキューファイルを実行すると pcAnywhere はリモート接続項目に設定されている接続とセキュリティの情報を使ってそれぞれのホストコンピュータに順番に接続します。接

続リストの最初のコンピュータでコマンドを実行した後、**pcAnywhere** は接続を終了してからリストの次のコンピュータに接続します。この処理はそれぞれのホストコンピュータでコマンドリストが完了または試行されるまで続きます。

ホストがビジー状態の場合、**pcAnywhere** は数秒間、リモートコンピュータにダイアログボックスのメッセージを表示します。リモートユーザーが要求に応答しない場合、**pcAnywhere** はキューファイルの次の操作に進みます。

自動実行するようにコマンドキューファイルをスケジュール設定するには

- 1 次のいずれかの操作をします。
 - **Windows Vista** の場合、**Windows** のタスクバーで[スタート]、[コントロールパネル]、[システムとメンテナンス]、[タスクのスケジュール]の順に選択します。
 - **Windows Server 2008** の場合、**Windows** のタスクバーで[スタート]、[コントロールパネル]、[管理ツール]、[タスクスケジューラ]の順に選択します。
 - **Windows XP/Server 2003/2000 Server** の場合、**Windows** のタスクバーで[スタート]、[設定]、[コントロールパネル]の順に選択します。
- 2 [タスク]を選択またはダブルクリックします。
- 3 ウィザードを起動するために、[スケジュールされたタスクの追加]をダブルクリックします。
- 4 タスクウィザードウィンドウで[次へ]をクリックします。
- 5 コマンドキューファイル(.cqf)を含むフォルダを参照してからスケジュール設定したいプログラムのフォルダを選択します。

デフォルトでは **Symantec pcAnywhere** はコマンドキューファイルを **pcAnywhere** のデータフォルダに格納します。
- 6 [次へ]をクリックします。
- 7 定時タスクの名前を入力します。
- 8 タスクを実行したい頻度を選択します。
- 9 [次へ]をクリックします。
- 10 日単位、週単位、月単位、1回だけ実行のタスクの場合は定時タスクの開始時刻、開始日、間隔を選択します。

要求される情報はタスクの頻度に応じて異なります。
- 11 [次へ]をクリックします。
- 12 タスクを開始するユーザーのコンピュータログオン情報を入力します。
- 13 [次へ]をクリックします。

14 設定を確認します。

15 [完了]をクリックします。

これでコマンドキューファイルがタスクフォルダの定時タスクのリストに追加されます。

コンピュータとセッションの保全

この章では以下の項目について説明しています。

- [権限のないアクセスからのホストコンピュータの保護](#)
- [アクセス権について](#)
- [セッションのセキュリティについて](#)
- [暗号化を使ったデータ保護](#)
- [設定の保護](#)
- [ホストのセキュリティを評価する方法](#)

権限のないアクセスからのホストコンピュータの保護

他のユーザーが接続できるようにホストコンピュータを設定する場合に最も重要な問題の1つは権限のないアクセスからホストを保護することです。Symantec pcAnywhere ではホストコンピュータに接続するユーザー用にログイン信用証明を設定し、その識別情報を確認するための認証方法を選択する必要があります。

p.194 の「[pcAnywhere での認証について](#)」を参照してください。

権限のないアクセスからホストコンピュータを保護するには次の方法があります。

ログオン処理の安全を確保する	ログオン試行やユーザーがログオンする時間を制限して権限のないアクセスとサービス拒否からホストコンピュータを保護できます。
----------------	--

p.199 の「[ログオンセキュリティの設定](#)」を参照してください。

ホストセッションの安全を確保する ホストコンピュータとリモートコンピュータの間のデータストリームを保護するために暗号化を使用することができます。

p.207 の「[暗号化を使ったデータ保護](#)」を参照してください。

Symantec pcAnywhere ではホストセッションのセキュリティレベルの保護に役立つ多数のオプションが用意されています。たとえば、リモートユーザーがホストコンピュータに接続する前に確認メッセージを受信するように選択できます。また、キーボードとマウスの操作を制限したりセッションの活動なし時間限度を設定したりすることもできます。

p.200 の「[接続後のホストコンピュータの安全確保](#)」を参照してください。

モデム接続の場合、安全のためにコールバック機能を使用することができます。

p.201 の「[リモートユーザーのコールバック](#)」を参照してください。

ホストコンピュータへのアクセスを制限する ホストコンピュータ上でユーザーまたはユーザーグループのアクセス権を制限するように呼び出し側アカウントを設定できます。

p.202 の「[アクセス権について](#)」を参照してください。

たとえば、ネットワーク上でのサーバーの露出を最小限に抑えるためなど、ネットワーク検索結果でホストコンピュータを非表示にすることができます。

p.200 の「[ネットワーク検索結果でのホスト名の非表示](#)」を参照してください。

Symantec pcAnywhere には管理者用に全体のセキュリティオプションが用意されています。これにより、侵入ポイントで権限のないユーザーを遮断できます。このオプションにはシリアル番号の割り当て、中央での認証、強力な暗号化のオプションが含まれます。

pcAnywhere でのセキュリティ管理について詳しくは『Symantec pcAnywhere 管理者ガイド』を参照してください。

pcAnywhere での認証について

権限のないアクセスからコンピュータとネットワークを保護するときの防御の最前線としてコンピュータ環境でサポートされる最強の種類のユーザー認証を選択します。

pcAnywhere のユーザー認証とはホストコンピュータへのアクセス権がユーザーにあることを確認するためにユーザー信用証明をディレクトリまたはアクセスリストと照合する処理です。選択する認証の種類はオペレーティングシステムやコンピュータ環境によって異なります。

Symantec pcAnywhere はいろいろな認証の種類をサポートします。選択する認証の種類はコンピュータ環境によって異なります。たとえば、ネットワーク管理者が Microsoft ADS (Active Directory Services) などのディレクトリサーバーを使ってネットワークアクセスを制御するためにユーザーアカウントの作成と保守をすることがあります。

ネットワークに接続しているかどうかに関係なく認証の種類を選択する必要があります。どの種類を使うのかわからない場合には管理者に問い合わせてください。

セカンダリ認証の設定

Symantec pcAnywhere の[セカンダリ認証を有効にする]は、プライマリ認証が失敗した場合にセッションにログオンするための選択肢を提供します。このオプションを使うとセカンダリ認証の信用証明を指定することにより、そのような場合にもホストコンピュータにログオンできます。

セカンダリ認証を設定するには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウの拡張表示の左のナビゲーションバーで[ホスト]をクリックします。
- 2 右ペインの[ホスト]でセカンダリ認証を設定したい接続項目を右クリックしてから[プロパティ]を選択します。
- 3 [ホスト プロパティ]ダイアログボックスで[呼び出し側]タブをクリックし、認証の種類を選択します。
- 4 [呼び出し側リスト]で新しい呼び出し側を作成します。
- 5 [セカンダリ認証を有効にする]にチェックマークを付けます。

メモ: 選択した認証の種類のセカンダリ認証を初めて設定する場合は、[呼び出しプロパティ: 新規呼び出し側]ダイアログボックスが自動的に表示されます。

- 6 [二次呼び出し側のプロパティ]をクリックします。
- 7 [呼び出しプロパティ: 新規呼び出し側]ダイアログボックスの[識別]ページでドメインとアカウントを選択します。
- 8 [OK]をクリックします。
- 9 [ホスト プロパティ]ダイアログボックスで[適用]をクリックしてから[OK]をクリックします。

pcAnywhere 認証を使う呼び出し側の設定

Symantec pcAnywhere 認証はすべてのオペレーティングシステムで使えます。この認証方法はホストコンピュータ上で pcAnywhere によって維持されるユーザーとパスワードのリストを検査してホストに接続する権限がリモートユーザーにあるかどうかを確認します。この認証方法は最も安全性の低い方法です。

pcAnywhere 認証を使う呼び出し側を設定するには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウの拡張表示の左のナビゲーションバーで[ホスト]をクリックします。
- 2 右ペインの[ホスト]で設定したい接続項目を右クリックしてから[プロパティ]を選択します。
- 3 ホストプロパティウィンドウの[呼び出し側]ページの[認証の種類]で[pcAnywhere]を選択します。
- 4 [呼び出し側リスト]で新しい項目アイコンをクリックします。
- 5 呼び出しプロパティウィンドウの[識別]ページでリモートユーザーのログイン名を入力します。
- 6 パスワードを入力します。
- 7 [パスワードの確認]フィールドに同じパスワードをもう一度入力します。
- 8 [OK]をクリックします。
- 9 ホストプロパティウィンドウで[OK]をクリックします。

ディレクトリサーバーベースの認証を使う呼び出し側の設定

Symantec pcAnywhere は、認証機構がネットワーク上にすでに用意されている場合は次のようなディレクトリサーバーベースの認証をサポートします。

- Microsoft ADS
ADS 認証は Windows 2000/2003/Server 2008/XP/Vista でのみ利用できます。
- LDAP
- Microsoft LDAP
- スマートカード (PC/SC スマートカード)

このような種類の認証はディレクトリサーバーに格納されるリストを検査してユーザーまたはユーザーグループの有効性を確認します。

ディレクトリサーバーベースの認証を使う呼び出し側を設定するには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウの拡張表示の左のナビゲーションバーで[ホスト]をクリックします。
- 2 右ペインの[ホスト]で設定したい接続項目を右クリックしてから[プロパティ]を選択します。
- 3 ホストプロパティウィンドウの[呼び出し側]ページの[認証の種類]で使いたい認証の種類 (ADS または LDAP) を選択します。
- 4 [呼び出し側リスト]で新しい項目アイコンをクリックします。
- 5 呼び出しプロパティウィンドウの[識別]ページで次の操作をします。

- 認証の種類がADSまたはLDAPの場合はディレクトリツリーを参照してユーザー名またはグループ名を見つけます。

Windows ベースの認証を使う呼び出し側の設定

Symantec pcAnywhere は NT と Windows の認証の種類をサポートします。この 2 つの認証の種類はワークステーションまたは共有ディレクトリで維持されるリストを検査してユーザーまたはグループの有効性を確認します。NT 呼び出し側認証は Windows Vista/XP/2003/Server 2008/2000 でのみサポートされます。

グループ全体の Windows NT 認証の設定について詳しくは『Symantec pcAnywhere 管理者ガイド』を参照してください。

Windows ベースの認証を使う呼び出し側を設定するには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウの拡張表示の左のナビゲーションバーで[ホスト]をクリックします。
- 2 右ペインの[ホスト]で設定したい接続項目を右クリックしてから[プロパティ]を選択します。
- 3 ホストプロパティウィンドウの[呼び出し側]ページの[認証の種類]で使いたい **Windows** ベースの認証方法を選択します。
- 4 [呼び出し側リスト]で新しい項目アイコンをクリックします。
- 5 呼び出しプロパティウィンドウの[識別]ページで次のいずれかを選択します。

[ユーザー]	個々のユーザーの呼び出し側アカウントを設定できます。
[グループ]	ユーザーグループの呼び出し側アカウントを設定できます。

- 6 [ドメイン]でコンピュータ名またはドメイン名を選択します。
- 7 [アカウント]で有効なユーザー名またはグループ名を選択します。
- 8 [OK]をクリックします。

RSA SecurID を使う呼び出し側の設定

RSA SecurID は一種の二要素認証です。SecurID はセキュリティコードに対してユーザーの有効性を確認するもので、セキュリティコードは認証符号とユーザー提供の PIN によって生成されます。Symantec pcAnywhere はネットワークが SecurID をサポートする設定の場合に SecurID をサポートします。

メモ: RSA は Vista/Server 2008 では使えません。

SecurID を使うように pcAnywhere を設定する方法について詳しくは『Symantec pcAnywhere 管理者ガイド』を参照してください。

メモ: RSA SecurID 認証を使うにはホストコンピュータとリモートコンピュータが両方とも pcAnywhere 11.0 以降を実行している必要があります。

RSA SecurID を使う呼び出し側を設定するには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウの拡張表示の左のナビゲーションバーで[ホスト]をクリックします。
- 2 右ペインの[ホスト]で設定したい接続項目を右クリックしてから[プロパティ]を選択します。
- 3 ホストプロパティウィンドウの[呼び出し側]ページの[認証の種類]で[RSA SecurID]を選択します。
- 4 [呼び出し側リスト]で新しい項目アイコンをクリックします。
- 5 呼び出しプロパティウィンドウの[識別]ページでユーザーのログイン名を入力します。
このログイン名は RSA ACE サーバー上の有効なユーザーを表す必要があります。
- 6 [OK]をクリックします。

Web ベースの認証を使う呼び出し側の設定

Web ベースの認証の種類は Web ベースサービスと関連のあるユーザーリストを検査してユーザーの有効性を確認します。Symantec pcAnywhere は FTP、HTTP、HTTPS をサポートします。

Web ベースの認証を使う呼び出し側を設定するには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウの拡張表示の左のナビゲーションバーで[ホスト]をクリックします。
- 2 右ペインの[ホスト]で設定したい接続項目を右クリックしてから[プロパティ]を選択します。
- 3 ホストプロパティウィンドウの[呼び出し側]ページの[認証の種類]で使いたい Web ベースの認証方法を選択します。
- 4 [呼び出し側リスト]で新しい項目アイコンをクリックします。
- 5 呼び出しプロパティウィンドウの[識別]ページで認証サーバーの名前を入力します。

- 6 ユーザーのログイン名を入力します。
- 7 [OK]をクリックします。

ログオンセキュリティの設定

Symantec pcAnywhere は対称暗号化を使ってユーザー ID とパスワードを暗号化することによってログオン情報の安全性を自動的に確保します。権限のないアクセスとサービス拒否からホストコンピュータを保護するようにログオン処理を設定できます。

p.207 の「[暗号化を使ったデータ保護](#)」を参照してください。

メモ: 対称暗号化を使わないように設定されている以前のバージョンの **pcAnywhere** をホストまたはリモートで実行している場合、ログオン情報は暗号化されないことがあります。

ログオンセキュリティを設定するには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウの左のナビゲーションバーで[ホスト]をクリックします。
- 2 右ペインの[ホスト]で設定したい接続項目を右クリックしてから[プロパティ]を選択します。
- 3 ホストプロパティウィンドウの[セキュリティのオプション]ページの[ログインのオプション]で必要に応じて次のオプションを選択します。

[パスワードの大文字と小文字を区別]	パスワードに大文字と小文字を組み合わせさせて使えます。 この設定は pcAnywhere 認証にのみ適用されます。
[ログイン入力の制限時間]	リモートユーザーがログオンに成功するまでの制限時間を指定します。 デフォルト値は 3 分です。
[ログインの再試行回数]	リモートユーザーがログオンするまでにできるログインの再試行回数を指定します。 デフォルト値は 3 回です。
[失敗した IP アドレスを遮断する時間]	指定した時間、特定の IP アドレスからの接続を遮断します。 この設定はログインの再試行回数を超えたリモートユーザーの TCP/IP 接続にのみ適用されます。

- 4 [OK]をクリックします。

接続後のホストコンピュータの安全確保

Symantec pcAnywhere ではリモート接続が行なわれた後でホストコンピュータの安全を確保できます。

接続後にホストコンピュータの安全を確保するには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウの拡張表示の左のナビゲーションバーで[ホスト]をクリックします。
- 2 右ペインの[ホスト]で設定したい接続項目を右クリックしてから[プロパティ]を選択します。
- 3 ホストプロパティウィンドウの[セキュリティのオプション]ページの[接続のオプション]で必要に応じて次のオプションを選択します。

[接続時の確認]

リモートユーザーがホストコンピュータに接続を試みたときに通知します。

確認の要求に応答するまでの秒数を選択します。デフォルト値は 10 秒です。時間切れ秒数が経過したらリモートユーザーを自動的に接続解除するには[時間切れならば接続解除]にもチェックマークを付けます。

[接続後に PC の画面を消す]

ホストサイトにいる他のユーザーがセッションを表示するのを防止するために接続後にホストのコンピュータ画面を消すことができます。

[接続後にワークステーションを保全する]

接続した後でホストコンピュータをロックまたは現在のユーザーをログオフできます。

- 4 [OK]をクリックします。

ネットワーク検索結果でのホスト名の非表示

リモートユーザーが TCP/IP ネットワーク接続を使ってリモートセッションを開始するときにホスト名も IP アドレスも指定しなかった場合、pcAnywhere は同じネットワーク上で実行中の利用可能なホストを自動的にスキャンします。ユーザーはリストでホスト名を選択できます。たとえば、ネットワーク上でのサーバーの露出を最小限に抑えるためなど、安全上の理由からホストユーザーまたは管理者はホスト名がリストに表示されないことを希望する場合があります。Symantec pcAnywhere では検索結果でホスト名を非表示にできます。

特定のコンピュータ名または IP アドレスへの接続を限定することもできます。

詳しくは『Symantec pcAnywhere 管理者ガイド』を参照してください。

ネットワーク検索結果でホスト名を非表示にするには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウの拡張表示の編集メニューで[環境設定]をクリックします。

Windows Vista では、この処理の承認を求めるメッセージが表示される場合があります。組み込み管理者アカウントにログオンしている場合、このメッセージは表示されません。

- 2 pcAnywhere オプションウィンドウの[ホスト通信]ページで[TCP/IP検索結果にホストを表示しない]にチェックマークを付けます。
- 3 [OK]をクリックします。

リモートユーザーのコールバック

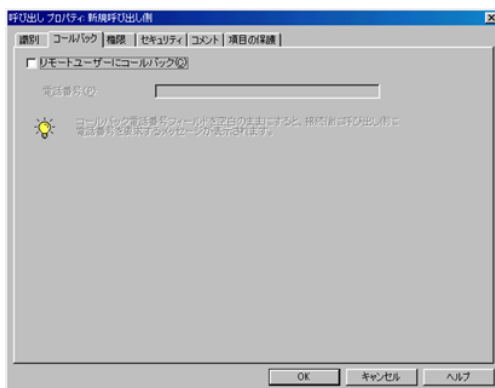
コールバック機能を使うとモデムを通して接続するリモートユーザーの識別情報を確認できます。モデムのドライバをインストールして、モデム接続を選択した場合に表示されます。リモートユーザーがホストに接続を試みると、ホストコンピュータは接続を終了してから、前もって設定されたリモートコンピュータの番号にコールバックします。その番号でリモートコンピュータが接続を待っていないとホストはセッションを中止します。

リモートユーザーをコールバックするには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウの拡張表示の左のナビゲーションバーで[ホスト]をクリックします。
- 2 右ペインの[ホスト]で設定したい接続項目を右クリックしてから[プロパティ]を選択します。
- 3 ホストプロパティウィンドウの[呼び出し側]ページで設定したい呼び出し側項目を右クリックしてから[プロパティ]を選択します。

- 4 [コールバック] ページで[リモートユーザーにコールバック]にチェックマークを付けます。

このページはモデムがインストール済みでコンピュータ上で正しく設定されている場合にのみ表示されます。



- 5 リモートモデムの電話番号を入力します。
- 6 [OK]をクリックします。

アクセス権について

ホストユーザーはホストコンピュータへの接続を許可するユーザーと、そのユーザーに許可する操作を指定できます。Symantec pcAnywhere のデフォルトではリモートユーザーによるホストセッションの中止は制限され、サービス拒否から保護するために活動なしの時間限度が設定されます。この設定は個々のユーザーまたはユーザーグループで変更できます。Symantec pcAnywhere ではホストコンピュータに接続するユーザーが特定の機能を実行できないようにもできます。たとえば、ホストコンピュータの再起動をリモートユーザーに許可しないことができます。

オペレーティングシステムによってはユーザーによる特定のドライブアクセスを制限することもできます。

Symantec pcAnywhere の管理者は中央集中型のポリシー管理を使ってアクセス権を制御できます。

詳しくは『Symantec pcAnywhere 管理者ガイド』を参照してください。

呼び出し側の権限の設定

呼び出し側の権限を使うと、リモートユーザーがホストコンピュータにアクセスするレベルを限定できます。コンピュータの再起動、ホストセッションの中止、コンピュータの電源オフなど、ユーザーに特定の機能の実行を許可するかどうかを制御できます。

ほかにユーザーによるファイル転送の操作と進行中の処理の中止を防止することもできます。ホストコンピュータ上のフォルダの同期またはクローン作成をリモートユーザーに許可したい場合にはアップロードとダウンロードの権限を有効にする必要があります。

pcAnywhere による接続の確立後に実行するコマンドを入力すると、そのコマンドはホストコンピュータ上で自動的に実行されます。コマンドの実行はホストコンピュータにログオンしているユーザーの権限で限定があります。たとえば、ホストコンピュータにログオンしているユーザーの権限がゲストの場合、管理者権限が必要なコマンドは実行されません。ホストコンピュータにログオンしているユーザーがいない場合、コマンドは実行されません。

呼び出し側の権限を設定するには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウの拡張表示の左のナビゲーションバーで[ホスト]をクリックします。
- 2 右ペインの[ホスト]で設定したい接続項目を右クリックしてから[プロパティ]を選択します。
- 3 ホストプロパティウィンドウの[呼び出し側]ページで設定したい呼び出し側項目を右クリックしてから[プロパティ]を選択します。
- 4 呼び出しプロパティウィンドウの[権限]ページで次のいずれかを選択します。

[スーパーユーザー] ユーザーにすべての権限を与えます。

[機能ごとに権限を設定] アクセス権を限定します。

アクセスを許可または制限したいオプションを選択してください。

- 5 リモートユーザーがログオン後に自動処理を実行できるようにするには[接続後に実行するコマンド]フィールドにそのプログラムの実行に必要なコマンド情報を入力します。
- 6 [OK]をクリックします。

呼び出し側の時間限度の設定

ホストが会議のホストとして設定されていなければ一度にホストコンピュータに接続できるリモートユーザーは 1 人のみです。そのユーザーが接続解除するまで他のリモートユーザーはサービスを拒否されます。ユーザーが接続を維持できる時間の長さを制限し、指定の長さの活動なしの後で自動的に接続解除するようにホストを設定することによってサービス拒否からホストコンピュータを保護できます。

このオプションは呼び出し側アカウントに割り当てられているユーザーまたはユーザーグループのみに時間限度を設定します。セッションの時間限度を設定する場合にはタスクを実行するのに十分な時間をリモートユーザーに許可してください。

特定の日と時間にユーザーが接続できないように時間限度を設定することもできます。

p.204 の「[日または時間による接続の遮断](#)」を参照してください。

呼び出し側に時間限度を設定するには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウの拡張表示の左のナビゲーションバーで[ホスト]をクリックします。
- 2 右ペインの[ホスト]で設定したい接続項目を右クリックしてから[プロパティ]を選択します。
- 3 ホストプロパティウィンドウの[呼び出し側]ページで設定したい呼び出し側項目を右クリックしてから[プロパティ]を選択します。
- 4 呼び出しプロパティウィンドウの[権限]ページで[機能ごとに権限を設定]を選択します。
- 5 [時間限度]で必要に応じて次のオプションを選択します。

[セッションの制限時間]	指定した時間の後でリモートユーザーを自動的に接続解除します。
--------------	--------------------------------

[呼び出し側の活動なし時間切れ]	指定した時間内にキーボードの入力もマウスの入力もなかった場合にリモートユーザーを自動的に接続解除します。このオプションにチェックマークを付けると、[セキュリティのオプション]の[活動なしならば接続解除]の設定が有効になります。
------------------	---

- 6 分単位の時間を選択します。
- 7 [OK]をクリックします。

日または時間による接続の遮断

特定の日と時間にユーザーまたはユーザーグループによるホストコンピュータへの接続を遮断できます。これにより、ホストコンピュータで利用可能な接続時間を制御できます。たとえば、重要なタスクを実行する時刻にリモートユーザーによるコンピュータへの接続を遮断できます。

日または時間によって接続を遮断するには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウの拡張表示の左のナビゲーションバーで[ホスト]をクリックします。
- 2 右ペインの[ホスト]で設定したい接続項目を右クリックしてから[プロパティ]を選択します。
- 3 ホストプロパティウィンドウの[呼び出し側]ページで設定したい呼び出し側項目を右クリックしてから[プロパティ]を選択します。
- 4 呼び出しプロパティウィンドウの[セキュリティ]ページで[この呼び出し側に日時の制限を設定する]をクリックします。

- 5 [日時の制限]をクリックします。
- 6 [呼び出し側の日時制限]ウィンドウでアクセスを制限したい週の曜日を選択します。
曜日の隣のフィールドにチェックマークが付いている場合には表示時間の間、接続が制限されます。曜日の隣のフィールドにチェックマークが付いていない場合には日または時間の制限はありません。
- 7 [開始]ドロップダウンリストで時間制限の開始時間を選択します。
- 8 [終了]ドロップダウンリストで時間制限の終了時間を選択します。
- 9 [OK]をクリックします。

セッションのセキュリティについて

Symantec pcAnywhere には、ホストセッションのセキュリティを保護して他のユーザーの不注意でセッションが切断されないようにするために次のオプションが用意されています。

キーボードとマウスの制限	セッション中にホストコンピュータまたはリモートコンピュータのキーボードまたはマウスをロックすることができます。 セッション中でないときには特定のユーザーまたはユーザーグループに制限を設定できます。 p.206 の「キーボードとマウスの操作の制限」を参照してください。 接続中に制限を設定することもできます。 p.116 の「リモート制御セッション中にできること」を参照してください。
活動なし時間限度	サービス拒否からホストコンピュータを保護するようにすべてのセッションに時間限度を設定できます。 p.206 の「セッションの活動なし時間限度の設定」を参照してください。 特定のユーザーまたはユーザーグループに時間限度を設定することもできます。 p.203 の「呼び出し側の時間限度の設定」を参照してください。
画面の消去	ホストサイトにいる他のユーザーがセッションを表示するのを防止するために接続時にホスト画面を消すことができます。 p.200 の「接続後のホストコンピュータの安全確保」を参照してください。 呼び出し側レベルで画面の消去を設定することもできます。 p.202 の「アクセス権について」を参照してください。

キーボードとマウスの操作の制限

pcAnywhere では、ホストとリモートの両方のユーザーがセッション中にキーボードとマウスを使えます。この設定を変更して、キーボードとマウスの操作を特定のユーザーまたはユーザーグループに制限することもできます。この設定は呼び出し側のすべてのホストセッションに適用されます。また、セッション中にキーボードとマウスをロックすることもできます。この制限はこのセッションにのみ適用されます。

p.116 の「**リモート制御セッション中にできること**」を参照してください。

ホストユーザーがキーボードとマウスのすべての操作をできるように設定すると、セッション中にリモートコンピュータのキーボードとマウスがロックします。この設定はデモまたはトレーニングのセッションの司会をしているときにセッションを中断から保護するために使います。

リモートユーザーがキーボードとマウスのすべての操作をできるように設定すると、セッション中にホストコンピュータのキーボードとマウスがロックします。この設定は問題のトラブルシューティングのためにリモートユーザーにホストコンピュータへの接続を許可している場合またはホストセッションを無人で実行している場合（たとえば、自宅から会社のコンピュータに接続している場合）に使います。

呼び出し側のキーボードとマウスの操作を制限するには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウの拡張表示の左のナビゲーションバーで[ホスト]をクリックします。
- 2 右ペインの[ホスト]で設定したい接続項目を右クリックしてから[プロパティ]を選択します。
- 3 ホストプロパティウィンドウの[呼び出し側]ページで設定したい呼び出し側項目を右クリックしてから[プロパティ]を選択します。
- 4 呼び出しプロパティウィンドウの[セキュリティ]ページで次のいずれかを選択します。

[ホストとリモート]	両方のユーザーがキーボードとマウスを操作できます。
[ホスト]	セッション中にリモートコンピュータのキーボードとマウスをロックします。
[リモート]	セッション中にホストコンピュータのキーボードとマウスをロックします。

- 5 [OK]をクリックします。

セッションの活動なし時間限度の設定

ホストが会議のホストとして設定されていなければ一度にホストコンピュータに接続できるリモートユーザーは 1 人のみです。そのユーザーが接続解除するまで他のリモートユーザー

ザーはサービスを拒否されます。ユーザーが接続を維持できる時間の長さを制限し、指定の長さの活動なしの後で自動的に接続解除するようにホストを設定することによってサービス拒否からホストを保護できます。

このオプションはすべてのセッションに時間限度を設定します。Symantec pcAnywhere では個々の呼び出し側にも時間限度を設定できます。セッションの時間限度を設定する場合にはタスクを実行するのに十分な時間をリモートユーザーに許可してください。

p.203 の「呼び出し側の時間限度の設定」を参照してください。

セッションの活動なし時間限度を設定するには

- 1 pcAnywhere ウィンドウの拡張表示の左のナビゲーションバーで[ホスト]をクリックします。
- 2 右ペインの[ホスト]で設定したい接続項目を右クリックしてから[プロパティ]を選択します。
- 3 ホストプロパティウィンドウの[セキュリティのオプション]ページの[セッションのオプション]で[活動なしならば接続解除]にチェックマークを付けます。
- 4 時間切れの長さを選択します。
- 5 [OK]をクリックします。

暗号化を使ったデータ保護

暗号化とは権限のないユーザーによるデータの読み取りまたは改ざんを防止するためにデータをエンコードまたはスクランブルする方式です。最新のコンピュータ暗号化方式は複雑な数学的アルゴリズムを使ってデータの暗号化と復号を行います。Symantec pcAnywhere は送信するデータを伝送中に権限のないユーザーが読み取りまたは改ざんできないようにするために公開キー暗号化と対称暗号化アルゴリズムの標準的な組み合わせを使います。

Symantec の暗号化モジュールについて

Symantec pcAnywhere に含まれる Symantec 暗号化モジュールではさまざまなキー長の AES 暗号化がアルゴリズムによって提供されます。Symantec の暗号化モジュールは FIPS (Federal Information Processing Standards、米国連邦政府情報処理規格) 140-2 の認定を受けました。

FIPS 140-2 Security Requirements for Cryptographic Modules (暗号化モジュールのセキュリティ必要条件) は、NIST (National Institute of Standards and Technology、米国標準技術研究所) が開発した標準の集合です。FIPS 140-2 標準は、暗号化ベースのセキュリティシステムを使ってコンピュータと通信システムの重要ではあるものの機密区分が定められていない情報を保護している連邦政府の関係機関に適用されます。このセキュリティ技術は米国やカナダの多くの政府や金融機関の指示について義務付けられています。

FIPS 140-2 の必要条件または認定プロセスについて詳しくは NIST の次の URL の Web サイトを参照してください。

<http://csrc.nist.gov/cryptval/140-2.htm>

Symantec の暗号化モジュールや FIPS 140-1 または FIPS 140-2 認定試験に合格した他の暗号化モジュールについて詳しくは NIST の次の URL の Web サイトを参照してください。

<http://csrc.nist.gov/cryptval/140-1/1401val.htm>

対称暗号化について

対称暗号化ではデータの暗号化と復号に接続ごとにランダムに生成される対称暗号化キーの組を使います。このキーのネゴシエーションと交換には匿名キー交換用の標準プロトコルが使われます。セッション中、送信者と受信者の両方がこのキーを共有します。

対称暗号化の利点は設定が簡単なことですが、危険が伴います。キーを匿名で交換するため最初のキー交換中に誰かがデータを傍受し、この交換に使うキーに細工し、そして対称キーを見破る可能性があります。この種類の脆弱性は中間者攻撃として知られています。受信者には実際に本来の送信者からデータが届いたことを確認する方法はありません。

セキュリティと処理効率のニーズに最適な対称暗号化アルゴリズムを選択できます。各アルゴリズムはキーとして知られるビット列を使って計算を実行します。キー長を選択することによって暗号化レベルを強化できます。キー長を長くするほど、作成できる可能性のあるパターンの数が多くなります。これによって暗号コードはいつそう解読しにくくなります。キー長を長くすると暗号化は強力になりますが、処理効率の低下につながる可能性もあります。利用可能なキー長は、選択するアルゴリズムの種類とコンピュータのオペレーティングシステムによって異なります。

p.209 の「[処理効率かセキュリティかの問題](#)」を参照してください。

p.210 の「[対称暗号化を使うための pcAnywhere の設定](#)」を参照してください。

公開キー暗号化について

公開キー暗号化では送信者と受信者の両方にデジタル証明書のほかに公開キーと秘密キーの対応する組が必要です。公開キーはデジタル証明書の一部として自由に配布されますが、秘密キーは厳重に秘匿されます。秘密キーは公開キーが暗号化した内容を復号できます。

対称暗号化と同じように、公開キー暗号化は同じ対称暗号化キーの組を使ってデータの暗号化と復号を行ないます。違うのは使われるキー交換プロトコルです。対称暗号化は匿名プロトコルを使うのに対し、公開キー暗号化は強力な認証をとまなうプロトコルを使います。

キー交換中、送信者は対称キーを生成してそれを受信者の公開キーを使って暗号化します。受信者のみが秘密キーを使ってこのデータを復号できます。秘密キーが交換されることはありません。このため、公開キー暗号化には中間者攻撃に対する脆弱性はありません。

p.212 の「公開キー暗号化を使う [pcAnywhere の設定](#)」を参照してください。

処理効率かセキュリティかの問題

暗号化を使うかどうかと、どの方式を使うかを決定する場合には処理効率とセキュリティの必要性とを比較検討してください。強力な暗号化を使うと、データのプライバシーと整合性を保護できます。しかし、強力な暗号化にはデータの処理と転送により多くのリソースが必要なため処理効率が低下する可能性もあります。

送信するデータの機密性が高い場合や強力な暗号化が義務付けられている分野での業務を行う場合は強力な暗号化を使ってください。

pcAnywhere の暗号化のしくみ

Symantec pcAnywhere は対称暗号化と公開キー暗号化を組み合わせで使います。2つの技法を組み合わせることで **pcAnywhere** はそれぞれの方法の長所の速度と安全性を備えることができます。

Symantec pcAnywhere にはリモートセッション中にホストとリモートコンピュータ間のデータストリームを保護するために次のオプションが用意されています。

- **pcAnywhere** エンコード
- 対称暗号化
- 公開キー暗号化

ホストコンピュータとリモートコンピュータが **pcAnywhere 11.5** 以降を実行していて、それぞれの暗号化レベルが一致しない場合には、**pcAnywhere** は暗号化レベルが低いコンピュータの設定を高いほうのコンピュータに合わせて自動的に上げます。また、自身のコンピュータで対称暗号化を使っていて、もう一方のコンピュータがそれよりも低い暗号化レベルを使っている場合、**pcAnywhere** は自動的にアルゴリズムのレベルを上げます。

たとえば、ホストの暗号化レベルが **pcAnywhere** エンコードに設定されているときにリモートの暗号化レベルが対称暗号化に設定されている場合、**pcAnywhere** はホストの暗号化レベルを対称暗号化に自動的に上げます。

ホストコンピュータまたはリモートコンピュータが **pcAnywhere 11.0.x** 以前を実行していて、それぞれの暗号化レベルまたはアルゴリズムが一致しない場合には、**Symantec pcAnywhere** は暗号化レベルが高いコンピュータの暗号化レベルを下げて暗号化レベルの低いコンピュータに合わせます。または、接続を拒否するように **pcAnywhere** を設定することもできます。

p.211 の「[暗号化レベルの低いコンピュータからの接続の拒否](#)」を参照してください。

pcAnywhere エンコードを使う pcAnywhere の設定

Symantec pcAnywhere エンコードは第三者が簡単にはデータストリームを解読できないように単純な変換をデータに適用します。この暗号化レベルは強力な暗号化技法をサポートしない以前のバージョンの pcAnywhere と互換性があります。

pcAnywhere エンコードを使うように pcAnywhere を設定するには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウの拡張表示で次のいずれかの操作をします。
 - ホストコンピュータで pcAnywhere エンコードを設定するには、左のナビゲーションバーで[ホスト]をクリックします。
 - リモートコンピュータで pcAnywhere エンコードを設定するには、左のナビゲーションバーで[リモート]をクリックします。
- 2 右ペインで設定したい接続項目を右クリックしてから[プロパティ]を選択します。
- 3 プロパティウィンドウの[暗号]ページの[設定]の[レベル]リストで[pcAnywhere エンコード]を選択します。

低い暗号化レベルを使うコンピュータとの接続を拒否するように pcAnywhere を設定できます。このオプションは pcAnywhere 11.0.x 以前を実行しているコンピュータにのみ適用されます。

p.211 の「[暗号化レベルの低いコンピュータからの接続の拒否](#)」を参照してください。

- 4 [OK]をクリックします。

対称暗号化を使うための pcAnywhere の設定

対称暗号化では、pcAnywhere はセッションの暗号化に使う対称暗号化キーの組のネゴシエーションを自動的に行います。使いたい対称暗号化アルゴリズムと暗号化キー長を選択できます。キー長を長くするとセキュリティレベルは強力になりますが、処理効率に影響する可能性があります。

p.209 の「[処理効率かセキュリティかの問題](#)」を参照してください。

pcAnywhere で RC4 対称暗号化をサポートするには Microsoft CryptoAPI が必要です。最新バージョンの Microsoft CryptoAPI を確実に用意するには Microsoft Internet Explorer 6.x 以降をコンピュータにインストールしておく必要があります。

対称暗号化を使うように pcAnywhere を設定するには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウの拡張表示で次のいずれかの操作をします。
 - 暗号化を使うようにホストコンピュータを設定するには、左のナビゲーションバーの[ホスト]をクリックします。
 - 暗号化を使うようにリモートコンピュータを設定するには、左のナビゲーションバーの[リモート]をクリックします。
- 2 右ペインで設定したい接続項目を右クリックしてから[プロパティ]を選択します。

3 プロパティウィンドウの[暗号]ページの[設定]の[レベル]リストで[対称]を選択します。

4 [アルゴリズム]リストでアルゴリズムの種類を選択します。

5 [キー長]リストでキー長を選択します。

利用可能なオプションは選択するアルゴリズムの種類とコンピュータのオペレーティングシステムに左右されます。

6 低い暗号化レベルを使うコンピュータとの接続を拒否するように **pcAnywhere** を設定できます。このオプションは **pcAnywhere 11.0.x** 以前を実行しているコンピュータにのみ適用されます。

p.211 の「[暗号化レベルの低いコンピュータからの接続の拒否](#)」を参照してください。

7 [OK]をクリックします。

暗号化レベルの低いコンピュータからの接続の拒否

Symantec pcAnywhere では、古いバージョンの Symantec pcAnywhere や低い暗号化レベルを使っているリモートコンピュータからの接続を拒否するようにホストコンピュータを設定できます。古いバージョンの **pcAnywhere** や低い暗号化レベルを使っているホストコンピュータへの接続を中止するようにリモートコンピュータを設定することもできます。このオプションは **pcAnywhere 11.0.x** 以前を実行しているコンピュータにのみ適用されます。

ホストコンピュータとリモートコンピュータが **pcAnywhere 11.5** 以降を実行していて、それぞれの暗号化レベルが一致しない場合には、**pcAnywhere** は暗号化レベルが低いコンピュータの設定を高いほうのコンピュータに合わせて自動的に上げます。

暗号化レベルの低いリモートコンピュータからの接続を拒否するには

1 Symantec pcAnywhere ウィンドウの拡張表示の左のナビゲーションバーで[ホスト]をクリックします。

2 右ペインの[ホスト]で設定したい接続項目を右クリックしてから[プロパティ]を選択します。

3 プロパティウィンドウの[暗号]ページの[設定]の[レベル]リストで、使いたい暗号化の種類を選択します。

4 必要に応じて、使いたいアルゴリズムとキー強度を選択します。

5 [制限]で次のいずれかの操作をします。

- 暗号化の種類に基づいて接続を制限するには[低い暗号化レベルを要求するリモートからの接続を拒否する]にチェックマークを付けます。
このオプションは公開キー暗号化には適用できません。

- アルゴリズムとキー長に基づいて接続を制限するには[異なるアルゴリズムを要求するリモートからの接続を拒否する]にチェックマークを付けます。

このオプションは **pcAnywhere** エンコードには適用できません。

6 [OK]をクリックします。

公開キー暗号化を使う **pcAnywhere** の設定

公開キー暗号化では、**pcAnywhere** はデジタル証明書を使って接続とデータ送信を試みるユーザーの識別と確認を行ないます。そのあと、セッションの安全を確保するために対称暗号化アルゴリズムを使います。

ホストとリモートの両方のユーザーが確実に適切なキーの組にアクセスできるようにするにはいくつかの設定が必要です。**pcAnywhere** で公開キー暗号化を使うには、ホストとリモートのユーザーが次のことを行なう必要があります。

- 互いにデジタル証明書のコピーを交換する
- コンピュータに接続するユーザーの証明書が入った証明書ストアを設定する
- ホストコンピュータがサービスとして実行中に証明書と秘密キーを検索する
- 公開キー暗号化を使うように接続項目を設定する

公開キー暗号化を選択すると、**pcAnywhere** は同じように公開キー暗号化を使っているコンピュータとの接続のみ許可します。他の暗号化レベル設定のコンピュータとの接続は拒否されます。

Windows Vista で公開キー暗号化を使う **pcAnywhere** の設定

ユーザーは **Vista** に管理者としてログオンできますが、すべてのアプリケーションは標準ユーザーの権限で実行されます。ホストがサービスとして実行される設定の場合、ホストはコンピュータのストアで証明書を探します。標準ユーザーにはコンピュータの証明書ストアへのアクセス権がないので、[ホストプロパティ]の[暗号]ページには秘密キーが表示されません。この場合に、公開キー暗号化を設定するには、次のいずれかの操作をします。

- デスクトップアイコンを右クリックしてから[管理者として実行]をクリックして管理者権限で **pcAnywhere** を起動します。公開キー暗号化を使ったサービスとして実行されるようにホストを設定します。
- 標準ユーザーとして **pcAnywhere** を起動してから、公開キー暗号化を使ったアプリケーションとして実行されるようにホストを設定します。

別のユーザーに送信する 証明書ファイルの作成

証明書とはユーザーの名前、公開キー、発行元の機関、データ署名などの識別情報が入ったデータ文書です。

Symantec pcAnywhere では **Microsoft** 互換の証明書を使う必要があります。これは民間の認証機関（たとえば、**VeriSign** または **Entrust**）や社内の認証サーバーから取得で

きます。**Vista**には **IIS** の証明書セクションに、自己生成型証明書と呼ばれる自分自身の証明書を作成する機能があります。この証明書は **IIS 7.0** から作成できます。

証明書ファイルは **Microsoft Internet Explorer** で証明書をエクスポートして作成できます。秘密キーを含まない任意のエクスポート形式(たとえば、ファイル拡張子 **.p7b** の **PKCS#7**)を使います。そのファイルは安全な方法を使って接続先のコンピュータに送信します。

代わりに相手のユーザーが認証機関から証明書をダウンロードすることもできます。認証機関の指示に従って操作し別のユーザーの証明書を見つけてダウンロードします。

別のユーザーに送信する証明書ファイルを作成するには

- 1 **Microsoft Internet Explorer** のツールメニューで[インターネットオプション]を選択します。
- 2 インターネットオプションウィンドウの[コンテンツ]ページで[証明書]をクリックします。
- 3 証明書を選択してから[エクスポート]をクリックします。

詳しくは **Microsoft Internet Explorer** のマニュアルを参照してください。

証明書ストアの設定

証明書ストアとはコンピュータへの接続が許可されたユーザーの 1 つ以上の証明書が入った安全なデータベースです。この証明書に対応する秘密キーを持つユーザーのみが接続できます。ファイルは デジタル証明書を含み、秘密キーを含んではいけません。

セッションの公開キーを見つけるために、**pcAnywhere** はリモートユーザーに属する証明書を証明書ストアで検索します。

Symantec pcAnywhere では証明書ストアとして次のファイル形式を使うことができます。

- **Microsoft** 互換の証明書ストア
- **PKCS#7** 暗号メッセージ
- 認証機関から取得した未加工の証明書

証明書ストアを設定するには

- 1 **Symantec pcAnywhere** ウィンドウの拡張表示の編集メニューで[環境設定]をクリックします。
- 2 **pcAnywhere** オプションウィンドウの[暗号]ページでホストコンピュータに接続するユーザーの証明書ファイルのパスと名前を入力します。

ユーザーからこの証明書ファイルの提供を受ける必要があります。

p.212 の「別のユーザーに送信する証明書ファイルの作成」を参照してください。

- 3 [OK]をクリックします。

証明書と秘密キーの検索

ホストがサービスとして実行する設定の場合、個々のユーザー用に Windows が格納している秘密キーのデータを使うことはできません。MachKey プログラムを使って証明書と秘密キーを検索して、それらを現在のユーザーの証明書ストアからローカルコンピュータの証明書ストアにコピーできます。MachKey は pcAnywhere に付属しています。

MachKey を使って公開キー暗号化ウィザードを実行するときに、ローカルコンピュータの証明書ストアにコピーした証明書を選択できます。

証明書と秘密キーを検索するには

- 1 Windows のエクスプローラで次のファイルを見つけてダブルクリックします。
¥¥Program Files¥¥Symantec¥¥pcAnywhere¥¥MachKey.exe
- 2 [MACHKEY 証明書コピーユーティリティ]ダイアログボックスの[MY ストア]で、ローカルコンピュータの証明書ストアにコピーしたい証明書を選択します。

ホストコンピュータはリモートコンピュータの証明書ファイルから公開キーを取得します。ホストがサービスとして実行する設定の場合、その証明書ファイルはサービスがアクセスできる場所(たとえばローカルハードディスクドライブ)にある必要があります。

p.71 の「[ホスト起動オプションの設定](#)」を参照してください。
- 3 [MACHINE ストアにコピー]をクリックします。
- 4 MACHKEY 証明書コピーユーティリティを終了します。

公開キー暗号化を使う接続項目の設定

公開キー暗号化では相互に信頼された認証機関が発行した デジタル証明書がホストとリモートの両方のユーザーに必要です。ホストとリモートのユーザーはデジタル証明書についての情報を含む接続項目ファイルを設定する必要があります。

公開キー暗号化を選択する場合にはアルゴリズムの種類とキー長も選択します。キー長を長くするとセキュリティレベルは強力になりますが、処理効率に影響する可能性があります。

p.209 の「[処理効率かセキュリティかの問題](#)」を参照してください。

Symantec pcAnywhere には案内に従って設定を行なえる公開キー暗号化ウィザードが用意されています。または、この情報を手動で設定することもできます。

公開キー暗号化を使うように手動で接続項目を設定するには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウの拡張表示で次のいずれかの操作をします。
 - 公開キー暗号化を使うようにホストコンピュータを設定するには、左のナビゲーションバーの[ホスト]をクリックします。

- 公開キー暗号化を使うようにリモートコンピュータを設定するには、左のナビゲーションバーの[リモート]をクリックします。
- 2 右ペインで設定したい接続項目を右クリックしてから[プロパティ]を選択します。
- 3 プロパティウィンドウの[暗号]ページの[設定]の[レベル]リストで[公開キー]を選択します。
- 4 [アルゴリズム]リストでアルゴリズムの種類を選択します。
- 5 [キー長]リストでキー長を選択します。
利用可能なオプションは選択するアルゴリズムの種類とコンピュータのオペレーティングシステムに左右されます。
- 6 異なるアルゴリズムを使うコンピュータとの接続を拒否するには次のいずれかの操作をします。
 - リモート接続項目を設定する場合には[異なるアルゴリズム設定のホストには接続しない]にチェックマークを付けます。
 - ホスト接続項目を設定する場合には[低い暗号化レベルを要求するリモートからの接続を拒否する]にチェックマークを付けます。
- 7 [公開キー暗号化の設定]の[秘密キーコンテナ]リストでデジタル証明書に対応する秘密キーの名前を選択します。
- 8 [証明書共通名]フィールドにこの証明書の共通名を入力します。
この情報は太文字と小文字が区別されます。認証機関に提出したとおりに正確に名前を入力してください。
- 9 [OK]をクリックします。

公開キー暗号化ウィザードで公開キー暗号化を使うように接続項目を設定するには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウの拡張表示で次のいずれかの操作をします。
 - 公開キー暗号化を使うようにホストコンピュータを設定するには、左のナビゲーションバーの[ホスト]をクリックします。
 - 公開キー暗号化を使うようにリモートコンピュータを設定するには、左のナビゲーションバーの[リモート]をクリックします。
- 2 右ペインで設定したい接続項目を右クリックしてから[プロパティ]を選択します。
- 3 プロパティウィンドウの[暗号]ページの[設定]の[レベル]リストで[公開キー]を選択します。
- 4 [アルゴリズム]リストでアルゴリズムの種類を選択します。
- 5 [キー長]リストでキー長を選択します。
利用可能なオプションは選択するアルゴリズムの種類とコンピュータのオペレーティングシステムに左右されます。

- 6 異なるアルゴリズムを使うコンピュータとの接続を拒否するには次のいずれかの操作をします。
 - リモート接続項目を設定する場合には[異なるアルゴリズム設定のホストには接続しない]にチェックマークを付けます。
 - ホスト接続項目を設定する場合には[低い暗号化レベルを要求するリモートからの接続を拒否する]にチェックマークを付けます。
- 7 [公開キー暗号化ウィザード]をクリックします。
画面の指示に従って操作して秘密キーコンテナと証明書の共通名を設定します。
- 8 終了したら[OK]をクリックします。

設定の保護

接続項目と呼び出し側アカウントはパスワードを設定することによって保護できます。覚えられるパスワードにすることは重要ですが、他人に簡単には見破られないパスワードにしてください。

ホスト接続項目とリモート接続項目には、接続を確立してセッションを実行するのに必要な情報が格納されています。この情報には、ログオン情報とセキュリティ設定が含まれています。呼び出し側アカウントにはユーザーまたはユーザーグループの認証情報とアクセス権が含まれています。パスワードを設定すれば、権限のないユーザーが設定を改変したり許可なくセッションを起動することを予防できます。

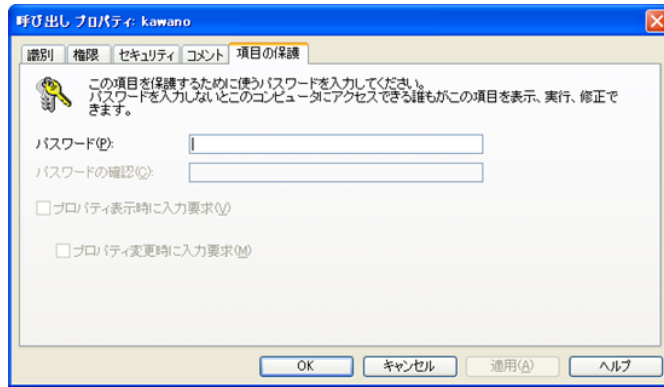
接続項目を保護するには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウの拡張表示の左のナビゲーションバーで次のいずれかの操作をします。
 - ホスト接続項目を保護するには[ホスト]をクリックします。
 - リモート接続項目を保護するには[リモート]をクリックします。
- 2 右ペインで保護したい接続項目を右クリックしてから[プロパティ]を選択します。
- 3 プロパティウィンドウの[項目の保護]ページでパスワードを入力します。
- 4 確認のために同じパスワードをもう一度入力します。
- 5 パスワードの入力を要求する処理を選択します。
- 6 [OK]をクリックします。

呼び出し側アカウントを保護するには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウの拡張表示の左のナビゲーションバーで[ホスト]をクリックします。
- 2 右ペインで保護したい接続項目を右クリックしてから[プロパティ]を選択します。

- 3 ホストプロパティウィンドウの[呼び出し側]ページで保護したい呼び出し側項目をダブルクリックします。



- 4 呼び出しプロパティウィンドウの[項目の保護]ページでパスワードを入力します。
- 5 確認のために同じパスワードをもう一度入力します。
- 6 パスワードの入力を要求する処理を選択します。
- 7 [OK]をクリックします。

ホストの セキュリティを評価する方法

ホスト評価ツールを使うと **pcAnywhere** のセキュリティ機能が適切に利用されているかどうかを確認するためにホスト接続項目の設定を検査できます。これは危険にさらされている可能性のある場所を識別するのに役立ちます。

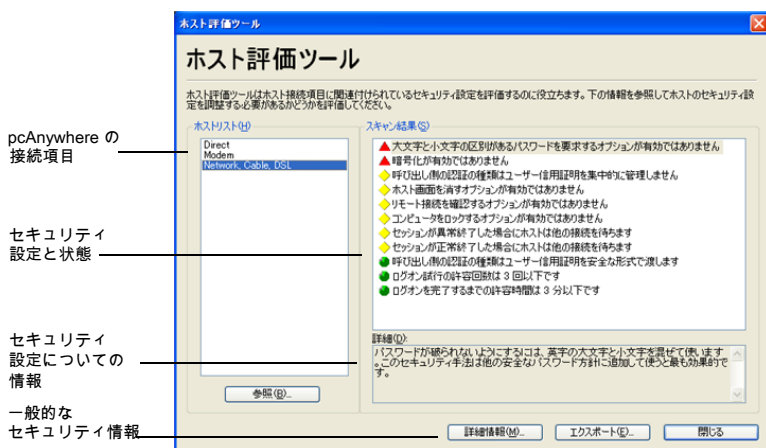
ホスト評価ツールはコンピュータの設定がサポートするセキュリティ設定のみ検査します。たとえば、大文字と小文字を区別するパスワードはホストコンピュータが **pcAnywhere** 認証を使う場合にのみ適用できます。特定のセキュリティ機能をサポートしない設定のコンピュータをホスト評価ツールが検出した場合、その機能はスキャンには含まれません。

ホスト評価ツールの実行

ホスト評価ツールを実行すると **pcAnywhere** のデータフォルダにあるホスト接続項目の名前のリストがメインウィンドウに表示されます。

ホスト評価ツールウィンドウを図 9-1 に示します。

図 9-1 ホスト評価ツールウィンドウ



ホスト接続項目 (.bhf ファイル) を別のフォルダに移動した場合、ホスト名のリストは表示されません。スキャンを実行する前にホスト接続項目の新しい場所を指定する必要があります。

p.218 の「[ホスト接続項目の場所の指定](#)」を参照してください。

ホスト評価ツールを実行するには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウの拡張表示の左のナビゲーションバーで「pcAnywhere ツール」をクリックします。
- 2 右ペインの「アプリケーション」で「ホスト評価ツール」をダブルクリックします。
- 3 ホスト評価ツールウィンドウの「ホストリスト」でスキャンしたいホスト接続項目を選択します。

ホストリストで項目を選択した後、「スキャン結果」リストにスキャンの結果が自動的に表示されます。

選択したホスト接続項目のプロパティを表示するのにパスワードが必要な場合にはパスワードの入力を要求するメッセージが表示されます。

ホスト接続項目の場所の指定

デフォルトではホスト評価ツールはホスト接続項目 (.bhf ファイル) を pcAnywhere のデータフォルダで検索します。ホスト接続項目を別のフォルダに移動した場合にはスキャンを実行する前にホスト接続項目の新しい場所を指定する必要があります。

ホスト接続項目の場所を指定するには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウの拡張表示の左のナビゲーションバーで [pcAnywhere ツール] をクリックします。
- 2 右ペインの [アプリケーション] で [ホスト評価ツール] をダブルクリックします。
- 3 ホスト評価ツールウィンドウで [参照] をクリックします。
- 4 ホスト接続項目を含むフォルダ名を選択します。
- 5 [OK] をクリックします。

スキャン結果の分析

ホスト評価ツールの実行後、検査されたセキュリティ設定のリストが [スキャン結果] フィールドに表示されます。各項目の左にあるアイコンはより安全な場所や改善のための場所を識別するのに役立ちます。

アイコンの説明を表 9-1 に示します。

表 9-1 ホスト評価ツールのアイコン

アイコン	説明
赤の三角形	心配な場所を表します。このセキュリティ設定は使用中でないか、または安全な設定になっていません。
黄色のダイヤ	使用中でないが検討する価値のあるセキュリティ機能に注意を向けます。意識を高めるためのものです。機能によっては環境に合わない場合があります。
緑の円	セキュリティ設定が有効であることを表します。

色分けのアイコンを見ると pcAnywhere のセキュリティ設定を利用しているかどうかわかります。結果を確認するとき、ある色のアイコン数が別の色よりも多いことがホスト設定の安全性の高い低いを必ずしも意味するわけではないので注意してください。

セキュリティ設定によっては環境に合わない場合があります。たとえば、ホスト評価ツールはスーパーユーザーの権利がある呼び出し側アカウントの有無を検査し、もし見つかるとその呼び出し側を赤のアイコンで識別します。ほとんどの場合、リモートユーザーがホストコンピュータにアクセスするレベルを限定する必要があります。ただし、呼び出し側アカウントが自分自身または別の信頼できるユーザーの場合はより多くのアクセス権を許可することが適切な場合もあります。

スキャン結果についての詳しい情報の表示

ホスト評価ツールウィンドウの [詳細] フィールドには、特定の設定のセキュリティに対する影響について詳しい情報が表示されます。

スキャン結果についての詳しい情報を表示するには

- ◆ [スキャン結果]リストでさらに詳しく知りたいエントリを選択します。

セキュリティ機能についての詳細情報

ホスト評価ツールにはオプション選択時に検討する重要な要因など、pcAnywhereで安全を確保する方法についての情報が用意されています。

セキュリティ機能について詳細情報を表示するには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウの拡張表示の左のナビゲーションバーで[pcAnywhere ツール]をクリックします。
- 2 右ペインの[アプリケーション]で[ホスト評価ツール]をダブルクリックします。
- 3 ホスト評価ツールウィンドウで[詳細情報]をクリックします。

スキャン結果の保存

ホスト評価ツールではスキャンの結果をカンマ区切りの CSV 形式のファイルに保存できます。このファイルは設定またはセキュリティの監視ツールとして管理者に送信したり、他のホスト接続項目を設定するための参照用に使ったりできます。

スキャン結果を保存するには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウの左のナビゲーションバーで[pcAnywhere ツール]をクリックします。
- 2 右ペインの[アプリケーション]で[ホスト評価ツール]をダブルクリックします。
- 3 ホスト評価ツールウィンドウで[エクスポート]をクリックします。
- 4 エクスポートファイルの選択ウィンドウでファイルを保存したい場所を入力します。
- 5 ファイル名を入力します。
- 6 [OK]をクリックします。

セッションの監視と記録

この章では以下の項目について説明しています。

- [Symantec pcAnywhere のイベントの監視](#)
- [ログファイルの管理](#)
- [セッションの記録と再生について](#)

Symantec pcAnywhere のイベントの監視

Symantec pcAnywhere の イベントログ記録機能を使うとセッション活動を監視してセキュリティ、トラブルシューティング、監査の目的で問題を追跡できます。安全のために、失敗したログオン試行についての情報、実行中のホストセッションの数と接続したユーザー、機密ファイルにアクセスがあったかどうかをログに記録できます。

環境に応じてセッション中に起きたイベントについての情報は pcAnywhere が生成するログファイル、Windows イベントビューア、SNMP (Simple Network Management Protocol の略) コンソールのいずれかに送信できます。Symantec pcAnywhere は集中型ログ記録をサポートするので安全な中央サーバーにログを保存できます。

ログ記録は便利なツールですが、ホスト上で開かれたすべてのファイルを記録するなど追跡するイベントの種類によっては処理効率が低下することがあります。

詳しくは『Symantec pcAnywhere 管理者ガイド』を参照してください。

ログ記録イベントの SNMP トラップへの送信

Symantec pcAnywhere は SNMP コンソールへのイベントの集中型ログ記録をサポートします。SNMP はネットワークデバイス間での管理情報の交換を簡易化する業界標準のアプリケーション層プロトコルです。これは TCP/IP (Transmission Control Protocol/Internet Protocol の略) プロトコルスイートの一部です。Symantec pcAnywhere は SNMP を使って互換性があるコンソールに SNMPv1 トラップの形式でイベントを送信し、コンソールは pcAnywhere が生成したイベントを記録します。

ログ記録イベントを SNMP トラップに送信するには

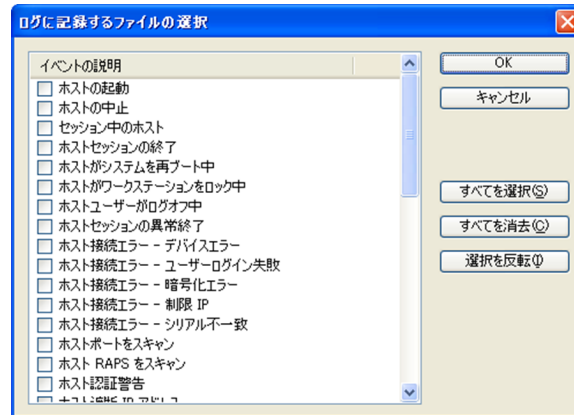
- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウの編集メニューで[環境設定]を選択します。

Windows Vista では、この処理の承認を求めるメッセージが表示される場合があります。組み込み管理者アカウントにログオンしている場合、このメッセージは表示されません。

- 2 pcAnywhere オプションウィンドウの[イベントログ記録]ページで[SNMP トラップを有効にする]にチェックマークを付けます。

このページを見つけるには pcAnywhere オプションウィンドウで左右の矢印をクリックしてページをスクロールします。

- 3 [追加]をクリックします。
- 4 SNMP トラップ先ウィンドでトラップ先の IP アドレスを入力します。
- 5 [OK]をクリックします。
- 6 [イベントの選択]をクリックします。



- 7 [ログに記録するファイルの選択]ウィンドウでログに記録したいイベントを選択します。
- 8 [OK]をクリックします。

pcAnywhere ログファイルの生成

オペレーティングシステムにログ機能がない場合や pcAnywhere イベント用に別のログファイルを維持したい場合は、pcAnywhere ログ生成を使用することができます。Symantec pcAnywhere では記録したイベントをローカルコンピュータまたは安全な中央サーバーに送信できます。ローカルログ記録の場合、ホストが開始するイベントはホストコンピュータに記録されます。リモートが開始するイベントはリモートコンピュータに記録されます。

中央サーバーにイベントを記録するにはサーバーに対するアクセス権が必要です。

p.224 の「中央サーバーへの情報のログ記録について」を参照してください。

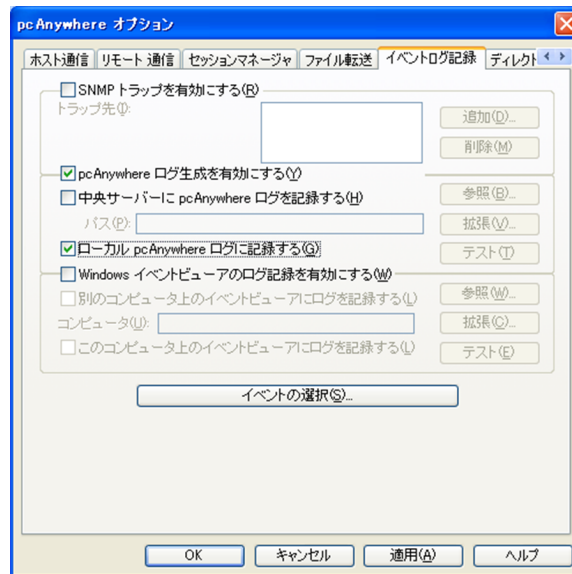
pcAnywhere ログファイルを生成するには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウの編集メニューで[環境設定]を選択します。

Windows Vista では、この処理の承認を求めるメッセージが表示される場合があります。組み込み管理者アカウントにログオンしている場合、このメッセージは表示されません。

- 2 pcAnywhere オプションウィンドウの[イベントログ記録]ページで[pcAnywhere ログ生成を有効にする]にチェックマークを付けます。

このページを見つけるには pcAnywhere オプションウィンドウで左右の矢印をクリックしてページをスクロールします。



- 3 次のオプションのいずれかを選択します。
 - [中央サーバーに pcAnywhere ログを記録する]
サーバーの場所と必要なログオン情報を指定する必要があります。
 - [ローカル pcAnywhere ログに記録する]
- 4 [イベントの選択]をクリックします。
- 5 [ログに記録するファイルの選択]ウィンドウでログに記録したいイベントを選択します。
- 6 [OK]をクリックします。
- 7 pcAnywhere オプションウィンドウで[OK]をクリックします。

Windows イベントビューアでのイベントログ記録

Windows Vista/XP/2003/Server 2008/2000 コンピュータで pcAnywhere を使う場合には pcAnywhere 固有のイベントについてのログ記録情報を Windows イベントビューアに追加できます。

イベントを Windows イベントビューアに記録するには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウの編集メニューで[環境設定]を選択します。
- 2 Windows Vista/Server 2008 では、この処理の承認を求めるメッセージが表示される場合があります。組み込み管理者アカウントにログオンしている場合、このメッセージは表示されません。
- 3 pcAnywhere オプションウィンドウの[イベントログ記録]ページで[Windows イベントビューアのログ記録を有効にする]にチェックマークを付けます。

このページを見つけるには pcAnywhere オプションウィンドウで左右の矢印をクリックしてページをスクロールします。

- 4 次のオプションのいずれかを選択します。
 - [他のコンピュータのイベントビューアにログを記録する]
サーバーの場所と必要なログオン情報を指定する必要があります。
p.224 の「[中央サーバーへの情報のログ記録について](#)」を参照してください。
 - [このコンピュータ上のイベントビューアにログを記録する]
- 5 [イベントの選択]をクリックします。
- 6 [ログに記録するファイルの選択]ウィンドウでログに記録したいイベントを選択します。
- 7 [OK]をクリックします。
- 8 pcAnywhere オプションウィンドウで[OK]をクリックします。

中央サーバーへの情報のログ記録について

他のユーザーがアクセスできるように Symantec pcAnywhere では pcAnywhere イベントについての情報を中央サーバーに送信できます。ログファイルを安全な中央サーバーに送信することによってログファイルのセキュリティを保護し、ローカルコンピュータ上のリソースを解放して大きいログファイルの格納を避けます。

中央サーバーでの pcAnywhere ログファイルの生成

Symantec pcAnywhere ログ生成では pcAnywhere イベントについての情報は pcAnywhere が生成するログファイルに送信されます。ログファイルを作成したいサーバーに対するアクセス権が必要です。

別のコンピュータ上に pcAnywhere ログファイルを生成するには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウの編集メニューで[環境設定]を選択します。
- 2 Windows Vista では、この処理の承認を求めるメッセージが表示される場合があります。組み込み管理者アカウントにログオンしている場合、このメッセージは表示されません。
- 3 pcAnywhere オプションウィンドウの[イベントログ記録]ページで[pcAnywhere ログ生成を有効にする]にチェックマークを付けます。
- 4 [中央サーバーに pcAnywhere ログを記録する]にチェックマークを付けます。
- 5 [パス]フィールドにログファイルを生成したいサーバー上の場所の絶対パスを入力します。
- 6 サーバーアクセスに必要な認証情報を指定するには[拡張]をクリックします。
- 7 [認証情報]ダイアログボックスの[ユーザー名]フィールドにユーザー名を入力します。
- 8 [パスワード]フィールドにパスワードを入力します。
- 9 Windows Vista/XP/Server 2003/2000 Server ホストに接続する場合、ユーザーがドメインに割り当て済みであれば[ドメイン]フィールドにドメイン名を入力します。
- 10 [OK]をクリックします。

これで[イベントログ記録]ページに戻ります。そこで接続のテストやログに記録したいイベントの選択ができます。

p.222 の「[pcAnywhere ログファイルの生成](#)」を参照してください。

- 11 pcAnywhere オプションウィンドウで[OK]をクリックします。

他のコンピュータのイベントビューアにログを記録

Symantec pcAnywhere では pcAnywhere イベントについての情報を Windows Vista/XP/Server 2003/2000 Server で動作している別のコンピュータ上のイベントビューアに送信できます。ログファイルを作成したいコンピュータに対するアクセス権が必要です。

他のコンピュータのイベントビューアにログを記録するには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウの編集メニューで[環境設定]を選択します。
- 2 Windows Vista では、この処理の承認を求めるメッセージが表示される場合があります。組み込み管理者アカウントにログオンしている場合、このメッセージは表示されません。
- 3 pcAnywhere オプションウィンドウの[イベントログ記録]ページで[Windows イベントビューアのログ記録を有効にする]にチェックマークを付けます。
- 4 [他のコンピュータのイベントビューアにログを記録する]をクリックします。

- 5 [コンピュータ]フィールドにログ記録情報の送信先にしたいコンピュータの名前または IP アドレスを入力します。
- 6 コンピュータへのアクセスに必要な認証情報を指定するには[拡張]をクリックします。
- 7 [認証情報]ダイアログボックスの[ユーザー名]フィールドにユーザー名を入力します。
- 8 [パスワード]フィールドにパスワードを入力します。
- 9 Windows Vista/XP/2003/Server 2008/2000 ホストに接続する場合、ユーザーがドメインに割り当て済みであれば[ドメイン]フィールドにドメイン名を入力します。
- 10 [OK]をクリックします。

これで[イベントログ記録]ページに戻ります。そこでコンピュータの接続のテストやログに記録したいイベントの選択ができます。

p.224 の「[Windows イベントビューアでのイベントログ記録](#)」を参照してください。

- 11 pcAnywhere オプションウィンドウで[OK]をクリックします。

ログファイルの管理

pcAnywhere が生成するログファイルにはリモートセッション中に起きた活動についての情報が格納されます。この情報を使ってセキュリティまたは処理効率の問題を追跡するレポートや、課金または監査の情報を収集するレポートを作成できます。

レポートの作成後はログファイルに入っている古くなった情報を削除または保存できます。ディスク領域を解放するために古いログ情報は定期的に保存または削除してください。

活動ログレポートの作成

活動ログレポートとは pcAnywhere が生成するログファイルに格納されているセッションイベントの時間順リストです。この情報はセキュリティ、トラブルシューティング、課金、監査の目的に役立てることができます。

Symantec pcAnywhere にはいくつものレポート形式オプションが用意されています。完全フォーマットのレポートは可能性のあるすべてのイベントのリストとそれらがどのような頻度で起きたかなど、最も多くの情報を含みます。データのためのレポートはセッション中に起きたイベントのみを含みます。データのためのレポートはカンマ区切り形式または固定フィールド形式で保存できます。

活動ログレポートを作成するには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウの左のナビゲーションバーで[pcAnywhere ツール]をクリックします。
- 2 右ペインの[アプリケーション]で[活動ログの処理]をダブルクリックします。
- 3 活動ログの処理ウィンドウで[レポート]をクリックします。

- 4 [入力ログファイルを選択してください]ウィンドウでレポートの生成元にしたいイベントログファイル (*.PL9)を選択してから[開く]をクリックします。

.PL9ファイルが表示されない場合はローカルログファイルへのpcAnywhereのログ記録が有効になっているかどうかを確認してください。

p.222の「[pcAnywhere ログファイルの生成](#)」を参照してください。
- 5 [ホストとリモートのセッションログのレポート]ダイアログボックスで使いたいレポートの種類を選択します。
- 6 レポートの日付の範囲を入力します。
- 7 [OK]をクリックします。
- 8 [出力先ファイルの選択]ダイアログボックスでレポートの名前を入力します。

完全フォーマットのレポートは拡張子 .log を使います。カンマ区切りレポートは拡張子 .csv を使います。固定フィールドレポートは拡張子 .txt を使います。
- 9 [上書き保存]をクリックします。
- 10 ファイルを表示するには確認ダイアログボックスで[はい]をクリックします。

ログファイルのデータの保存または削除

Symantec pcAnywhere が生成するログファイルは自動的に消去されません。新しいログ情報がログファイルに追加されていくため、サイズが次第に大きくなります。ログファイルが大きくなりすぎた場合には古いデータを保存または削除できます。

ログファイルのデータを保存または削除するには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウの左のナビゲーションバーで[pcAnywhere ツール]をクリックします。
- 2 右ペインの[アプリケーション]で[活動ログの処理]をダブルクリックします。
- 3 活動ログの処理ウィンドウで[アーカイブ/削除]をクリックします。
- 4 保存または削除したいイベントログファイル (*.PL9)を選択してから[開く]をクリックします。
- 5 [ホスト/リモートログのアーカイブ/削除]ダイアログボックスで保存または削除したいデータの日付の範囲を入力します。

6 次のオプションのいずれかを選択します。

[ログエントリを記録元から 削除する] 指定した日付の範囲内に入るデータをイベントログファイルから削除します。

[ログエントリをアーカイブ ファイルにコピーする] 指定した日付の範囲内に入るデータをアーカイブファイルにコピーします。

両方のオプションを選択した場合、データはアーカイブファイルにコピーされてから記録元のログファイルから削除されます。

7 [OK]をクリックします。

アーカイブファイルを作成する場合、ファイル名とファイルの保存先にしたい場所を要求するメッセージが表示されます。

セッションの記録と再生について

Symantec pcAnywhere ではセッションを再生用に記録できます。たとえば、ホストユーザーが複雑な操作手順のデモを実行した場合にメモを書いて残す代わりにホスト画面を記録できます。正確なステップを見直すために後で記録内容を再生できます。

ホストのユーザーもリモートのユーザーもセッションを記録できます。ただし、セッションを記録するにはホストユーザーが接続の確立と同時に自動的に記録を開始するようにホストを設定する必要があります。この設定はすべてのホストセッションに全体的に適用されます。

p.229 の「[ホストセッションの自動記録](#)」を参照してください。

リモートセッションの記録

リモートセッション中はいつでもセッションを再生用に記録できます。そのセッションを新しい記録ファイルに保存または記録内容を既存の記録ファイルの最後に追加できます。

リモートセッションを記録するには

- 1 セッションマネージャウィンドウの左のナビゲーションバーの[リモート制御]で[セッション記録の開始/停止]をクリックします。
- 2 次のいずれかの操作をします。
 - 記録内容を既存の記録ファイルの最後に追加するには使いたいファイル(*.rcd)を選択します。
 - 新しいファイルを作成するにはファイル名を入力します。

- 3 [保存]をクリックします。

この時点以降にホストコンピュータで実行する処理がファイルに記録されます。

p.230 の「[記録したセッションの再生](#)」を参照してください。

- 4 終了したら[セッション記録の開始/停止]をクリックします。

リモートセッションの自動記録

リモート接続項目は接続と同時にセッションを自動的に記録するように設定できます。ホストコンピュータでのセッションの頻度と期間に応じて記録ファイルのサイズは大きくなる場合があります。

リモートセッションを自動的に記録するには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウの左のナビゲーションバーで[リモート]をクリックします。
- 2 右ペインで修正したい接続項目を右クリックしてから[プロパティ]を選択します。
- 3 リモートプロパティウィンドウの[リモート制御]ページの[リモートセッション記録]で[後で再生できるようにセッションをファイルに記録する]にチェックマークを付けます。
- 4 ファイルの名前とパスを入力するか既存の .rcd ファイルの場所を参照します。
- 5 [OK]をクリックします。

記録はホストコンピュータとの接続直後から始まります。

p.230 の「[記録したセッションの再生](#)」を参照してください。

ホストセッションの自動記録

Symantec pcAnywhere ではセキュリティと監査の目的でセッションを自動的に記録するようにホストコンピュータを設定できます。このオプションはホストコンピュータ上のすべてのセッションに全体的に適用されます。

記録は接続の確立と同時に始まります。ホストコンピュータ上でリモートユーザーが実行するすべての処理が捕らえられて記録ファイルに格納されます。ホストコンピュータでのセッションの頻度と期間に応じて記録ファイルのサイズは大きくなる場合があります。

記録ファイルはローカルコンピュータまたは中央サーバーに格納できます。記録ファイルを中央サーバーに格納するにはそのサーバー上でアクセス権が必要です。

p.230 の「[記録したセッションの再生](#)」を参照してください。

ホストセッションを自動的に記録するには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウの編集メニューで[環境設定]を選択します。
- 2 Windows Vista/Server 2008 では、この処理の承認を求めるメッセージが表示される場合があります。組み込み管理者アカウントにログオンしている場合、このメッセージは表示されません。
- 3 pcAnywhere オプションウィンドウの[ホスト操作]ページで[後で再生できるようにホストセッションを記録する]にチェックマークを付けます。
- 4 次のいずれかの操作をします。
 - ファイルをホストコンピュータにローカルに格納するには[記録ファイルを格納するフォルダ]で記録ファイルを格納したいホストコンピュータ上の場所を入力します。
 - ファイルを中央サーバーに格納するには[参照]をクリックしてから記録ファイルを格納したいネットワークコンピュータとファイルの場所を選択します。
一部のホストサーバーではシステム上にファイルを保存するにはパスワードが必要です。[拡張]をクリックしてから記録内容を格納したいフォルダへのアクセスに必要なログイン信用証明を入力します。

記録したセッションの再生

記録したセッションはファイルの別の場所を指定しない限り .rcd ファイルとして pcAnywhere のデータフォルダに保存されます。セッションは再生ウィンドウで再生されます。このウィンドウにはホスト画面と記録中に実行したすべての処理が示されます。

再生中は速さを調整したり、別のセッションに移動したり、画面ショットを撮ったりできます。このような処理は再生コントロールパネルで制御できます。

再生コントロールパネルを図 10-1 に示します。

図 10-1 再生コントロールパネル



再生コントロールパネルで利用可能な処理を表 10-1 に示します。

表 10-1 記録と再生のオプション

オプション	説明
[再生]	記録内容を先頭から再生します。
[前へ]	前のセッションの先頭に移動します。これが使えるのはファイルに複数のセッションが記録されている場合のみです。
[次へ]	次のセッションの先頭に移動します。これが使えるのはファイルに複数のセッションが記録されている場合のみです。
[中止]	再生を終了して Symantec pcAnywhere のメインウィンドウに戻ります。
[一時停止]	再生を一時停止または再開します。画面ショットを撮ったりセッションの一部を別のファイルに保存したりするには再生を一時停止する必要があります。
[速さ]	再生の速さを調整します。再生はスライダーを右に移動するほど速くなり左に移動するほど遅くなります。
[スナップショットを撮る]	画面の画像を保存できます。画面ショットを撮るにはその前に再生を一時停止する必要があります。
[セッションの保存]	セッションをバイナリファイルとして保存できます。

ファイルに複数のセッションが記録されている場合、最初にどのセッションを表示したいかを指定できます。デフォルトでは再生は先頭のセッションから始まります。各セッションの後で再生を中止するかどうかや、再生を繰り返すかどうかの指定もできます。

記録したセッションを再生するには

- 1 Symantec pcAnywhere ウィンドウの左のナビゲーションバーで[pcAnywhere ツール]をクリックします。
- 2 右ペインの[アプリケーション]で[セッションの再生]をダブルクリックします。
- 3 再生ファイルの選択ウィンドウで表示したい記録ファイル(*.rcd)を選択します。
- 4 [開く]をクリックします。
- 5 再生のオプションを選択します。
この設定は再生中に変更できます。
- 6 [OK]をクリックします。
画面に再生ウィンドウが表示され、記録したセッションの再生が始まります。
- 7 完了したらファイルメニューで[終了]を選択します。

記録したセッションの情報の保存

記録したセッションの情報をバイナリファイルに保存できます。また、表示画面の画面ショットを撮ることができます。

記録したセッションの情報を保存するには

- 1 再生中に再生コントロールパネルで[一時停止]ボタンをクリックします。
- 2 次のいずれかを選択します。

[スナップショットを撮る] 表示画面の画面ショットを保存します。

[セッションの保存] セッションをバイナリファイルとして保存します。

複数のプラットフォーム間の 接続

この章では以下の項目について説明しています。

- [Symantec pcAnywhere CrossPlatform](#) について
- [Symantec pcAnywhere CrossPlatform](#) のインストール
- [pcAnywhere CrossPlatform](#) を使ったホストコンピュータへの接続
- [pcAnywhere CrossPlatform](#) を使った接続の保全
- [pcAnywhere CrossPlatform](#) セッションのナビゲーション

Symantec pcAnywhere CrossPlatform について

Symantec pcAnywhere CrossPlatform を使うと Windows、Linux、Mac OS X プラットフォームの複数のコンピュータにリモートでアクセスできます。単一のウィンドウで複数のコンピュータを監視したり、すべてのセッションを表示したりできます。

基本的なリモート制御タスクを実行したり、コンピュータ間でファイルを転送したりできます。ホストコンピュータ間でファイルを転送することもできます。

Symantec pcAnywhere CrossPlatform のインストール

Symantec pcAnywhere CrossPlatform は Windows、Linux、Mac OS X オペレーティングシステムにインストールできます。インストールにはファイル転送機能とリモート機能が含まれます。Linux または Mac OS X に製品をインストールする場合は、ホスト機能も含まれます。

Windows への pcAnywhere CrossPlatform のインストール

Windows 用のインストールパッケージにはファイル転送機能とリモート機能のみが含まれます。pcAnywhere CrossPlatform をインストールする前に、コンピュータがシステムの最小必要条件を満たしていることを確認してください。

p.49 の「[Symantec pcAnywhere CrossPlatform のシステムの必要条件](#)」を参照してください。

Windows に CrossPlatform をインストールするには

- 1 Symantec pcAnywhere CD を CD-ROM ドライブに挿入します。
- 2 [その他のインストールオプションの表示]をクリックします。
- 3 [Symantec pcAnywhere CrossPlatform のインストール]をクリックします。

Windows Vista/2008 Server では、この処理の承認を求めるメッセージが表示される場合があります。組み込み管理者アカウントにログオンしている場合、このメッセージは表示されません。

- 4 [セットアップ言語の選択]ダイアログボックスでインストーラの言語を選択します。
- 5 [OK]をクリックします。
- 6 ようこそパネルで[次へ]をクリックします。
- 7 使用許諾契約の条項に同意してから[次へ]をクリックします。
- 8 インストール先のフォルダパネルで次のいずれかの操作をします。
 - デフォルトのプログラムフォルダに **pcAnywhere CrossPlatform** をインストールするには[次へ]をクリックします。
 - インストールフォルダを変更するには[変更]をクリックします。
インストール先フォルダの変更パネルで **pcAnywhere CrossPlatform** をインストールしたいフォルダの場所を参照してから[OK]をクリックします。次にインストール先のフォルダパネルで[次へ]をクリックします。
- 9 [プログラムをインストールする準備ができました]パネルで[インストール]をクリックします。

デフォルトではデスクトップとスタートメニューに **pcAnywhere CrossPlatform** のショートカットが作成されます。ショートカットを作成したくない場合は、[デスクトップとスタートメニューショートカットの作成]のチェックマークをはずします。
- 10 インストールが完了したら[完了]をクリックします。

Linux への pcAnywhere CrossPlatform のインストール

Linux 用のインストールパッケージには、ファイル転送機能、リモート機能、ホスト機能が含まれます。インストール時には通常インストールとカスタムインストールのいずれかを選

択できます。通常インストールを選択すると完全な製品バージョンがインストールされます。カスタムインストールを選択するとホスト機能をインストールから除外できます。

pcAnywhere CrossPlatform をインストールする前に、コンピュータがシステムの最小必要条件を満たしていることを確認してください。

p.49 の「[Symantec pcAnywhere CrossPlatform のシステムの必要条件](#)」を参照してください。

pcAnywhere CrossPlatform をインストールするコンピュータの root 特権が必要です。製品のインストールはターミナルコンソールで行います。

メモ: Linux コンピュータに pcAnywhere CrossPlatform をインストールするにはユーザーパスに Java が存在している必要があります。詳しくはオペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

Linux に pcAnywhere CrossPlatform をインストールするには

- 1 ルートユーザーとしてコンピュータにログインします。
- 2 ユーザーパスに Java が存在することを確認します。
- 3 コンピュータの CD-ROM ドライブに Symantec pcAnywhere CrossPlatform CD を挿入します。
- 4 ターミナルウィンドウで、インストール CD の ルートディレクトリから Symantec pcAnywhere CrossPlatform ディレクトリに移動します。
- 5 コマンドプロンプトで次のいずれかのコマンドを入力してインストールを開始します。

```
java -jar SetupLinuxMac.jar
```

または

```
Linux.bin
```

- 6 [インストーラー]ダイアログボックスでインストーラの言語を選択します。
- 7 [OK]をクリックします。
- 8 画面の指示に従って Symantec pcAnywhere CrossPlatform をインストールします。

Mac OS X への pcAnywhere CrossPlatform のインストール

Mac OS X 用のインストールパッケージにはファイル転送機能、リモート機能、ホスト機能が含まれます。インストール時には通常インストールとカスタムインストールのいずれかを選択できます。通常インストールを選択すると完全な製品バージョンがインストールされます。カスタムインストールを選択するとホスト機能をインストールから除外できます。

pcAnywhere CrossPlatform をインストールするコンピュータの root 特権が必要です。製品のインストールはユーザーインターフェースまたはターミナルコンソールで行います。

pcAnywhere CrossPlatform をインストールする前に、コンピュータがシステムの最小必要条件を満たしていることを確認してください。

p.49 の「[Symantec pcAnywhere CrossPlatform のシステムの必要条件](#)」を参照してください。

ユーザーインターフェースを使って Mac OS X に pcAnywhere CrossPlatform をインストールするには

- 1 コンピュータの CD-ROM ドライブに Symantec pcAnywhere CrossPlatform CD を挿入します。
- 2 Finder ウィンドウで、ルートディレクトリにある Symantec pcAnywhere CrossPlatform ディレクトリを開きます。
- 3 Symantec pcAnywhere CrossPlatform ディレクトリで MacInstaller.app をダブルクリックします。
- 4 [インストーラー] ダイアログボックスでインストーラの言語を選択します。
- 5 [OK] をクリックします。
- 6 インストールウィザードに表示される指示に従って Symantec pcAnywhere CrossPlatform をインストールします。

ターミナルコンソールを使って Mac OS X に pcAnywhere CrossPlatform をインストールするには

- 1 ルートユーザーとしてコンピュータにログインします。
- 2 コンピュータの CD-ROM ドライブに Symantec pcAnywhere CrossPlatform CD を挿入します。
- 3 ターミナルコンソールウィンドウで、インストール CD のルートディレクトリから Symantec pcAnywhere CrossPlatform ディレクトリに移動します。
- 4 コマンドプロンプトで次のいずれかのコマンドを入力してインストールを開始します。

```
java -jar SetupLinuxMac.jar
```

または

```
Mac.command
```

- 5 [インストーラー] ダイアログボックスでインストーラの言語を選択します。
- 6 [OK] をクリックします。
- 7 画面の指示に従って Symantec pcAnywhere CrossPlatform をインストールします。

pcAnywhere CrossPlatform の起動

pcAnywhere CrossPlatform は、Windows、Linux、Mac OS X コンピュータで実行できます。Windows の場合、pcAnywhere CrossPlatform のインストールプログラムによってプログラムのアイコンがデスクトップに配置されます (配置しないようにインストール時に選択した場合を除く)。デスクトップのショートカットかスタートメニューからプログラムを起動できます。

Linux の場合、pcAnywhere CrossPlatform を起動するにはターミナルウィンドウを使用する必要があります。Mac OS X の場合は、Applications ディレクトリまたはターミナルウィンドウから pcAnywhere CrossPlatform を起動できます。

Windows で pcAnywhere CrossPlatform を起動するには

- ◆ 次のいずれかの操作をします。
 - Windows Vista/XP/Server 2008/2003 タスクバーで[スタート]、[すべてのプログラム]、[Symantec]、[Symantec pcAnywhere CrossPlatform]、[pcAnywhere CrossPlatform]の順に選択します。
 - Windows Vista/XP/Server 2008/2003/2000 のデスクトップで pcAnywhere CrossPlatform アイコンをダブルクリックします。
 - Windows 2000 のタスクバーで[スタート]、[プログラム]、[Symantec]、[Symantec pcAnywhere CrossPlatform]、[pcAnywhere CrossPlatform]の順に選択します。

Linux で pcAnywhere CrossPlatform を起動するには

- 1 ターミナルコンソールウィンドウで、`/usr/bin` にディレクトリを変更します。
- 2 コマンド入力要求で次のコマンドを入力して、pcAnywhere CrossPlatform を起動します。

```
./pcAnywhere
```

Mac OS X で pcAnywhere CrossPlatform を起動するには

- ◆ 次のいずれかの操作をします。
 - Finder ウィンドウで、/Applications ディレクトリに移動し、pcAnywhere CrossPlatform をダブルクリックします。
 - ターミナルウィンドウで、`/usr/bin` にディレクトリを変更し、次のコマンドを入力します。

```
./pcAnywhere
```

pcAnywhere CrossPlatform を使ったホストコンピュータへの接続

Symantec pcAnywhere CrossPlatform はローカルサブネット上で接続待ちの TCP/IP ホストコンピュータを自動的に検索します。ホストコンピュータの IP アドレスまたは名前を手動で入力して pcAnywhere ホストに接続することもできます。

ホスト検索の範囲を他のサブネットにまで広げることができます。

pcAnywhere CrossPlatform を使ってホストコンピュータに接続するには

- 1 pcAnywhere CrossPlatform のメインウィンドウのファイルメニューで[接続]をクリックします。
- 2 pcAnywhere CrossPlatform の二次ウィンドウで次のいずれかの操作をします。
 - [接続先の IP アドレスまたはホスト名を入力]フィールドに接続先のホストコンピュータの IP アドレスまたはコンピュータ名を入力します。
 - [ホスト名]リストで接続先のホストを選択します。
- 3 [接続]をクリックします。

セッション中に pcAnywhere CrossPlatform の二次ウィンドウを開いておきたい場合は、接続する前に[接続時にこのダイアログボックスを閉じる]のチェックマークをはずします。
- 4 認証ウィンドウの[ログイン名]フィールドに接続先のホストで使う信用証明を入力します。
- 5 [パスワード]フィールドにパスワードを入力します。
- 6 [OK]をクリックします。
- 7 さらに別のコンピュータに接続したい場合は、手順 1 から手順 6 を繰り返します。

pcAnywhere CrossPlatform を使った接続の保全

pcAnywhere CrossPlatform を使った接続は次の方法で保全することができます。

- CrossPlatform セッションの暗号化
- シリアル番号を割り当てたホストへの接続

pcAnywhere CrossPlatform を使ったセッションの暗号化

暗号化とは権限のないユーザーによるデータの読み取りまたは改ざんを防止するためにデータをエンコードまたはスクランブルする方式です。Symantec pcAnywhere CrossPlatform は送信するデータを伝送中に権限のないユーザーが読み取りまたは改変できないようにするために暗号化を使います。

ホストとリモートの両方で **pcAnywhere 11.5** 以降が実行されていて暗号化レベルが一致しない場合、**pcAnywhere** は暗号化レベルが低いコンピュータの設定を高いほうのコンピュータに合わせて自動的に上げます。対称暗号化を使っていてアルゴリズムのレベルが一致しない場合、**pcAnywhere** はレベルが低いコンピュータの設定を自動的に上げます。

たとえば、ホストの暗号化レベルが **pcAnywhere** エンコードに設定されているときにリモートの暗号化レベルが対称暗号化に設定されている場合、**pcAnywhere** はホストの暗号化レベルを対称暗号化に自動的に上げます。

ホストコンピュータまたはリモートコンピュータで **pcAnywhere 11.0.x** 以前が実行されていて暗号化レベルまたはアルゴリズムが一致しない場合、**pcAnywhere** は暗号化レベルが高いコンピュータの暗号化レベルを下げて暗号化レベルの低いコンピュータに合わせます。または、接続を拒否するように設定することもできます。

pcAnywhere CrossPlatform を使ったセッションを暗号化するには

- 1 **pcAnywhere CrossPlatform** のメインウィンドウのファイルメニューで[接続]をクリックします。
- 2 **pcAnywhere CrossPlatform** の二次ウィンドウで[拡張]をクリックします。
- 3 [拡張オプション]ウィンドウの[暗号]の下の[レベル]リストで、次のいずれかを選択します。
 - [なし]
 - [pcAnywhere エンコード]
 - [対称]
- 4 [アルゴリズム]リストで次のいずれかを選択します。
 - [RC4]
 - [AES]

このオプションは対称暗号化を選択した場合にのみ利用できます。
- 5 [キー長]リストで適切なキーレベルを選択します。

このオプションは対称暗号化を選択した場合にのみ利用できます。
- 6 旧バージョンの **pcAnywhere** が実行されていて低いレベルの暗号化を使っているホストとの接続を拒否するには、[低い暗号化レベルを拒否する]にチェックマークを付けます。
- 7 異なる種類のアルゴリズムを対称暗号化に使っているホストとの接続を拒否するには[異なるアルゴリズムを拒否する]にチェックマークを付けます。
- 8 [OK]をクリックします。

pcAnywhere CrossPlatform を使ったシリアル番号を割り当てたホストへの接続

セッションを保全するためのシリアル ID を使っている pcAnywhere ホストコンピュータに接続することができます。ホストコンピュータが接続を受け入れるようにするには、pcAnywhere CrossPlatform の設定にホストコンピュータが使っているのと同じシリアル ID を埋め込む必要があります。

pcAnywhere CrossPlatform を使ってシリアル番号を割り当てたホストに接続するには

- 1 pcAnywhere CrossPlatform のメインウィンドウのファイルメニューで[接続]をクリックします。
- 2 pcAnywhere CrossPlatform の二次ウィンドウで[拡張]をクリックします。
- 3 [拡張オプション]ウィンドウの[シリアル ID]フィールドに、ホストコンピュータへの接続に必要なシリアル ID を入力します。
- 4 [OK]をクリックします。

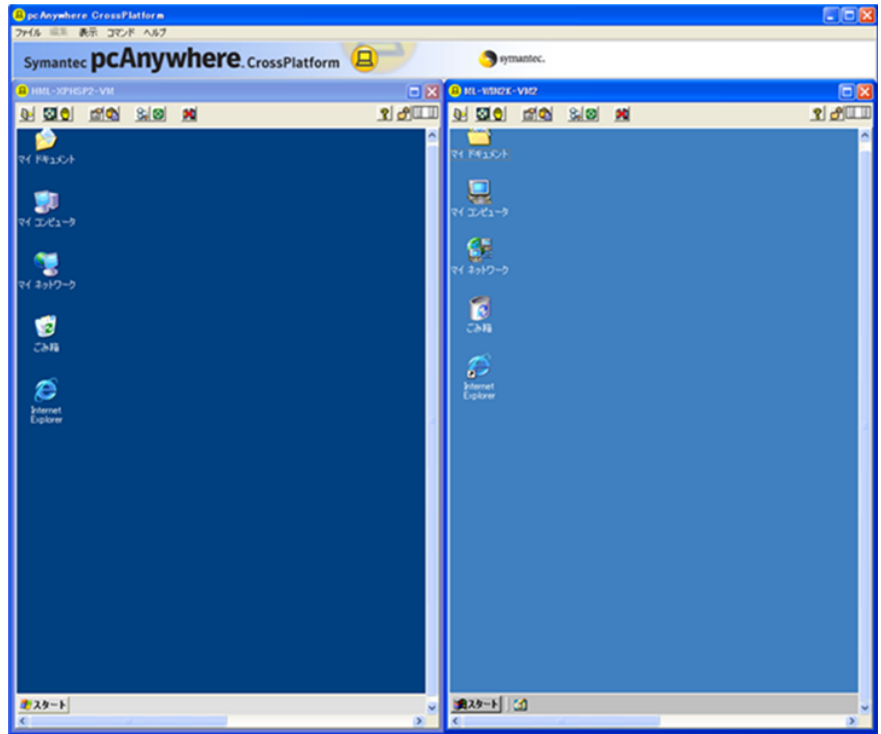
pcAnywhere CrossPlatform セッションのナビゲーション

Symantec pcAnywhere CrossPlatform では複数のセッションを同時に実行できます。次のいずれかのモードでセッションを表示できます。

タブ表示	セッションを 1 つずつ表示できます。アクティブなセッションがアクティブウィンドウの上部にタブとしてリストされます。
タイル表示	複数のアクティブなセッションを同時に表示して操作できます。

pcAnywhere CrossPlatform セッションウィンドウを [図 11-1](#) に示します。

図 11-1 pcAnywhere CrossPlatform セッションウィンドウ



pcAnywhere CrossPlatform マネージャのツールバーでセッション中に利用可能なタスクを表 11-1 に示します。これらのオプションはメニューからも選択できます。

表 11-1 pcAnywhere CrossPlatform のタスク

アイコン	オプション	説明
	[ファイル転送]	コンピュータ間でファイルを転送できます。 pcAnywhere ホストとリモートコンピュータの間、または 2 台の pcAnywhere ホストの間でファイルを転送できます。 p.242 の「 pcAnywhere CrossPlatform セッション中のファイル転送 」を参照してください。
	[全画面縮小]	pcAnywhere CrossPlatform セッションウィンドウの表示領域に合わせてホスト画面のサイズを変更します。 このオプションはホストコンピュータの方がリモートコンピュータよりも画面解像度が高い場合に使います。

アイコン	オプション	説明
	[ezScroll]	マウスを使って任意の方向に画面をスクロールできます。 p.244 の「pcAnywhere CrossPlatform セッション中の ezScroll を使ったナビゲート」 を参照してください。
	[環境設定]	pcAnywhere CrossPlatform のセッション中にビデオ設定とナビゲーション設定を変更できます。 これらの機能は Windows 完全版ホストに接続している場合にのみ利用できます。 p.243 の「pcAnywhere CrossPlatform セッション中のビデオの処理効率の向上」 を参照してください。
	[クリップボードの転送]	ホストのクリップボードからリモートのクリップボードに(またはその逆に)クリップボードの内容をコピーできます。 この機能は Windows 完全版ホストに接続している場合にのみ利用できます。 p.243 の「pcAnywhere CrossPlatform セッション中のクリップボードの内容の転送」 を参照してください。
	[Ctrl+Alt+Delete]	ホストコンピュータ上で Ctrl+Alt+Del コマンドを実行できます。 この機能は Windows 完全版ホストに接続している場合にのみ利用できます。
	[ホストコンピュータを再起動する]	ホストコンピュータを再起動します。 この機能は Windows 完全版ホストに接続している場合にのみ利用できます。
	[セッションの終了]	pcAnywhere CrossPlatform セッションを終了します。 p.245 の「pcAnywhere CrossPlatform セッションの終了」 を参照してください。

pcAnywhere CrossPlatform セッション中のファイル転送

リモートコンピュータとホストコンピュータの間でファイルを転送することができます。ホストコンピュータ間でファイルを転送することもできます。

メモ: Windows Vista に組み込み管理者アカウントでログオンしていない場合は、ホストコンピュータからローカルコンピュータのディスクドライブまたはメインフォルダにファイルを転送するときに問題が発生することがあります。その場合は、ローカルコンピュータのサブフォルダにファイルを転送してみてください。

リモートコンピュータとホストコンピュータの間でファイルを転送するには

- 1 pcAnywhere CrossPlatform セッションマネージャウィンドウのツールバーで[ファイル転送]アイコンをクリックします。

リモートコンピュータとホストコンピュータの間でファイルを転送するには、タブ表示モードが選択されている必要があります。

p.240 の「[pcAnywhere CrossPlatform セッションのナビゲーション](#)」を参照してください。

- 2 転送するファイルを選択して、転送先のコンピュータにドラッグします。

ホストコンピュータ間でファイルを転送するには

- 1 pcAnywhere CrossPlatform セッションマネージャウィンドウのツールバーで[ファイル転送]アイコンをクリックします。

ホストコンピュータ間でファイルを転送するには、タイル表示モードが選択されている必要があります。

p.240 の「[pcAnywhere CrossPlatform セッションのナビゲーション](#)」を参照してください。

- 2 転送するファイルを選択して、転送先のホストコンピュータにドラッグします。

pcAnywhere CrossPlatform セッション中のクリップボードの内容の転送

Windows 完全版ホストに接続している場合、pcAnywhere CrossPlatform セッション中は、ホストコンピュータとリモートコンピュータの間でクリップボードの内容を転送できます。

詳しくはオペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

pcAnywhere CrossPlatform セッション中にクリップボードの内容を転送するには

- 1 pcAnywhere CrossPlatform セッションマネージャウィンドウの表示メニューで[クリップボード]を選択します。
- 2 [クリップボードの転送]ウィンドウで次のいずれかを選択します。
 - [ホストからこのコンピュータに転送]
 - [このコンピュータからホストへ転送]
- 3 [OK]をクリックします。

pcAnywhere CrossPlatform セッション中のビデオの処理効率の向上

Windows 完全版ホストに接続している場合は、pcAnywhere CrossPlatform セッション中にビデオ設定を変更して処理効率を改善することができます。

pcAnywhere CrossPlatform セッション中に色の設定を調整するには

- 1 CrossPlatform セッションマネージャウィンドウの表示メニューで[環境設定]をクリックします。
- 2 [環境設定]ウィンドウの[処理効率]の[ColorScale]リストでリモートコンピュータ画面の色レベルを選択します。

表示される色数を減らすと処理効率が向上します。色よりも鮮明な表示のほうが重要である場合には 16 色の設定を使ってください。
- 3 リモートコンピュータの設定に合わせてホストコンピュータの解像度設定を同期するには[ホストの画面領域をリモートに合わせる]にチェックマークを付けます。
- 4 [OK]をクリックします。

pcAnywhere CrossPlatform セッション中にビデオレートを調整するには

- 1 [環境設定]ウィンドウの[ナビゲーション]の[ビデオレートの設定]バーでスライダーを移動させてセッションのビデオレートを調整します。

ビデオレートの設定を低くすると、操作が実行されたときの画面の更新時間が長くなります。
- 2 [OK]をクリックします。

pcAnywhere CrossPlatform セッション中の ezScroll を使ったナビゲート

pcAnywhere CrossPlatform セッション中に ezScroll 機能をアクティブにするとマウスを使って任意の方向に画面をスクロールできます。ezScroll はツールバーまたはショートカットキーを使ってアクティブにできます。

ツールバーから ezScroll をアクティブにするには

- 1 pcAnywhere CrossPlatform セッションマネージャウィンドウで[ezScroll]アイコンをクリックします。
- 2 画面をスクロールするにはマウスの左ボタンを押し続けます。

ezScroll のショートカットキーを変更するには

- 1 pcAnywhere CrossPlatform セッションマネージャウィンドウの表示メニューで[環境設定]をクリックします。
- 2 [環境設定]ウィンドウの[ナビゲーション]の[ezScroll ホットキー]リストで使いたいショートカットキーを選択します。
- 3 [OK]をクリックします。

ショートカットキーを使って ezScroll をアクティブにするには

- 1 ショートカットキーを押したままにします。
- 2 画面をスクロールするにはマウスの左ボタンを押し続けます。

pcAnywhere CrossPlatform 接続ファイルの保存と開き方

現在開かれているアクティブなセッションの接続情報はファイルに保存することができます。この接続ファイルは以降の接続で繰り返し使うことができます。

pcAnywhere CrossPlatform 接続ファイルを保存するには

- 1 **pcAnywhere CrossPlatform** セッションマネージャウィンドウのファイルメニューで [接続ファイルを保存] を選択します。
これによりアクティブなセッションの接続情報が保存されます。
- 2 保存ウィンドウでファイルを保存する場所を選択します。
- 3 [ファイル名] フィールドにファイル名を入力します。
- 4 [上書き保存] をクリックします。
- 5 権限のないユーザーがファイルを開いてセッションを起動できないようにするには、[ファイルをパスワードで保護] ウィンドウでパスワードを入力します。
- 6 確認のために同じパスワードをもう一度入力します。
- 7 [OK] をクリックします。

接続ファイルを開いて pcAnywhere CrossPlatform セッションを開始するには

- 1 **pcAnywhere CrossPlatform** セッションマネージャウィンドウのファイルメニューで [接続ファイルを開く] を選択します。
- 2 開くウィンドウで、開きたいファイルを探して選択します。
- 3 [開く] をクリックします。
- 4 [ファイルがパスワード保護です] ダイアログボックスの [パスワードの入力] にパスワードを入力して [OK] をクリックします。

パスワードの入力は、ファイルがパスワードで保護されている場合にのみ要求されます。

ホストが利用可能な場合はリモートセッションが開始されます。

pcAnywhere CrossPlatform セッションの終了

1 回の操作で 1 つまたは複数の pcAnywhere CrossPlatform セッションを終了できます。

pcAnywhere CrossPlatform セッションを終了するには

- 1 **pcAnywhere CrossPlatform** セッションマネージャウィンドウで次のいずれかの操作をします。
 - 1 つのセッションを終了するには、ツールバーで [セッションの終了] アイコンを選択します。

- すべてのセッションを終了するには、ファイルメニューで[すべての接続を閉じる]をクリックします。
- 2 [セッションの終了]ウィンドウで[はい]をクリックします。

Web ブラウザからの接続

この章では以下の項目について説明しています。

- [Symantec pcAnywhere Web Remote について](#)
- [Web Remote の設定について](#)
- [Web Remote セッションを保全する方法](#)
- [Web Remote からホストに接続する方法](#)
- [Web Remote セッション中にできること](#)

Symantec pcAnywhere Web Remote について

Symantec pcAnywhere Web Remote を使うと待機中のホストに Web ブラウザ経由でリモート接続できます。Web Remote はリモート制御機能のみ提供する簡易クライアントです。

Web Remote は Web ブラウザに埋め込まれる Java ベースのプログラム(アプレット)です。Web Remote は Symantec pcAnywhere CD からサーバー、ハードディスクドライブ、リムーバブルメディアデバイスからも実行できます。

Web Remote はホストのデスクトップコンピュータとノートパソコンの全画面リモート制御を提供します。Web Remote はオペレーティングシステムが Windows、Linux、Mac OS X のリモートコンピュータまたはサーバーから実行できます。

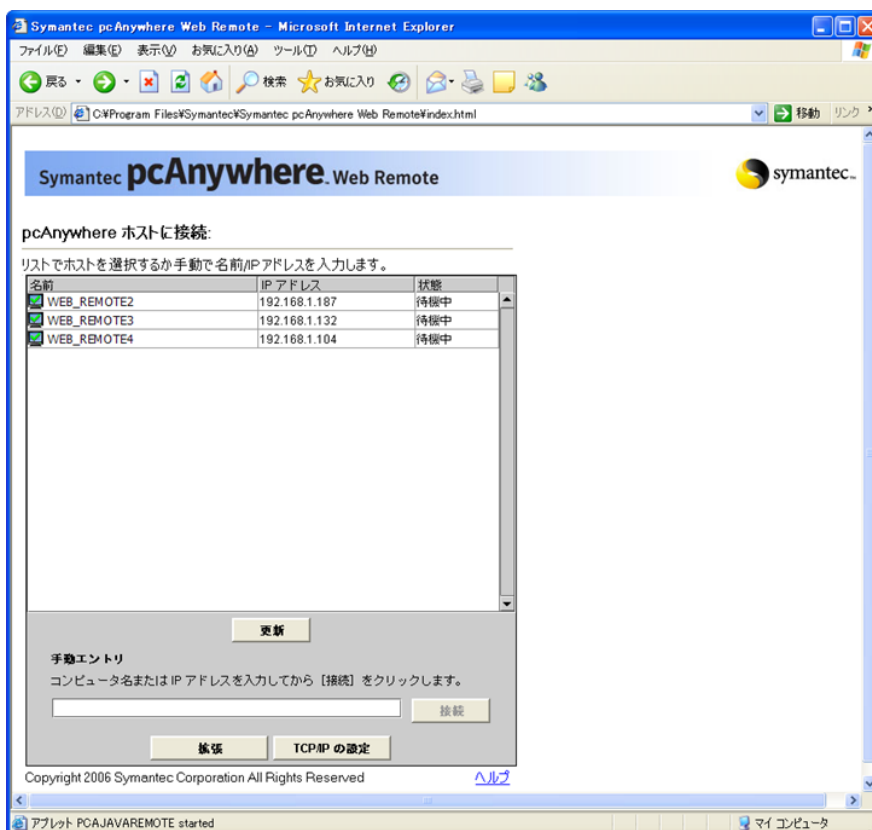
Symantec pcAnywhere Web Remote は pcAnywhere 12.0 以降が動作するホストコンピュータへの接続をサポートします。Windows、Linux、または Mac OS X ホストコンピュータに接続できます。複数のホストに同時に接続できます。

リモートコンピュータに接続するには、サブネット上で待機中のホストを検索するか、ホストの IP アドレスまたはコンピュータ名を手動で入力します。

p.255 の「[Web Remote からホストに接続する方法](#)」を参照してください。

Symantec pcAnywhere Web Remote のメインウィンドウを図 12-1 に示します。

図 12-1 Symantec pcAnywhere Web Remote のメインウィンドウ



Web Remote の設定について

Symantec pcAnywhere Web Remote は Web ブラウザで動作する Java ベースのアプレットです。バイナリファイルも実行可能コードも含まないので、このプログラムをインストールする必要はありません。pcAnywhere Web Remote を起動すると、アプレットがダウンロードされてブラウザに埋め込まれます。

Web Remote は Symantec pcAnywhere CD から直接起動できます。Web Remote のファイルをハードディスクドライブ、サーバー、リムーバブルメディアデバイスにコピーすることもできます。これにより、Symantec pcAnywhere CD を使わないで Web Remote を起動できます。

Web Remote を起動する前に、コンピュータがシステムの必要条件を満たすことを確認してください。

Symantec pcAnywhere CD からの Web Remote の起動

Web Remote は Symantec pcAnywhere CD から起動できます。Web ブラウザのセキュリティ設定によって Web Remote アプレットのダウンロードが遮断される場合があります。Web ブラウザの指示に従って遮断されたコンテンツを許可してください。pcAnywhere Web Remote を最初に起動するときに、オペレーティングシステムからセキュリティメッセージが送信される場合があります。作業を続行するには、信頼できるコンテンツであることを確認する必要があります。

Symantec pcAnywhere CD から Web Remote を起動するには

- 1 Symantec pcAnywhere CD を CD-ROM ドライブに挿入します。

Symantec pcAnywhere CD を挿入した後でインストールウィンドウが自動的に表示されない場合には手動でセットアッププログラムを実行してからインストール操作を続行してください。

p.57 の「[手動によるセットアッププログラムの実行](#)」を参照してください。

- 2 pcAnywhere のインストールウィンドウで[管理ツールの表示]をクリックします。
- 3 [Symantec pcAnywhere Web Remote の起動]をクリックします。

ハードディスクドライブ、サーバー、リムーバブルメディアからの Web Remote の起動

Web Remote のファイルはハードディスクドライブ、サーバー、リムーバブルメディアから実行できます。これにより、Symantec pcAnywhere CD を使わずに Web Remote を起動できます。最初に Web Remote のファイルを格納したい場所にコピーする必要があります。

ファイルは Symantec pcAnywhere CD の次のフォルダにあります。

¥Symantec pcAnywhere Web Remote¥

Web Remote を頻繁に使う場合は、デスクトップに index.html ファイルへのショートカットを作成するか、お気に入りメニューにこのファイルを追加すると便利です。

Web ブラウザのセキュリティ設定によって Web Remote アプレットのダウンロードが遮断される場合があります。Web ブラウザの指示に従って遮断されたコンテンツを許可してください。pcAnywhere Web Remote を最初に起動するときに、オペレーティングシステムからセキュリティメッセージが送信される場合があります。作業を続行するには、信頼できるコンテンツであることを確認する必要があります。

Web Remote のファイルをコピーするには

- 1 Symantec pcAnywhere CD を CD-ROM ドライブに挿入します。
Symantec pcAnywhere CD を挿入した後でインストールウィンドウが自動的に表示されない場合には手動でセットアッププログラムを実行してからインストール操作を続行してください。
p.57 の「[手動によるセットアッププログラムの実行](#)」を参照してください。
- 2 pcAnywhere のインストールウィンドウで[CD の参照]をクリックします。
- 3 フォルダの内容全体を選択するために Symantec pcAnywhere Web Remote フォルダをクリックします。
- 4 ハードディスクドライブ、サーバー、リムーバブルメディアデバイスのいずれかで Web Remote のファイルを格納したい場所に Symantec pcAnywhere Web Remote フォルダをコピーします。

Web ブラウザを使って Web Remote を起動するには

- 1 Web ブラウザを起動します。
- 2 アドレスバーで次のように入力します。
<絶対パス>%Symantec pcAnywhere Web Remote%index.html
<絶対パス> は Symantec pcAnywhere Web Remote フォルダの絶対パスを表します。

Windows、Linux、MAC OS X を使って Web Remote を起動するには

- 1 Web Remote のファイルを格納したフォルダに移動します。
- 2 index.html をダブルクリックします。
Linux コンピュータから Web Remote を起動する場合は、Java 2 Runtime Environment が Web ブラウザと動的にリンクされている必要があります。

ハードディスクドライブ、サーバー、リムーバブルメディアデバイスから Web Remote を削除するには

- ◆ Web Remote フォルダとそのすべての内容をハードディスクドライブ、サーバー、リムーバブルメディアデバイスから削除します。

Web Remote セッションを保全する方法

Web Remote にはリモート制御セッションに対して次のセキュリティレベルがあります。

ログオン信用証明の認証

Symantec pcAnywhere 12.0 以降を実行しているホストコンピュータに接続する場合、Web Remote は自動的に対称暗号化を使ってログオン情報を保護します。

p.251 の「[Web Remote がログオン処理を保全するしくみ](#)」を参照してください。

セッションの暗号化

処理効率とセキュリティの必要性に応じて最適な暗号化レベルを選択できます。これより低い暗号化レベルまたは異なるアルゴリズムを使うホストコンピュータとの接続を拒否することもできます。

p.251 の「[Web Remote による暗号化について](#)」を参照してください。

Web Remote がログオン処理を保全するしくみ

pcAnywhere ホストへの接続時には、ログオン名とパスワードを要求するメッセージが Web Remote から表示されます。Windows NT 認証を使うように設定されたホストコンピュータに接続する場合は、ドメイン名を要求するメッセージも表示されます。Web Remote はこれらの信用証明を認証します。ホストコンピュータが Windows Vista/2000 Server/Server 2003/Server 2008 コンピュータの場合は、オペレーティングシステムからコンピュータログイン信用証明を要求するメッセージが表示されることがあります。

Web Remote はいろいろな認証の種類をサポートします。認証の種類はホストコンピュータ環境によって異なります。たとえば、ホストが Microsoft ADS を使ってネットワークアクセスを制御するためにユーザーアカウントの作成と保守をすることがあります。

p.194 の「[pcAnywhere での認証について](#)」を参照してください。

Symantec pcAnywhere 12.0 以降を実行しているホストコンピュータに接続する場合、Web Remote は対称暗号化を使ってログイン信用証明の伝送内容を自動的に暗号化します。

以前のバージョンの pcAnywhere を実行しているホストに接続する場合、pcAnywhere はどちらのコンピュータ(ホストまたはリモート)の暗号化レベルが低いかを調べます。Symantec pcAnywhere は低い方の暗号化レベルを使ってログイン信用証明を暗号化します。たとえば、ホストの暗号化レベルが pcAnywhere エンコードに設定されているときにリモートの暗号化レベルが対称暗号化に設定されている場合、pcAnywhere は pcAnywhere エンコードを使ってログイン信用証明を暗号化します。

Web Remote による暗号化について

暗号化とは権限のないユーザーによるデータの読み取りまたは改ざんを防止するためにデータをエンコードまたはスクランブルする方式です。最新のコンピュータ暗号化方式は複雑な数学的アルゴリズムを使ってデータの暗号化と復号を行います。Web Remote は送信するデータを伝送中に権限のないユーザーが読み取りまたは改変できないようにするために暗号化を使います。

Web Remote には次の暗号化の種類があります。

- pcAnywhere エンコード
p.252 の「[Web Remote の pcAnywhere エンコードについて](#)」を参照してください。
- 対称
p.252 の「[Web Remote の対称暗号化について](#)」を参照してください。

Web Remote の pcAnywhere エンコードについて

pcAnywhere エンコードは第三者が簡単にはデータストリームを解読できないように単純な変換をデータに適用します。この暗号化レベルは強力な暗号化技法をサポートしない以前のバージョンの pcAnywhere と互換性があります。

pcAnywhere エンコードについて詳しくは『Symantec pcAnywhere ユーザーズガイド』を参照してください。

Web Remote の対称暗号化について

対称暗号化ではデータの暗号化と解読に同じ対称暗号化キーの組を使います。このキーのネゴシエーションと交換には匿名キー交換用の標準プロトコルが使われます。セッション中、送信者と受信者の両方がこのキーを共有します。

Web Remote ではセキュリティと処理効率の必要性に最適の対称暗号化アルゴリズムを選択できます。各アルゴリズムではキーと呼ばれるビット列を使って計算が行われます。長いキー長を選択することによって暗号化レベルを強化できます。キー長を長くするほど、作成できる可能性のあるパターンの数が多くなります。これによって暗号コードはいつそう解読しにくくなります。キー長を長くすると暗号化は強力になりますが、アプリケーションの処理効率の低下につながる可能性もあります。利用可能なキー長は、選択するアルゴリズムの種類とコンピュータのオペレーティングシステムによって異なります。

p.253 の「[セッション暗号化の設定](#)」を参照してください。

Web Remote がさまざまな暗号化レベルで働くしくみ

pcAnywhere 12.0 以降を実行中のホストコンピュータへの接続時には、Web Remote は暗号化レベルが低いコンピュータの設定を高い方のコンピュータに合わせて自動的に上げます。たとえば、ホストの暗号化レベルが pcAnywhere エンコードに設定されているときにリモートの暗号化レベルが対称暗号化に設定されている場合、pcAnywhere はホストの暗号化レベルを対称暗号化に自動的に上げます。以前のバージョンの pcAnywhere を実行中のホストへの接続時には、ホストが低い暗号化レベルを使うように設定されているときは接続を拒否できます。

Java が使う対称暗号化の種類は以前のバージョンの Symantec pcAnywhere ホストと互換性がありません。したがって、pcAnywhere 11.0.x 以前を実行中のホストコンピュータと Web Remote の両方が対称暗号化を使うように設定されている場合、Web Remote はホストコンピュータへの接続をサポートしません。

pcAnywhere 11.0.x 以前を実行しているホストコンピュータとの Web Remote セッションで対称暗号化を使いたい場合は、次のいずれかのようにします。

- ホストコンピュータを最新バージョンの Symantec pcAnywhere にアップグレードしてからいずれかのコンピュータを対称暗号化を使うように設定します。
- ホストの暗号化レベルを[pcAnywhere エンコード]または[なし]に変更します。Web Remote の暗号化レベルは[対称]に設定する必要があります。Web Remote はホストの暗号化レベルを上げ、対称暗号化を使ってセッションデータを伝送します。

ホストの設定を修正できない場合には代わりに pcAnywhere エンコードを使います。そのためには Web Remote の暗号化レベルを pcAnywhere エンコードに下げます。

セッション暗号化の設定

必要な利用方法に最適の暗号化レベル、アルゴリズムの種類、キー長を選択できます。

セッションの暗号化を設定するには

- 1 Symantec pcAnywhere Web Remote ウィンドウで[拡張]をクリックします。
- 2 [拡張オプション]ウィンドウの[暗号]の下の[レベル]リストで、次のいずれかを選択します。
 - [なし]
 - [pcAnywhere エンコード]
 - [対称]
pcAnywhere 11.0.x 以前を実行中のホストと Web Remote の両方が対称暗号化を使うように設定されている場合、Web Remote はホストコンピュータへの接続をサポートしません。
p.252 の「[Web Remote がさまざまな暗号化レベルで働くしくみ](#)」を参照してください。
- 3 [アルゴリズム]リストで次のいずれかを選択します。
 - [RC4]
 - [AES]
このオプションは対称暗号化を選択した場合にのみ利用できます。
- 4 [キー長]リストで適切なキーレベルを選択します。
このオプションは対称暗号化を選択した場合にのみ利用できます。
- 5 以前のバージョンの pcAnywhere を実行中で低い暗号化レベルを使うホストとの接続を拒否するには、[低い暗号化レベルを拒否する]にチェックマークを付けます。

- 6 異なる種類のアルゴリズムを使うホストとの接続を拒否するには[異なるアルゴリズムを拒否する]にチェックマークを付けます。
- 7 [OK]をクリックします。

Web Remote でシリアル ID を使った接続の保全

接続を保全するためのシリアル ID を使っているホストに接続することができます。リモートユーザーはホストが接続を受け入れるように同じシリアル ID をリモート設定に埋め込む必要があります。

シリアル番号の割り当てについて詳しくは『Symantec pcAnywhere 管理者ガイド』を参照してください。

Web Remote でシリアル ID を使って接続を保全するには

- 1 Symantec pcAnywhere Web Remote ウィンドウで[拡張]をクリックします。
- 2 [シリアル ID]フィールドにホストへの接続に必要なシリアル ID 番号を入力します。
シリアル ID は 0 から 65,535 までの数値にする必要があります。ホストと同じシリアル ID を使う必要があります。

Web Remote のポート設定の編集

Symantec pcAnywhere Web Remote はポート 5631 (データポート)とポート 5632 (状態ポート)を使うように設定されています。異なるポート設定を使っているホストに接続する場合は、ポート設定を編集する必要があります。

ポート設定を編集するには

- 1 Symantec pcAnywhere Web Remote ウィンドウで[拡張]をクリックします。
- 2 [拡張オプション]ウィンドウの[ポート設定]の[データポート]フィールドに、ホストコンピュータで使われているポート番号を入力します。
- 3 [状態ポート]フィールドにホストコンピュータで使われているポート番号を入力します。
- 4 [OK]をクリックします。

ポート設定を再設定するには

- 1 Symantec pcAnywhere Web Remote ウィンドウで[拡張]をクリックします。
- 2 [デフォルトにリセット]をクリックします。
データポートが 5631 に、状態ポートが 5632 に再設定されます。
- 3 [OK]をクリックします。

Web Remote からホストに接続する方法

次のいずれかの方法でホストコンピュータに接続できます。

- ホストリストでホストを選択する
- ホストの IP アドレスまたはコンピュータ名を手動で入力する

ホストリストのホストへの接続

Web Remote はローカルサブネット上で接続待ちの TCP/IP ホストコンピュータを自動的に検索します。Web Remote はデフォルトデータポート(5631)で待機中のホストを検索します。

他のサブネット上のホストを検索することもできます。

ホストリストのホストに接続するには

- 1 Symantec pcAnywhere Web Remote ウィンドウで[拡張]をクリックします。
- 2 [拡張オプション]ウィンドウの[暗号]で暗号化を設定します。
- 3 [OK]をクリックします。
- 4 Symantec pcAnywhere Web Remote ウィンドウで[TCP/IP の設定]をクリックします。
- 5 [TCP/IP の設定]ダイアログボックスの[検索するサブネットを入力]フィールドに検索するサブネットアドレスを入力します。

サブネットで検索するにはそのサブネットの最初の 3 つのオクテットを入力します。次に 4 番目のオクテットとして .0 または .255 を入力します。次に例を示します。

172.16.0.255 または 172.16.0.0

- 6 [OK]をクリックします。
- 7 接続先のホストコンピュータをダブルクリックします。
- 8 [認証]ダイアログボックスの[ログイン名]フィールドにログイン名を入力します。
- 9 [パスワード]フィールドにパスワードを入力します。

Windows NT 認証を使うように設定されたホストに接続する場合、ドメイン名を要求するメッセージも表示されます。

- 10 [OK]をクリックします。

接続情報の手動入力によるホストへの接続

ホストコンピュータの IP アドレスまたはコンピュータ名を手動で入力してホストコンピュータに接続できます。

接続情報を手動で入力してホストに接続するには

- 1 Symantec pcAnywhere Web Remote ウィンドウで[拡張]をクリックします。
- 2 [拡張オプション]ウィンドウの[暗号]で暗号化を設定します。
- 3 [OK]をクリックします。
- 4 Symantec pcAnywhere Web Remote ウィンドウの[手動エントリ]で接続先のホストコンピュータのコンピュータ名または IP アドレスを入力します。
- 5 [接続]をクリックします。
- 6 [認証]ダイアログボックスの[ログイン名]フィールドにログイン名を入力します。
- 7 [パスワード]フィールドにパスワードを入力します。

Windows NT 認証を使うように設定されたホストに接続する場合はドメイン名を入力します。

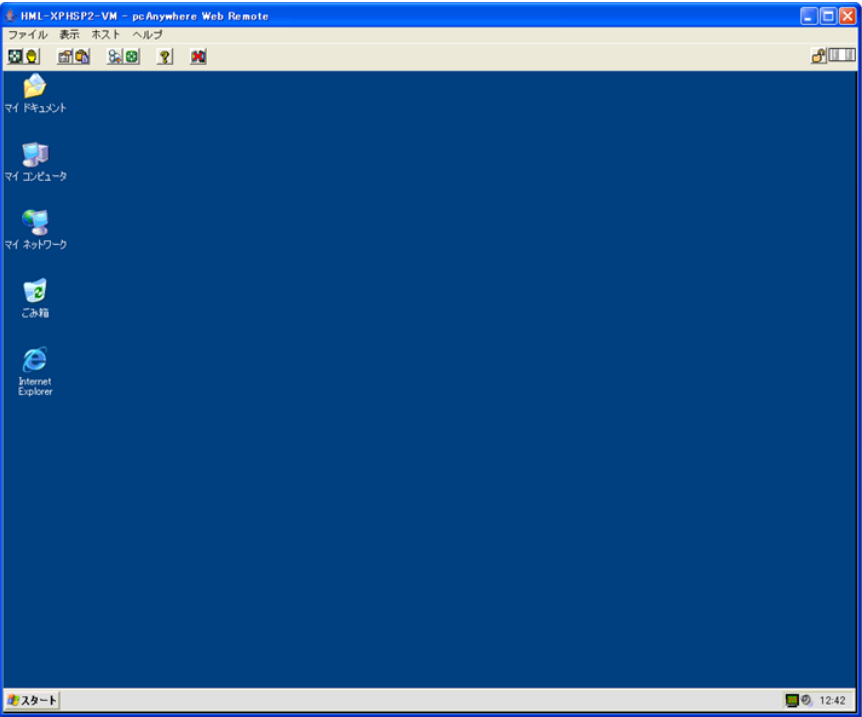
- 8 [OK]をクリックします。

Web Remote セッション中にできること

ホストとの接続を確立すると、Web Remote セッションウィンドウが開きます。

Web Remote セッションウィンドウを  12-2 に示します。

図 12-2 Web Remote セッション



Web Remote セッション中に Web Remote セッションウィンドウのツールバーで利用可能なタスクを表 12-1 に示します。このオプションにはメニューバーでもアクセスできます。

表 12-1 Web Remote タスク

アイコン	オプション	説明
	[全画面縮小]	Web Remote セッションウィンドウの表示領域に合わせてホスト画面のサイズを変更します。 このオプションはホストコンピュータの方がリモートコンピュータよりも画面解像度が高い場合に使います。
	[ezScroll]	マウスを使って任意の方向に画面をスクロールできます。 p.259の「Web Remote セッション中のナビゲートでの ezScroll の利用」を参照してください。

アイコン	オプション	説明
	[環境設定]	リモート制御セッション中に処理効率とナビゲーションの設定を変更できます。 p.259 の「 Web Remote セッション中のビデオの処理効率向上 」を参照してください。
	[クリップボードの転送]	ホストのクリップボードからリモートのクリップボードに(またはその逆に)クリップボードの内容をコピーできます。 p.258 の「 Web Remote のクリップボードの内容の転送 」を参照してください。
	[Ctrl+Alt+Delete]	ホストコンピュータ上で[Ctrl+Alt+Delete]コマンドを実行できます。
	[ホストコンピュータを再起動する]	ホストコンピュータを再起動します。 このオプションは Windows のホストコンピュータでのみ利用可能です。
	[ヘルプ]	ヘルプを開きます。
	[セッションの終了]	リモート制御セッションを終了します。 p.260 の「 Web Remote セッションの終了 」を参照してください。

Web Remote のクリップボードの内容の転送

リモート制御セッションでは、ホストコンピュータとリモートコンピュータの間でクリップボードに入っている内容を転送できます。グラフィックを送信すると転送速度が低下することがあります。

Web Remote のクリップボードの内容を転送するには

- 1 pcAnywhere Web Remote ウィンドウのメニューバーで[表示]、[クリップボード]の順にクリックします。
- 2 [クリップボードの転送]ダイアログボックスで次のいずれかを選択します。
 - [ホストからこのコンピュータに転送]
 - [このコンピュータからホストへ転送]
- 3 [OK]をクリックします。

Web Remote セッション中のビデオの処理効率向上

リモートセッション中にビデオ設定を変更して処理効率を改善することができます。

Web Remote セッション中にビデオの処理効率を向上させるには

- 1 **pcAnywhere Web Remote** セッションウィンドウのメニューバーで[表示]、[環境設定]の順にクリックします。
- 2 [環境設定]ダイアログボックスの[処理効率]の[ColorScale]リストでリモートコンピュータ画面の色レベルを選択します。

表示される色数を減らすと処理効率が向上します。色よりも鮮明な表示のほうが重要である場合には 16 色の設定を使ってください。
- 3 リモートコンピュータの設定に合わせてホストコンピュータの解像度設定を同期するには[ホストの画面領域をリモートに合わせる]にチェックマークを付けます。
- 4 [OK]をクリックします。

Web Remote セッション中のナビゲートでの ezScroll の利用

Web Remote セッション中に **ezScroll** 機能をアクティブにするとマウスを使って任意の方向に画面をスクロールできます。**ezScroll** はツールバーまたはショートカットキーを使ってアクティブにできます。使いたいショートカットキーを選択することもできます。

ツールバーから ezScroll をアクティブにするには

- 1 セッションウィンドウのツールバーで[ezScroll]をクリックします。
- 2 画面をスクロールするにはマウスの左ボタンを押し続けます。

ショートカットキーを使って ezScroll をアクティブにするには

- 1 ショートカットキーを押したままにします。
- 2 画面をスクロールするにはマウスの左ボタンを押し続けます。

ezScroll のショートカットキーを変更するには

- 1 **Web Remote** ウィンドウのメニューバーで[表示]、[環境設定]の順にクリックします。
- 2 [環境設定]ダイアログボックスの[ナビゲーション]の[ezScroll ホットキー]リストで使いたいショートカットキーを選択します。

デフォルトでは **ezScroll** は無効です。
- 3 [OK]をクリックします。

Web Remote セッションの終了

リモート制御セッションはいくつかの方法で終了できます。適切な権限がある場合は、セッションの終了後にホストを中止できます。ただし、ホストを中止した場合は、ホストセッションを再開するまでどのユーザーもそのホストに接続できなくなります。

p.255 の「[Web Remote からホストに接続する方法](#)」を参照してください。

Web Remote セッションを終了するには

- 1 Web Remote セッションウィンドウで次のいずれかの操作をします。
 - ホストメニューで[終了]を選択します。
 - Web Remote ツールバーで[セッションの終了]アイコンをクリックします。
 - ブラウザのタイトルバーで[閉じる]アイコンをクリックします。
- 2 [セッションの終了]ウィンドウで[はい]をクリックします。

モバイルデバイスからの接続

この章では以下の項目について説明しています。

- [Symantec pcAnywhere Mobile](#) について
- [Symantec pcAnywhere Mobile](#) のインストール
- モバイルデバイスから別のコンピュータに接続する方法
- [Symantec pcAnywhere Mobile](#) セッション画面のナビゲーション
- モバイルデバイスからのリモート制御タスクの実行
- [Symantec pcAnywhere Mobile](#) でのリモート管理セッションの開始
- リモート管理セッション中にできること
- モバイルデバイスの接続項目の管理
- [Symantec pcAnywhere Mobile](#) の終了について

Symantec pcAnywhere Mobile について

Symantec pcAnywhere Mobile はモバイルデバイスからコンピュータとサーバーへの安全なリモートアクセスを提供します。デバイスでヘルプデスクの問題の迅速なトラブルシューティングと解消、サーバーのサポートと保守、リモート作業ができます。

Symantec pcAnywhere Mobile は TCP/IP を介したネットワーク接続をサポートします。これには無線接続 (たとえば、WiFi、携帯、Bluetooth、赤外線) も含まれます。Windows、Linux、または Mac OS X コンピュータで動作する pcAnywhere ホストに接続できます。

Symantec pcAnywhere Mobile でできること

pcAnywhere Mobile では次のタスクが実行できます。

リモート制御のための別のコンピュータへの接続	pcAnywhere Mobile のリモート制御機能を使用すると、デバイスからホストコンピュータに接続してそのコンピュータの前に座っているかのように操作できます。 p.283 の「 モバイルデバイスからのリモート制御タスクの実行 」を参照してください。
リモート管理のための別のコンピュータへの接続	pcAnywhere Mobile のリモート管理機能を使うと、よく使う管理者ツールにアクセスしてモバイル接続を介してコンピュータの問題をすばやく解消できます。 p.285 の「 リモート管理セッション中にできること 」を参照してください。
接続設定の管理	接続する頻度が高いコンピュータの設定を格納するように接続項目を設定できます。 p.270 の「 モバイルデバイスのカスタム接続項目の設定 」を参照してください。 いろいろな方法で接続項目を管理できます。 p.292 の「 モバイルデバイスの接続項目の管理 」を参照してください。
プログラムオプションの表示と変更	セッション前またはセッション中に、ナビゲーションオプションと表示オプションを表示したり管理できます。 p.282 の「 モバイルセッション中のナビゲーション設定の修正 」を参照してください。

デバイスでのヘルプの表示

Symantec pcAnywhere Mobile にはヘルプシステムがあります。トピックリストでトピックを選択したり現在の画面についてのヒントを表示したりできます。

デバイスでヘルプを表示するには

- ◆ 次のいずれかの操作をします。
 - Today 画面で[スタート]、[ヘルプ]、[pcAnywhere]の順にタップします。
トピックリストで表示したいトピックを選択します。
 - pcAnywhere Mobile 画面で[スタート]、[ヘルプ]の順にタップします。

Symantec pcAnywhere Mobile のインストール

pcAnywhere Mobile をインストールする前に次のことをしてください。

- コンピュータとデバイスがシステムの最小必要条件を満たすことを確認する
- デバイスを Windows コンピュータに同期する
詳しくはデバイスのマニュアルを参照してください。

Symantec pcAnywhere Mobile システムの必要条件

pcAnywhere Mobile をインストールするには、デスクトップコンピュータまたはノートパソコンとモバイルデバイスが必要です。コンピュータは pcAnywhere Mobile をデバイスにインストールするために使用します。Symantec pcAnywhere Mobile はデバイスで実行します。

pcAnywhere Mobile をインストールする前に、コンピュータに Microsoft Active Sync (Vista の場合は Windows Mobile Device Center) をインストールする必要があります。また、デバイスをコンピュータに接続するためのハードウェアも必要です。

メモ: pcAnywhere Mobile は Vista にインストールされた Sync センターとは連携して働きません。pcAnywhere Mobile を Vista と連携させるには Windows Mobile Device Center を使う必要があります。

コンピュータに pcAnywhere Mobile をインストールするために最小限必要なリソースを表 13-1 に示します。

表 13-1 pcAnywhere Mobile のコンピュータのシステムの必要条件

必要条件	説明
オペレーティングシステム	Windows Vista/XP/2003/2008 Server/2000
同期ソフトウェア	Microsoft ActiveSync 4.2 以降

デバイスに pcAnywhere Mobile をインストールするために最小限必要なリソースを表 13-2 に示します。

表 13-2 デバイスのシステムの必要条件

必要条件	説明
デバイス	Pocket PC Pocket PC Phone Edition
オペレーティングシステム	Windows Mobile 5.0/6.0
CPU	Intel XScale プロセッサ
同期ソフトウェア	Microsoft ActiveSync 4.2 以降

必要条件	説明
メモリ	5 MB
RAM	32 MB
ディスク容量	1 MB
ネットワークプロトコル	TCP/IP

Symantec pcAnywhere Mobile の以前のバージョンがインストールされている場合

pcAnywhere Mobile の新しいバージョンを既存のバージョンに上書きしてインストールできます。以前のバージョンがインストールされていたディレクトリと同じディレクトリにプログラムをインストールする場合、Symantec pcAnywhere Mobile は自動的に設定データを残します。

pcAnywhere Mobile を上書きしてインストールする前に、デバイスで実行中のアクティブな pcAnywhere セッションがないことを確認してください。また、メモリで pcAnywhere Mobile が実行されていないことを確認してください。

p.292 の「モバイルセッションの終了」を参照してください。

p.293 の「Symantec pcAnywhere Mobile の終了について」を参照してください。

Symantec pcAnywhere Mobile のインストール

Symantec pcAnywhere Mobile は pcAnywhere Mobile のプログラムファイルを含むフォルダをコンピュータに作成します。インストール処理中に別の場所を選択した場合を除いて、Microsoft ActiveSync ディレクトリ内に pcAnywhere Mobile フォルダが作成されます。pcAnywhere Mobile を正しくインストールまたはアンインストールするためには、ActiveSync ディレクトリにプログラムをインストールしてください。

デバイスがコンピュータに接続している場合、プログラムは自動的にデバイスにインストールされます。デバイスがコンピュータに接続していない場合にはプログラムは次回コンピュータと同期したときにデバイスにインストールされます。

デバイスがコンピュータに接続しているときに Symantec pcAnywhere Mobile をインストールするには

- 1 コンピュータで Microsoft ActiveSync を起動します。
- 2 コンピュータで Symantec pcAnywhere CD を CD-ROM ドライブに挿入します。

- 3 Symantec pcAnywhere のメインインストールパネルで[その他のインストールオプションの表示]をクリックします。

pcAnywhere CD を挿入した後でインストールウィンドウが自動的に表示されない場合には手でセットアッププログラムを実行してからインストール操作を続行してください。

p.57 の「[手動によるセットアッププログラムの実行](#)」を参照してください。

- 4 インストールオプションのリストで[Symantec pcAnywhere Mobile のインストール]をクリックします。
- 5 ようこそパネルで[次へ]をクリックします。
- 6 使用許諾契約の条項に同意してから[次へ]をクリックします。
- 7 ユーザー情報パネルでユーザー名と所属を入力して、[次へ]をクリックします。
- 8 インストール先のフォルダパネルで次のいずれかの操作をします。
 - コンピュータ上のデフォルトのフォルダに **pcAnywhere Mobile** をインストールするには[次へ]をクリックします。
pcAnywhere Mobile のファイルは次のフォルダに保存されます。
¥Program Files¥Microsoft ActiveSync¥pcAnywhere Mobile¥
Vista では、ActiveSync が **Windows Mobile Device Center** に置き換えられています。デフォルトフォルダは、
¥Windows¥WindowsMobile¥pcAnywhereMobile です。
 - コンピュータ上のインストールフォルダを変更するには[変更]をクリックします。
インストール先フォルダの変更パネルの[探す場所]ドロップダウンリストで **pcAnywhere Mobile** をインストールしたいフォルダの場所を選択してから[OK]をクリックします。次にインストール先のフォルダパネルで[次へ]をクリックします。
- 9 インストール処理を開始するために[プログラムをインストールする準備ができました]パネルで[インストール]をクリックします。
- 10 [アプリケーションをインストールしています]ダイアログボックスで次のいずれかの操作をします。
 - **pcAnywhere Mobile** をデバイス上のデフォルトの場所にインストールするには[はい]をクリックします。
デフォルトの場所はメインメモリです。
 - デバイス上の場所を変更するには[いいえ]をクリックします。
- 11 デバイスでインストールを完了するための追加ステップの実行を要求するメッセージが表示されていないことを確認します。

12 コンピュータの[アプリケーションのダウンロードが完了しました]ウィンドウで[OK]をクリックします。

13 インストールウィザードの[完了しました]パネルで[完了]をクリックします。

インストールが完了したらデバイスで Symantec pcAnywhere Mobile を使用できます。

デバイスがコンピュータに接続していないときに Symantec pcAnywhere Mobile をインストールするには

1 コンピュータで次のいずれかの操作をします。

- Vista の場合、Windows Mobile Device Center を起動します。

- Windows XP/Server 2003/2000 の場合、Microsoft ActiveSync を起動します。

2 コンピュータで Symantec pcAnywhere CD を CD-ROM ドライブに挿入します。

3 Symantec pcAnywhere のメインインストールパネルで[その他のインストールオプションの表示]をクリックします。

Symantec pcAnywhere CD を挿入した後でインストールウィンドウが自動的に表示されない場合には手動でセットアッププログラムを実行してからインストール操作を続行してください。

p.57 の「[手動によるセットアッププログラムの実行](#)」を参照してください。

4 インストールオプションのリストで[Symantec pcAnywhere Mobile のインストール]をクリックします。

5 ようこそパネルで[次へ]をクリックします。

6 使用許諾契約の条項に同意してから[次へ]をクリックします。

7 ユーザー情報パネルでユーザー名と所属を入力して、[次へ]をクリックします。

8 インストール先のフォルダパネルで次のいずれかの操作をします。

- コンピュータ上のデフォルトのフォルダに pcAnywhere Mobile をインストールするには[次へ]をクリックします。

pcAnywhere Mobile のファイルは次のフォルダに保存されます。

¥Program Files¥Microsoft ActiveSync¥pcAnywhere Mobile¥

Vista では、ActiveSync が Windows Mobile Device Center に置き換えられています。デフォルトフォルダは、

¥Windows¥WindowsMobile¥pcAnywhereMobile です。

- コンピュータ上のインストールフォルダを変更するには[変更]をクリックします。インストール先フォルダの変更パネルの[探す場所]ドロップダウンリストで pcAnywhere Mobile をインストールしたいフォルダの場所を選択してから[OK]をクリックします。次にインストール先のフォルダパネルで[次へ]をクリックします。

- 9 インストール処理を開始するために[プログラムをインストールする準備ができました]パネルで[インストール]をクリックします。
- 10 [アプリケーションのインストール待機中です]ダイアログボックスで[OK]をクリックします。

Symantec pcAnywhere Mobile は次回デバイスをコンピュータと同期したときにデバイスにインストールされます。
- 11 ウィザードの[完了しました]パネルで[完了]をクリックします。

デバイスの同期時にインストール処理を完了するには

- 1 デバイスをコンピュータに接続します。

Microsoft ActiveSync または Windows Mobile Device Center (Vista の場合) が自動的に起動します。起動しない場合には、自分でプログラムを開く必要があります。
- 2 コンピュータの[アプリケーションをインストールしています]ダイアログボックスで次のいずれかの操作をします。
 - pcAnywhere Mobile をデバイス上のデフォルトの場所にインストールするには [はい]をクリックします。
デフォルトの場所はメインメモリです。
 - デバイス上の場所を変更するには [いいえ]をクリックします。
- 3 デバイスでインストールを完了するための追加ステップの実行を要求するメッセージが表示されていないことを確認します。
- 4 コンピュータの[アプリケーションのダウンロードが完了しました]ウィンドウで[OK]をクリックします。

Symantec pcAnywhere Mobile のアンインストール

pcAnywhere Mobile をアンインストールする前に、デバイスで実行中のアクティブな pcAnywhere セッションがないことを確認してください。また、メモリで pcAnywhere Mobile が実行されていないことを確認してください。

p.292 の「[モバイルセッションの終了](#)」を参照してください。

p.293 の「[Symantec pcAnywhere Mobile の終了について](#)」を参照してください。

デバイスがコンピュータに接続している場合、Microsoft ActiveSync プログラムまたは Windows Mobile Device Center (Vista の場合) を使って pcAnywhere を削除できます。pcAnywhere Mobile はデバイスのみから削除することも、デバイスとコンピュータ上の ActiveSync フォルダから削除することもできます。後でデバイスに再インストールしたい場合にはプログラムをコンピュータ上の ActiveSync または Windows Mobile Device Center フォルダに残しておいてください。

プログラムの削除機能を使ってデバイスから **pcAnywhere Mobile** をアンインストールすることもできます。プログラムをアンインストールする場合はデバイスをコンピュータに接続する必要はありません。

ActiveSync または Windows Mobile Device Center を使ってデバイスから Symantec pcAnywhere Mobile をアンインストールするには

- 1 デバイスをコンピュータに接続します。

Microsoft ActiveSync または Windows Mobile Device Center が自動的に起動します。起動しない場合には、自分でプログラムを開く必要があります。
- 2 デバイスで **pcAnywhere Mobile** が動作中でないことを確認します。
- 3 コンピュータの Microsoft ActiveSync ウィンドウまたは Windows Mobile Device Center ウィンドウのツールメニューで[アプリケーションの追加と削除]を選択します。
- 4 アプリケーションの追加と削除ウィンドウで[Symantec pcAnywhere Mobile]のチェックマークをはずして[OK]をクリックします。

デバイスと ActiveSync フォルダまたは Windows Mobile Device Center フォルダから Symantec pcAnywhere Mobile をアンインストールするには

- 1 デバイスをコンピュータに接続します。

Microsoft ActiveSync または Windows Mobile Device Center が自動的に起動します。起動しない場合には、自分でプログラムを開く必要があります。
- 2 デバイスで **pcAnywhere Mobile** が動作中でないことを確認します。
- 3 コンピュータの Microsoft ActiveSync ウィンドウまたは Windows Mobile Device Center ウィンドウのツールメニューで[アプリケーションの追加と削除]を選択します。
- 4 アプリケーションの追加と削除ウィンドウで[Symantec pcAnywhere Mobile]のチェックマークをはずして[削除]をクリックします。
- 5 [アプリケーションの削除]ウィンドウで[OK]をクリックします。
- 6 アプリケーションの追加と削除ウィンドウで[OK]を選択します。

ActiveSync または Windows Mobile Device Center を使わずにデバイスから pcAnywhere Mobile をアンインストールするには

- 1 デバイスで、**pcAnywhere Mobile** がメモリで動作中でないことを確認します。

動作中のプログラムを停止する方法について詳しくはデバイスのマニュアルを参照してください。
- 2 Today 画面で[スタート]、[設定]の順にタップします。
- 3 [システム]ページで[プログラムの削除]をタップします。
- 4 [プログラムの削除]画面の[メモリにあるプログラム]で[Symantec pcAnywhere Mobile]をタップします。

- 5 [削除]をタップします。
- 6 [プログラムの削除]画面で[はい]をタップして処理を確認します。

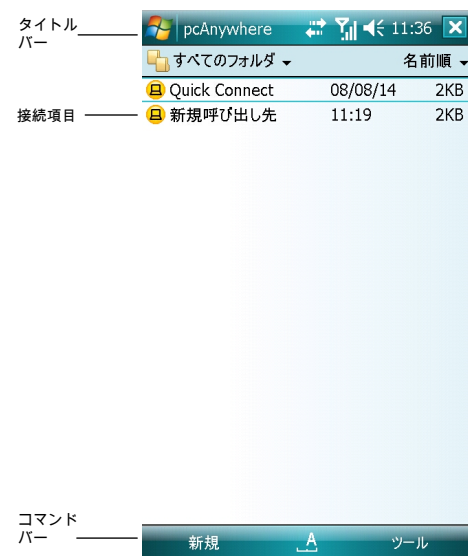
Symantec pcAnywhere Mobile の起動

Symantec pcAnywhere Mobile は、プログラム画面からアクセスできるようにデバイスの Programs フォルダにインストールされます。pcAnywhere Mobile を起動するとプログラムはスタートメニューのタスクリストに追加されます。プログラムを終了するまで Symantec pcAnywhere Mobile はメモリに残ります。

p.293 の「[Symantec pcAnywhere Mobile の終了について](#)」を参照してください。

pcAnywhere Mobile のメイン画面を図 13-1 に示します。

図 13-1 pcAnywhere Mobile のメイン画面



Symantec pcAnywhere Mobile を起動するには

- ◆ [スタート]、[プログラム]、[pcAnywhere]の順にタップします。

モバイルデバイスから別のコンピュータに接続する方法

Symantec pcAnywhere Mobile を使用すると次の方法でホストコンピュータに接続できます。

[クイック接続]	クイック接続はホストコンピュータに対する 1 回のみの接続または頻度の低い接続に使えます。 p.278 の「 クイック接続からのモバイル接続の開始 」を参照してください。
ユーザー定義接続	接続先になる頻度が高いホストコンピュータに対し接続項目を作成できます。 p.270 の「 モバイルデバイスのカスタム接続項目の設定 」を参照してください。 以降の接続ではこれらの接続項目を使用してホストコンピュータに接続できます。 p.278 の「 カスタム接続項目からのモバイルセッションの起動 」を参照してください。

モバイルデバイスのカスタム接続項目の設定

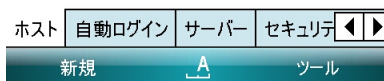
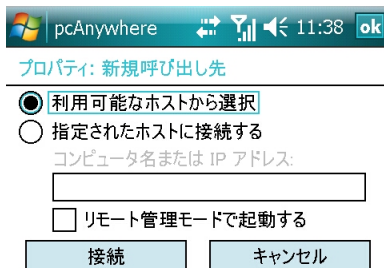
接続先になる頻度が高いホストコンピュータに対し接続項目を作成して、そのホストコンピュータの接続設定を保存して繰り返し使うことができます。接続項目はデバイスの[すべてのフォルダ]フォルダに保存されます。

接続項目の設定は編集できます。また、接続項目の名前の変更、接続項目のコピー、移動、削除もできます。

p.292 の「[モバイルデバイスの接続項目の管理](#)」を参照してください。

モバイルデバイスのカスタム接続項目を設定するには

- 1 pcAnywhere Mobile を起動します。
- 2 製品のメイン画面で次のいずれかの操作をします。
 - 新しい接続項目を作成するにはいずれかのフォルダを開いてコマンドバーで[新規]をタップします。
 - 既存の接続項目を編集するには接続項目のリストでその接続項目を選択します。



- 3 プロパティ画面の[ホスト]ページで次のいずれかの操作をします。
 - サブネット上で実行されているホストコンピュータをホストのリストから選択するには[利用可能なホストから選択]をタップします。
 - 検索を行わずに特定のホストに接続するには[指定されたホストに接続する]をタップします。
接続先のコンピュータのコンピュータ名または IP アドレスを入力します。
- 4 リモート管理モードで接続を開始するには[リモート管理モードで起動する]にチェックマークを付けます。

このオプションを使うと、よく使う管理者ツールにアクセスしてモバイル接続を介してコンピュータの問題をすばやく解消できます。このオプションは **pcAnywhere 12.0** 以降を実行している **Windows Vista/XP/2003/2008 Server/2000** コンピュータでのみサポートされます。

p.285 の「[リモート管理セッション中にできること](#)」を参照してください。

5 次のページで使いたいオプションを設定します。

- | | |
|----------|---|
| [自動ログイン] | 接続時にホストコンピュータに自動的にログオンするためにログイン信用証明を入力できます。この情報を入力しないと、接続時にログイン信用証明を要求するメッセージが表示されます。

p.272 の「 モバイル接続にログイン情報を含める 」を参照してください。
メモ: リモート管理を使っている場合は、ホストコンピュータの設定に応じて追加のログイン信用証明を要求するメッセージが表示されます。 |
| [サーバー] | pcAnywhere Gateway またはアクセスサーバー経由で接続する場合は、接続に必要な IP アドレスとログイン情報を入力できます。

p.273 の「 pcAnywhere Gateway またはアクセスサーバー経由の接続 」を参照してください。 |
| [セキュリティ] | ホストコンピュータとデバイスの間のデータ交換を保護する暗号化の設定を選択できます。

p.274 の「 モバイルセッションの暗号化 」を参照してください。 |
| [ポート] | ホストコンピュータが使う代替ポートを必要に応じて指定できます。

p.276 の「 モバイル接続のホストポートの指定 」を参照してください。 |

6 次のいずれかの操作をします。

- 接続を開始しないで接続設定を保存するにはナビゲーションバーで[OK]をタップします。
- ホストコンピュータに接続するにはいずれかのプロパティページで[接続]をタップします。

モバイル接続にログイン情報を含める

Symantec pcAnywhere のすべてのホストセッションにはユーザー名とパスワードが必要です。pcAnywhere のホストコンピュータに接続するには、ログオンに必要な情報を知っている必要があります。

このログオン情報を接続項目に含めることができます。ログオン情報を接続項目に含めておくと、接続時にホストコンピュータに自動的にログオンできます。ログオン情報を接続項目に含めていない場合、接続時にログオン情報を要求するメッセージが表示されます。

ホストコンピュータが Windows Vista/XP/2003/2008 Server/2000 コンピュータの場合は、コンピュータまたはネットワークのログイン信用証明を要求するメッセージがオペレーティングシステムからも表示されることがあります。

モバイル接続にログイン情報を含めるには

- 1 pcAnywhere Mobile のメイン画面で次のいずれかの操作をします。

- 既存の接続項目を編集するには接続項目のリストでその接続項目を選択します。
 - 新しい接続項目を作成するにはいずれかのフォルダを開いてコマンドバーで[新規]をタップします。
- 2 プロパティ画面の[自動ログイン]ページで[自動的にログイン]にチェックマークを付けます。
 - 3 [ログイン名]フィールドでユーザー名を入力します。
 - 4 [パスワード]フィールドでパスワードを入力します。
 - 5 必要に応じて[ドメイン]フィールドでドメインを入力します。
Windows NT 認証でドメインアカウントを使うように設定されたホストに接続する場合にはドメインも入力する必要があります。
 - 6 変更内容を保存するにはタイトルバーで[OK]をタップします。

pcAnywhere Gateway またはアクセスサーバー経由の接続

Symantec pcAnywhere Mobile は Symantec pcAnywhere Gateway またはアクセスサーバー経由の接続をサポートしています。Symantec pcAnywhere Mobile はファイアウォール、ルーター、その他のネットワークアドレス変換(NAT)デバイスの背後にあるホストコンピュータを検索して接続する処理を簡易化します。Symantec pcAnywhere CD に含まれています。pcAnywhere アクセスサーバーは別売りのスタンドアロンサーバーです。

Symantec pcAnywhere Mobile はサブネット上で動作している pcAnywhere Gateway コンピュータを検索できます。ゲートウェイを選択するとホストリストが更新され、ゲートウェイによって検出されたホストコンピュータが表示されます。また、pcAnywhere Gateway またはアクセスサーバー経由で自動的に接続するように接続項目を設定できます。

pcAnywhere Gateway またはアクセスサーバー経由で接続するには

- 1 pcAnywhere Mobile のメイン画面で次のいずれかの操作をします。
 - 既存の接続項目を編集するには接続項目のリストでその接続項目を選択します。
 - 新しい接続項目を作成するにはいずれかのフォルダを開いてコマンドバーで[新規]をタップします。
- 2 プロパティ画面の[サーバー]ページで[ゲートウェイまたはアクセスサーバーを通して接続]にチェックマークを付けます。
- 3 接続するときに経由する Symantec pcAnywhere Gateway またはアクセスサーバーの IP アドレスを[IP アドレス]フィールドに入力します。
- 4 必要に応じて、接続に必要な pcAnywhere パスワードを[パスワード]フィールドに入力します。

- 5 アクセスサーバーに設定されている特定のグループに接続するには[グループ]フィールドにグループ名を入力します。
- 6 接続を開始しないで接続設定を保存するにはナビゲーションバーで[OK]をタップします。
- 7 接続するには[接続]をタップします。

モバイルセッションの暗号化

暗号化とは権限のないユーザーによるデータの読み取りまたは改ざんを防止するためにデータをエンコードまたはスクランブルする方式です。**Symantec pcAnywhere Mobile** は送信するデータを伝送中に権限のないユーザーが読み取りまたは改ざんできないようにするために暗号化を使います。

ホストとリモートの両方で **pcAnywhere 12.0** 以降が実行されていて暗号化レベルが一致しない場合、**pcAnywhere** は暗号化レベルが低いコンピュータの設定を高いほうのコンピュータに合わせて自動的に上げます。対称暗号化を使っていてアルゴリズムのレベルが一致しない場合、**pcAnywhere** はレベルが低いコンピュータの設定を自動的に上げます。

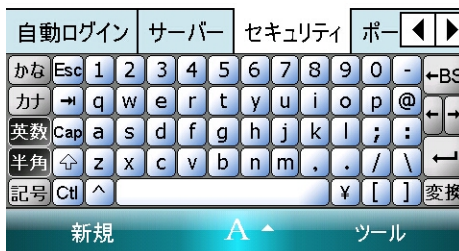
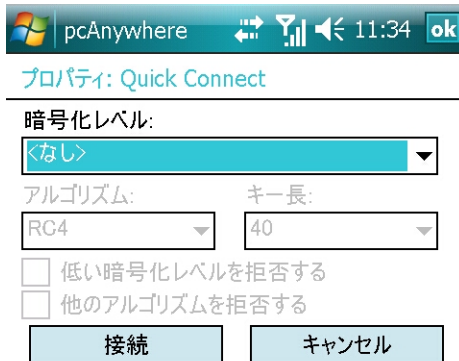
たとえば、ホストの暗号化レベルが**pcAnywhere** エンコードに設定されているときにリモートの暗号化レベルが対称暗号化に設定されている場合、**pcAnywhere** はホストの暗号化レベルを対称暗号化に自動的に上げます。

ホストコンピュータまたはリモートコンピュータで **pcAnywhere 11.0.x** 以前が実行されていて暗号化レベルまたはアルゴリズムが一致しない場合、**pcAnywhere** は暗号化レベルが高いコンピュータの暗号化レベルを下げて暗号化レベルの低いコンピュータに合わせます。または、接続を拒否するように設定することもできます。

p.207 の「[暗号化を使ったデータ保護](#)」を参照してください。

モバイルセッションを暗号化するには

- 1 **pcAnywhere Mobile** のメイン画面で次のいずれかの操作をします。
 - 既存の接続項目を編集するには接続項目のリストでその接続項目を選択します。
 - 新しい接続項目を作成するにはいずれかのフォルダを開いてコマンドバーで[新規]をタップします。



2 [セキュリティ]ページの[暗号化レベル]リストで次のいずれかを選択します。

- [なし] セッションは暗号化されません。ただし、選択した暗号化の種類にかかわらず、ホストコンピュータへのログオン情報の伝送時に **Symantec pcAnywhere Mobile** は対称暗号化を使って自動的にその情報を保全します。

- [pcAnywhere エンコード] **Symantec pcAnywhere Mobile** は第三者が簡単にはデータストリームを解読できないように単純な変換をデータに適用します。この暗号化レベルは強力な暗号化技法をサポートしない以前のバージョンの **pcAnywhere** と互換性があります。

- [対称] 対称暗号化ではデータの暗号化と解読に接続ごとにランダムに生成される対称暗号化キーの組を使います。 **Symantec pcAnywhere Mobile** はセッションの暗号化に使う対称暗号化キーの組を自動的にネゴシエートします。

3 [アルゴリズム]リストで次のいずれかを選択します。

- [RC4]

■ [AES]

このオプションは対称暗号化を選択した場合にのみ利用できます。

- 4 [キー長]リストで適切なキーレベルを選択します。

このオプションは対称暗号化を選択した場合にのみ利用できます。キー長を長くするとセキュリティレベルは強力になりますが、処理効率に影響する可能性があります。

- 5 ホストコンピュータが 11.0.x 以前のバージョンの **pcAnywhere** を実行中で低い暗号化レベルを使っている場合に接続をキャンセルするには、[低い暗号化レベルを拒否する]にチェックマークを付けます。
- 6 ホストコンピュータが異なるアルゴリズムを使っている場合に接続をキャンセルするには[他のアルゴリズムを拒否する]にチェックマークを付けます。

このオプションは対称暗号化を選択した場合にのみ利用できます。

- 7 変更内容を保存するにはタイトルバーで[OK]をタップします。

シリアル ID を使ったモバイル接続の保全

シリアル ID を使って接続を保全する **pcAnywhere** ホストコンピュータに接続できます。ホストコンピュータが接続を受け入れるように同じシリアル ID をデバイスに埋め込む必要があります。

シリアル番号の割り当てについて詳しくは『Symantec pcAnywhere 管理者ガイド』を参照してください。

シリアル ID を使って接続を保全するには

- 1 **pcAnywhere Mobile** のメイン画面のコマンドバーで[ツール]、[オプション]の順にタップします。
- 2 オプション画面の[シリアル ID]ページでホストコンピュータへの接続に必要なシリアル ID 番号を入力します。
シリアル ID は 0 から 65,535 までの数値にする必要があります。ホストと同じシリアル ID を使う必要があります。
- 3 変更内容を保存するにはタイトルバーで[OK]をタップします。

モバイル接続のホストポートの指定

Symantec pcAnywhere では接続用にポート 5631 と 5632 を使います。このポートは登録されており、ほとんどの場合、変更する必要はありません。別のポート番号を使うホストコンピュータに接続する場合にはデバイスの接続設定を変更してホストコンピュータのポート設定に一致させる必要があります。

モバイル接続のホストポートを指定するには

- 1 **pcAnywhere Mobile** のメイン画面で次のいずれかの操作をします。

- 既存の接続項目を編集するには接続項目のリストでその接続項目を選択します。
 - 新しい接続項目を作成するにはいずれかのフォルダを開いてコマンドバーで[新規]をタップします。
- 2 プロパティ画面の[ポート]ページの[ホストデータポート]でホストコンピュータが使っているデータポート番号を入力します。
[デフォルトに戻す]ボタンを使うとデータポート番号がデフォルト設定の 5631 に戻ります。
 - 3 [ホスト状態ポート]でホストコンピュータが使っている状態ポート番号を入力します。
[デフォルトに戻す]ボタンを使うと状態ポート番号がデフォルト設定の 5632 に戻ります。
 - 4 変更内容を保存するにはタイトルバーで[OK]をタップします。

モバイルデバイスのホスト検索へのサブネットアドレスの追加

Symantec pcAnywhere Mobile は、ローカルサブネット(デバイスを接続するネットワークの一部)上で実行されているホストコンピュータを検索できます。この検索は複数のサブネットに広げることができます。サブネットアドレスを追加すると、ホストの発見リストの結果はすべての新しい接続項目と既存のリモート接続項目で自動的に利用可能になります。

Symantec pcAnywhere Mobile は標準データポート(5631)で待機中の pcAnywhere ホストを検索します。ホストが異なるポートを使うように設定されている場合、デバイスの接続項目にポート番号を含める必要があります。

p.276 の「[モバイル接続のホストポートの指定](#)」を参照してください。

モバイルデバイスのホスト検索にサブネットアドレスを追加するには

- 1 pcAnywhere Mobile のメイン画面で次のいずれかの操作をします。
- 2 コマンドバーで[ツール]、[オプション]の順にタップします。
- 3 [ネットワーク]ページの[ホストを検索するための名前、IP アドレス、サブネットマスク]で次のように入力します。

<nnn.nnn.nnn>.0

<n> は IP アドレスまたはサブネットアドレスの最初の 3 つのオクテットの各数字を表します。
- 4 [追加]をタップします。
- 5 さらにサブネットをホストの発見リストに追加するために手順 3 から 4 を繰り返します。
- 6 [OK]をタップします。

カスタム接続項目からのモバイルセッションの起動

接続項目を使うとホストコンピュータへの再接続処理が簡単にできます。製品のメイン画面に表示される接続項目には、ホストコンピュータへの接続を設定したときに選択した接続設定とセキュリティ設定が格納されます。

カスタム接続項目からモバイルセッションを起動するには

- 1 pcAnywhere Mobile を起動します。
- 2 製品のメイン画面の接続項目リストで接続するホストコンピュータの接続項目を選択します。
- 3 いずれかのプロパティページで[接続]をタップします。

[自動ログイン]ページでログイン信用証明を設定していない場合、接続時にログイン信用証明を要求するメッセージが表示されます。

クイック接続からのモバイル接続の開始

Symantec pcAnywhere Mobile では最小の設定で別のコンピュータにすばやく接続できます。接続するにはホストコンピュータのコンピュータ名または IP アドレスとログイン情報を知っている必要があります。

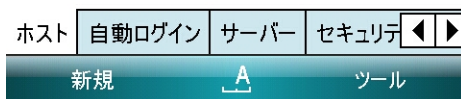
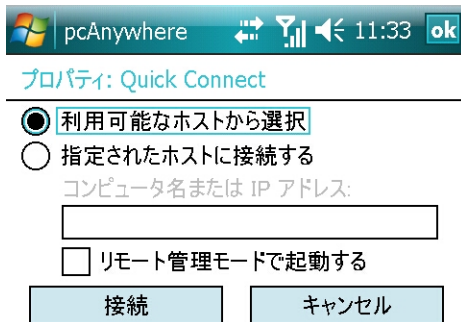
利用可能なホストのリストから接続先のホストを選択するか、接続先のコンピュータの IP アドレスまたはコンピュータ名を入力できます。デバイスがネットワークにアクセスしている場合、pcAnywhere Mobile はローカルサブネット上で接続待ちの pcAnywhere ホストを検索します。検索を他のサブネットにまで広げることができます。

p.277 の「[モバイルデバイスのホスト検索へのサブネットアドレスの追加](#)」を参照してください。

以降の接続で使用できるように、Symantec pcAnywhere Mobile は設定を保存します。次回クイック接続を使って別のホストコンピュータに接続するときは、この接続設定の修正が必要になることがあります。

クイック接続からモバイル接続を開始するには

- 1 pcAnywhere Mobile を起動します。
- 2 製品のメイン画面の接続項目のリストで[クイック接続]をタップします。



- 3 プロパティ画面の[ホスト]ページで次のいずれかの操作をします。
 - サブネット上で実行されているホストコンピュータをホストのリストから選択するには[利用可能なホストから選択]をタップします。
 - 検索を行わずにホストに接続するには[指定されたホストに接続する]をタップします。
接続先のコンピュータのコンピュータ名または IP アドレスを入力します。

- 4 リモート管理モードで接続を開始するには[リモート管理モードで起動する]にチェックマークを付けます。

このオプションを使うと、よく使う管理者ツールにアクセスしてモバイル接続を介してコンピュータの問題をすばやく解消できます。このオプションは **pcAnywhere 12.0** 以降を実行している **Windows Vista/XP/2003 Server/2000/2008 Server** コンピュータでのみサポートされます。

p.284 の「[Symantec pcAnywhere Mobile](#) でのリモート管理セッションの開始」を参照してください。

- 5 次のページで使いたいオプションを設定します。

[自動ログイン] 接続時にホストコンピュータに自動的にログオンするためにログイン信用証明を入力できます。この情報を入力しないと、接続時にログイン信用証明を要求するメッセージが表示されます。

p.272 の「[モバイル接続にログイン情報を含める](#)」を参照してください。

メモ: リモート管理を使っている場合は、ホストコンピュータの設定に応じて追加のログイン信用証明を要求するメッセージが表示されます。

[サーバー] **pcAnywhere Gateway** またはアクセスサーバー経由で接続する場合は、接続に必要な IP アドレスと他の情報を入力できます。

p.273 の「[pcAnywhere Gateway またはアクセスサーバー経由の接続](#)」を参照してください。

[セキュリティ] ホストコンピュータとデバイスの間のデータ交換を保護する暗号化の設定を選択できます。

p.274 の「[モバイルセッションの暗号化](#)」を参照してください。

[ポート] ホストコンピュータが使うポートを必要に応じて指定できます。

p.276 の「[モバイル接続のホストポートの指定](#)」を参照してください。

- 6 ホストコンピュータに接続するためにいずれかのプロパティページで[接続]をタップします。

Symantec pcAnywhere Mobile セッション画面のナビゲーション

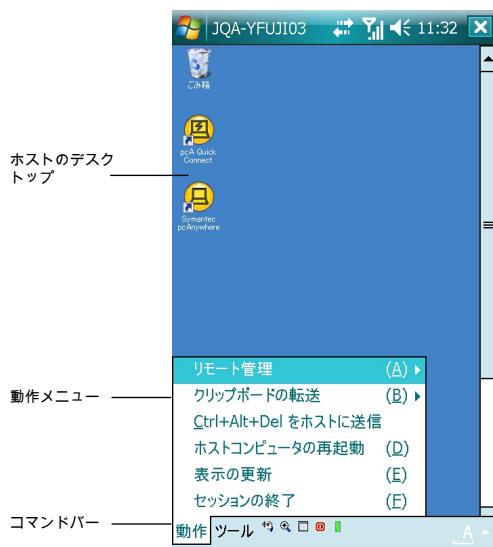
リモート管理モードでセッションを開始するように選択している場合を除いて、**Symantec pcAnywhere Mobile** はリモート制御セッション中に開きます。リモート管理モードでセッションを開始すると、**pcAnywhere Mobile** はタスクマネージャウィンドウを開きます。

コマンドバーにはリモート制御セッションでの作業中に役立つツールがあります。動作メニューにはホストの再起動など、リモート制御セッション中に利用可能なタスクがあります。

ツールメニューには画面とナビゲーションの設定オプションがあり、セッション中にこのオプションを修正して処理効率を向上できます。セッションコマンドバーにはよく使うタスクのボタンがあります。

リモート制御セッション中の **pcAnywhere Mobile** のメイン画面を図 13-2 に示します。

図 13-2 pcAnywhere Mobile のセッション画面



セッションコマンドバーにはリモート制御セッション中のナビゲーションに役立つ次のナビゲーションボタンがあります。



[ezScroll]

ezScroll 機能を使うとスクロールバーを使わずに任意の方向に画面をスクロールできます。

このオプションは画面を拡大した場合に利用できます。



[ezZoom]

ezZoom 機能を使うとセッション画面で拡大する部分を選択できます。この機能をオフにしない限り、**Symantec pcAnywhere Mobile** は **ezZoom** 機能がオンの状態でセッションを開始します。



[全画面縮小]

全画面縮小オプションを使うと全画面表示と拡大表示の切り替えができます。全画面モードでは、デバイス画面に合わせてホストのデスクトップのサイズを変更します。

ezScroll を使って Symantec pcAnywhere Mobile セッション画面をナビゲートするには

- 1 全画面モードで表示されている場合は、コマンドバーで[全画面縮小]をタップして拡大表示に切り替えます。
- 2 コマンドバーで[ezScroll]をタップします。
- 3 スクロールバーをタップして押したまま任意の方向にドラッグします。
- 4 ezScroll を解除するには[ezScroll]をもう一度タップします。

ezZoom を使って Symantec pcAnywhere Mobile セッション画面をナビゲートするには

- 1 コマンドバーで[ezZoom]をタップします。
- 2 四角い枠をタップしホスト画面で表示したい部分にドラッグします。
スタイラス(ペン)を離すと選択した領域が拡大します。

全画面表示と拡大表示を切り替えるには

- 1 拡大表示のときにデバイスでホスト画面全体を表示するには、コマンドバーで[全画面縮小]をタップします。
- 2 拡大表示に戻るには[全画面縮小]をもう一度タップします。

モバイルセッション中のナビゲーション設定の修正

Symantec pcAnywhere Mobile にはリモート制御中のナビゲーションを簡易化するナビゲーション制御オプションがあります。ナビゲーション設定を変更しない限り、これらのオプションは接続を開始したときに自動的にアクティブになります。

セッション中または接続前にナビゲーション設定を変更できます。ナビゲーション設定を行う手順は同じです。このオプションはすべての接続項目に自動的に適用されます。

モバイルセッション中にナビゲーション設定を修正するには

- 1 コマンドバーで[ツール]、[オプション]の順にタップします。
- 2 オプション画面の[ナビゲーション]ページで次のいずれかを選択します。

[スクロールバーを表示する] リモート制御画面を拡大した場合に水平スクロールバーと垂直スクロールバーを表示します。

[ホストウィンドウを追跡] ホストコンピュータ画面上に表示されているアクティブウィンドウ(ダイアログボックスのメッセージなど)を自動的に移動してデバイス画面上に表示されるようにします。

たとえば、ユーザーの処理を要求するダイアログボックスがデバイス画面上から見えなくなることがあります。メッセージが見えないのでユーザーはセッションがロックしたとみなす可能性があります。このオプションにチェックマークを付けると、このようなダイアログボックスのメッセージが必ず画面上に表示されるようになります。

[ホストマウスを追跡] ホストコンピュータユーザーがカーソルを移動するとおりに自動的にリモート制御画面を移動します。

- 3 [OK]をタップします。

モバイルセッション中の処理効率の向上

モバイルセッション中に色の設定を変更して処理効率を向上できます。このオプションは変更するまですべてのモバイルセッションで有効なままになります。

モバイルセッション中の処理効率を向上させるには

- 1 コマンドバーで[ツール]、[オプション]の順にタップします。
- 2 [ディスプレイ]ページでデバイス画面の色レベルを選択します。

表示される色数を減らすと処理効率が向上します。色よりも鮮明な表示のほうが重要である場合には 4 色の設定を使ってください。

- 3 [OK]をタップします。

モバイルデバイスからのリモート制御タスクの実行

接続先のホストコンピュータで次のリモート制御タスクを実行できます。

[クリップボードの転送] ホストのクリップボードからデバイスのクリップボードに(またはその逆に)クリップボードの内容をコピーできます。

[Ctrl+Alt+Delete をホストに送信] ホストコンピュータに Ctrl+Alt+Delete コマンドを送信できます。

[表示の更新] 画面表示を更新します。

[ホストの再起動] ホストコンピュータを再起動します。

このオプションは Windows のホストコンピュータでのみ利用可能です。

メモ: pcAnywhere Mobile のリモート管理ツールでは、セッションの終了後にホストコンピュータを保全する追加のオプションが提供されます。

p.284 の「[Symantec pcAnywhere Mobile でのリモート管理セッションの開始](#)」を参照してください。

モバイルデバイスからリモート制御タスクを実行するには

- 1 ホストコンピュータに接続します。
- 2 セッションのメイン画面のコマンドバーで[動作]をタップします。
- 3 実行したいタスクを選択します。

Symantec pcAnywhere Mobile でのリモート管理セッションの開始

リモート管理セッションは、Windows Vista/XP/2003 Server/2000/2008 Server のみでサポートされています。ホストコンピュータでは、pcAnywhere 12.0 以降が動作している必要があります。Windows、Linux、Mac OS X の簡易ホストへのリモート管理接続はサポートされません。

一部のリモート管理タスクの実行にはホストコンピュータで管理者権限が必要です。ホストユーザーはユーザー名とパスワードを使ってコンピュータにログオンする必要があります。ホストコンピュータのパスワードが空白の場合、Symantec pcAnywhere Mobile はこのコンピュータへのリモート管理接続をサポートしません。

リモート管理モードで接続を開始できます。リモート制御セッション中にリモート管理モードに切り替えることもできます。接続を開始すると呼び出し側のログイン信用証明を要求するメッセージが表示されます。いったんこの信用証明の有効性が確認されると、ホストコンピュータの設定に応じてコンピュータまたはネットワークのログイン信用証明を要求するメッセージをオペレーティングシステムが表示します。

Symantec pcAnywhere Mobile でリモート管理セッションを開始するには

- 1 Symantec pcAnywhere Mobile のメイン画面の接続項目リストで、ホストコンピュータに接続するときに使う接続項目を選択します。
- 2 プロパティ画面の[ホスト]ページで[リモート管理モードで起動する]にチェックマークを付けます。
- 3 追加の接続設定のうち使うものを選択します。
p.270 の「[モバイルデバイスのカスタム接続項目の設定](#)」を参照してください。
- 4 [接続]をタップします。

リモート管理セッション中にできること

pcAnywhere Mobile のリモート管理ツールを使うと、よく使う管理者ツールにアクセスしてモバイル接続を介してコンピュータの問題をすばやく解消できます。ホストコンピュータとデバイスとの間で送信する必要があるのはデータのみであるためリモート管理セッションは完全なリモート制御セッションほど多くの帯域幅を使いません。

Symantec pcAnywhere Mobile は次のリモート管理ツールを提供します。

タスクマネージャ	接続先のホストコンピュータで実行中のアプリケーションと処理の表示と制御ができます。
コマンド入力要求	ホストコンピュータ上で基本的な DOS コマンド (たとえば、 <code>ipconfig</code>) を実行してテキストの結果をローカルに表示できます。
システム状態の変更	ホストコンピュータのロック、再起動、終了またはホストコンピュータにログオンしたユーザーのログオフをリモートに実行できます。

モバイルデバイスからのプログラムの状態の表示または変更

リモート管理のタスクマネージャ機能を使うとホストコンピュータで実行中のプログラムを表示できます。プログラムの状態情報の表示、起動、終了ができます。この機能の働きは Windows タスクマネージャに似ています。ただし、コマンドがホストコンピュータ (たとえば、サポートのお客様のコンピュータ) で実行され、結果がユーザーのデバイスに表示される点が異なります。

モバイルデバイスからプログラムの状態を表示または変更するには

- 1 ホストコンピュータに接続します。
- 2 メイン画面のコマンドバーで[動作]、[リモート管理]、[タスクマネージャ]の順にタップします。

リモート管理モードでホストとの接続を開始すると、タスクマネージャウィンドウでセッションが開始されます。

- 3 ログオンするようにメッセージが表示されたら、ユーザー名とパスワード、必要に応じてホストコンピュータに設定されたユーザーアカウントのドメイン名を入力します。
- 4 プログラムの状態を変更するには、タスクマネージャ画面の[アプリケーション]ページで[動作]をタップして次のいずれかを選択します。

[新しいタスク] プログラムまたはコマンド(フォルダ、データファイル、インターネットリソースを開くなど)を開始できます。

このオプションの働きは **Windows** の[ファイル名を指定して実行]オプションに似ています。

[タスクの終了] プログラムまたはコマンドを中止できます。

- 5 画面を更新するには[動作]、[更新]の順にタップします。
- 6 タスクマネージャ画面を閉じるには[OK]をタップします。

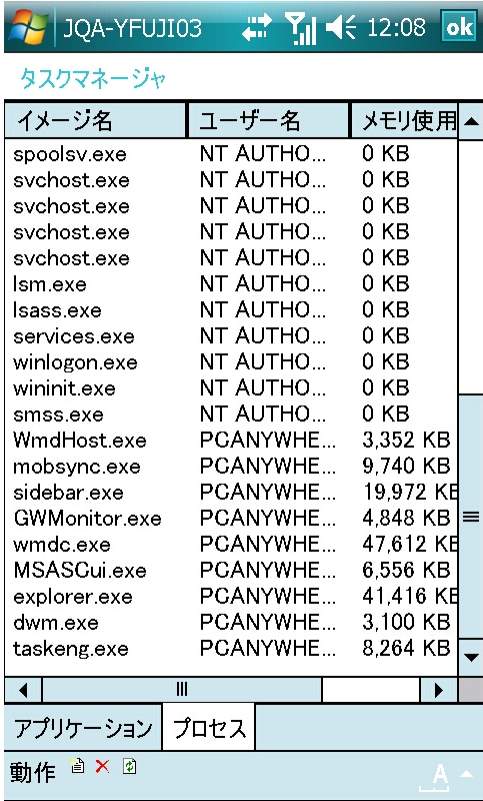
モバイルデバイスからの処理の起動と終了

リモート管理のタスクマネージャ機能を使うとホストコンピュータで実行中の処理についての情報(CPUやメモリの使用率など)を表示できます。また処理の起動と終了ができます。処理を起動するには実行したい実行可能ファイルの正確なパスとファイル名を指定する必要があります。実行可能ファイルはグラフィカルベースのプログラムではない必要があります(メモ帳など)。

この機能の働きは **Windows** タスクマネージャに似ています。ただし、コマンドがホストコンピュータ(たとえば、サポートのお客様のコンピュータ)で実行され、結果がユーザーのデバイスに表示される点が異なります。

モバイルデバイスから処理を終了するには

- 1 ホストコンピュータに接続します。
- 2 メイン画面のコマンドバーで[動作]、[リモート管理]、[タスクマネージャ]の順にタップします。



リモート管理モードでホストとの接続を開始すると、タスクマネージャウィンドウでセッションが開始されます。

- 3 ログオンするようにメッセージが表示されたら、ユーザー名とパスワード、必要に応じてホストコンピュータに設定されたユーザーアカウントのドメイン名を入力します。
- 4 タスクマネージャ画面の[プロセス]ページで終了したい処理を選択して[動作]、[プロセスの終了]の順にタップします。
- 5 画面を更新するには[動作]、[更新]の順にタップします。
- 6 タスクマネージャ画面を閉じるには[OK]をタップします。

モバイルデバイスから処理を起動するには

- 1 タスクマネージャ画面の[プロセス]ページで[動作]、[新しいタスク]の順にタップします。
- 2 [開く]フィールドで次のいずれかを行います。
 - 実行したい実行可能ファイルの正確なパスとファイル名を入力してプログラムを開くかコマンドを実行します。
 - 開きたいフォルダまたはデータファイルの正確なパスとファイル名を入力してフォルダまたはデータファイルを開きます。
- 3 タイトルバーで[OK]をクリックしてタスクマネージャ画面を閉じます。

モバイルデバイスからのコンピュータのロックまたはユーザーのログオフ

ホストコンピュータのロックまたはホストコンピュータにログオンしているユーザーのログオフをリモートから実行できます。リモート管理セッションはコマンドの送信後に終了します。

コンピュータをロックするオプションは **Windows Vista/XP/2003 Server/2000/2008 Server** でのみ利用可能です。セキュリティを強化するためにホストユーザーはスクリーンセーバーをパスワード保護できます。

ホストコンピュータからログオフする前に開いているプログラムを閉じて作業を保存するようにユーザーに確認できます。ホストユーザーに警告せずに開いているプログラムを強制的に閉じることも選択できます。プログラムを強制的に閉じるように選択した場合、ユーザーの保存していないデータは消失します。

このコンピュータをロックするコマンドとログオフコマンドは **Windows XP** のユーザーの簡易切り替えをサポートしません。

モバイルデバイスからコンピュータのロックまたはユーザーのログオフを実行するには

- 1 ホストコンピュータに接続します。
- 2 メイン画面のコマンドバーで[動作]、[リモート管理]、[システム状態の変更]の順にタップします。

リモート管理モードでホストとの接続を開始すると、タスクマネージャウィンドウでセッションが開始されます。セッションのメイン画面に戻るにはタイトルバーで[OK]をタップします。
- 3 ログオンするようにメッセージが表示されたら、ユーザー名とパスワード、必要に応じてホストコンピュータに設定されたユーザーアカウントのドメイン名を入力します。
- 4 [現在のホスト状態]画面の[実行する動作]で次のいずれかを選択します。
 - [コンピュータをロック]
 - [ログオフ]
- 5 ユーザーに確認せずにコマンドを実行するには[実行]をタップします。

モバイルデバイスからログオフコマンドを送信する前にユーザーに確認するには

- 1 [現在のホスト状態]画面の[オプション]で[ユーザーに確認]をタップします。

現在のホスト状態
ログオンしました
更新
PCANYWHERE®test

実行する動作
☒ コンピュータをロック ☐ 再起動
☐ ログオフ ☐ シャットダウン

オプション
☐ 保存しないでプログラムを閉じる
☒ ユーザーに確認
表示するメッセージ:
☐ ユーザーによる中止を許可する
入力要求の時間切れ: 30 秒

実行 キャンセル



- 2 ユーザーに確認するときにメッセージを表示するには[表示するメッセージ]で送信するテキストを入力します。
- 3 再起動コマンドやシステム終了コマンドを中止するオプションをユーザーが選択できるようにするには[ユーザーによる中止を許可する]をタップします。
- 4 ユーザーが確認の要求に応答するまでの秒数を選択します。
時間切れ秒数が経過したら処理は自動的に実行されます。

モバイルデバイスからのホストコンピュータの再起動または終了

接続先のホストコンピュータを再起動または終了できます。ユーザーに開いているすべてのプログラムを閉じて作業を保存するように要求するメッセージを表示できます。ホストユーザーに警告せずに開いているプログラムを強制的に閉じることも選択できます。たとえば、応答しなくなったホストコンピュータを再起動または終了するときにプログラムを強

制的に終了したい場合があります。プログラムを強制的に閉じるように選択した場合、ユーザーの保存していないデータは消失します。リモート管理セッションはコマンドの送信後に終了します。

モバイルデバイスからホストコンピュータを再起動または終了するには

- 1 ホストコンピュータに接続します。
- 2 メイン画面のコマンドバーで[動作]、[リモート管理]、[システム状態の変更]の順にタップします。

リモート管理モードでホストとの接続を開始すると、タスクマネージャウィンドウでセッションが開始されます。セッションのメイン画面に戻るにはタイトルバーで[OK]をタップします。

- 3 ログオンするようにメッセージが表示されたら、ユーザー名とパスワード、必要に応じてホストコンピュータに設定されたユーザーアカウントのドメイン名を入力します。
- 4 [現在のホスト状態]画面の[実行する動作]で次のいずれかを選択します。

■ [再起動]

■ [シャットダウン]

- 5 ホストコンピュータのオペレーティングシステムでデータを保存せずに強制的にプログラムを終了するには[オプション]で[データを保存しないで開いているプログラムを閉じる]をタップします。
- 6 ユーザーに確認せずにコマンドを実行するには[実行]をタップします。

モバイルデバイスから再起動コマンドまたはシステム終了コマンドを送信する前にユーザーに確認するには

- 1 [現在のホスト状態]画面の[オプション]で[ユーザーに確認]をタップします。
- 2 ユーザーに確認するときにメッセージを表示するには[表示するメッセージ]で送信するテキストを入力します。
- 3 再起動コマンドやシステム終了コマンドを中止するオプションをユーザーが選択できるようにするには[ユーザーによる中止を許可する]をタップします。
- 4 ユーザーが確認の要求に応答するまでの秒数を選択します。

時間切れ秒数が経過したら処理は自動的に実行されます。

モバイルデバイスからの DOS コマンドの実行

リモート管理でコマンド入力要求機能を使うとホストコンピュータ上で基本的な DOS コマンド(たとえば、`ipconfig`)を実行してテキストベースの結果をローカルに表示できます。この機能の働きは Windows のコマンドプロンプトに似ています。ただし、グラフィカルベースのコマンドまたは画面表示に直接 BIOS 呼び出しを使うコマンド(たとえば、`telnet`)がサポートされない点が異なります。

Symantec pcAnywhere Mobile は サポート対象外のコマンドのリストを除外リストに維持します。このリストにあるコマンドを入力した場合、エラーメッセージが表示されます。除外リストにないサポート対象外のコマンドを入力した場合、コマンド入力要求の反応が鈍くなることがあります。Symantec pcAnywhere Mobile ではコマンドを追加または削除して除外リストを管理できます。これにはカスタムキーマッピング、実行可能コマンドなどのユーザー定義のコマンドが含まれます。

モバイルデバイスから DOS コマンドを実行するには

- 1 ホストコンピュータに接続します。
- 2 メイン画面のコマンドバーで[動作]、[リモート管理]、[コマンド入力要求]の順にタップします。

リモート管理モードでホストとの接続を開始すると、タスクマネージャウィンドウでセッションが開始されます。セッションのメイン画面に戻るにはタイトルバーで[OK]をタップします。
- 3 ログオンするようにメッセージが表示されたら、ユーザー名とパスワード、必要に応じてホストコンピュータに設定されたユーザーアカウントのドメイン名を入力します。
- 4 コマンド入力要求画面で次のいずれかの操作をします。
 - コマンド入力フィールドに実行するコマンドを入力します。
 - コマンド入力フィールドのドロップダウンリストをタップし、以前に実行したコマンドのリストからコマンドを選択します。

この機能を最初に使う場合は、リストには何も表示されません。
- 5 [Enter キー]をタップします。
- 6 実行中のコマンドを停止するには[Ctrl+Break]をクリックします。
- 7 コマンド入力要求画面を閉じるには、タイトルバーで[OK]をタップします。

モバイルデバイスで除外リストを表示または編集するには

- 1 コマンド入力要求画面で[除外]をタップします。
- 2 次のいずれかの操作をします。
 - コマンドを除外リストに追加するには、[コマンド]フィールドにコマンドを入力して[追加]をタップします。
 - 除外リストからコマンドを削除するには、[除外するコマンド]フィールドでコマンドを選択して[削除]をタップします。
 - タイトルバーで[OK]をタップします。
 - コマンド入力要求画面を閉じるには、タイトルバーで[OK]をタップします。

モバイルセッションの終了

ホストコンピュータから接続解除するにはセッションを終了する必要があります。モバイルセッションを終了すると **pcAnywhere Mobile** のメイン画面に戻ります。

モバイルセッションを終了するには

- 1 コマンドバーで[動作]、[セッションの終了]の順にタップします。
- 2 確認ウィンドウで[はい]をクリックして処理を確認します。

モバイルデバイスの接続項目の管理

Symantec pcAnywhere Mobile では次の方法でリモート接続項目を管理できます。

- 接続先ホストをより適切に識別するために接続項目の名前を変更する
p.292 の「[モバイルデバイスの接続項目の名前の変更](#)」を参照してください。
- 新しい接続項目を作成するために既存の接続項目をコピーして設定オプションを編集する
p.292 の「[モバイルデバイスの接続項目のコピー](#)」を参照してください。
- より簡単に管理と検索ができるようにリモート接続項目をフォルダに編成する
p.293 の「[モバイルデバイスの接続項目の編成](#)」を参照してください。
- 不要になった接続項目を削除する
p.293 の「[モバイルデバイスからの接続項目の削除](#)」を参照してください。

モバイルデバイスの接続項目の名前の変更

新しい接続項目を作成すると、Symantec pcAnywhere Mobile はその項目に「新規呼び出し先」という名前を付けます。接続先ホストをより適切に識別するために接続項目の名前を変更できます。

モバイルデバイスの接続項目の名前を変更するには

- 1 pcAnywhere Mobile のメイン画面の接続項目のリストで名前を変更したい接続項目をタップして押したままにします。
- 2 [名前の変更/移動]をタップします。
- 3 [名前]フィールドに新しい名前を入力します。
- 4 [OK]をタップします。

モバイルデバイスの接続項目のコピー

作成したい新しいリモート接続項目に似た設定の既存のリモート接続項目をコピーして新しいリモート接続項目を作成できます。次に、新しい接続項目用に設定を修正します。

モバイルデバイスの接続項目をコピーするには

- 1 pcAnywhere Mobile のメイン画面の接続項目のリストでコピーしたい接続項目をタップして押したままにします。
- 2 [コピー作成]をタップします。
- 3 新しい接続項目の名前を変更します。
- 4 必要に応じて設定を修正します。

p.270 の「[モバイルデバイスのカスタム接続項目の設定](#)」を参照してください。

モバイルデバイスの接続項目の編成

より適切に検索と管理ができるように接続項目をフォルダまたは記憶媒体に編成できます。

モバイルデバイスの接続項目を編成するには

- 1 pcAnywhere Mobile のメイン画面の接続項目のリストで移動したい接続項目をタップして押したままにします。
- 2 [名前の変更/移動]をタップします。
- 3 次のいずれかの操作をします。
 - [フォルダ]リストでリモート接続項目を移動する場所を選択します。
 - [場所]リストで接続項目を移動する記憶媒体の場所を選択します。
- 4 [OK]をタップします。

モバイルデバイスからの接続項目の削除

不要になった接続項目をデバイスから削除できます。

モバイルデバイスから接続項目を削除するには

- 1 pcAnywhere Mobile のメイン画面の接続項目のリストで削除したい接続項目をタップして押したままにします。
- 2 [削除]をタップします。
- 3 確認のために[はい]をタップします。

Symantec pcAnywhere Mobile の終了について

Symantec pcAnywhere Mobile は、プログラムを終了させるまではメモリで実行されます。作業が完了したらpcAnywhere Mobileを適切に閉じ、デバイスのメモリ領域を確保するようにしてください。製品をアンインストールまたは再インストールする前にはpcAnywhere Mobileを閉じる必要があります。

pcAnywhere Mobile を閉じる前に、実行中の pcAnywhere Mobile セッションをすべて終了したかどうかを確認してください。

p.292 の「[モバイルセッションの終了](#)」を参照してください。

メモリで実行中のプログラムを終了する方法について詳しくはデバイスのマニュアルを参照してください。

Symantec pcAnywhere Gateway の管理

この章では以下の項目について説明しています。

- [Symantec pcAnywhere Gateway について](#)
- [Symantec pcAnywhere Gateway のインストール](#)
- [ゲートウェイマネージャについて](#)

Symantec pcAnywhere Gateway について

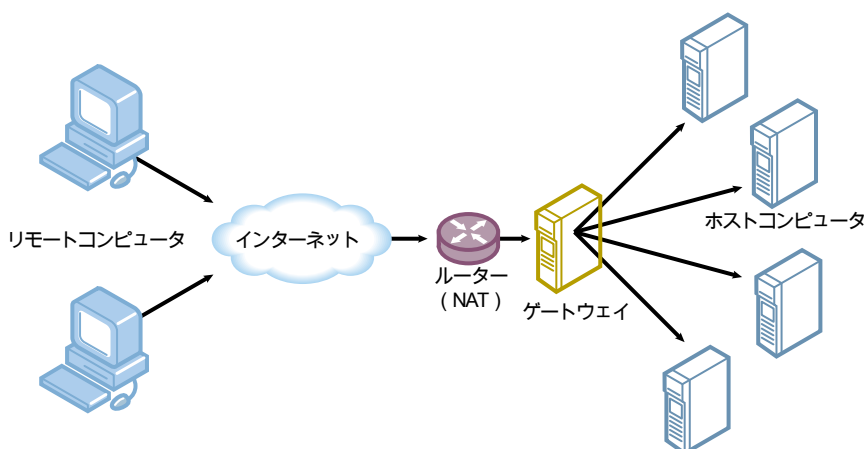
Symantec pcAnywhere Gateway はファイアウォール、ルーター、その他のネットワークアドレス変換 (NAT) デバイスの背後にあるホストコンピュータを検索して接続する処理を簡易化します。

pcAnywhere Gateway サービスを実行中のサブネットと同じサブネット上で動作している pcAnywhere ホストを自動的に検索します。検索の範囲を他のサブネットにまで広げることができます。Symantec pcAnywhere Gateway を使うと、最大 5 つのアクティブな TCP/IP セッションと 1 つのアクティブなモデムセッションを実行できます。

リモートユーザーはゲートウェイコンピュータに接続し、ゲートウェイで検出されたホストを表示して利用可能なホストに接続できます。リモートユーザーが NAT デバイスの背後のホストコンピュータに接続する場合は、NAT デバイスのポートを開いて着信接続を許可する必要があります。

pcAnywhere Gateway 経由の接続方法を [図 14-1](#) に示します。

図 14-1 pcAnywhere Gateway 経由の接続方法



p.302 の「[pcAnywhere Gateway のポート設定の編集](#)」を参照してください。

Symantec pcAnywhere と Symantec pcAnywhere Gateway はポート 5631 (TCP データポート) とポート 5632 (UDP 状態ポート) を使うように設定されます。Gateway セッションまたは pcAnywhere のホストセッションのデフォルトのポート設定を変更する場合は、リモートユーザーも pcAnywhere のポート設定を変更し一致させる必要があります。ゲートウェイセッションと pcAnywhere のホストセッションを同じコンピュータ上で実行する場合は、ホストポートを変更してゲートウェイのデフォルトポートをそのまま使用する必要があります。

Symantec pcAnywhere Gateway のインストール

Symantec pcAnywhere Gateway のインストール先コンピュータで管理者権限が必要です。また、コンピュータがシステムの最小必要条件を満たすことを確認する必要があります。

p.45 の「[Symantec pcAnywhere のシステムの必要条件](#)」を参照してください。

Symantec pcAnywhere Gateway をインストールするには

- 1 Symantec pcAnywhere CD を CD-ROM ドライブに挿入します。
- 2 Symantec pcAnywhere ウィンドウで[その他のインストールオプションの表示]をクリックします。
- 3 [Symantec pcAnywhere Gateway のインストール]をクリックします。

Windows Vista/2008 Server では、この処理の承認を求めるメッセージが表示される場合があります。組み込み管理者アカウントにログインしている場合、このメッセージは表示されません。

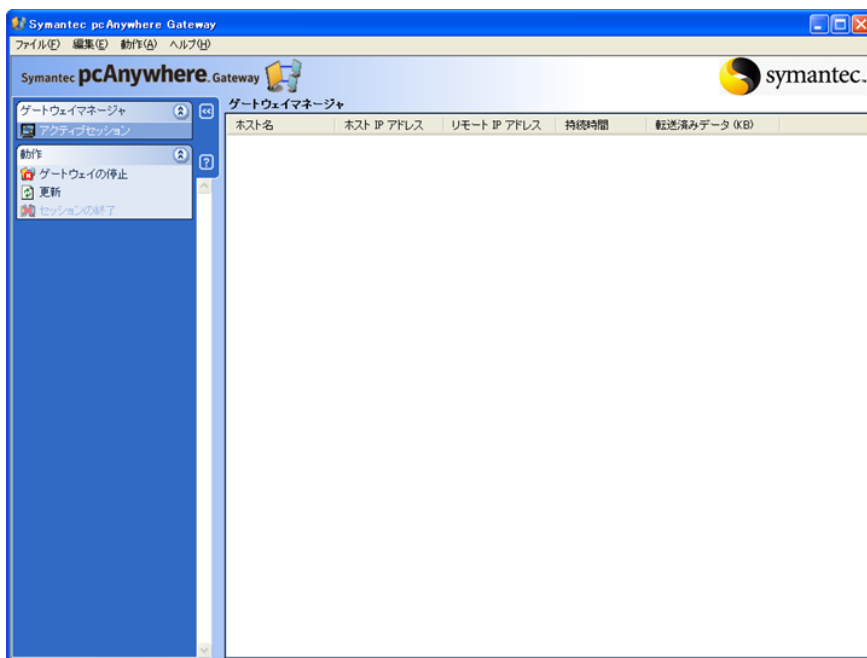
- 4 ようこそパネルで[次へ]をクリックします。
- 5 使用許諾契約の条項に同意してから[次へ]をクリックします。
- 6 インストール先のフォルダパネルで次のいずれかの操作をします。
 - デフォルトのプログラムフォルダに **pcAnywhere Gateway** をインストールするには[次へ]をクリックします。
 - インストールフォルダを変更するには[変更]をクリックします。
インストール先フォルダの変更パネルで **Symantec pcAnywhere Gateway** をインストールするフォルダの場所を参照してから[OK]をクリックします。次にインストール先のフォルダパネルで[次へ]をクリックします。
- 7 ゲートウェイセキュリティパネルで次のいずれかの操作をします。
 - **Gateway** セッションのパスワードを割り当てるには、[ゲートウェイに接続するときにパスワードを要求する]の[パスワード]フィールドと[パスワードの確認]フィールドにパスワードを入力して[次へ]をクリックします。
 - パスワードを割り当てない場合は[ゲートウェイに接続するときにパスワードを要求する]のチェックマークをはずして[次へ]をクリックします。
ユーザーパスワードはインストール後に割り当てることができます。
- 8 デフォルトでは **Symantec pcAnywhere Gateway** アイコンはデスクトップ上に作成されます。デスクトップ上にこのショートカットを作成しない場合は、[プログラムをインストールする準備ができました]パネルの[デスクトップショートカット]で[**Symantec pcAnywhere Gateway**]のチェックマークをはずします。
- 9 デフォルトで **Symantec pcAnywhere Gateway** サービスが自動的に起動します。**Symantec pcAnywhere Gateway** サービスを自動的に起動したくない場合は、[**Symantec pcAnywhere Gateway** サービスの開始]のチェックマークをはずします。
- 10 インストールを開始する準備ができたなら[インストール]をクリックします。
- 11 インストールが完了したら[完了]をクリックします。

ゲートウェイマネージャについて

Symantec pcAnywhere Gateway サービスを開始すると、ローカルサブネット上で動作している **pcAnywhere** ホストが自動的に検索されます。ゲートウェイマネージャウィンドウの右ペインにゲートウェイコンピュータを経由して実行しているすべてのアクティブなセッションが表示されます。アクティブなセッションがない場合は右ペインは空です。

ゲートウェイマネージャウィンドウを図 14-2 に示します。

図 14-2 ゲートウェイマネージャウィンドウ



pcAnywhere Gateway の起動

Symantec pcAnywhere Gateway はデフォルトでは Windows の Program Files フォルダにインストールされます。インストール時に必要に応じてプログラムアイコンを Windows デスクトップに作成し、そこからプログラムを実行できます。pcAnywhere Gateway は Windows のスタートメニューからも実行できます。

ゲートウェイサービスの実行中に Windows ファイアウォールを有効にした場合は、ゲートウェイサービスを停止して再起動する必要があります。

pcAnywhere Gatewayを起動するには

- ◆ 次のいずれかの操作をします。
 - Windows Vista/XP/Server 2008/2003 のタスクバーで[スタート]、[すべてのプログラム]、[Symantec]、[Symantec pcAnywhere Gateway]の順に選択します。
 - Windows Vista/XP/Server 2008/2003/2000 のデスクトップで Symantec pcAnywhere Gateway アイコンをダブルクリックします。
 - Windows 2000 のタスクバーで[スタート]、[プログラム]、[Symantec]、[Symantec pcAnywhere Gateway]の順に選択します。

- Windows のシステムトレイで Symantec pcAnywhere Gateway アイコンをダブルクリックします。
Windows Vista/2008 Server では、この処理の承認を求めるメッセージが表示される場合があります。組み込み管理者アカウントにログオンしている場合、このメッセージは表示されません。

pcAnywhere Gateway の起動設定の変更

Symantec pcAnywhere Gateway サービスは、Windows を開始すると自動的に起動するように設定されています。Windows を開始すると、Windows のシステムトレイに pcAnywhere Gateway アイコンが自動的に表示されます。これらの設定は変更できません。

pcAnywhere Gateway の起動設定を変更するには

- 1 ゲートウェイマネージャウィンドウの編集メニューで[環境設定]をクリックします。

Windows Vista/2008 Server では、この処理の承認を求めるメッセージが表示される場合があります。組み込み管理者アカウントにログオンしている場合、このメッセージは表示されません。

- 2 [環境設定]ウィンドウの[全般]ページで、次のいずれかを選択します。

[Windowsの起動時に起動]	Windows を起動したときに Symantec pcAnywhere Gateway サービスを起動します。
------------------	--

[タスクバーにゲートウェイアイコンを表示する]	Windows を起動したときに Windows のシステムトレイに pcAnywhere Gateway アイコンを追加します。
-------------------------	---

- 3 [OK]をクリックします。

ゲートウェイコンピュータが使う名前の変更

Symantec pcAnywhere Gateway では Windows のコンピュータ名を使ってホストリスト内のゲートウェイコンピュータを識別します。リモートユーザーがゲートウェイコンピュータを簡単に識別できるように、ゲートウェイコンピュータが使う名前を変更できます。この設定は Windows で設定したコンピュータ名には影響しません。

ゲートウェイコンピュータが使う名前を変更するには

- 1 ゲートウェイマネージャウィンドウの編集メニューで[環境設定]をクリックします。

Windows Vista/2008 Server では、この処理の承認を求めるメッセージが表示される場合があります。組み込み管理者アカウントにログオンしている場合、このメッセージは表示されません。

- 2 [環境設定]ウィンドウの[全般]ページで、[ユーザー定義]をクリックします。

- 3 [ユーザー定義]フィールドに新しい名前を入力します。
ユーザー名を空白にすることはできません。
- 4 [OK]をクリックします。
ゲートウェイサービスを再起動すると、リモートユーザーが新しい名前を確認できるようになります。

検索結果でのゲートウェイコンピュータの非表示

Symantec pcAnywhere Gateway では、リモートユーザーが簡単に検索できるようにネットワーク検索結果にゲートウェイコンピュータ名が表示されます。ネットワーク検索結果でゲートウェイコンピュータを非表示にしてセキュリティを向上させることができます。

検索結果でゲートウェイコンピュータを非表示にするには

- 1 ゲートウェイマネージャウィンドウの編集メニューで[環境設定]をクリックします。
Windows Vista/2008 Server では、この処理の承認を求めるメッセージが表示される場合があります。組み込み管理者アカウントにログオンしている場合、このメッセージは表示されません。
- 2 [環境設定]ウィンドウの[セキュリティ]ページで[TCP/IP 検索結果にゲートウェイを表示する]のチェックマークをはずします。
- 3 [OK]をクリックします。
この変更を有効にするためにはゲートウェイサービスを再起動する必要があります。

ゲートウェイコンピュータの保全

ゲートウェイコンピュータにアクセスするリモートユーザーに、毎回パスワードを使うように求めてゲートウェイコンピュータを保全できます。ゲートウェイマネージャにアクセスするための管理者パスワードを割り当てて設定を保全することもできます。

リモートセッションのパスワードを作成するには

- 1 ゲートウェイマネージャウィンドウの編集メニューで[環境設定]をクリックします。
Windows Vista/2008 Server では、この処理の承認を求めるメッセージが表示される場合があります。組み込み管理者アカウントにログオンしている場合、このメッセージは表示されません。
- 2 [環境設定]ウィンドウの[セキュリティ]ページで[ゲートウェイに接続するときにパスワードを要求する]にチェックマークを付けます。
- 3 [パスワード]フィールドでパスワードを入力します。
- 4 [パスワードの確認]フィールドに同じパスワードをもう一度入力します。
- 5 [OK]をクリックします。

ゲートウェイマネージャの管理者パスワードを作成するには

- 1 ゲートウェイマネージャウィンドウの編集メニューで[環境設定]をクリックします。
Windows Vista/2008 Server では、この処理の承認を求めるメッセージが表示される場合があります。組み込み管理者アカウントにログオンしている場合、このメッセージは表示されません。
- 2 [環境設定]ウィンドウの[セキュリティ]ページで[ゲートウェイマネージャを開くときにパスワードを要求する]にチェックマークを付けます。
- 3 [パスワード]フィールドでパスワードを入力します。
- 4 [パスワードの確認]フィールドに同じパスワードをもう一度入力します。
- 5 [OK]をクリックします。

pcAnywhere Gateway のイベントの監視

次のイベントを監視できます。

- Symantec pcAnywhere Gateway サービスの開始
- すでにアクティブなセッションが 5 つ実行されているためにブロックされた接続
- 正しいパスワードの入力を 4 回以上失敗したリモートユーザー
- Symantec pcAnywhere Gateway サービスの停止

pcAnywhere Gateway のイベントログ記録

セッション中に起きたイベントについての情報を **Windows** イベントビューアに送信できます。

他のユーザーがアクセスできるように、イベント情報を別のコンピュータのログに記録できます。ログファイルを安全な中央サーバーに送信することでファイルのセキュリティを保護することができます。

イベントビューアについて詳しくは **Windows** のマニュアルを参照してください。

ローカルの Windows イベントビューアにイベントのログを記録するには

- 1 ゲートウェイマネージャウィンドウの編集メニューで[環境設定]をクリックします。
Windows Vista/2008 Server では、この処理の承認を求めるメッセージが表示される場合があります。組み込み管理者アカウントにログオンしている場合、このメッセージは表示されません。
- 2 [環境設定]ウィンドウの[セキュリティ]ページで[Windows イベントビューアのログ記録を有効にする]にチェックマークを付けます。

- 3 [このコンピュータ上のイベントビューアにログを記録する]にチェックマークを付けます。
- 4 [OK]をクリックします。

中央サーバーにイベントのログを記録するには

- 1 ゲートウェイマネージャウィンドウの編集メニューで[環境設定]をクリックします。
Windows Vista/2008 Server では、この処理の承認を求めるメッセージが表示される場合があります。組み込み管理者アカウントにログオンしている場合、このメッセージは表示されません。
- 2 [環境設定]ウィンドウの[セキュリティ]ページで[Windows イベントビューアのログ記録を有効にする]にチェックマークを付けます。
- 3 [別のコンピュータ上のイベントビューアにログを記録する]にチェックマークを付けます。
- 4 [パス]フィールドにログファイルを生成するコンピュータの場所の絶対パスを入力します。
- 5 コンピュータへのアクセスに必要な認証情報を指定するには[拡張]をクリックします。
- 6 [認証情報]ウィンドウの[ユーザー名]フィールドにユーザー名を入力します。
- 7 [パスワード]フィールドにパスワードを入力します。
- 8 ドメインに割り当てられている場合は、[ドメイン]フィールドにドメインを入力します。
- 9 [OK]をクリックします。
- 10 [環境設定]ウィンドウで[OK]をクリックします。

pcAnywhere Gateway のポート設定の編集

デフォルトでは、Symantec pcAnywhere Gateway はポート 5631 (TCP データポート) とポート 5632 (UDP 状態ポート) を使うように設定されます。ゲートウェイコンピュータのポート設定を変更する場合は、ゲートウェイコンピュータに検出させたい各ホストコンピュータのポート設定も変更する必要があります。ゲートウェイコンピュータ経由で接続するリモートユーザーも、自分の pcAnywhere のポート設定が一致するように変更する必要があります。

NAT デバイスを使って接続を管理する場合は、デバイスのポートを開いて pcAnywhere の着信接続を許可する必要があります。NAT デバイスのポート設定は、Symantec pcAnywhere Gateway のポート設定と一致している必要があります。

NAT デバイスのポートを開く方法について詳しくはデバイスのマニュアルを参照してください。

pcAnywhere Gateway のポート設定を編集するには

- 1 ゲートウェイマネージャウィンドウの編集メニューで[環境設定]をクリックします。
Windows Vista/2008 Server では、この処理の承認を求めるメッセージが表示される場合があります。組み込み管理者アカウントにログオンしている場合、このメッセージは表示されません。
- 2 環境設定ウィンドウの[接続性]ページの[デバイスリスト]で[TCP/IP]にチェックマークを付けます。
Symantec pcAnywhere Gateway は TCP/IP 接続とモデム接続をサポートします。**Symantec pcAnywhere Gateway** はこのコンピュータ上で利用可能な接続デバイスを自動的に検出します。
- 3 [詳細]をクリックします。
- 4 データポートの設定を変更するには、ポート設定ウィンドウで次のいずれかの操作をします。
 - ポート番号を変更するには、[データポート]フィールドに新しいポート番号を入力します。
 - ポート番号をデフォルトポートにリセットするには、[デフォルトに戻す]をクリックします。
- 5 状態ポートの設定を変更するには、次のいずれかの操作をします。
 - ポート番号を変更するには、[状態ポート]フィールドに新しいポート番号を入力します。
 - ポート番号をデフォルトポートにリセットするには、[デフォルトに戻す]をクリックします。
- 6 [OK]をクリックします。

着信モデム接続を許可するための pcAnywhere Gateway の設定

pcAnywhere Gateway がインストールされているコンピュータにモデムがインストールされ正しく設定されている場合は、着信モデム接続を待つように **Symantec pcAnywhere Gateway** を設定できます。**Symantec pcAnywhere Gateway** は着信モデム接続のみを許可します。1 回の操作でアクティブにできるモデムセッションは 1 つだけです。

着信モデム接続を許可するように **pcAnywhere Gateway** を設定するには

- 1 ゲートウェイマネージャウィンドウの編集メニューで[環境設定]をクリックします。
Windows Vista/2008 Server では、この処理の承認を求めるメッセージが表示される場合があります。組み込み管理者アカウントにログオンしている場合、このメッセージは表示されません。
- 2 [環境設定]ウィンドウの[接続性]ページで、[デバイスリスト]からモデム名を選択します。
- 3 モデムの環境設定を表示または変更するには、[詳細]をクリックします。
使いたいオプションを選択してから[OK]をクリックします。
- 4 [環境設定]ウィンドウで[OK]をクリックします。

pcAnywhere Gateway がホストを検出する方法の選択

pcAnywhere Gateway が pcAnywhere ホストの検索に使う UDP (User Datagram Protocol) トラフィックレベルの設定を選択できます。

pcAnywhere Gateway がホストを検出する方法を選択するには

- 1 ゲートウェイマネージャウィンドウの編集メニューで[環境設定]をクリックします。
Windows Vista/2008 Server では、この処理の承認を求めるメッセージが表示される場合があります。組み込み管理者アカウントにログオンしている場合、このメッセージは表示されません。
- 2 [環境設定]ウィンドウの[接続性]ページの[ホスト検索時の UDP トラフィックレベル]リストで次のいずれかを選択します。
 - [バースト]
 - [ブロードキャスト]
- 3 [OK]をクリックします。

pcAnywhere Gateway でホスト検索に使うサブネットの追加または削除

pcAnywhere ホストが複数のサブネットに分散して存在している場合、リモートユーザーが接続できるように、Symantec pcAnywhere Gateway にサブネットを追加できます。サブネットが不要になった場合は Symantec pcAnywhere Gateway から削除することもできます。

ホスト検索に使うサブネットを追加するには

- 1 ゲートウェイマネージャウィンドウの編集メニューで[環境設定]をクリックします。
Windows Vista/2008 Server では、この処理の承認を求めるメッセージが表示される場合があります。組み込み管理者アカウントにログオンしている場合、このメッセージは表示されません。
- 2 [環境設定]ウィンドウの[接続性]ページで、[ホストを見つけるためのサブネット]の下に追加したいサブネットの IP アドレスを入力します。
- 3 [追加]をクリックします。
- 4 [OK]をクリックします。

ホスト検索から特定のサブネットを削除するには

- 1 ゲートウェイマネージャウィンドウの編集メニューで[環境設定]をクリックします。
Windows Vista/2008 Server では、この処理の承認を求めるメッセージが表示される場合があります。組み込み管理者アカウントにログオンしている場合、このメッセージは表示されません。
- 2 [環境設定]ウィンドウの[接続性]ページの[ホストを見つけるためのサブネット]の下で、削除したいサブネットの IP アドレスを選択します。
- 3 [削除]をクリックします。
- 4 [OK]をクリックします。

アクセスサーバーへのゲートウェイコンピュータのドッキング

リモートアクセス環境に Symantec pcAnywhere Access Server が含まれている場合、pcAnywhere Gateway を設定してアクセスサーバーにドッキングすることができます。アクセスサーバーに接続しているリモートユーザーは、ゲートウェイコンピュータを表示して利用可能なホストに接続できます。

詳しくは『Symantec pcAnywhere Access Server 実装ガイド』を参照してください。

アクセスサーバーにゲートウェイコンピュータをドッキングするには

- 1 ゲートウェイマネージャウィンドウの編集メニューで[環境設定]をクリックします。
Windows Vista/2008 Server では、この処理の承認を求めるメッセージが表示される場合があります。組み込み管理者アカウントにログオンしている場合、このメッセージは表示されません。
- 2 [環境設定]ウィンドウの[アクセスサーバー]ページで[アクセスサーバーに連結]にチェックマークを付けます。
- 3 [名前または IP アドレス]フィールドにアクセスサーバーの名前または IP アドレスを入力します。
- 4 [パスワード]フィールドでパスワードを入力します。

- 5 アクセスサーバーで設定されているグループに接続する場合は、[グループに接続]にチェックマークを付けます。
- 6 [グループ名]フィールドにグループ名を入力します。
- 7 [グループパスワード]フィールドにグループのパスワードを入力します。
- 8 [OK]をクリックします。

pcAnywhere Gateway セッションの終了

権限のないアクセスを予防したりリソースを解放するためにアクティブなセッションを終了できます。また、リモートユーザーの要求により終了することもできます。リモートユーザーにはセッションが終了する前に警告は表示されません。

pcAnywhere Gateway セッションを終了するには

- 1 ゲートウェイマネージャウィンドウで、終了するアクティブなセッションを選択します。
- 2 ナビゲーションバーの[動作]で[セッションの終了]をクリックします。
- 3 確認ダイアログボックスで[はい]をクリックします。

pcAnywhere Gateway サービスの停止

Symantec pcAnywhere Gateway サービスを停止できます。これにより、リモートユーザーがゲートウェイコンピュータを通してホストコンピュータに接続できなくなります。すべてのアクティブなセッションは自動的に終了します。リモートユーザーにはセッションが終了する前に警告は表示されません。

pcAnywhere Gateway サービスを停止するには

- 1 ゲートウェイマネージャウィンドウの[動作]の下で[ゲートウェイの停止]をクリックします。
- 2 確認ダイアログボックスで[はい]をクリックします。

Windows Vista/2008 Server では、この処理の承認を求めるメッセージが表示される場合があります。組み込み管理者アカウントにログオンしている場合、このメッセージは表示されません。

記号

.bhf ファイル 61
.chf ファイル 87
.csv ファイル 227
.log ファイル 227
.rcd ファイル 228、230
.txt ファイル 227
[Direct]接続項目
 ホスト 62
[File Transfer]接続項目 88
[Modem]接続項目
 ホスト 62
 リモート 88
[Network,Cable,DSL]接続項目
 ホスト 62
 リモート 88

A

ADSL 17
ADS 認証 196
ADS (Active Directory Service) 認証 196
AES 暗号化 207

C

CAPI 41
ColorScale 120、259
Common ISDN Application Programming Interface。
 「CAPI」を参照
COM ポート 42、71、99
CrossPlatform。「pcAnywhere CrossPlatform」を参照

D

Direct 接続項目
 リモート 88
DOS コマンド 145、290
DSL 17～18

E

ezScroll 244、257、259、281
ezZoom 281

F

FIPS 207
FIPS 140-2 認定 207
FTP 認証 198

H

HTTPS 認証 198
HTTP 認証 198

I

IP アドレス
 会議 83
 検索 109
 検索結果での非表示 200
 理解 18

L

LDAP 109、196
Linux
 セキュリティオプション 138
 ホスト配備 135
Linux への接続 247
LiveUpdate 59
LPT ポート 42

M

Mac OS X
 セキュリティオプション 138
 ホスト配備 135
Mac OS X への接続 247
Mac (オープン ディレクトリ) 135
Microsoft ADS 196、251
Microsoft LDAP 196
Microsoft Windows プリインストール環境 140
Microsoft 社の SMS 52

N

NDS 認証 251

NetBIOS 接続

ホストの設定 67

リモート 92

NIST 207**NT 認証 197****O**

OLE オートメーション 52

P

PAM 認証 135

pcAnywhere Access Server 100

pcAnywhere CrossPlatform

Linux へのインストール 234

Mac OS X へのインストール 235

Windows へのインストール 234

暗号化 238

処理効率の向上 243

セッションの終了 245

セッションの表示 240

接続 238

接続ファイル 245

接続へのシリアル番号の割り当て 240

説明 233

ファイルの転送 242

pcAnywhere Gateway

アクセスサーバーへのドッキング 305

イベントログ記録 301

インストール 296

起動の設定 299

検索結果での非表示 300

コンピュータ名のカスタマイズ 299

サブネットの設定 304

セッションの終了 306

接続 100

説明 295

パスワードの作成 300

ホストの検索 304

保全 300

ポート設定の編集 302

メインウィンドウ 297

モデム接続の設定 303

pcAnywhere Mobile

アップグレードする 264

アンインストール 267

インストール 264

環境設定 282

起動 269

クイック接続 278

サブネットアドレスの追加 277

システムの必要条件 263

処理効率の向上 283

セッションの暗号化 274

セッションの終了 292

接続 269、278

接続項目

管理 292

設定 270

説明 261

閉じる 293

ナビゲーション 280

ヘルプの表示 262

ホストのポートの修正 276

ログオン情報 272

pcAnywhere エンコード 252

pcAnywhere マネージャ

拡張表示 28

基本表示 24

接続後に閉じる 30

ナビゲーションバーオプションのカスタマイズ 29

R

RAS 19、67、92

Readme.txt ファイル 45

S

Samba 134

SecurID 認証 197

SNMP 221

SpeedSend 165

SPX 接続

ホスト 67

リモート 92

SSH 137

Symantec LiveUpdate 管理ユーティリティ 52

Symantec Packager 45

Symantec pcAnywhere

アンインストール 60

暗号化 209

エンコード 210

起動 57

更新版の取得 59

主要コンポーネント 14

ツール

活動ログの処理 226

ホスト評価ツールを使う 217

プログラムファイル 57

ログファイル 222

Symantec pcAnywhere Gateway。「pcAnywhere Gateway」を参照

Symantec pcAnywhere Mobile。「pcAnywhere Mobile」を参照

Symantec pcAnywhere Web Remote。「Web Remote」を参照

Symantec の暗号化モジュール 207

T

TAPI 接続 95

TCP/IP 接続

ホストの設定 67

リモート 92

Telephony API。「TAPI」を参照 69

Telnet 137

U

UDP 検索 109

V

VPN 19、67、92

W

Web Remote

暗号化の互換性 252

暗号化の設定 251

起動 249

サポート対象のオペレーティングシステム 247

シリアル ID の入力 254

セッション中のタスク 256

セッションの保全 250

設定 248

説明 247

認証を使う 251

ホストに接続する 255

ホストの検索 255

ポート設定の変更 254

Web サイト 22

Web 配備ツール 53

Windows 認証 197

あ

アクセス権 202

アダプタ 68

圧縮 165

アニメーション 81

アニメーション化されたアイコン 81

アプレット 247

暗号化

pcAnywhere Mobile 274

pcAnywhere エンコード 210、252

Web Remote で行う 251

暗号化レベル 209

概要 207

クイック接続セッション中 110

公開キー

概要 208

証明書 212、214

証明書ストア 213

設定 212、215

デジタル証明書 214

さまざまな暗号化を使った接続 252

処理効率かセキュリティかの問題 209

設定 253

対称 252

設定 210

理解 208

移行 54

イベントログ 150、301

イベントログ記録

Windows イベントビューア 224

設定 222

中央サーバーへの送信 224

理解 221

レポートの作成 226

インストール

pcAnywhere Mobile 262、264

Symantec pcAnywhere のアンインストール 60

以前のバージョン 54

オプション 50

カスタムバージョン 56

完全製品 55

システムの必要条件 45

準備 45

設定の調整 58

セットアッププログラム 57

ユーザー権限 50

インストールパッケージ 45

インターネット接続 16

ウィザード

公開キー暗号化 215

接続の開始 25、31

ホスト接続項目の設定 62

リモート接続項目の設定 31

ウィンドウの追跡 119

エラーチェック 42

お気に入り

 ホスト 61

 リモート 87

オフにする 126

オンラインオプション 258

か

会議

 IP アドレスの指定 83

 開始 83

 クラス D の IP アドレスの設定 83

 説明 82

 ルーターを使う 83

拡張表示 28

確認の要求 200

カスタムインストール 53

活動なし時間限度 207

活動レポート 226

活動ログレポート 226

画面キャプチャ 232

画面ショット 118

画面の消去 120

簡易ホストの必要条件

 Linux 47

 Mac OS X 47

 Windows 46

環境設定

 pcAnywhere Mobile 282

 ファイル転送の設定 164

 編集

 オンライン 119

 全体 38

起動オプション 71

キーボードのロック 119～120、206

キャッシュファイル 21

キャッチホン 70

共有ディスク 126

クイック接続 108

クイック配備接続

 WinPE での使い方 140

 設定

 Linux ホストプロパティ 134

 Mac OS X ホストプロパティ 134

 SSH オプション 137

 Telnet オプション 137

 Windows 簡易ホストのプロパティ 130

 説明 127

 ホストプロパティの編集 139

 ホストへの再接続 138

 クラス D の IP アドレス 83

 グラフィック 123

 クリップボード 123、243、258、283

 クローン

 準備 163

 説明 169

 フォルダ 170

 ゲートウェイ

 サービスの停止 306

 ケーブルモデム 17～18

 権限 202

 公開キー暗号化

 Vista での設定 212

 概要 208

 証明書

 検索 214

 作成 212

 デジタル証明書 214

 証明書ストア 213

 設定 212、215

 格子縞模様 121

 広帯域幅 120

 コマンドキュー 171

 コマンドキューセッション

 pcAnywhere マネージャからの実行 188

 一時停止 185

 コマンドの削除 186

 コマンドの並べ替え 186

 自動実行のスケジュール設定 189

 自動的に接続解除 181

 ホストコンピュータの再起動 184

 ホストコンピュータの終了 184

 ホストコンピュータのロック 183

 ユーザーのログオフ 183

 コマンドキューファイル

 項目の並べ替え 178

 コマンドの追加 173

 実行 187

 セッションの終了オプションの選択 181

 ファイル処理オプションの選択 180

 ファイルの削除 163

 ファイルの名前の変更 163

 フォルダの削除 163

 フォルダの追加 162

 フォルダの名前の変更 163

 保存 186

 リモート接続項目の追加 179

コマンド入力要求 145、290
 コマンドライン 177
 コールバック 201
 コンピュータ名
 ゲートウェイコンピュータの 299

さ

再生コントロールパネル 230
 サービス

 開始または停止 147
 起動モードの変更 147
 表示 147～148
 ログオンプロパティの変更 148

サブネット

 ホストを検索する
 Web Remote を使う 255
 クイック接続を使う 109

サブネットの設定

 pcAnywhere Gateway 304

サムネール 38

時間切れ 200、207

時間制限 203～204

システムの必要条件

 Linux 用簡易ホスト 47
 pcAnywhere CrossPlatform 49
 pcAnywhere Gateway 48
 pcAnywhere Mobile 263
 pcAnywhere Web Remote 48
 Symantec pcAnywhere 45
 Windows 用簡易ホスト 46

システムファイル 149

準備手順 45

状態ポート 69

証明書 212

証明書ストア 213

除外リスト 146、291

処理

 起動 288
 終了 287
 表示または変更 145

処理効率

 pcAnywhere CrossPlatform 243
 向上 19、38、283
 設定の調整 103
 ビデオ 259

シリアル ID 254

シリアルポート 42、71、99

スーパーユーザー権限 203

スマートカード 107、196

制限ユーザー 50

セカンダリ認証 195

セキュリティ

 処理効率かセキュリティかの問題 209
 接続項目の保護 216
 ホストの評価 217
 呼び出し側アカウントの保護 216

セッション 79、105

 「ホストセッション」も参照
 「リモートセッション」も参照
 記録 228
 再生 231
 ホストセッションの終了 85
 リモートセッションの終了 127

セッションセキュリティ 250

セッションマネージャ

 説明 35
 タブ表示 36
 ナビゲーションバー
 サイズ変更 37
 表示 38
 ナビゲーションバーオプションのカスタマイズ 37
 背景色 121
 リモート制御 116

接続 255

 pcAnywhere Mobile 269
 pcAnywhere Mobile から 278
 Web ブラウザ経由 255
 開始モード 33
 簡易ホスト 127
 遮断 204
 接続ウィザード 31
 説明 31、33
 履歴 33

接続ウィザード

 概要 25、31
 接続の許可 62
 設定
 ホスト 31
 リモート 31
 別のコンピュータへの接続 88

接続項目

 作成

 pcAnywhere Mobile で 270
 ウィザードを使う 31
 ホスト 62
 リモート 88
 事前設定を使う
 ホスト 62

リモート 88
パスワードの保護 216
保存

 ホスト 61
 リモート 87

接続デバイス

 ホスト 66
 リモート 91

狭帯域幅 120

全画面縮小 117、257、281

全体のオプション 38

ソフトウェアの更新版 59

た

帯域幅

 接続速度の修正 102

対称暗号化

 概要 208
 設定 210

ダイヤルのプロパティを使ってモデム接続を設定するには 96、98

タグ付け

 ファイル 161
 フォルダ 161
 ワイルドカード文字を使う 161

タスクマネージャ 144、285

チャットセッション 84、124

チャットの保存 84、124

直接接続

 カスタマイズ 42
 設定

 ホスト 71
 リモート 99

ディスクドライブ 78、126

ディスプレイ設定 117、119

ディレクトリサービス

 ホスト 76
 リモート 100

デスクトップ領域 119

データポート 69

電源オフ 202

電話モデム。「TAPI」を参照 69

同期

 準備 163
 タグ付け 161
 ファイルの種類 169
 フォルダ 168

動作フィールド

 オプションのカスタマイズ 29

説明 29

ドライブの共有 78

な

ナビゲーションバー

 pcAnywhere マネージャ

 オプションの非表示 29

 オプションの復元 29

 サイズ変更 37

 セッションマネージャ

 オプションの非表示 37

 オプションの復元 37

 非表示 38

 表示 38

認証

 FTP 198

 HTTP 198

 HTTPS 198

 NT 197

 pcAnywhere Mobile で 272

 SecurID 197

 Web Remote を使う 251

 Windows 197

 説明 194

 ディレクトリサーバー 196

 呼び出し側 195

スルケープル 71、99

ネットワークカード 68

ネットワーク接続

 カスタマイズ

 ポート範囲 94

 ポート番号 69

 設定

 ホスト 67

 リモート 92

 ネットワークカードの選択 68

 ファイアウォール 19、92

 ホストの検索 109

 ポート番号の変更 95

は

背景色 121

ハイライト 84、125

パスワード

 接続項目の保護 216

 呼び出し側アカウントの保護 216

パッケージのインストール 56

パッケージ配備ツール 53

- パラレルポート 42
- パリティ 42
- 搬送波検出 42
- ビットマップ 123、283
- ビデオの処理効率 120、259
- 描画 84、125
- ファイアウォール 19、92、94
- ファイル
 - 移動 173
 - 上書きオプションの選択 165
 - コピー 173
 - 削除 163、174
 - 同期 169
 - 名前の変更 163、175
 - 比較 163
- ファイル 圧縮 165
- ファイル転送
 - pcAnywhere CrossPlatform 242
 - 一時停止 167
 - 開始場所 164
 - 環境設定 164
 - クイック接続を使う 108
 - コマンドキューの表示 167
 - 処理効率 165
 - タグ付け
 - ファイル 161
 - フォルダ 161
 - ワイルドカード文字を使う 161
 - 中止 167
 - ファイルの転送 166
- ファイルの送信 115
- ファイルの場所
 - pcAnywhere Mobile のプログラム 264
 - Symantec pcAnywhere のプログラム 57
 - ホスト接続項目 61
 - リモート接続項目 87
- ファイルマネージャ 159
- フォルダ
 - 上書きオプションの選択 165
 - クローン 170
 - 削除 163
 - 作成 176
 - 追加 162
 - 同期 169、177
 - 名前の変更 163
 - 比較 163
- プリンタ 122
- フロー制御 42
- ブロードバンド 17～18
- ホスト
 - 再起動 258
 - 接続する方法 255
 - ネットワーク上のホストコンピュータへの接続 255
- ホストアイコン 81
- ホストオブジェクト。「接続項目ファイル」を参照
- ホストオンラインメニュー 81
- ホスト画面
 - 解像度設定 119
 - リモートに合わせて縮小 119
- ホストコンピュータ
 - LDAP サーバーでの検索 111
 - 起動時にロック 73
 - 再起動 151、258、289
 - サービスとして実行 72
 - サブネットでの検索 110
 - 終了 151、289
 - 接続の遮断 204
 - ネットワーク上のホストコンピュータへの接続 109、255
 - ホスト名の指定 77
 - ポート番号の変更 69
 - 役割 16
 - ユーザーのログオフ 152、288
 - ロック 152、288
- ホスト招待 81、114
- ホスト状態ウィンドウ 73
- ホストセッション
 - インターネットを使う 16
 - 会議 82
 - 開始
 - 自動 73
 - 方法 79
 - 画面のサイズ変更 117
 - キーボードのロック 120
 - 記録 229
 - 最小化 73
 - 再生 231
 - 最適な処理効率 73
 - 時間限度の設定 207
 - 時間制限 203
 - 終了
 - 安全な 74
 - 異常な 75
 - 方法 85
 - 接続情報の表示 81
 - 接続を待つ 79
 - 設定
 - 開始モード 33

- 起動オプション 71
- チャット 84、124
- 保全 199
- リモートコンピュータの呼び出し 80
- ホスト接続
 - pcAnywhere Mobile を使う 269
 - Web Remote を使う 255
 - 設定
 - pcAnywhere CrossPlatform を使う 238
 - ウィザードを使う 62
 - 拡張プロパティを使う 64
 - セッションの終了オプション 74
 - デバイスの選択 66
- ホスト接続項目
 - 作成
 - ウィザードを使う 62
 - 拡張プロパティを使う 64
 - 事前設定を使う 62
 - 設定
 - ホスト起動オプション 71
- ホスト配備 115
- ホスト評価ツール 217
- ホスト名
 - カスタマイズ 77
 - 指定 77
 - 非表示 200
- 保存 227
- ポート設定
 - pcAnywhere Gateway 302
 - Web Remote 254
 - カスタマイズ
 - ホスト 69
 - ポート範囲 94
 - リモート 95
- ホームページ
 - 接続後に閉じる 30
 - 説明 36
- ポリシー管理スナップイン 52
- ホワイトボード 84、125
- ホワイトボードを有効にする 125

ま

- マウスのロック 119、206
- マニュアル 22
- マルチキャスト。「会議」を参照
- マルチモニタ 77、119
- メール 115
- モデム接続
 - カスタマイズ 40

設定

- ダイヤルのプロパティを使ってモデム接続を設定するには 96、98
- リモート 95
- 呼び出し回数の変更 70
- リモートユーザーのコールバック 201
- モニターの選択 120

や

- ユーザー権限 50
- 呼び出し回数 70
- 呼び出し側アカウント
 - 権限の設定 202
 - 時間制限 203
 - 接続回数の制限 204
 - パスワードの保護 216
- 呼び出し側の権限 202

ら

- リモート印刷 122
- リモートオブジェクト。「接続項目ファイル」を参照
- リモート管理
 - DOS コマンドの実行 145、290
 - 概要 34、141
 - クイック接続を使う 108
 - サポート対象外のコマンド 146、291
 - システムレジストリの編集 150
 - 接続項目 88
 - 説明 284
 - ソフトウェアの必要条件 141、284
 - 表示
 - イベントログ 150
 - サービス 147
 - システムファイル 149
 - タスクマネージャ 144、285
 - 複数のコンピュータへの状態コマンドの送信 154
 - プログラムのアンインストール 151
 - ホストコンピュータの再起動 151、289
 - ホストコンピュータの終了 151、289
 - ホストコンピュータのロック 152、288
 - ユーザー権限 141、284
 - ユーザーのログオフ 152、288
 - ログイン信用証明の設定 154
- リモートコンピュータ
 - ポート番号の変更 95
 - 役割 16
- リモート制御
 - 開始 106

- 定義 34
- リモート制御セッション
 - 終了 260
 - タスク 256
 - ホストに接続する 255
- リモートセッション
 - インターネット経由の接続 16
 - 開始 105～106
 - 開始モード 33
 - 記録 228～229
 - クイック接続を使う 108
 - 再生 231
 - 自動再接続 105
 - 自動ログオン 104
 - 終了 126～127、156
 - チャット 84、124
 - ディスプレイ設定の変更 119
 - ファイルの印刷 122
 - ホスト接続を待つ 106
- リモート接続
 - pcAnywhere CrossPlatform を使う 233
 - pcAnywhere Mobile を使う 261
 - Web Remote を使う 247
 - 設定
 - ウィザードを使う 27
 - オプションページの概要 90
 - 拡張プロパティを使う 90
 - デバイスの選択 91
 - ネットワーク 92
- リモート接続項目
 - 開始モードの設定 34
 - 作成
 - ウィザードを使う 89
 - 拡張プロパティを使う 90
 - 事前設定を使う 88
- 履歴 33、62
- ルーター
 - 会議 83
 - ホームベースのネットワーク 18
- ルート信用証明 134
- レジストリエディタ 150
- レポート 226
- ログオン
 - 再試行回数 199
 - 事前設定済みの信用証明を上書き 155
 - 自動的な提供 104
 - 制限時間 199
 - 保全 199
 - リモート管理の設定 154

- ログオンセキュリティ 251
- ログファイル
 - 生成 222
 - 保存 227
- ログレポート 226

わ

- ワイルドカードパターン 161